松本零士 *Leiji Matsumoto*

1938年1月、北九州市小倉区生まれ。
1954年『漫画少年』2月号に「蜜蜂の冒険」が“第一回新人王受賞作”として掲載されデビュー。
1978年『銀河鉄道999』『戦場まんがシリーズ』で小学館漫画賞受賞。
代表作に[戦場まんがシリーズ]を中心とした『ザ・コクピット』『銀河鉄道999』『聖凡人伝』『四次元世界』『1000年女王』他がある。

4

THE COCKPIT

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS

4

[ザ・コクピット]

松本零士

THE COCKPIT

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS

Lots of peasants die on the battlefield.
Peasants always work hard.
They fight honestly and die seriously, faithfully,
just as they work in the rice fields...
The fourth volume of Matsumoto's fantastic war
story describing the peasants on the front with pathos.

小学館文庫

【ザ・コクピット】4
THE COCKPIT
LEIJI MATSUMOTO PRESENTS
松本零士

小学館文庫
まA-24
¥581

4

THE COCKPIT

[ザ・コクピット]

松本零士

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS

[illegible] peasants die on the battlefield.
Peasants always work hard.
They fight honestly and die seriously, faithfully,
[illegible] they work in the rice fields..
The fourth volume of Matsumoto's fantastic war
story describing the peasants on the front with pathos.

ISBN4-09-192254-6

C0179 ¥581E

9784091922540

1920179005813

定価：本体581円＋税

小学館文庫既刊

[きりひと讃歌]手塚治虫	全3巻
[MW/ムウ]手塚治虫	全2巻
[陽だまりの樹]手塚治虫	全8巻
[I・Lアイエル]手塚治虫	全1巻
[地球を呑む]手塚治虫	全2巻
[グリンゴ]手塚治虫	全2巻
[キャプテンKEN]手塚治虫	全1巻
[白いパイロット]手塚治虫	全1巻
[カムイ伝]白土三平	全15巻
[カムイ外伝]白土三平	1～9巻
[サスケ]白土三平	全10巻
[忍法秘話]白土三平	全6巻
[忍者武芸帳 影丸伝]白土三平	全8巻
[人間交差点]矢島正雄＋弘兼憲史	全19巻
[ねじ式]つげ義春	全1巻
[赤い花]つげ義春	全1巻
藤子・F・不二雄[異色短編集]	全4巻
[1000年女王]松本零士	全3巻
[四次元世界]松本零士	全1巻
[聖凡人伝]松本零士	全6巻
[ザ・コクピット]松本零士	1～8巻
[同・級・生]柴門ふみ	全1巻
[東京ラブストーリー]柴門ふみ	全3巻
[パイナップルARMY]工藤かずや+浦沢直樹	全6巻
[佐武と市捕物控]石ノ森章太郎	全10巻
[凍鶴]上村一夫	全1巻
[一葉裏日記]上村一夫	全1巻
[めぞん一刻]高橋留美子	全10巻
[神の左手悪魔の右手]楳図かずお	全4巻
[ザ・ムーン]ジョージ秋山	全4巻
[りびんぐゲーム]星里もちる	全7巻
[Fエフ]六田　登	全19巻

ザ・コクピット④目次

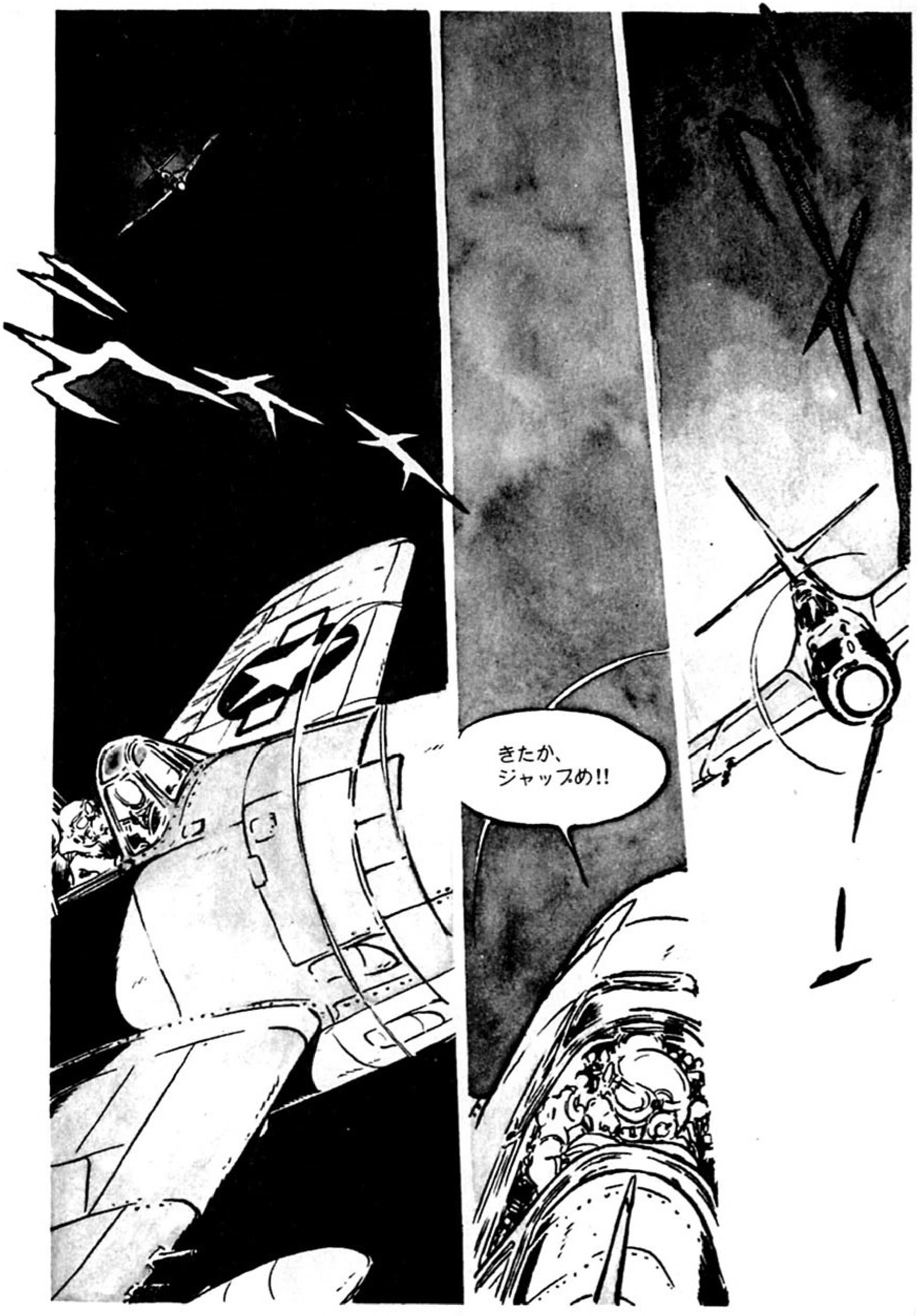
CONTENTS

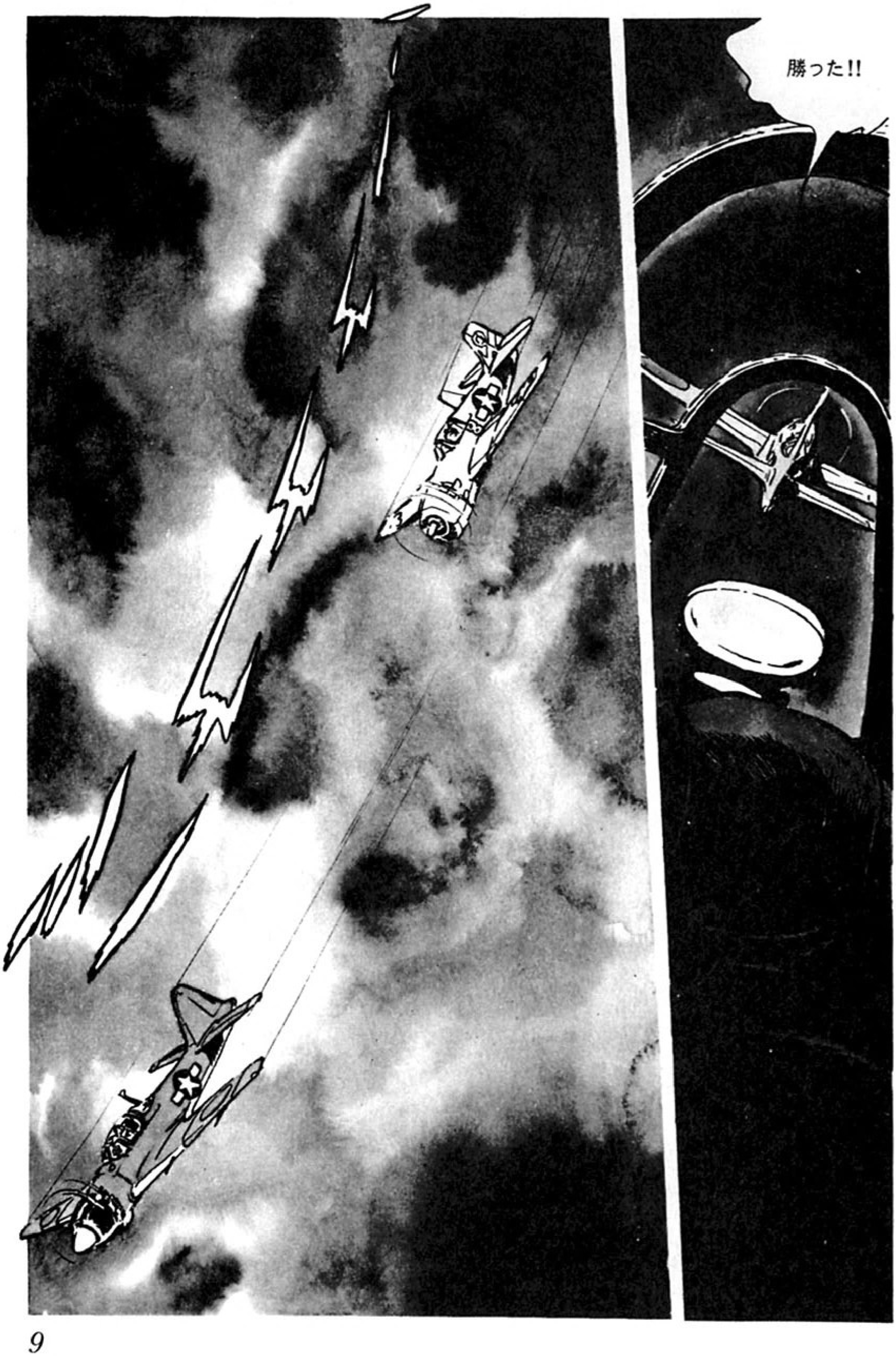
復讐を埋めた山……3
夜のスツーカ……53
成層圏気流……83
四次元戦線……129
弾道トンネル150……161
沈黙の虎(タイガー)……193
アクリルの棺……225
海の花……265
双発の騎士……297

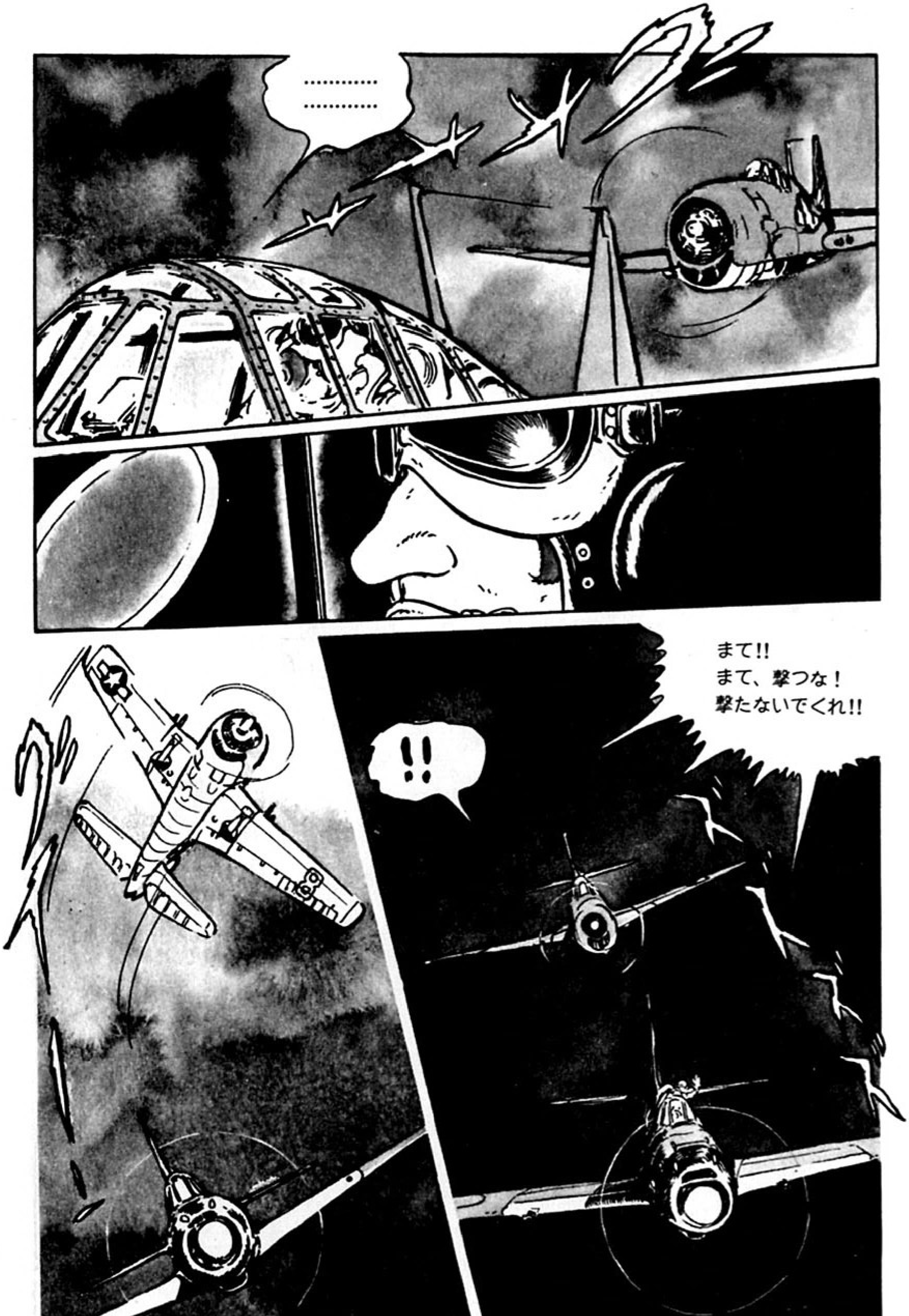
■復讐を埋めた山

この話を私がきいたのは、
インドのボンベイからアラビア海を
ケニアのナイロビへ向かって
飛んでいた時のことだ…………
私はここに誓おう。
ホラを土台に
真実のみを語ることを……
アラビア海に
せっするアフリカの
大地の色は、
信じられないほど
赤く………
私はそれを
見おろしながら、
信じがたいほど
血ぬられた話を
きいた………

復讐を埋めた山
OK!! 君は丸見えだぜ。
ライカード、覚悟してくれ！
メイヤーズ!!どこだ、
俺が見えるか？
見えたらかかってこい!!
いつでもいいぞ

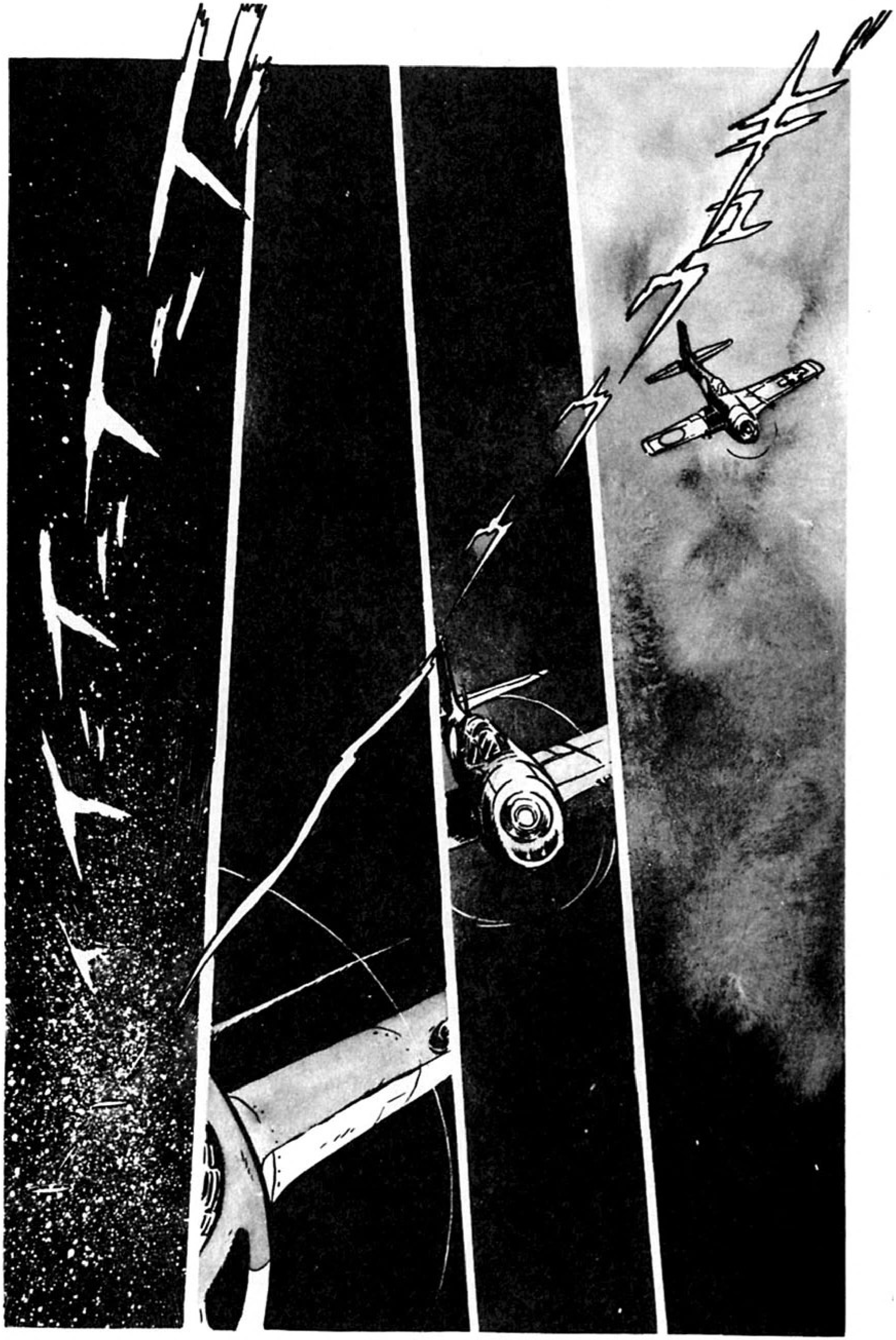

きたか、
ジャップめ!!


勝った!!


…………
…………
まて!!
まて、撃つな！
撃たないでくれ!!
!!

ふう…すまない、メイヤーズ。お前が英語をしゃべらずに逃げつづけたら、撃っていたぜ。
そうだ、ライカード。お前は本気にみえた。
俺の指は戦闘機の一部だからな……生きた部品だ。
そう。血のかよった引き金だよ、この手は………
どうだ、ライカード。日本機に勝つ自信はついたか？
ああ。お前を相手にしたかぎりでは全勝だ。これでもう、日本機にであっても大丈夫だ。
零、疾風、紫電、雷電…………
米軍の手にはいった日本機とは、全部やってみた。
あとは………日本人の乗った奴とやるだけさ。
左上方に１機！
あのシルエットはＦ６Ｆだ、心配するな。

あいつ、
なにをする気だ!?



あいつは…!!

あのＦ６Ｆは
ジャップのマークを
つけていた…………
ジャップにも
我々と同じことを
している奴がいるのか……
いつかあいつを殺す……
かならず殺してやる!!
その機会はもうない。
ライカード、君にとっては
残念だろうが、
我々はこの戦争に勝って
しまった。
……………
……………

日本人はもう飛ばないのか？
停戦になったんだからあたりまえだ。
もう日本機といえば、本国へ運んでテストする機体がすこし残っているだけだ。
あれは試作機のジェット戦闘機だ。
……ここは、俺の部隊と同じようなテスト部隊らしい。
すると……
あいつがここにいる可能性がある………
あの男は？
さあ、飛行服を着ているからパイロットだろう。日本機を運ぶのを手伝わせているんだ。
352

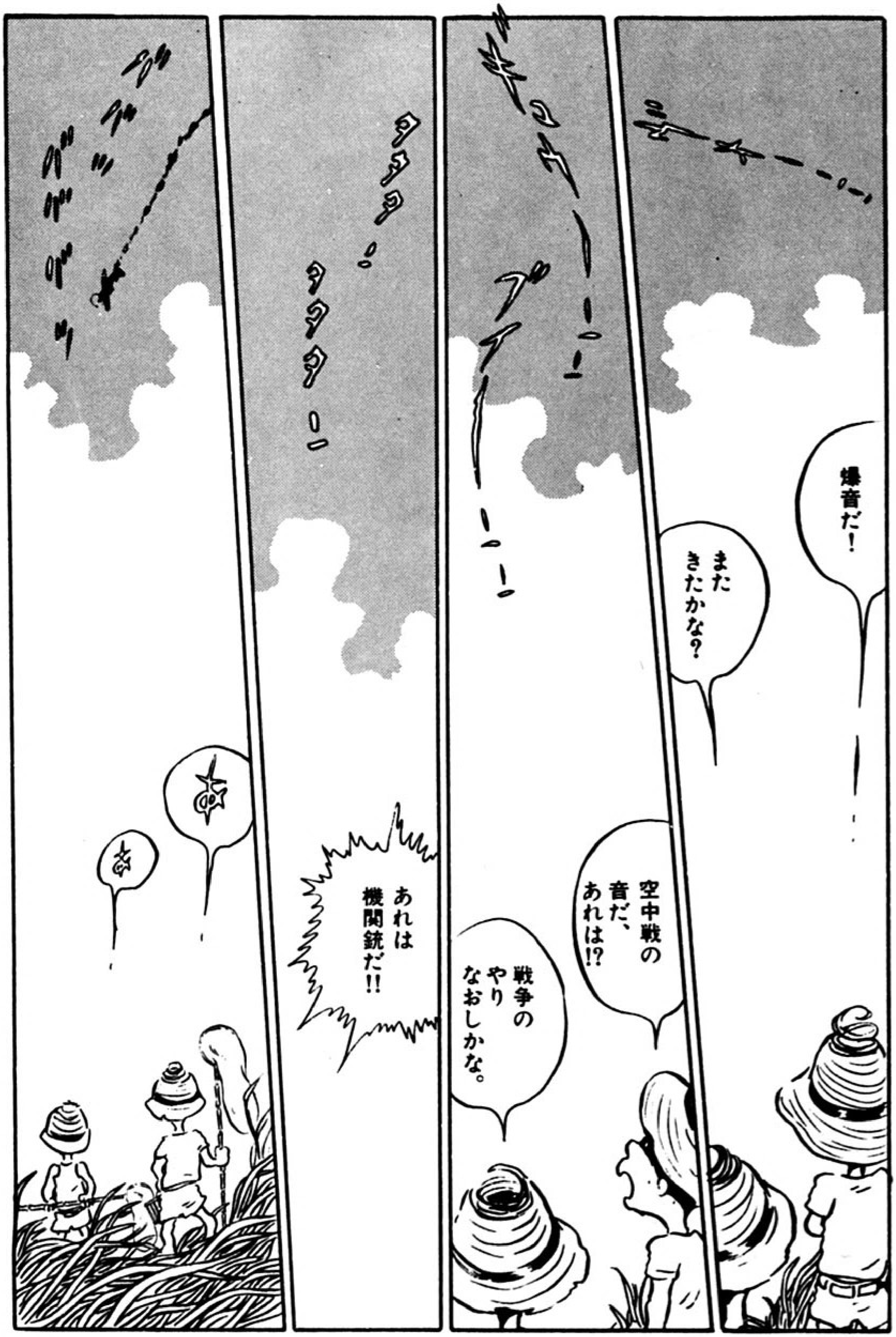
お前の名は？
大山田。
オーヤマダ？
そうか、階級と所属は？
陸軍航空隊か？
海軍航空隊か？
もう日本に陸軍も海軍もない。したがって階級もない。だから、俺もいまではただのパイロットだ。
そうか……
お前は、F6Fに乗ったことがあるか？
あるよ。
!!

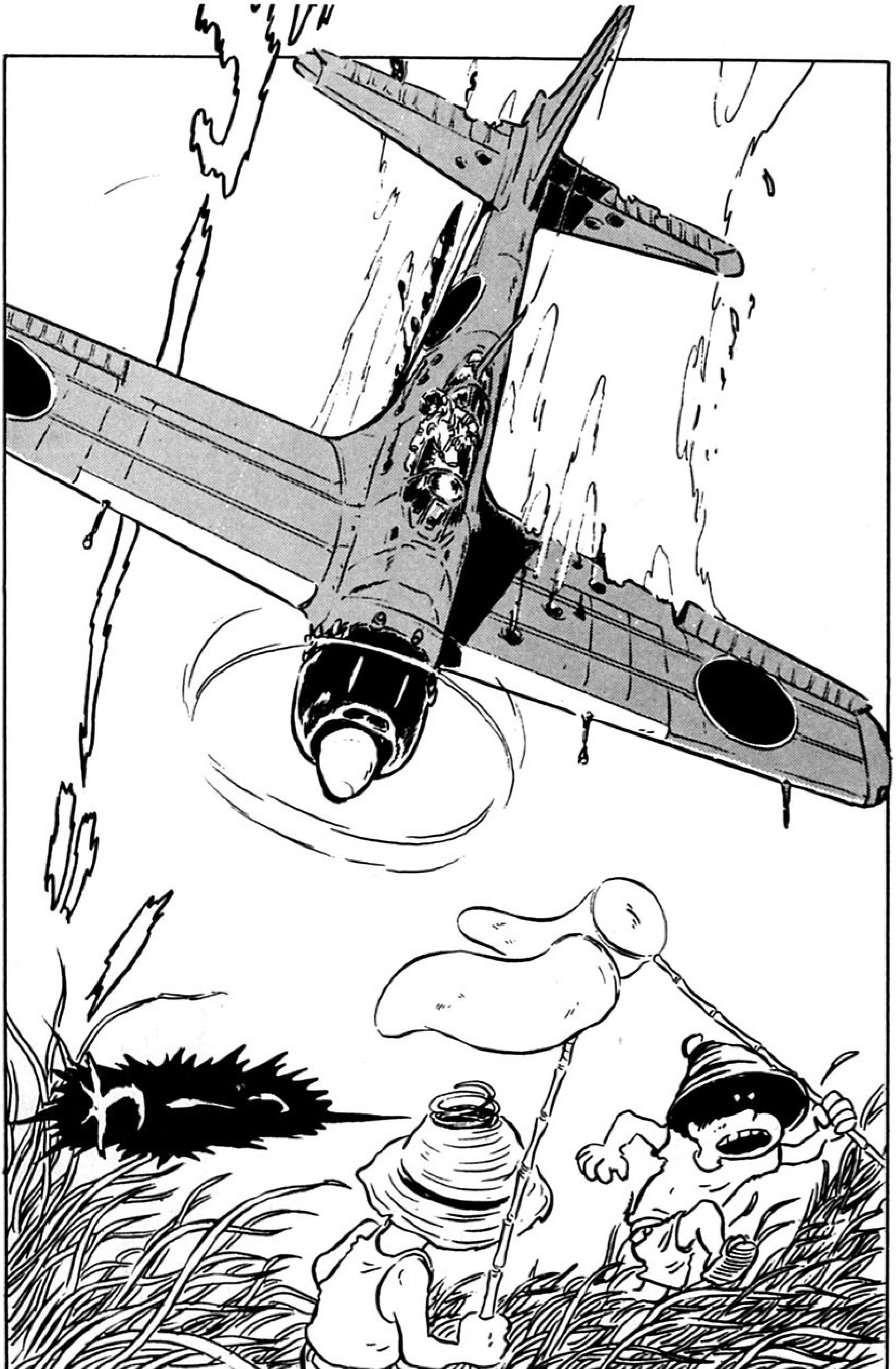
お前は日本のマークをつけたＦ６Ｆで、星のマークのゼロを墜したことがあるか？
なに!?
たしかに、米軍のマークをつけて飛んでいたゼロ戦を、あのＦ６Ｆで撃墜したよ。
あのゼロといっしょに飛んでいたのは俺だ！
世間はせまいな。
Ｆ６Ｆをどう思う？
ムダだらけだけど、ぜいたくにできたいい飛行機だ。
ゼロよりもいいか？
さあな、俺がゼロ戦に乗ればＦ６Ｆなんかには負けない……

俺がＦ６Ｆに乗れば、ゼロ戦にも勝てる……
つまり一長一短で似たようなもんだ。
いまでもそう思ってるか？
思っている。お前らの発表した日本機撃墜数は、大ボラのサギ師的数字だ。
ホラのＮＯ・１は、フライング・タイガースのシェンノート一味だと思ってるけどね。
あんな奴と俺とをいっしょにするな!! 俺はウソはつかない。
いまでも、ゼロでＦ６Ｆに勝てるか？
やってみればわかる。
厚木までこいつを運ぶ。俺がエスコートしていく、乗れ!!
今日運ぶのは、あのゼロ戦だときいていたが……

いや、そいつのほうが赤丸がついたままで気分がでる。
お前だって、敵のマークので飛ぶより気分がいいだろう。
どっちでもよくない。
なぜ、お前は我々に協力する!? なにかめぐんでほしいのか？
みんなてめえらに手をかすのをいやがってやらないから、俺がやっているだけだ。
空戦で何機墜した？
たぶんお前よりは多いだろう。
F6Fもやったか？
あの飛行機はイモだ。こわくない。
いまでもか？
永久にこわくない。

大丈夫かなあ。ライカードは日本パイロットにケンカをうっているみたいだぜ。
日本人が空中でケンカをかえば、たたき墜すまでよ。
空が静かになっちまったなあ。
負けたんだからもう敵機も爆撃にはこないな。


爆音だ！
また きたかな？
空中戦の音だ、あれは!?
戦争のやりなおしかな。
あれは機関銃だ!!



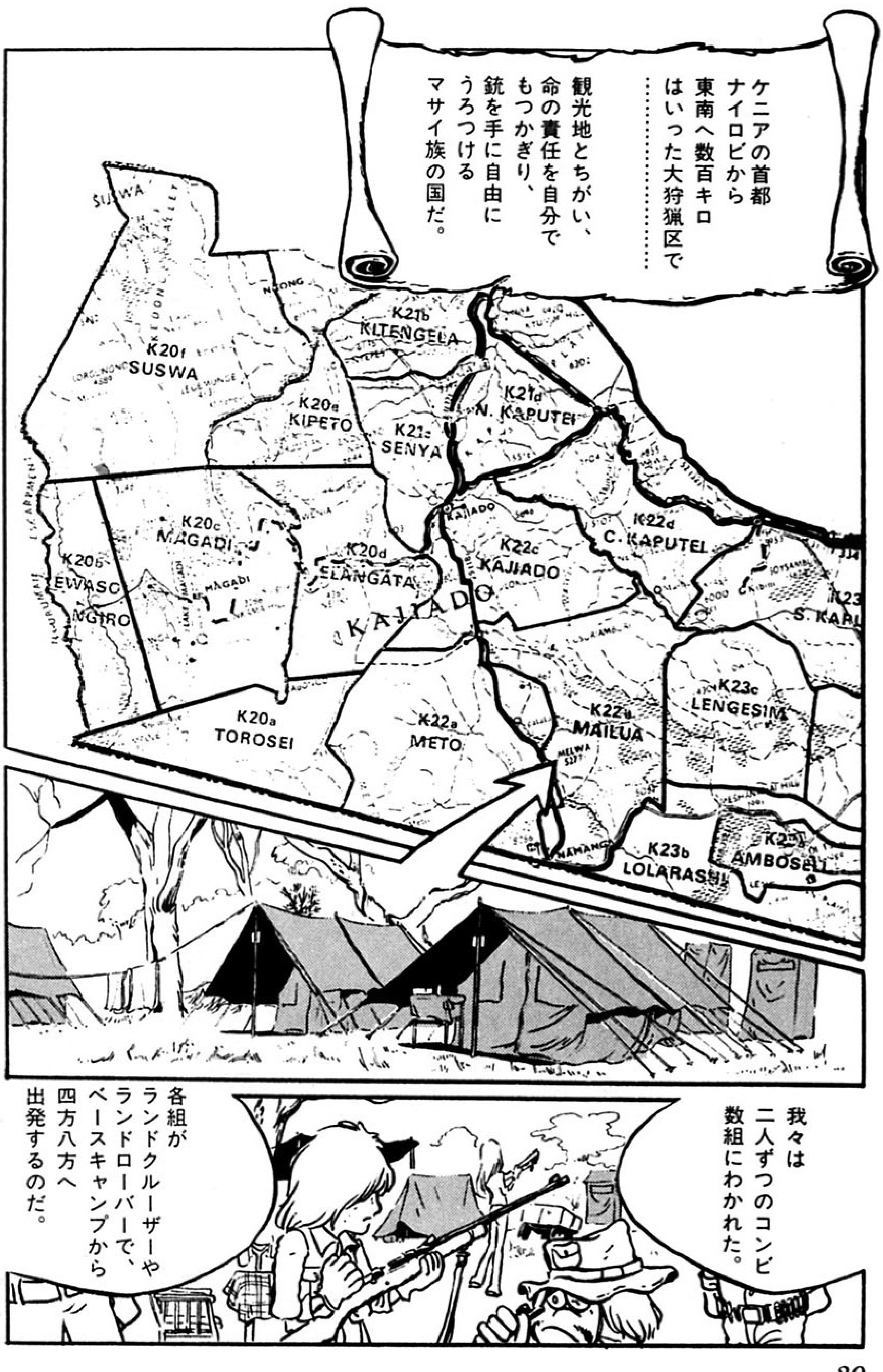
ふーん、そういうこともあったのか。
空を見るとついその話を思いだしてね。
大山田元(おおやまだげん)……私は、この男とは日本をたつ時の空港でのであいが初対面だった。

席がとなりあわせだったせいで長い空の旅の間、いろいろな話をした。
その話の中で、飛行機がアフリカの上空へさしかかった時、突然、大山田は空戦の話をしてくれたのだ。
我々のメンバーは11人。
総隊長は歴戦のプロハンター、藤田氏…………
その娘さんの藤田泰子さん……
その友達の小川昌子さん……
インパール戦の勇士、近藤氏……
ベテランの小林氏、同じく石井氏……

設計技師の吉田氏、大建築会社の渡来井氏……
そして私と……大山田と……
大山田のつとめるグレート・カンパニー日本総代理店の支社長、ライカード氏……
我々は、長いアフリカの狩猟先の、最後の一ページを体験するためにケニアの首都、ナイロビにおりたのだ……
ナイロビ

ようこそ、みなさん！
私がみなさんのハンティングを
責任をもってアドバイスする
ミカトーサファリのグギです。
かならずや、みなさんは大いに
アフリカをエンジョイされて
かえることができるでしょう。
この中に漫画家が
いるとききましたが、
どなたがそうですか？
え…わ……その
それは…
つまり……
オレ…
ようこそ、あなたは
私のお客さんです。
危険はありませんから
安心してください。
して…あなたはハンティングに
賛成の立場にある考えの
持主か、反対の立場にある人か、
おきかせください。
え…
それは
………
パ、パ、
パーフェクト
パーフェクト。
アイ ライク
アフリカ アイ
ライク ネイチァー
アイ ライク
シューティング。
アフリカ イズ マイ
ドリーム。ア、ア、
アイ アム…ジス
イズ アペン。

日本にかえったら、我々がむやみに動物を乱獲しているのではないことを正しく描いてください。
OK!! グッド！
ハンターはルールを守り、獲物の保護にも力を注いでいるのです。
その点をよくわかってください。
イエース イエース、グレート イエース。
このさき、言葉の問題はどうなるのでしょう。
さあ、なるようになるでしょう。
よし もうヤケクソだ、俺も男！
……と、いいつつ、我々は狩猟区メルワ山のふもとに、ベースキャンプをはった。



ケニアの首都
ナイロビから
東南へ数百キロ
はいった大狩猟区で
……
観光地とちがい、
命の責任を自分で
もつかぎり、
銃を手に自由に
うろつける
マサイ族の国だ。
K20f SUSWA
K21b KITENGELA
K20e KIPETO
K21c SENYA
K21d N. KAPUTEI
K20c MAGADI
K20d ELANGATA
K22c KAJIADO
K22d C. KAPUTEI
KAJIADO
K20a TOROSEI
K22a METO
K22b MAILUA
K23c LENGESIM
K23b LOLARASHI
AMBOSELI
我々は
二人ずつのコンビ
数組にわかれた。
各組が
ランドクルーザーや
ランドローバーで、
ベースキャンプから
四方八方へ
出発するのだ。

私の組は大山田とライカードの三人だった。
ガイドはエチオピア系三世のアフリカ人、ミスターオマーシャリフ。
本名はついに最後までわからず、俳優のオマーシャリフにそっくりの立派な男なのでそう呼ぶことにした……
なんでなんでなんで、我々の組は山へ登るんかね。
ウイ シュート バッファロー！
バ、バッファロー？
バッファローって牛の巨大な？
ウシさんがなんで山の上にいるんだ？
バッファローには山にすむタイプと平野にすむタイプとがあるんだってさ。
バッファロー イズ モースト デンジャラス アニマル、ライオンより危険だ。
うぇ。

いた!!
ブッシュバックだ、
撃て、シュート!!
クィックリー　トライ!!
社長、おさきにどうぞ。
OK!
私は、このアメリカ人社長のうで前がなみなみならぬものだと思った。
三百メートルの距離で心臓をブチ抜いたのだ。
大山田……
私はこの時、ふとこの男がアフリカへきたのは、ハンティングではなくて、なにか他に目的があるのではないかと思った……
飛行機の中では並んですわっていたので、わからなかったが……
……

こうして
離れてこの男の
姿を見ていると、
その全身に
恐怖すべき
殺気が
みなぎっている
ようだった。
その殺気は……
ライカード社長の
ほうを
正確に指して
いたのだ!!
ビッグ ワン!
………
………

すや〜〜。。
マジモト マジモト。
マジモト。
マジモト。
なんだ なんだ なんだ、俺がどうかしたのかしらん？
ジスイズ マジモト。
お湯？
マジが火、モトが水でお湯なのよ。
はー。
お湯どん、メシだよ。
へい。
俺はライオンとケンカしたたかったんだが……
大山田はなにが目的だったんだ。
よほどの理由があってここへきたんだろう？
俺か？

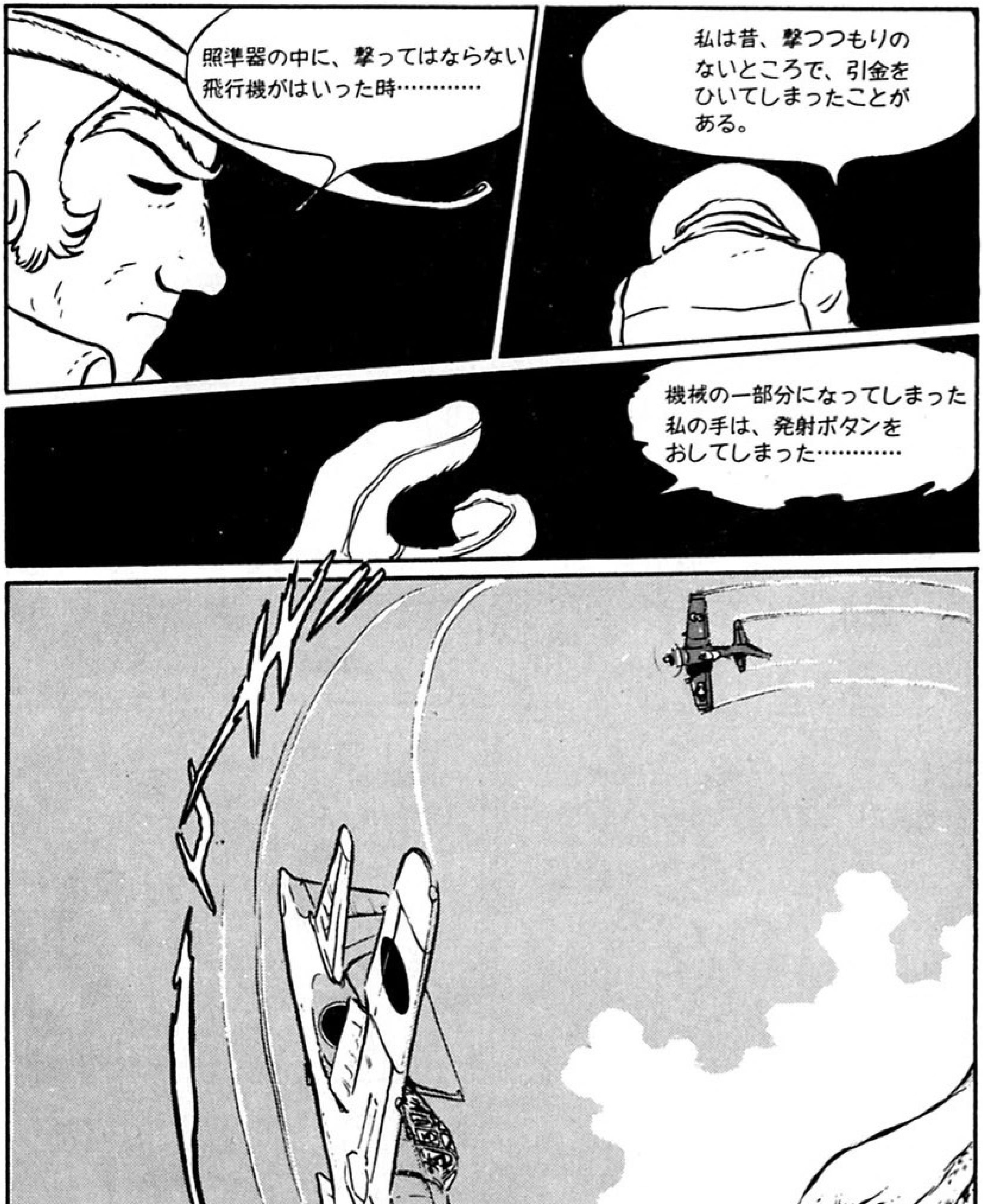
俺は……
そのうちにわかるよ。
…………
…………
メール（オス）は撃ってもいいが、フィメール（メス）はいけない。
許可されたものの中のさらにオスだけが狩猟の対象となる。
へい。

ドカーン!
わー なんだ こりゃ!
申しわけない。動物に気をとられてアリ塚にぶつかってしまった。
これがみんなアリさんの家!?
マングースやリスが占領してすんでいることもある。
わあ、立派な道路だ。これで舗装してあれば申し分ない。8車線はとれるな。
ここは河です。雨期になれば水が流れてくる。

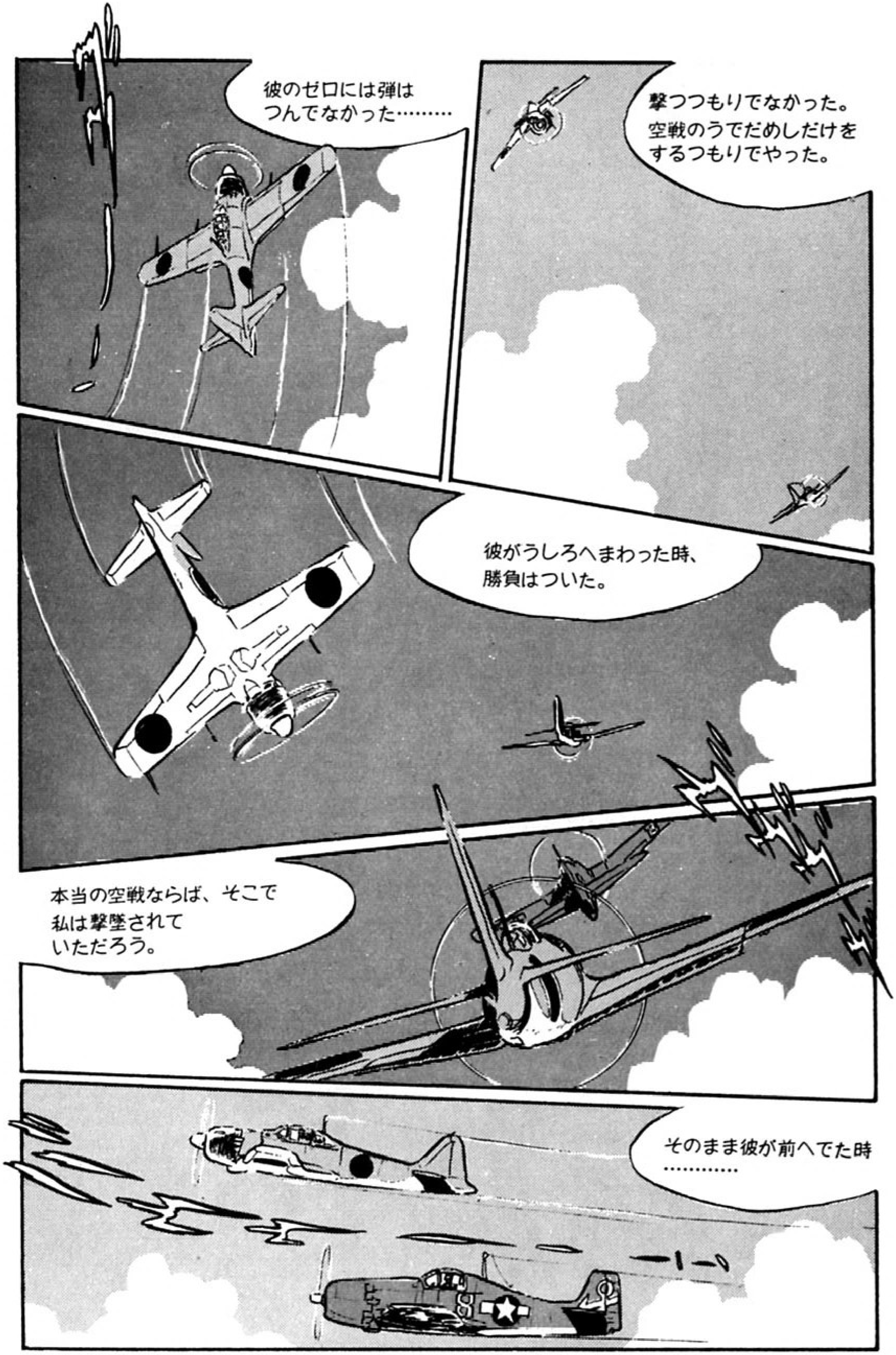
ゾウがたべたのです。
わ……
これは「ちょっとまての木」で、とびこむとトゲのせいででられませんよ。
アフリカでは、半ソデ半ズボンが役にたたない理由がよくわかった。
ほとんどの木にトゲがあるため、皮フを露出していると無事ではすまない。
おー、虫だ。
ダニです。
これが!!

俺など足はとっくにこうなってる。
えーっ。
俺はナゼくわれないのだろう。
虫にもこのみがあるのです。
あ。
彼は戦士（ファイター）だ。
写真機。
彼等は写真をこのまない。魂を抜かれるという。
なんぼかはらえば……
マサイ族の写真はワンシャッター百ドル。
ひゃ、ひゃ百ドル!?
おおむね二万九千円!!
アメリカの観光客がムチャクチャにはらって写真をとるので、マサイもビッグ・ヘッドになった。スポイルされてしまった。

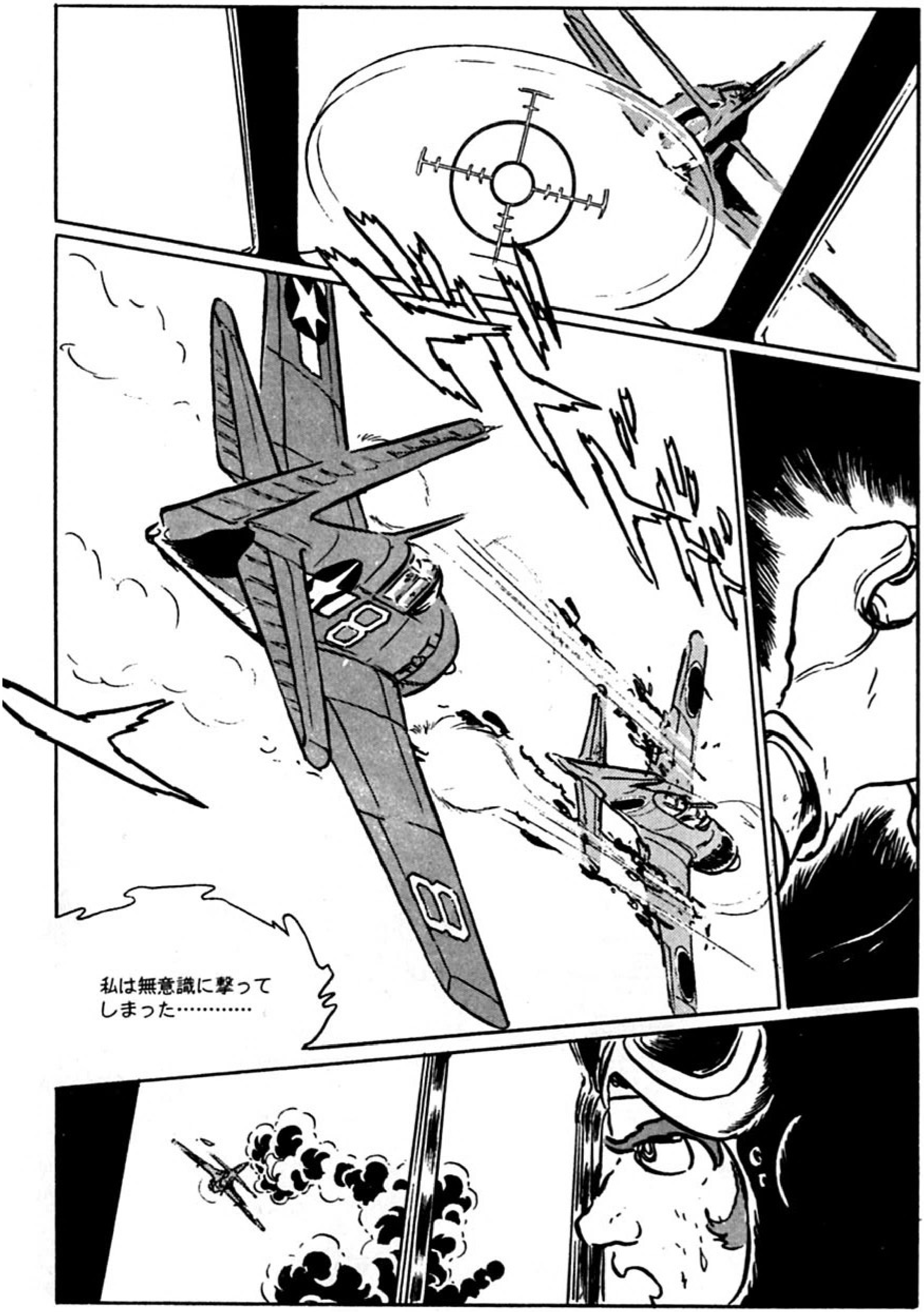
二十円ぐらいじゃダメだろうか?
観光マサイでないリアルマサイなら、ファッションは地味だが大丈夫だ。
マサイ族は一夫一婦制かしらん?
牛をたくさんもってれば、100人でも200人でも奥さんもらえる。
10頭の牛を女性の親父にプレゼントすると、5頭のヤギをつれて彼女は男のもとへくる。
はー。
ここは生きがいのあるところだ。
ミスター　マツモト。
なんですか、ミスターライカード。
あなたは大山田君と気があうようだね。
まあね。
だったら、ぜひきいていただきたいことがあるんだ。
え?
私は………



私は昔、撃つつもりのないところで、引金をひいてしまったことがある。
照準器の中に、撃ってはならない飛行機がはいった時…………
機械の一部分になってしまった私の手は、発射ボタンをおしてしまった…………



彼のゼロには弾は
つんでなかった………
撃つつもりでなかった。
空戦のうでだめしだけを
するつもりでやった。
彼がうしろへまわった時、
勝負はついた。
本当の空戦ならば、そこで
私は撃墜されて
いただろう。
そのまま彼が前へでた時
…………


私は無意識に撃って
しまった…………

そうして大山田の父親を私は殺してしまった。
大山田!?
この手が…………
この手が反射的に撃ってしまったのだ。
そうして大山田は死んだ。
だれにいっても信じてはくれないが、撃つつもりはけっしてなかったのに……
……
……
すると、あんたが大山田の空戦の話にでてきたF6Fのライカード…
私にはわかっている。大山田が私に復讐するためにわざわざ私の社にはいってきたことを。
大山田は、父親を殺したのは私だとしっている。
そうだ、私があの時大山田を殺したのだ!!

私は軍法会議にかけられて
階級をはく奪され、
軍籍を追われた………
私的な復讐だと…………
だれも私を信じてはくれない…………
!!
それはメスだ!!
えっ!!

なぜ、よくたしかめずに撃った、大山田!?
い、いやそれは………
目の前に突然、でてきたもので………
つい無意識に引金を………
撃つつもりではなかったのに……指が………
銃の一部になったのか……よくあることだ………
………
!!
………

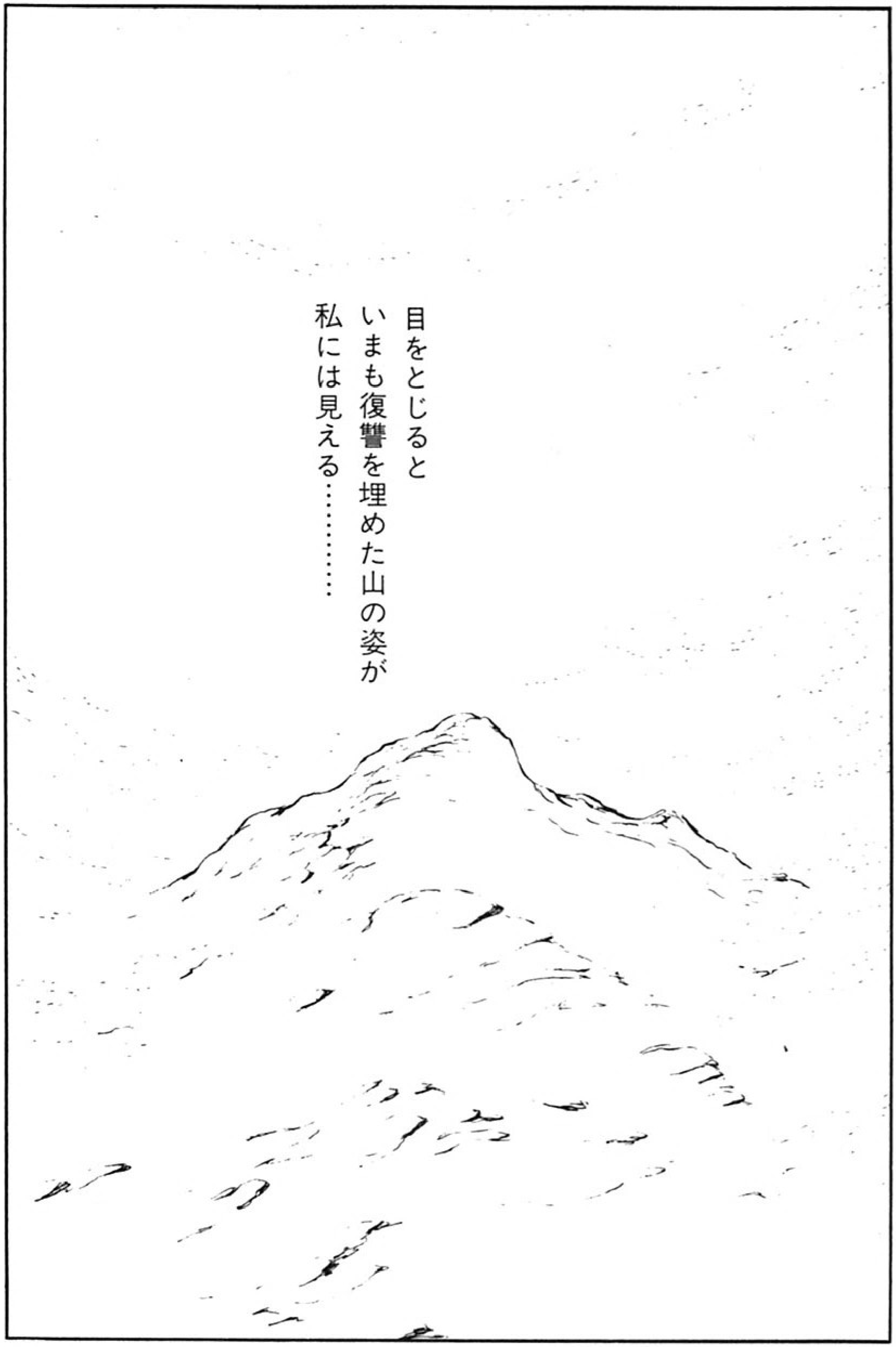
？
どこへ……

この夜ふけになんでまた、一人でメルワ山に登るんだろうか？
あれ？どこへいったのかな？
マウントホラーのほうではなさそうだし……
スカの泉だとすこし遠い。
ホラヴァレイの上には、レオパードがいてあぶないし……………
う、う……
う…うーっ。うーっ

お父さん……これでもうやめてもいいかい？
復讐はここに埋めてもう忘れるけど、それでいいかい!?
俺にもわかったよ。どういう時に人間は引金をひくか……
ライカード社長のいうことを信じたい。
いいねお父さん!!
復讐はここへ埋めるよ。
永久に埋めるよ!!
とうちゃん……
とうちゃん…
雨だ。

最後の日、アフリカに雨期がきた。
雨にけむるメルワ山をあとに、我々はナイロビへひきあげた。
大山田の目にも、ライカードの目にも、涙が光っているのに気がついたが……
私は口をはさむ立場にはなかった。
ただ、ホラをまじえて真実のみを語る資格があるだけだ。

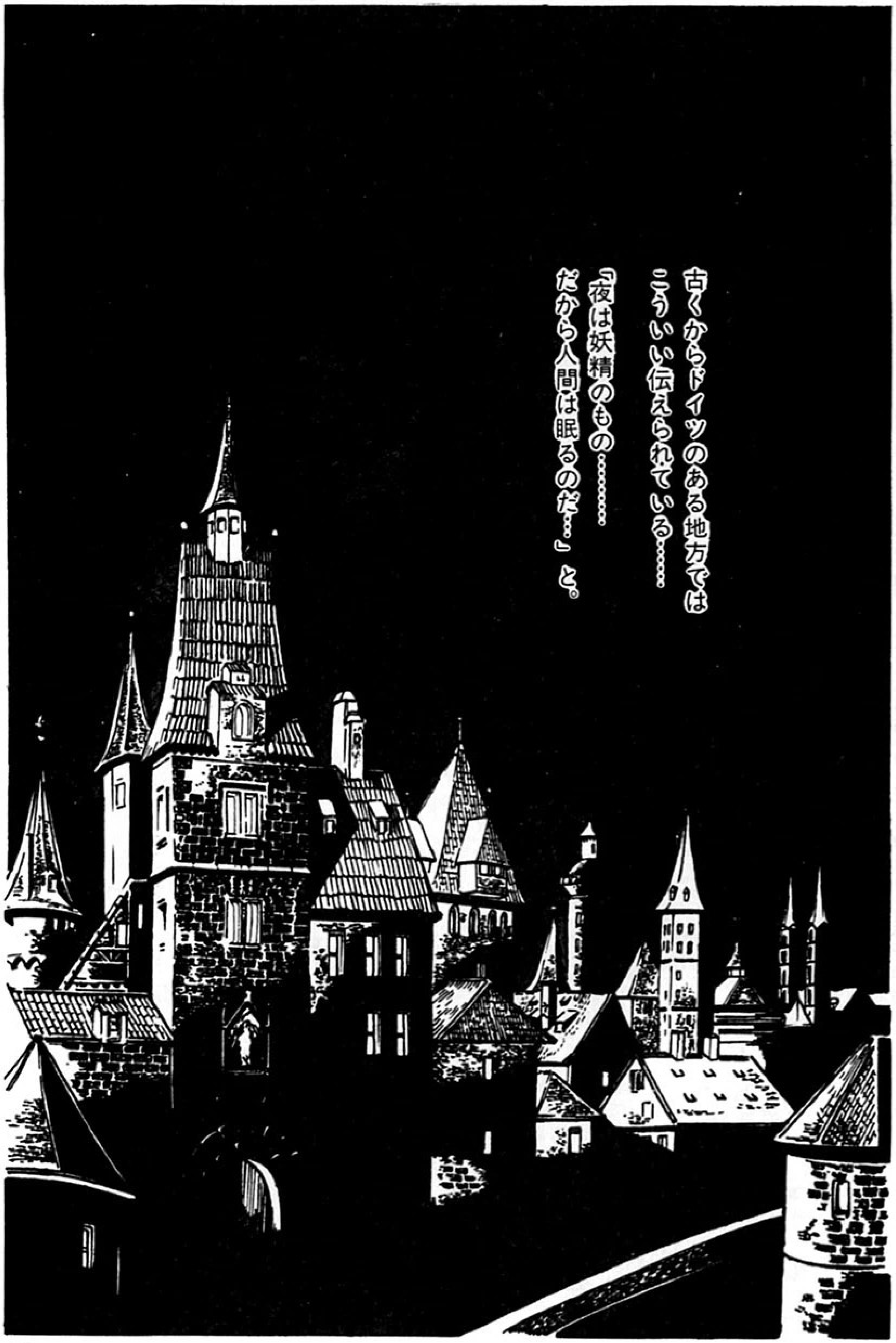
キリマンジャロも
雨のベールの
向こうにきえて、
はてしない雨だけが
アフリカの原野を
つつんでいた。



■「ビッグコミックオリジナル」1976年12月20日号掲載

THE COCKPIT

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS


古くからドイツのある地方では
こういい伝えられている……
「夜は妖精のもの………
だから人間は眠るのだ…」と。

EYAAAO

即死だぜ。よく、この暗いのに狙えるなあ。
俺は生まれた時から夜働く家で育ったもんでね。
商売はなんだ?
山賊だ。

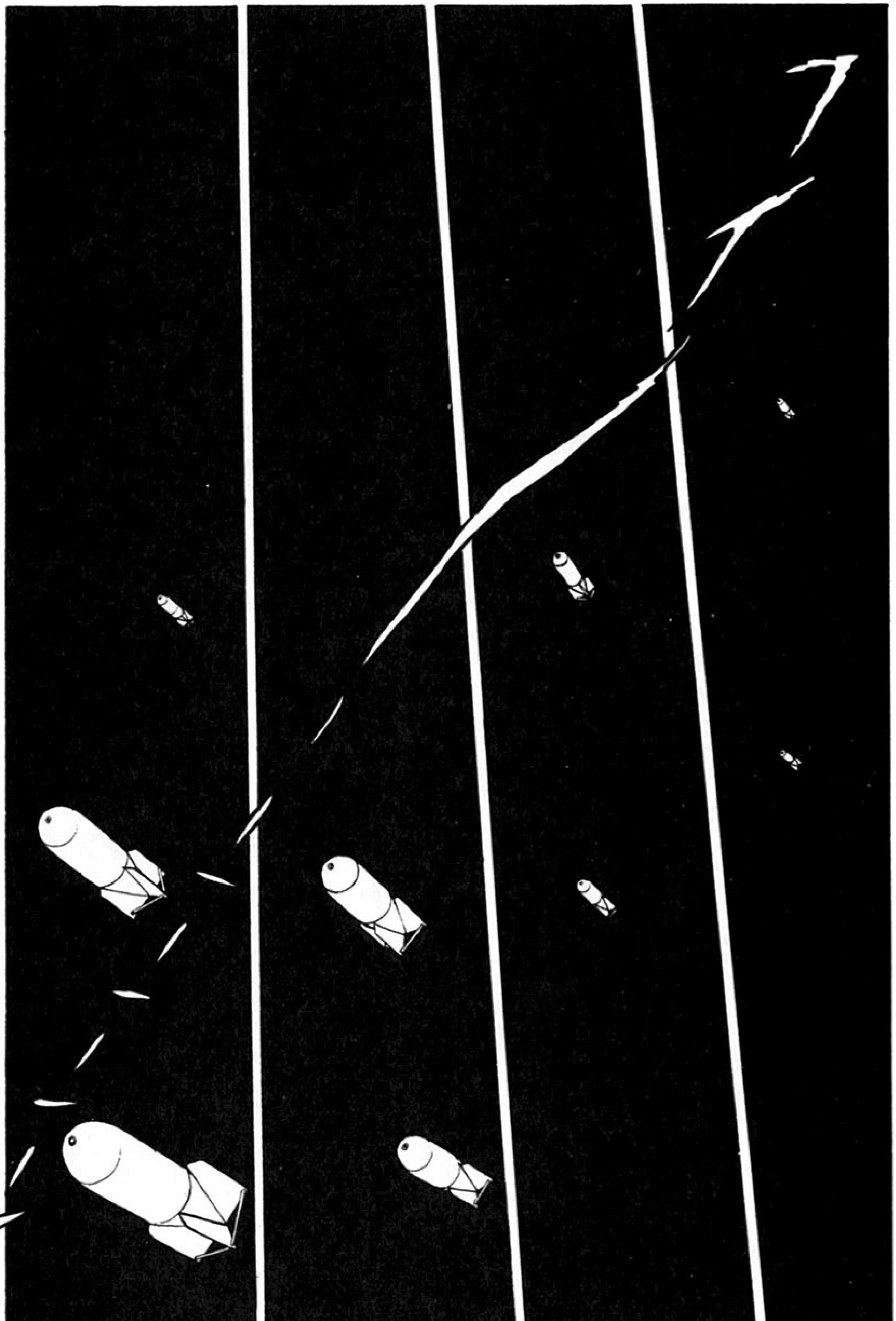
手榴弾だ。こっちからも投げかえせ!!
アメリカ映画じゃ、ドイツ軍の手榴弾はなぜか、うまく爆発しないことになってるが、
こいつでひどい目にあった証拠さ。やつらは負けおしみが強い。

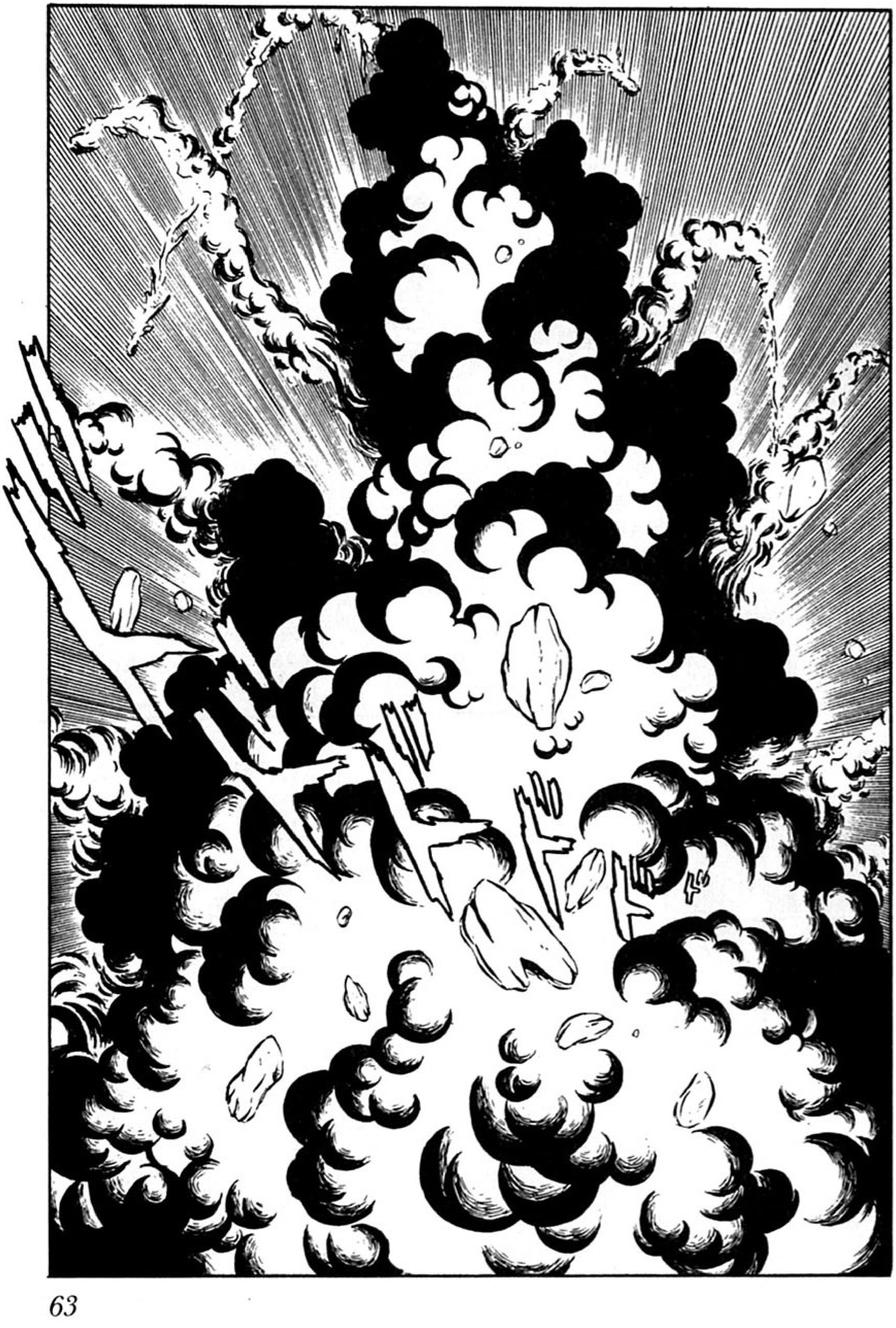
しかし、完全に包囲されたぜ。
勝ち目はねえ。
ユンカース87の爆音だ！スツーカがくるぞ!!
あの爆音は味方のほうからくる。
だいいち、この町さえ上空からわかるかどうか。
この暗闇じゃ、敵も味方もわかりゃしねえ。
わかるよ！あいつにはわかる！
かならずこの町へ急降下して、爆弾の雨をふらすのさ!!

よる
夜のスツーカ

あいつってしりあいか?
そうだ、いまここへくるのは……
俺の息子だ!!

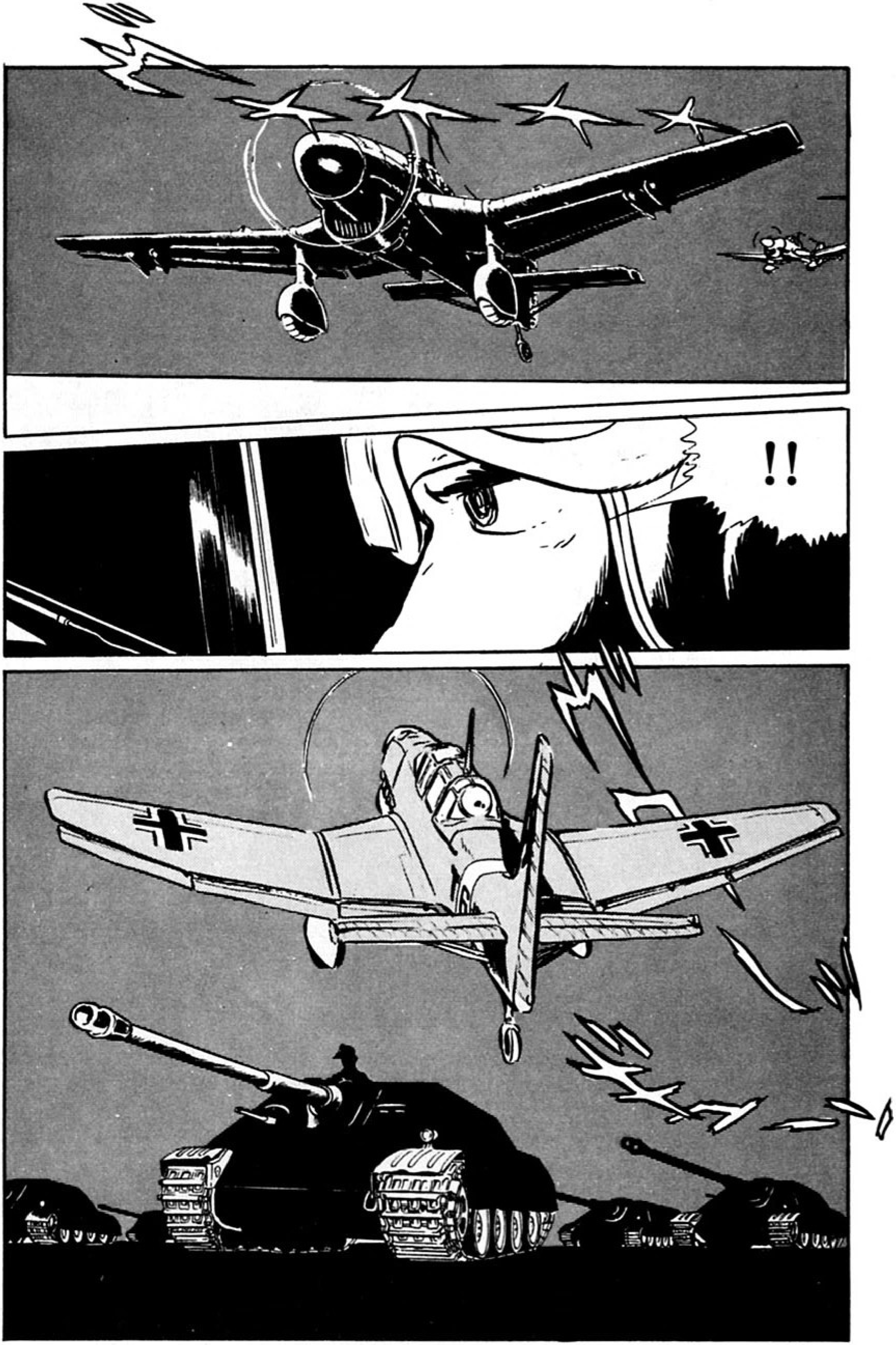
ボルクハルト中尉!! 上空にP47がいるぞ油断するな!!
レーダーもないのによく見えますね、ゼーアドラー大尉!
ああ、俺に見えないものはない。
目標のルーベンロックの町が見えた。教会の十字架が投弾地点だ。
なんにも見えない。
ついてこいいくぞっ!
見ろ、息子がきた!! 俺の息子がきたぞ!





ズズズ
全弾命中、長居は無用だ。
P47は？
大丈夫だ。投弾地点の火災にひきよせられて、ルーベンロックの上をウロウロしている。
さすがババリアの山賊ですね、大尉。
そうだ。ババリアの山賊に夜見えないものはない。
そうだとも、ババリアの山賊は夜が天下だ……ババリアの……

俺だ、ババリアのゼーアドラーだ。着陸灯はいらないぞ！
つけるな!!
まったくババリアの山賊隊はすごいなあ。
あいつらは夜でも目が見えるんだ。
バカ！見えるのはゼーアドラーだけだよ。



だれだ、このバカ者!!いきなり滑走路へとびだす奴があるか!!
すまん。こんな暗闇をおりてくる奴がいるとは、思わなかったんだ。
お前は……
あ!!

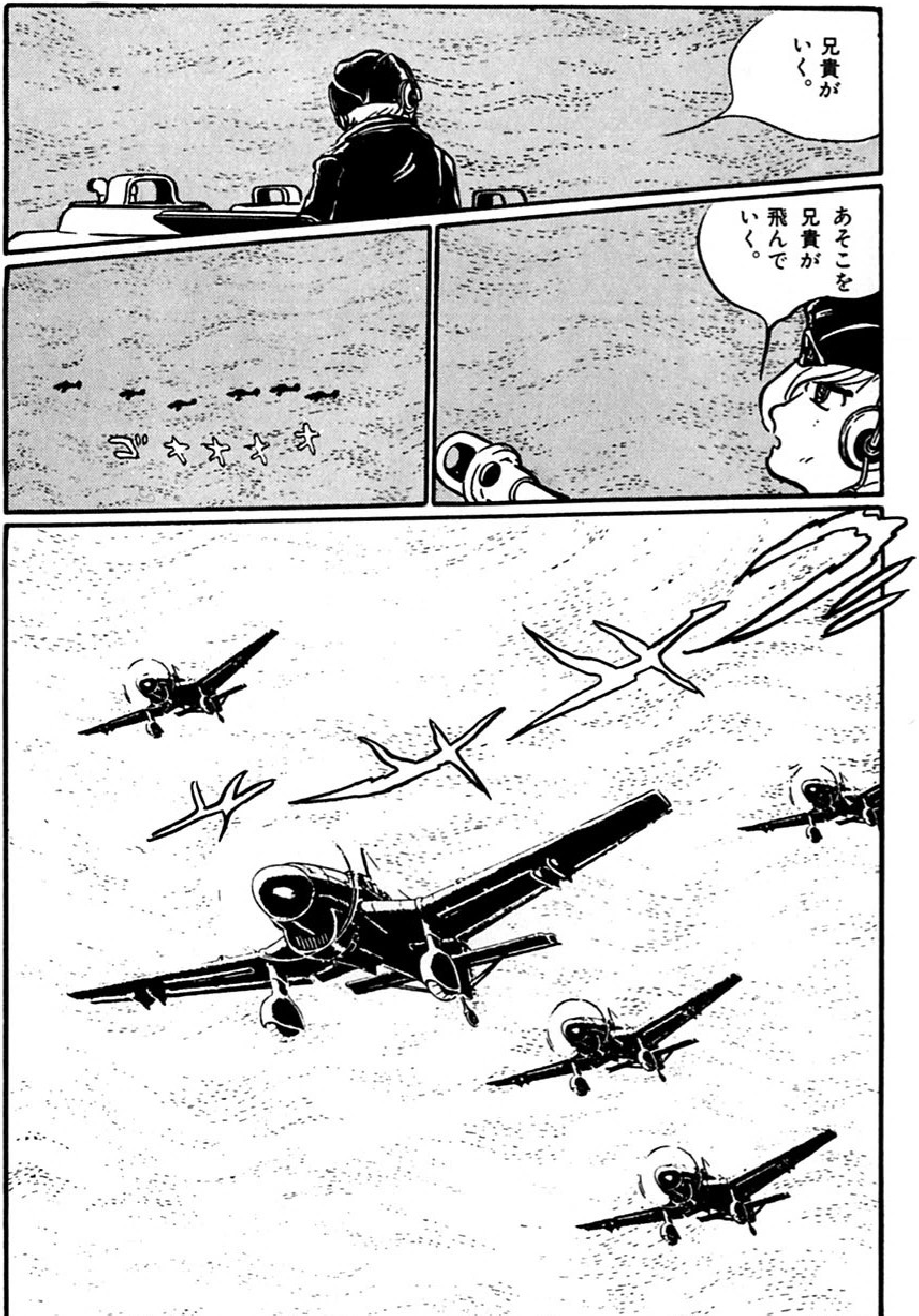
ホルスト!!
兄さん!
ひどい格好だ。
負け戦さ。俺はM4を十五、六台スクラップにしたけどね。
父さんが、ルーベンロックの町にいて孤立しているときいたけど、しらないか兄さん?
ルーベンロックで!?
どうした?
いま俺は、ルーベンロックを爆撃してきた。
親父のことはきいていなかった!!
いや、友軍がいることもきいてない。ただ、米軍がいるから爆撃しろとだけ………
え……

町のようすはどうだった?
火の海だ……俺がやった……
泥グツで司令部へはいるな!! だれだきさまは!?
山賊に泥はつきものだ。またの名を泥棒という。
ゼーアドラーか。
アルトラル大佐! なぜ、ルーベンロックにドイツ軍がいることを、いってくれなかったんですか?
いえば君は爆撃にはいかなかった。
そうだ。山賊はけっして味方は殺さない。
ましてや自分の親父を殺したりはしない。
………
兄さん、俺はもういくよ。
ベルリンへかえる。

元気でな。
山賊は絶対に死なない。安心してくれ。
…………
大尉、君がいま、なにを心の中で考えているか、わかっている。
わたしを鬼だと思っているんだろう。戦いの鬼だと……
そうだ。
近代戦は、鬼にならなければ戦えない。
わたしは大ドイツ軍の一本のネジだ、一個の歯車だ。
歯車に心はないのだよ、大尉。
山賊にはあるのかね、大尉。
君の先祖は、代々ババリアの有名な山賊だそうだが……

あるとも。
山賊は
機械じゃない、
歯車でもない。
ふむ……
わかった、
ふむ……
レーゲンスブルグに
敵の機甲部隊がでて、
後退する
わが軍の後尾を
おびやかしている。
レーゲンス
ブルグは
遠くだ。
いまから
飛べば、
夜が
明ける。
夜の
スツーカは、
夜が明ければ
昼間の
フクロウだ。
低速の
スツーカでは
生きては
かえれない。
死ねとは
いわない。
爆撃がすんだら、
機体ごとでも
パラシュートでも
どこへでも
脱出しろ!
脱走兵
あつかいには
しない。

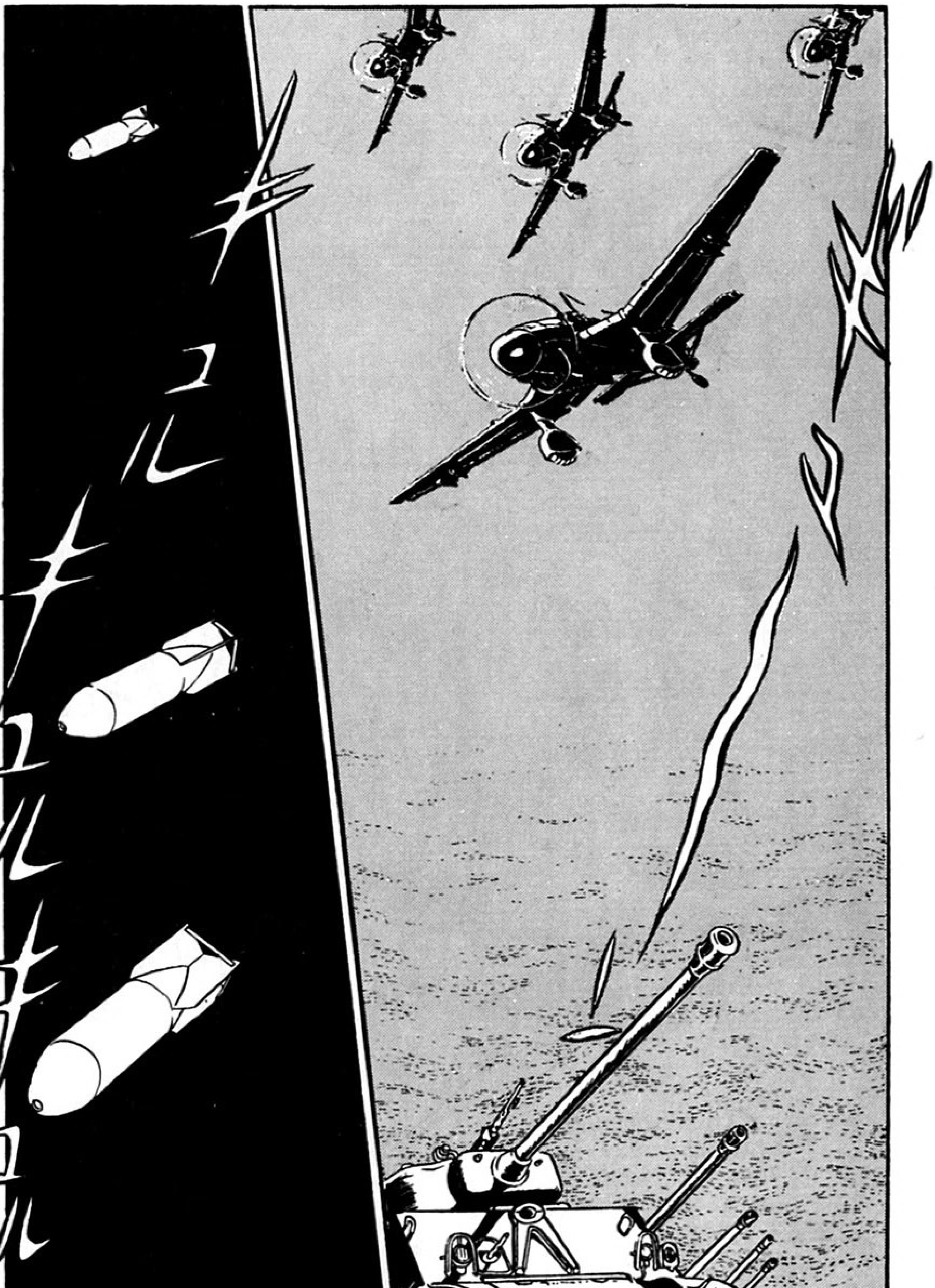
だが、かえりたければ歩いてでもババリアの山へかえれ!
たぶん、君がかえりつくころには戦争はおわる。
編隊全部がきえてもいいのですか、大佐。
男の約束だ。
……………
夜明けは何時だろう、ボルクハルト?
二時間後だ……
制空権がこちらにある時なら、白昼強襲も平気だった……
俺がいるかぎり、夜間飛行ならやられはしないのだが……
ババリアの山賊は、先祖代々夜が仕事場でな。
遺伝だかなんだかしらないが……
体質的に夜目に強くなってしまった。


兄貴がいく。
あそこを兄貴が飛んでいく。
ゴォォォオ

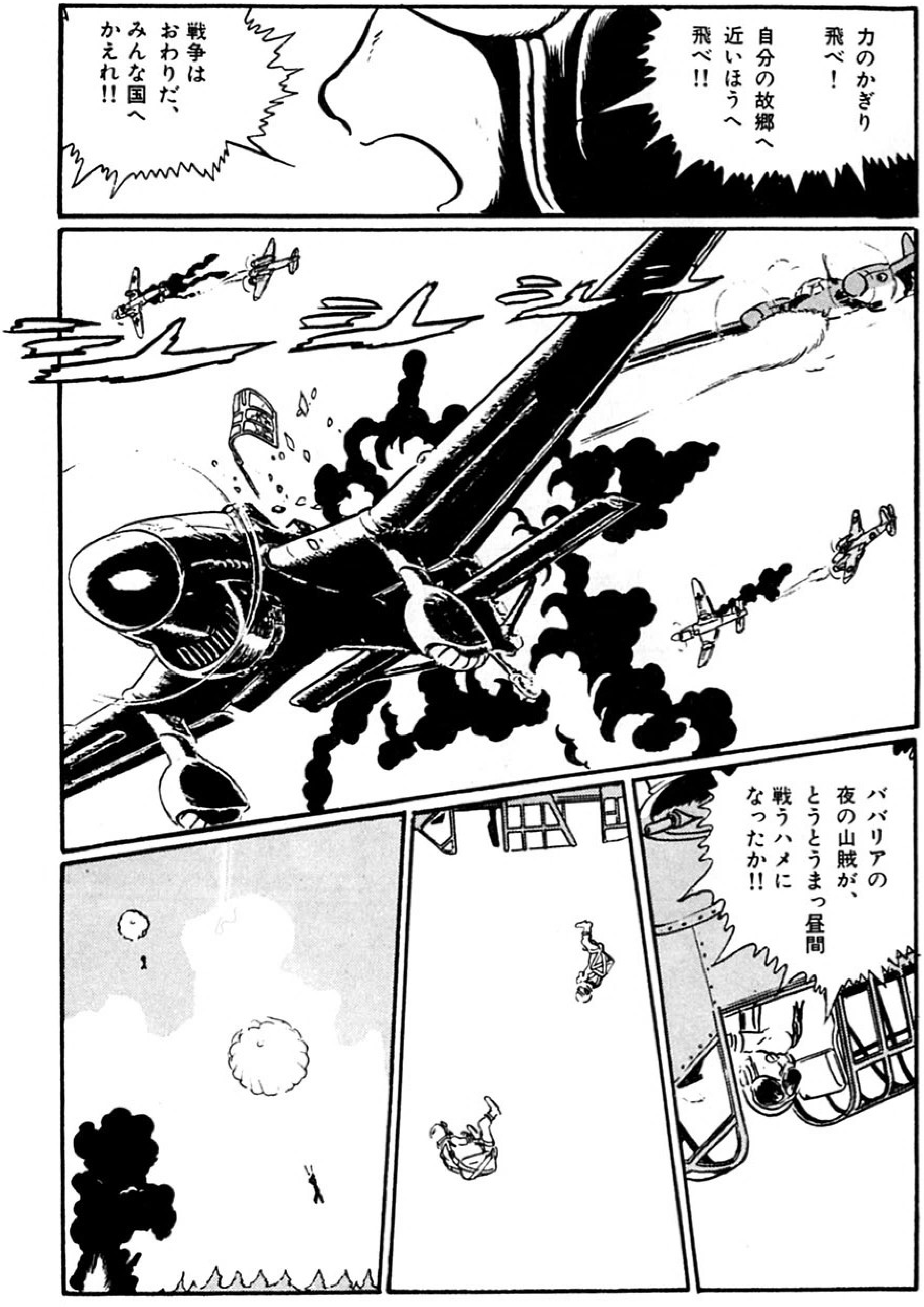
よく見えますね。
俺の一族は夜に生きてきたからな。
ババリアの山賊一家は、何百年ものあいだフクロウのように夜、生きてきた。
だから…夜戦うかぎりやられることはない。
たとえ、レーダーつきの夜間戦闘機がきても大丈夫だ。
だが…兄貴が爆撃からかえるころ……
夜明けがくる……
低速のスツーカは、昼間のフクロウだ。
子供にもつかまる。

このスツーカのいくところ全ヨーロッパから北アフリカまで、悪魔が飛んできたといっておそれたものだ。
スツーカは世界一の急降下爆撃機ですからね、大尉。
このスツーカよりハデにあばれた、急降下爆撃機があるのをしってるか。
え？
日本の九九艦爆だ。
ゲッベルスのプロパガンダ映画のせいで、スツーカばかりがやたらに有名だが……
だいじな時に一番働いたのは、日本の九九艦爆だ。
あの急降下爆撃機が、一番多くの連合軍艦船を撃沈した。
しかし……いまではスツーカ同様低速で、戦闘機に捕捉されると苦戦しているときく……
日本人もこうやって夜、飛んでいるんだろうか……
いまはレーダーがあるから、つらいよなあ。

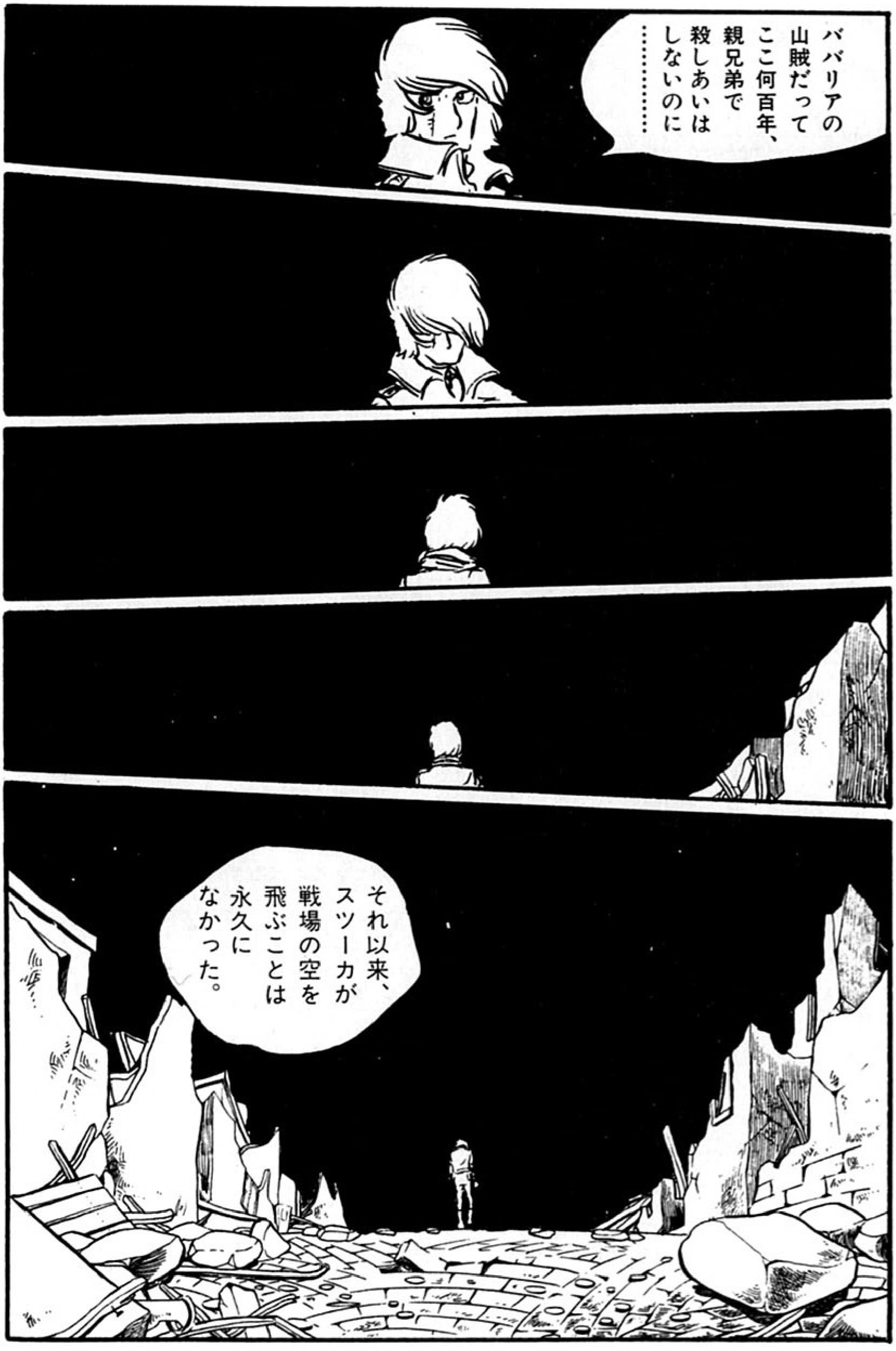
ボルクハルト!!
左の地平線にモスキートだ！レーダーで我々を識別しているぞ！
山かげから目標上空へ侵入する！
つづけ！
あれだ、つっこむぞ!!


ズン
キュルキュルキュル

弾薬車が誘爆している。
ハデにやったなあ。
夜が明けた!!
今度はこっちがハデにやられる番だ。
きたぞ!!

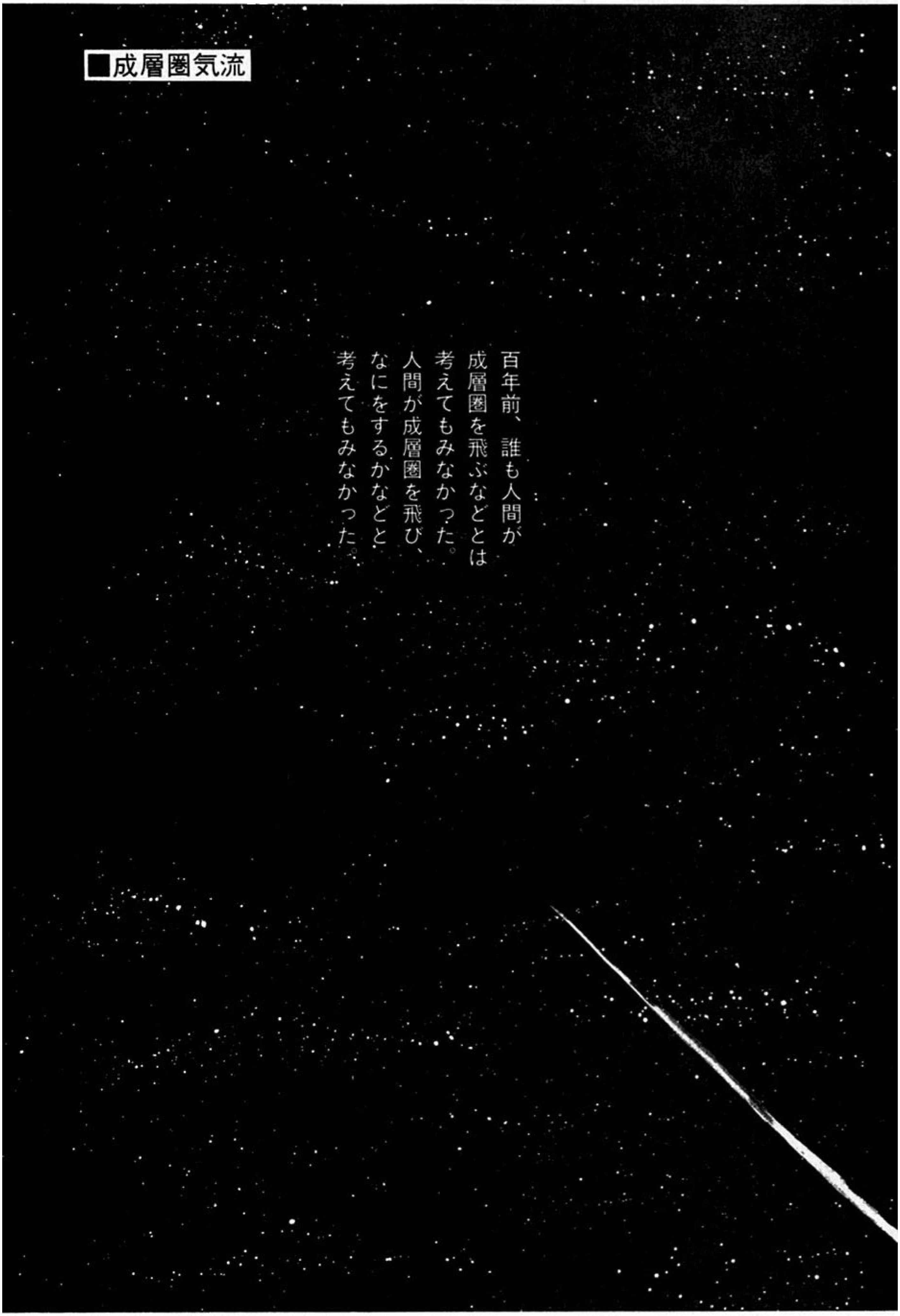

力のかぎり飛べ！
自分の故郷へ近いほうへ飛べ!!
戦争はおわりだ、みんな国へかえれ!!
ババリアの夜の山賊が、とうとうまっ昼間戦うハメになったか!!

…………
降下したドイツパイロットは、一人も生かしておくなという命令だ。
副司令官がちまよったらしい。
けさの爆撃で司令官が戦死したものなあ。
司令官はもともとドイツ系の移民で、爆撃隊をよこした敵の隊の司令官とは兄弟だそうだ。
…………
ひでえ話だなあ。
兄弟ならはなしあってケンカやめりゃいいのになあ。
…………

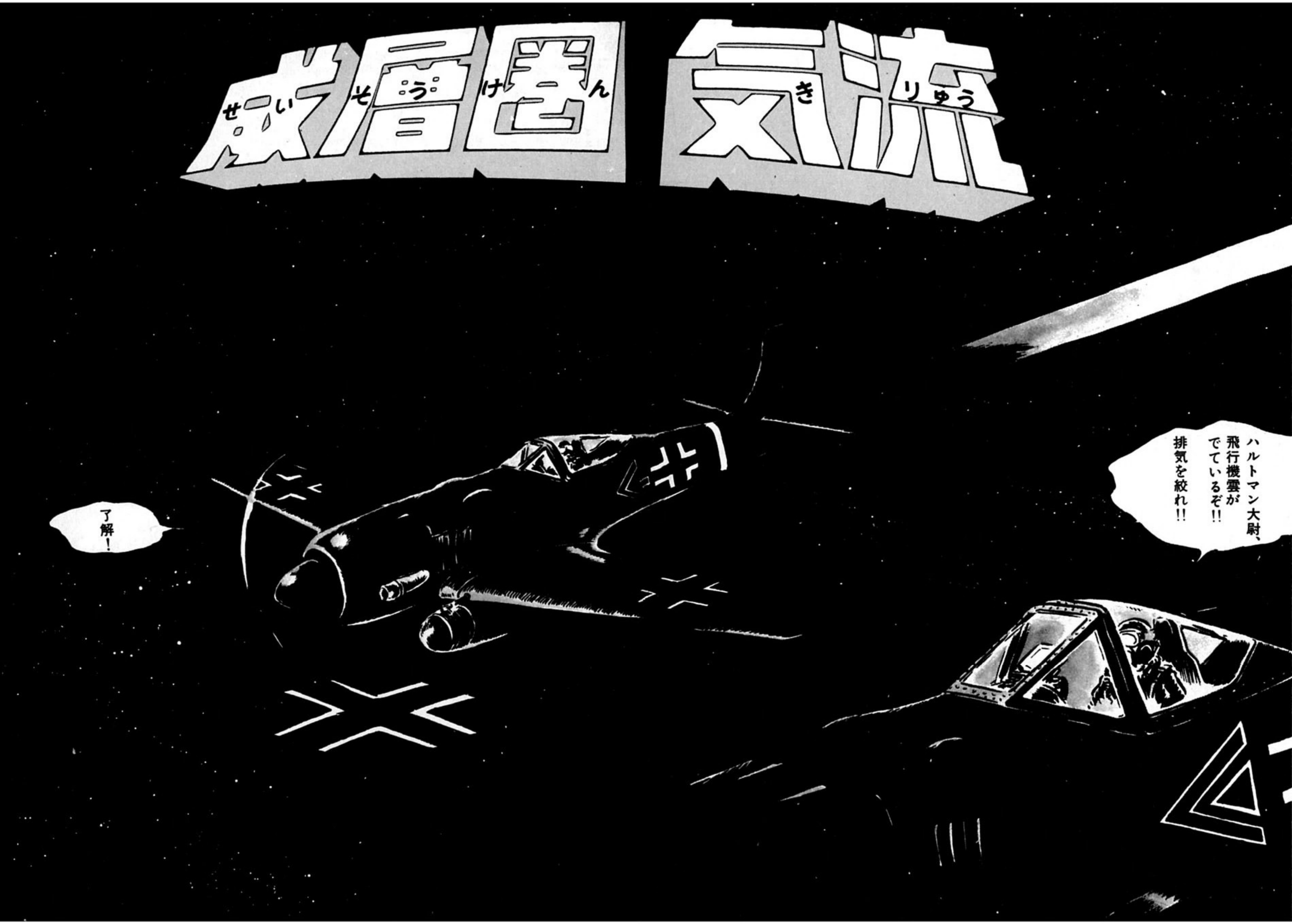

ババリアの山賊だってここ何百年、親兄弟で殺しあいはしないのに……
それ以来、スツーカが戦場の空を飛ぶことは永久になかった。

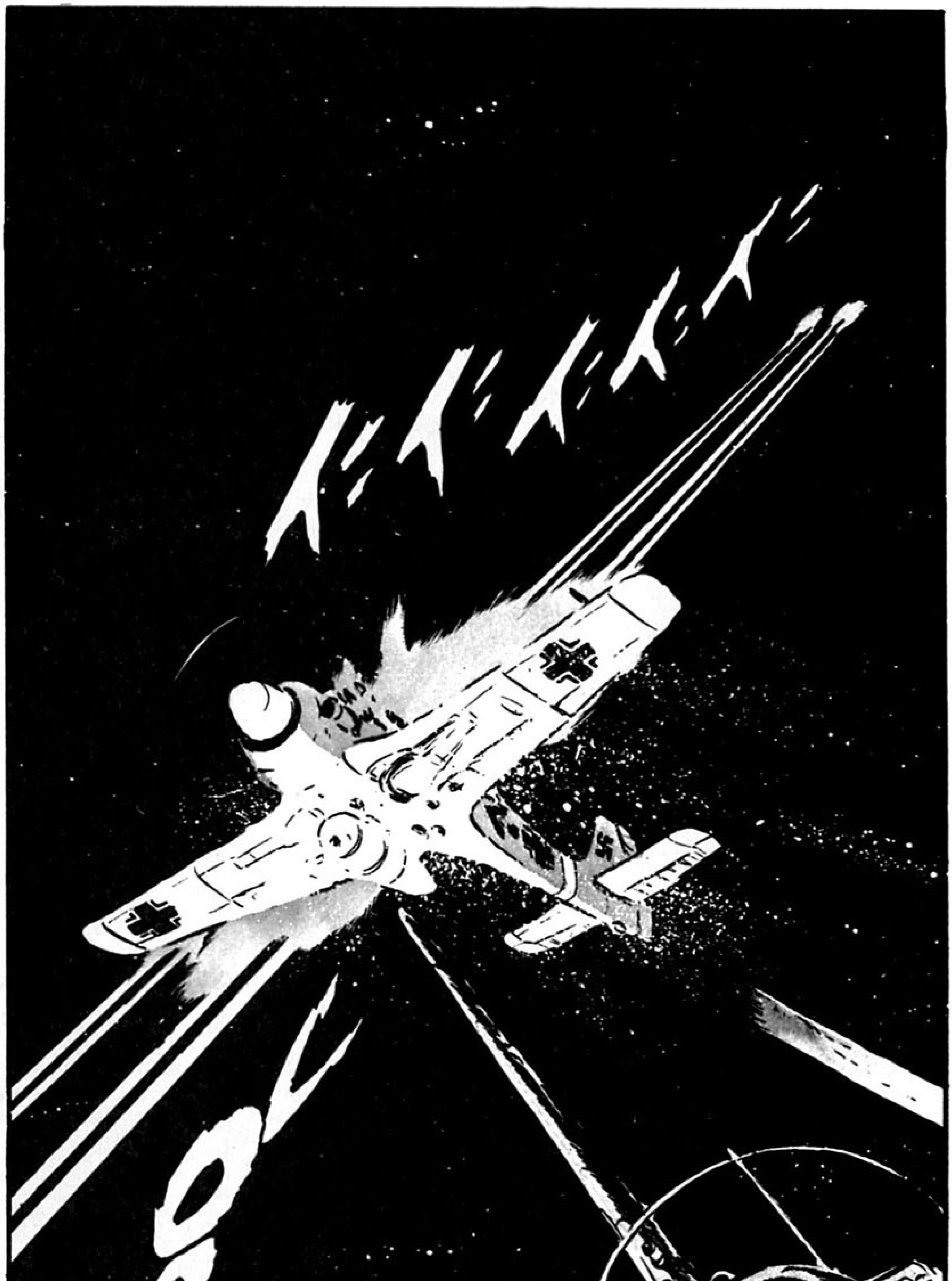
■「ビッグコミックオリジナル」1977年5月5日号掲載

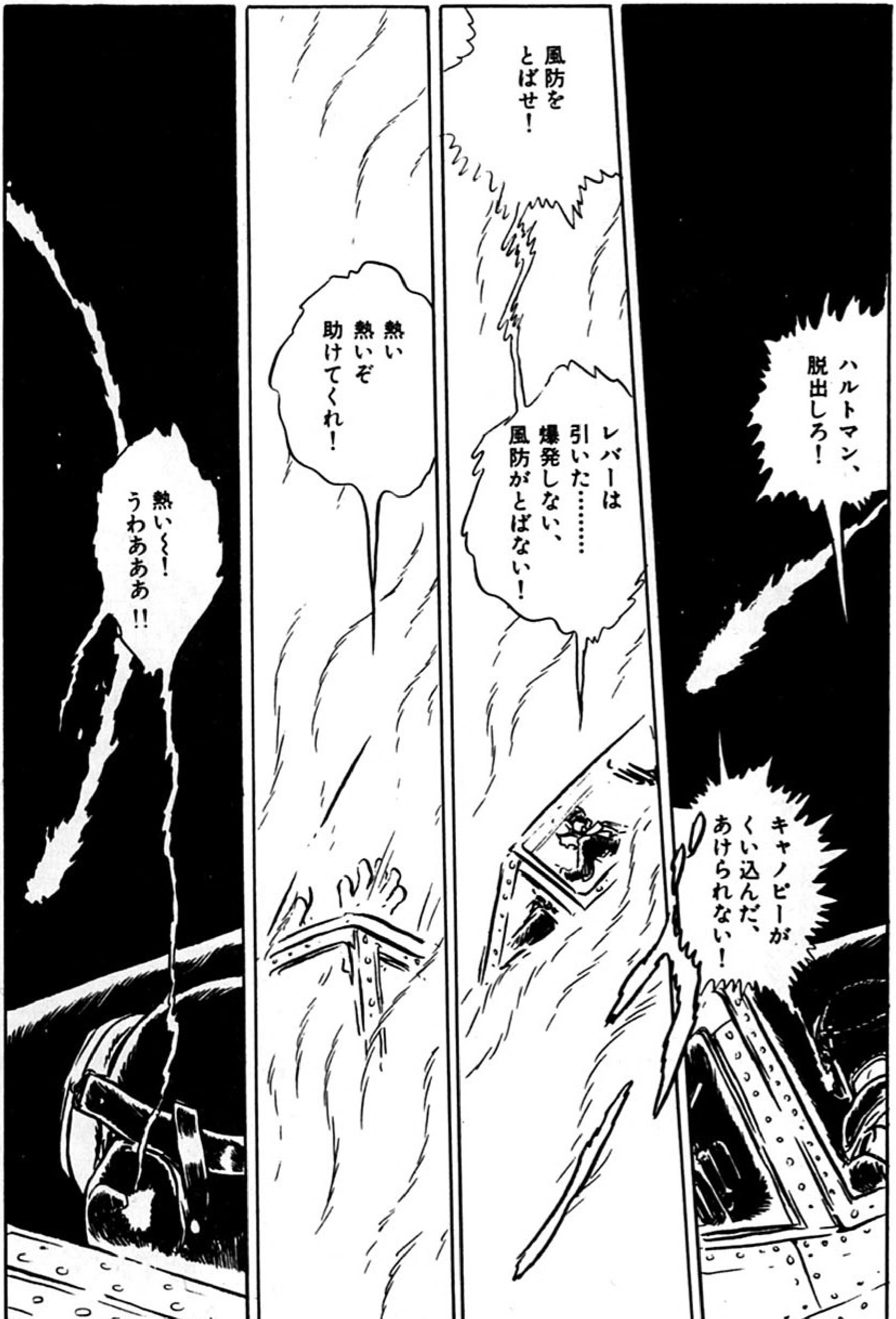
■成層圏気流

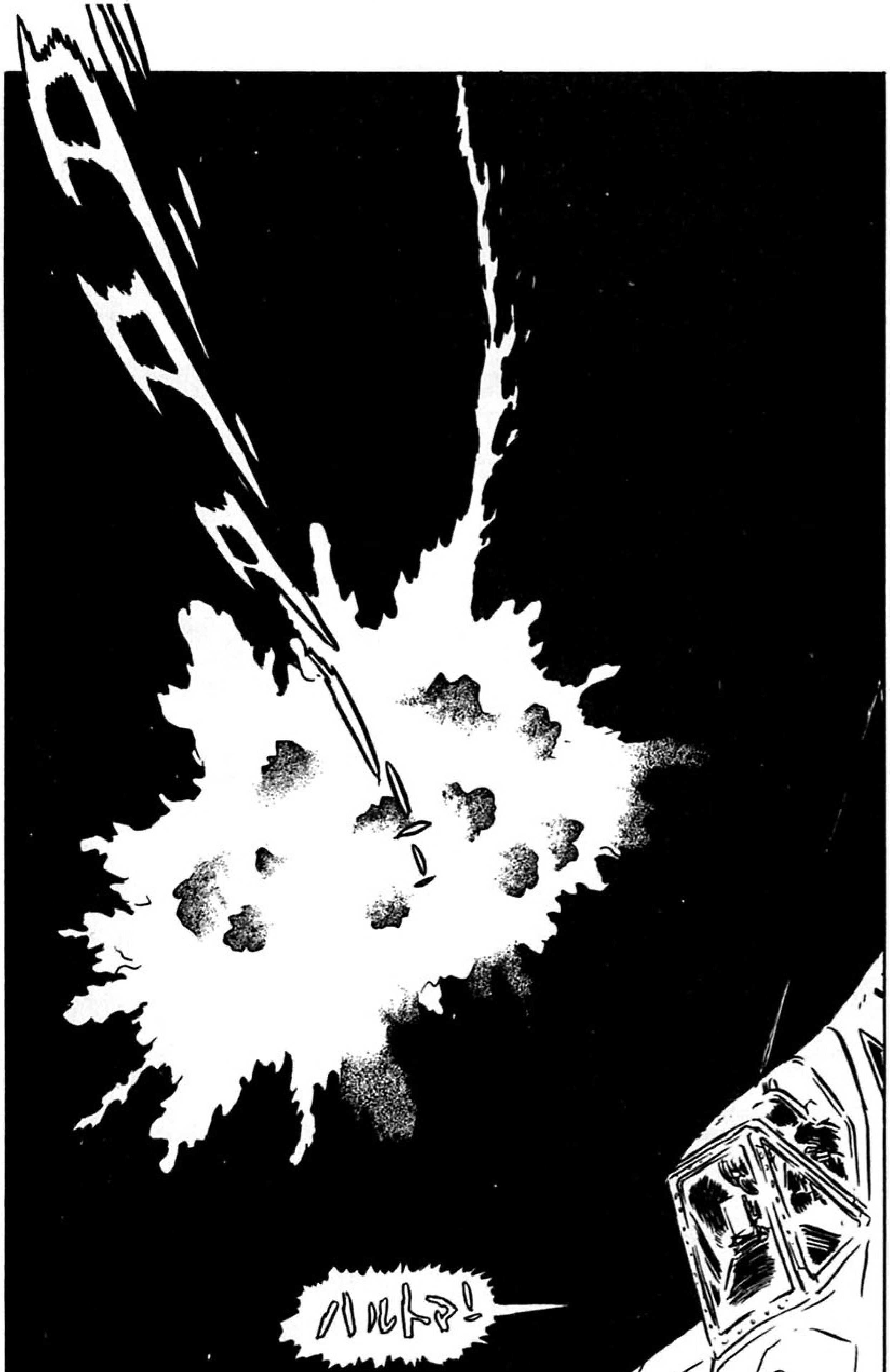


百年前、誰も人間が
成層圏を飛ぶなどとは
考えてもみなかった。
人間が成層圏を飛び、
なにをするかなどと
考えてもみなかった。

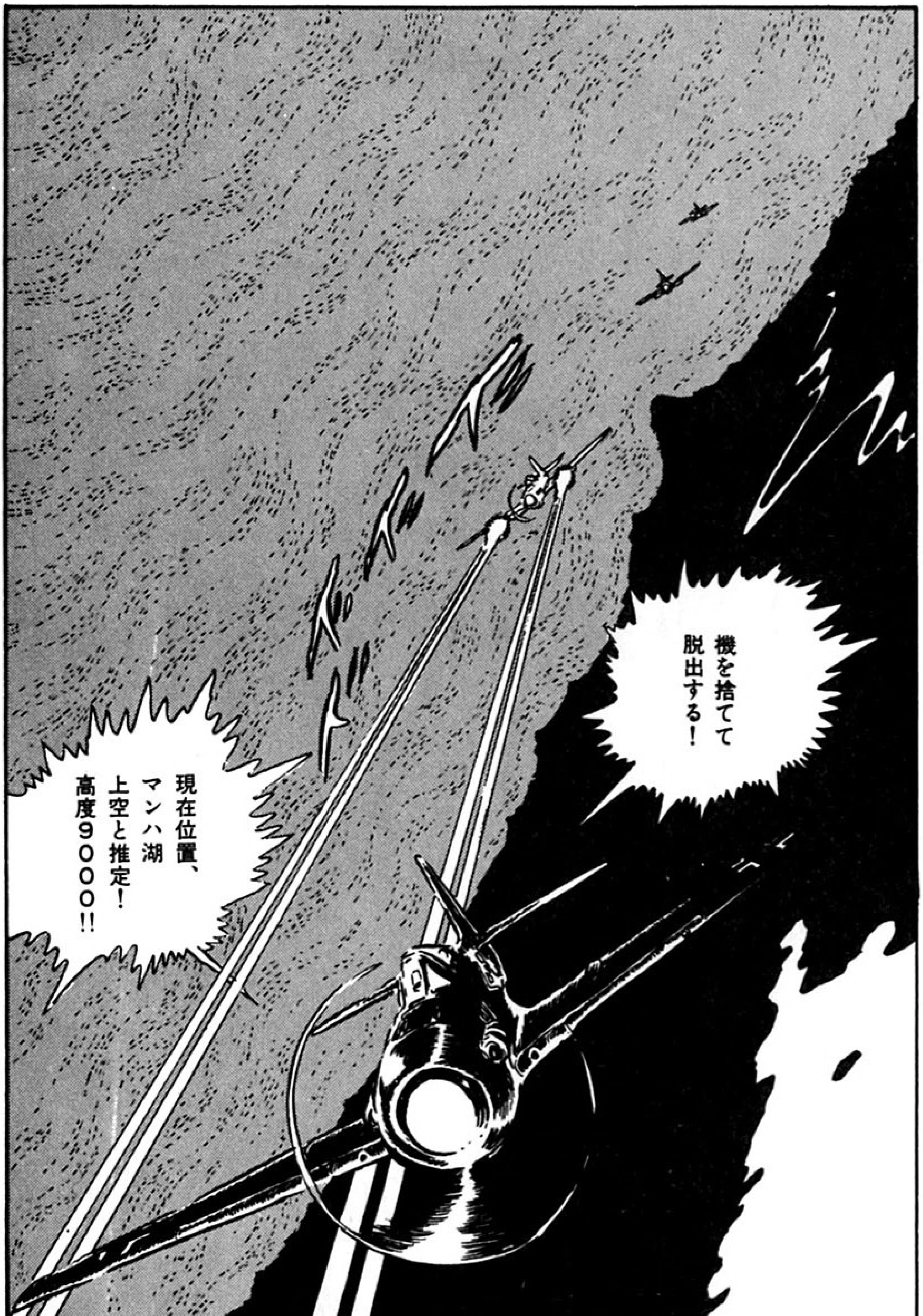

成層圏気流
ハルトマン大尉、飛行機雲がでているぞ!! 排気を絞れ!!
了解!



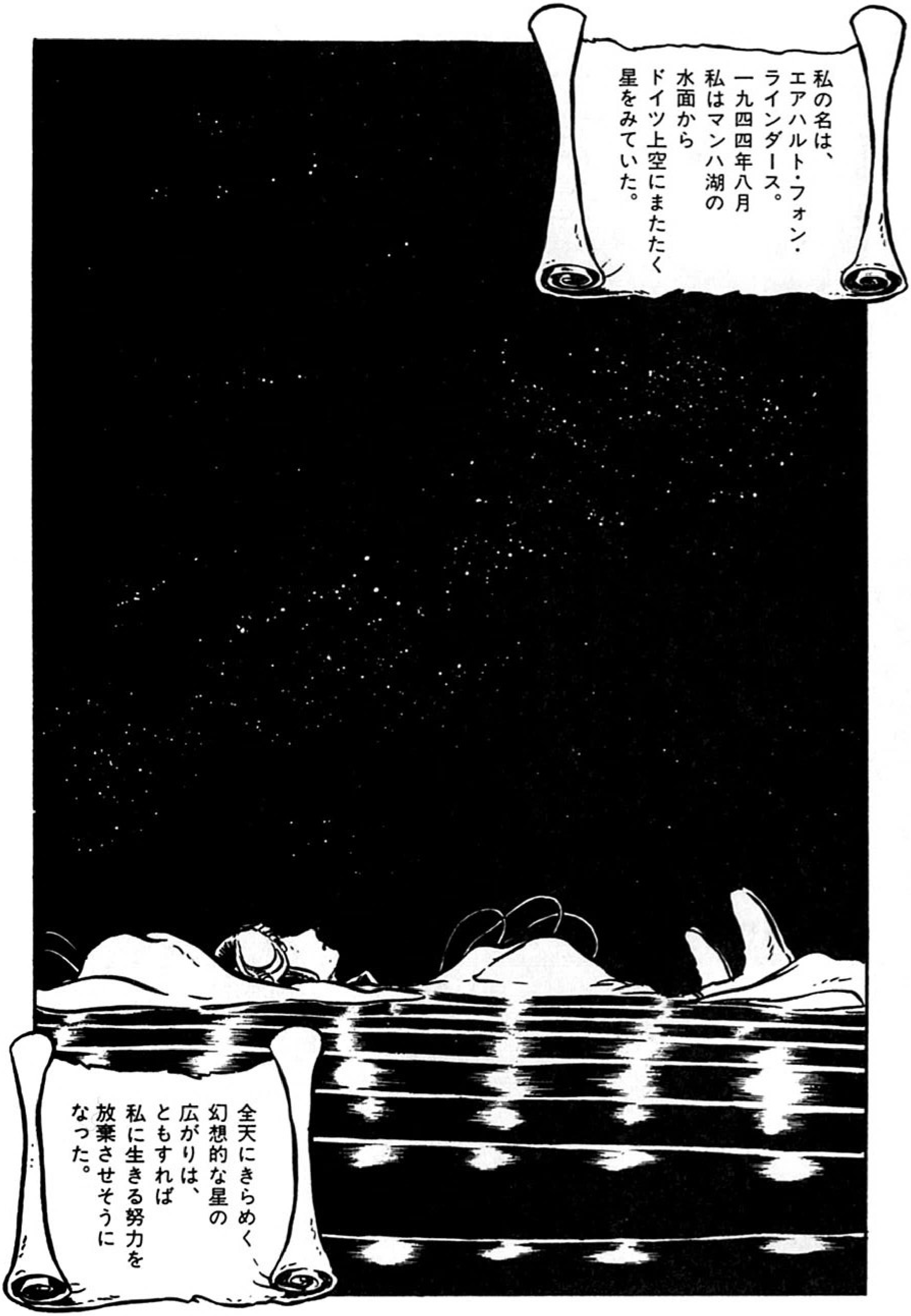

ハルトマン、脱出しろ！
キャノピーがくい込んだ、あけられない！
風防をとばせ！
レバーは引いた……爆発しない、風防がとばない！
熱い熱いぞ助けてくれ！
熱い〜！うわあああ!!


ハルトマ!

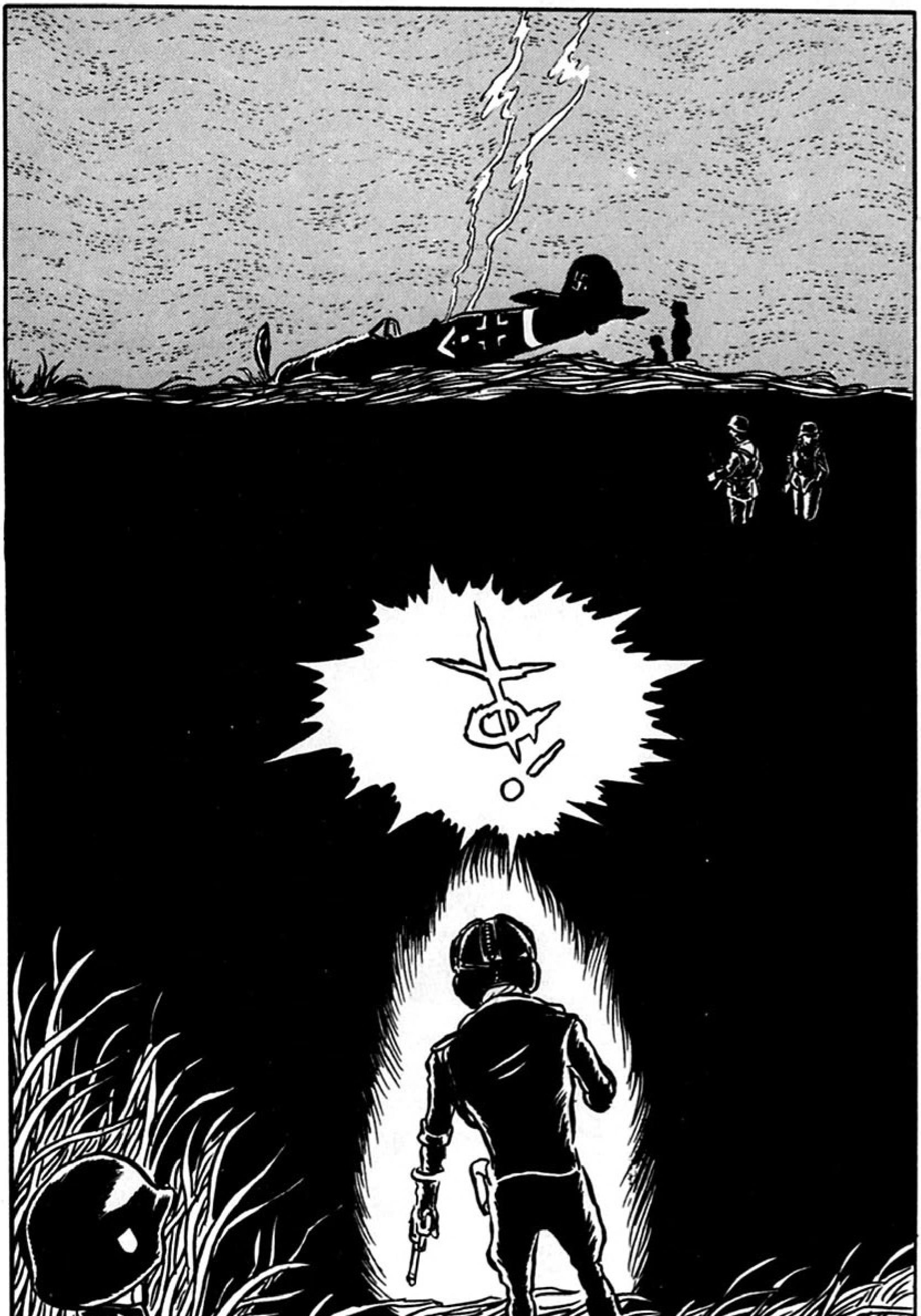
!
こちらラインダース大尉!
マルブレッケン上空、敵機に追尾されつつあり!
追撃を振り切るのは不可能!


機を捨てて脱出する！
現在位置、マンハ湖上空と推定！高度９０００!!

ドイツ
パイロットは
機を捨てて
脱出したの
だが……
パラ
シュートが
みえない。
たぶん
開かなかったの
だろう。
のろしだ、
のろしで
死んだんだ。
引き揚げよう。
ヨーロッパの
降下兵は、
開かない
パラシュートの
ことを
「のろし」という。
それは、開かない
パラシュートの
布の尾が
「のろし」のように
みえるからだ。

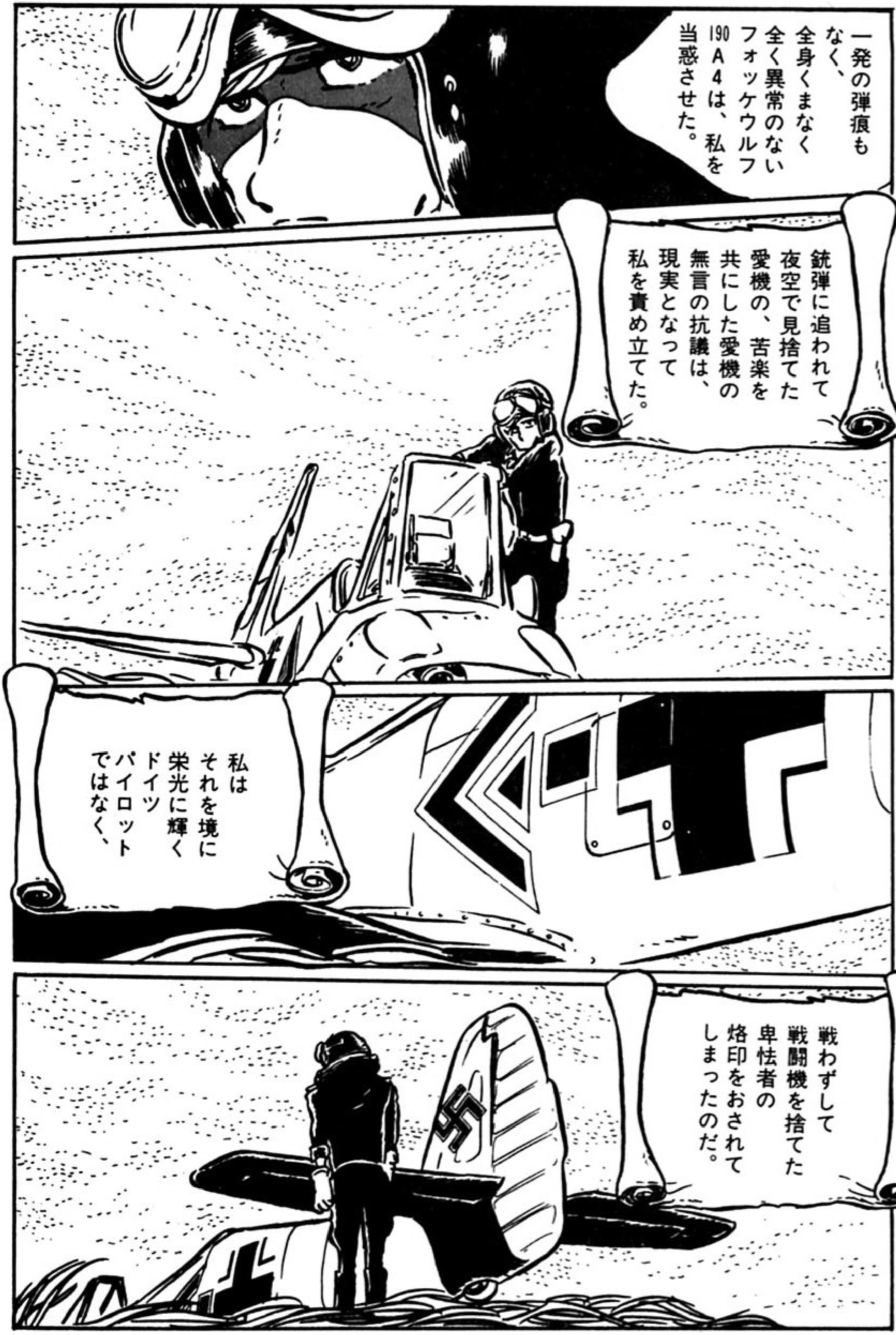

私の名は、
エアハルト・フォン・
ラインダース。
一九四四年八月
私はマンハ湖の
水面から
ドイツ上空にまたたく
星をみていた。
全天にきらめく
幻想的な星の
広がりは、
ともすれば
私に生きる努力を
放棄させそうに
なった。

私は、ドイツ空軍大尉エアハルト・フォン・ラインダース。敵に空戦で敗れたのは、その夜が最初だったのだ。
外地だったら、あんたはとっくにゲリラかレジスタンスにやられてるぜ。運がよかったな。
あんたの飛行機もあっちへ降りた。
飛行機？俺の？
………
………
!!



FW(フォッケウルフ)――190A4。
アフリカ戦線以来の
私の愛機は、
防塵フィルターを
カウリングの
両側につけたままの
姿で、夜露にぬれた
ドイツの草原の上に
横たわっていた。
B75

機体には一発の弾痕もなく、わずかに表面の塗装がはがれて、下面のアフリカ戦線での明るい色が露出しているだけだった。
イギリスのスピットファイア、日本のゼロ戦と共に、航空史上に輝かしい不滅の名を残した空冷エンジンの偉大な戦士フォッケウルフ190は、
人間という主の魂が乗り移ったかのように、ひとり夜空を飛び燃料が尽きて草原へ降りていたのだ。
いや、それは自分を見捨てた主人をうらむ必死の着陸だったのかもしれない。

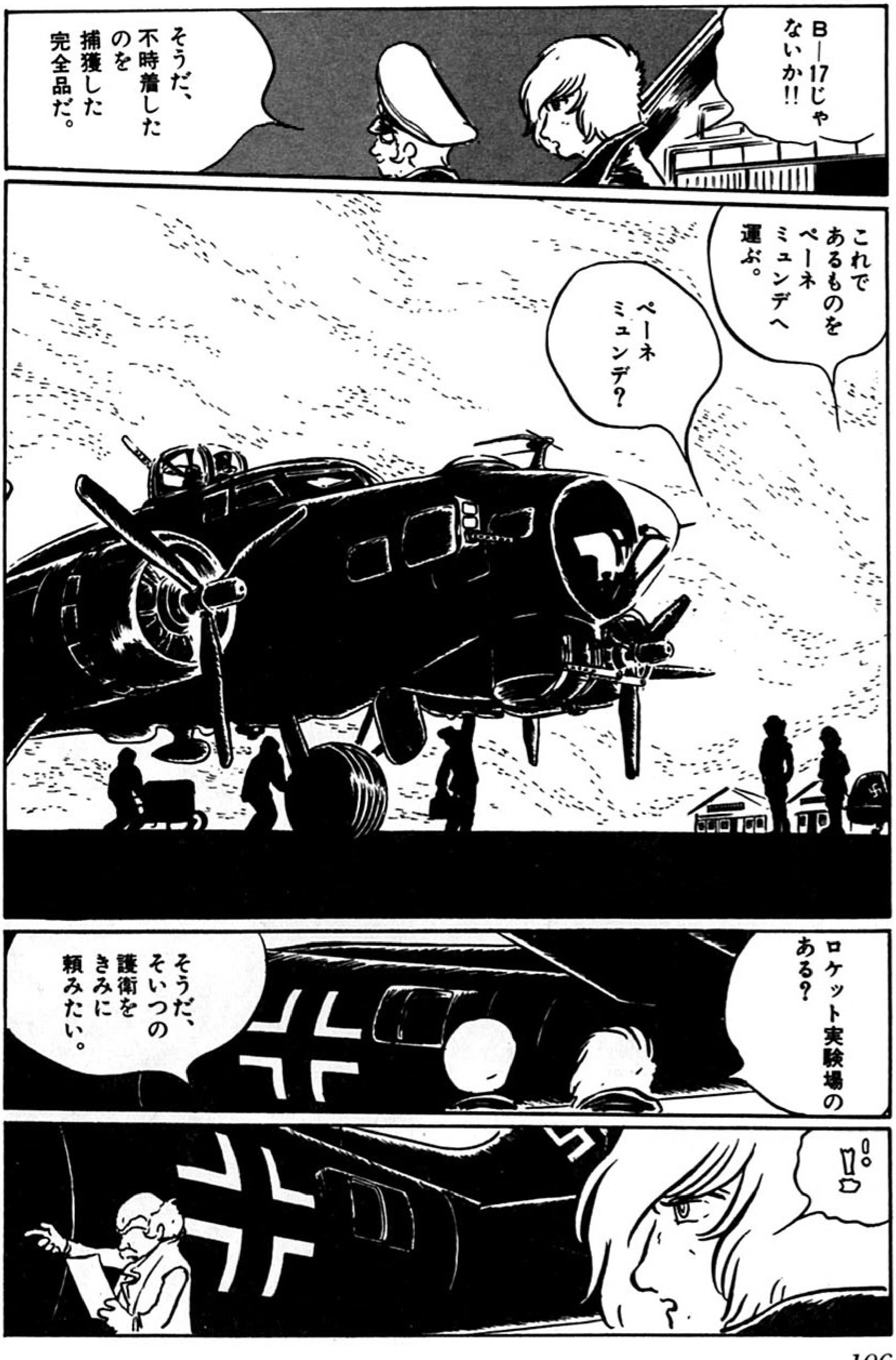

一発の弾痕もなく、全身くまなく全く異常のないフォッケウルフ190Ａ４は、私を当惑させた。
銃弾に追われて夜空で見捨てた愛機の、苦楽を共にした愛機の無言の抗議は、現実となって私を責め立てた。
私はそれを境に栄光に輝くドイツパイロットではなく、
戦わずして戦闘機を捨てた卑怯者の烙印をおされてしまったのだ。

私は、エアハルト・
フォン・ラインダース。
当時のドイツ空軍大尉だ。
空戦で敗北したのは、
後にも先にも
この時ただ一度だけだ。
だが私は、この時
戦闘機フォッケ
ウルフと共に死ぬべき
だったのかもしれない
と思っている。
875

俺を追撃したのは、スピットファイアの翼端を切った奴……そうだ、グリフォンエンジンを積んだ高空性能のいい奴だ。
俺のフォッケウルフ190A4は7000メートル以上では性能が落ちる。
それはカタログデータの上でのことで、実際にはそれほどの差は……
低空でなら問題なく勝てるさ。
スピットファイアは、そんなにこわい敵ではない。真の敵はアメリカのP51ムスタングだけだ。
しかし、高高度となるとそうはいかない。ましてやレーダーで誘導された敵機と夜間戦うのは銃口の前のカモだ。
きさまは偉大なフォッケウルフをカモだと侮辱するのか!!
いやフォッケウルフは偉大な戦闘機だ。
俺が言っているのは使い方のことだけだ。
高高度性能ではあきらかに敵機に劣るということだ。
そういうフォッケウルフを高高度の夜間哨戒に使うのは、それこそフォッケへの侮辱だ。
馬に乗った騎士を海で戦わせるようなものだ。

今までの戦歴がなければ、ただではすまんのだが……
俺も今まで戦ってきて犬死はしたくない。
ジェット機かロケット機に乗せてくれるように頼んでくれ。
ジェット機がくさるほどあれば……ドイツは負けはせんよ。
V―2号ロケットのテストだ。
長距離弾道弾か！世界最初のミサイル……
あれが戦いのカギを握る時代がじきくる。
いやな時代だ。

飛行機からプロペラもなくなる。
顔を打つ空気の流れも排気のかおりも……もう無縁の時代がくる。
人間が空を飛ぶのではなく、機械が空を飛ぶのだ。
俺は、そんな時代がくるまで生きていたくないような気がする。
人間は銃剣でわたりあうくらいのところでやめておくべきだったと思うよ。
なんだあれは？


B—17じゃないか!!
そうだ、不時着したのを捕獲した完全品だ。
これであるものをペーネミュンデへ運ぶ。
ペーネミュンデ?
ロケット実験場のある?
そうだ、そいつの護衛をきみに頼みたい。
!!

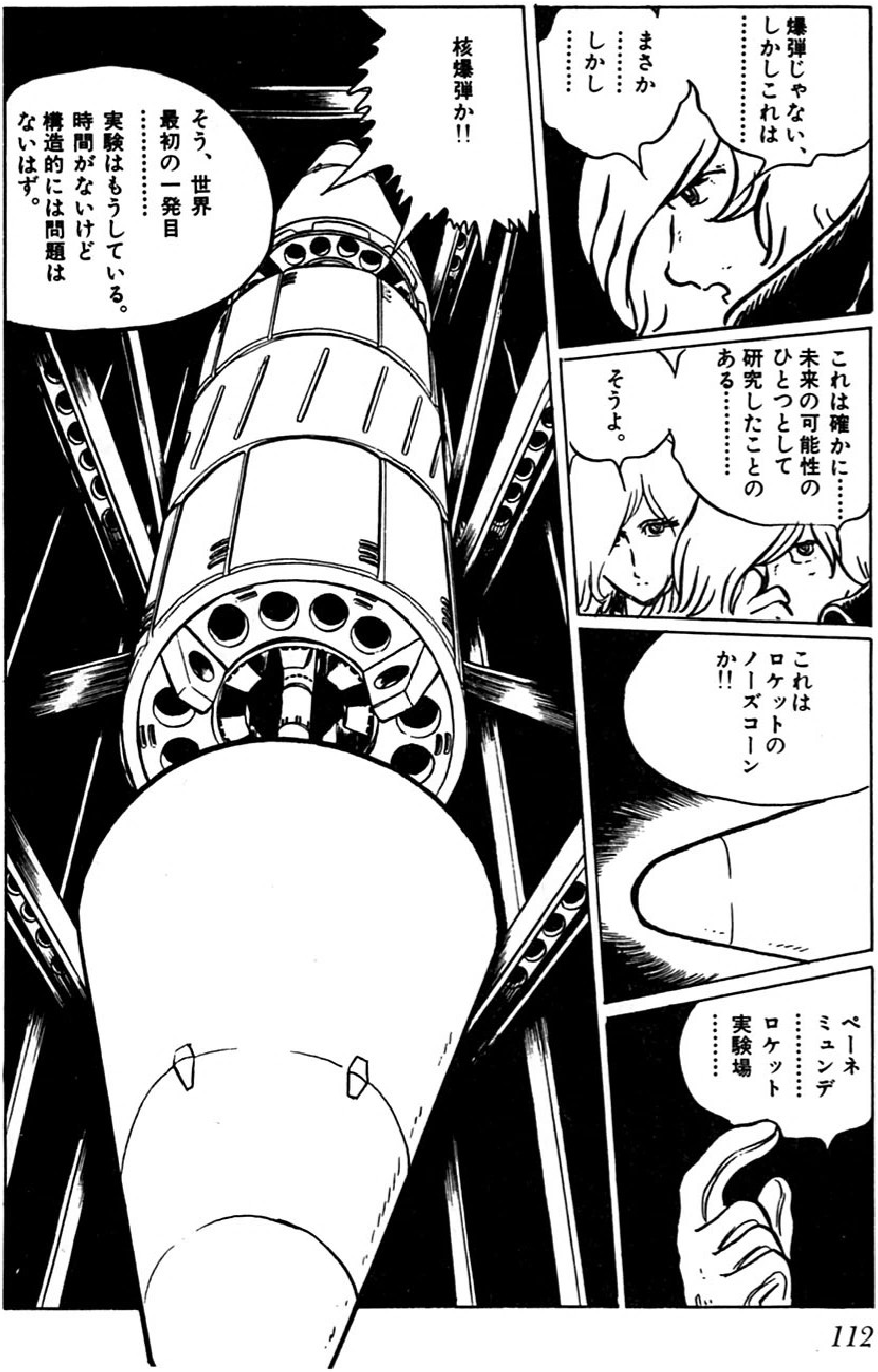
教授…
バフスタイン
教授じゃ
ありませんか!!
久しぶり
だね、
ラインダース。
未来の
原子物理学者を、
不完全な
戦闘機に乗せて
飛ばすとは、
ドイツも
まずいことを
しているもんだ。
きみが、
原子物理学
専攻だった
というのは、
きのう教授に
初めて
きいた。
この男は
血の気が
多くて
研究室で
じっとして
いられない
性格でな。
私も
このB―17に
乗る。
よろしく
頼むよ。
教授も？
私もよ、
ライン
ダース。
メルヘン
ナー!!

きみがいなくなって以来、わしの助手でね。
なんでB—17なんかに？
機密でね。ただ無事にこれがペーネミュンデへ着くよう、護衛してくれればよい。
また、フォッケウルフでですか？
敵はレーダーで監視しているでしょう。
たった二機で飛べば、敵の夜間戦闘機のまたしてもいいカモですよ。
新型機をよこしてもらったよ、特別に。
これは……

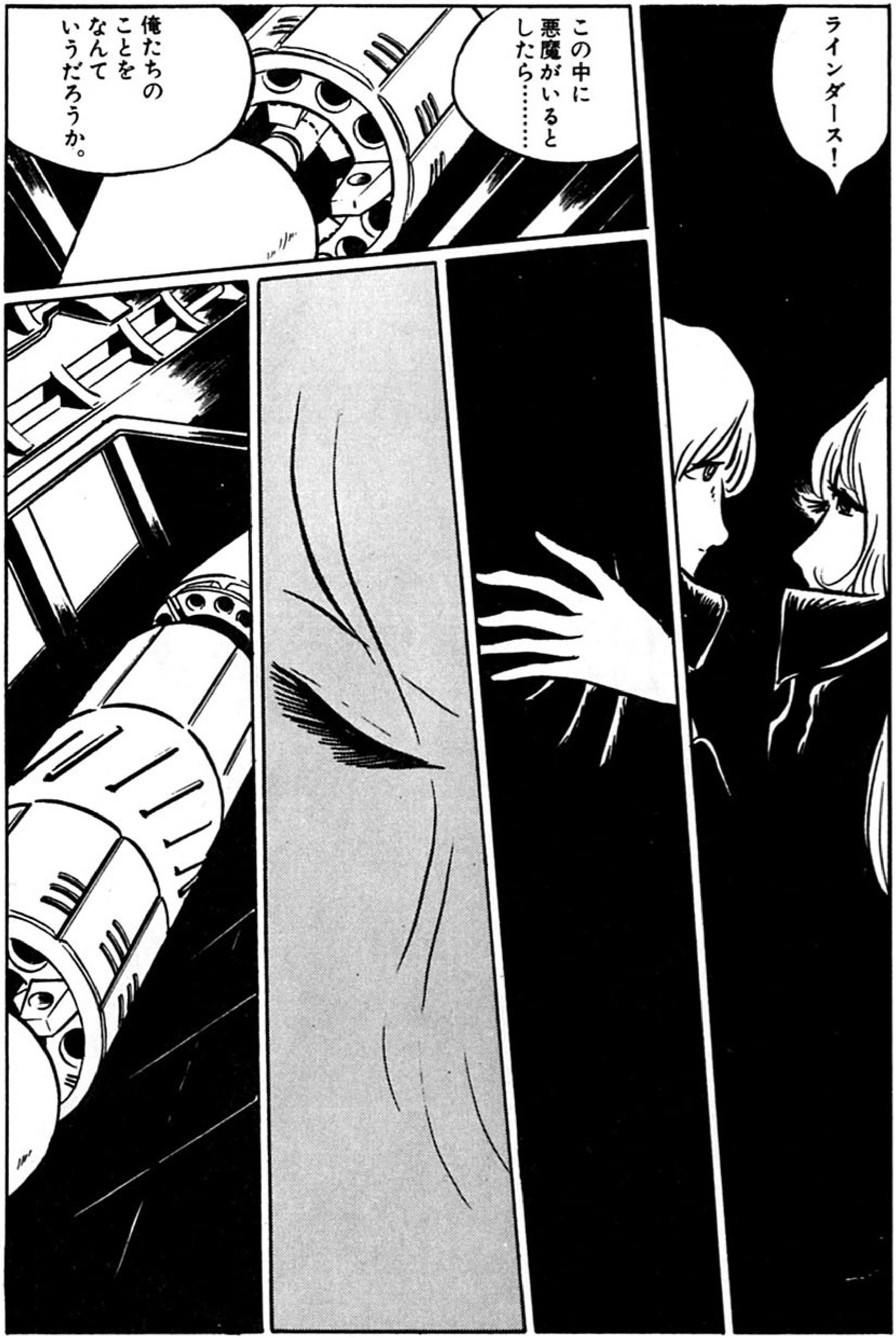
Ta152H−1だ。原型はフォッケウルフ190だが、いまや全く性能が違う。生まれ変ったと考えていいだろう。
ブレーメンの工場で完成した最初の量産型だ。
あとは戦争に間に合うかどうか、わからん。
これできみはあのB−17を護衛するのだ。
高度一万二五〇〇メートルで時速七六〇キロ……30ミリMK108機関砲一門と、MG151機関砲二門……
これに匹敵する高高度戦闘機は、メッサーシュミットのジェット機を除いては現在どこにもない。

しかも、ジェットエンジンはまだ耐久性と信頼度でこいつのユモ213エンジンに劣る。
どうしてもペーネミュンデへB―17の積荷を届けねばならん。
そこで、きみとこのTa152との組合せできみに護衛を頼むのだ。
積荷……
そうだ、積荷だ。とても大事な積荷だよ。
ここへきてきみと教授を護衛して飛ぶことになると思わなかったよ。
私は護衛してもらいたくない。
え？
父もそうよ。
私も父もこの荷物がペーネミュンデに着かない方がいいと思っている。

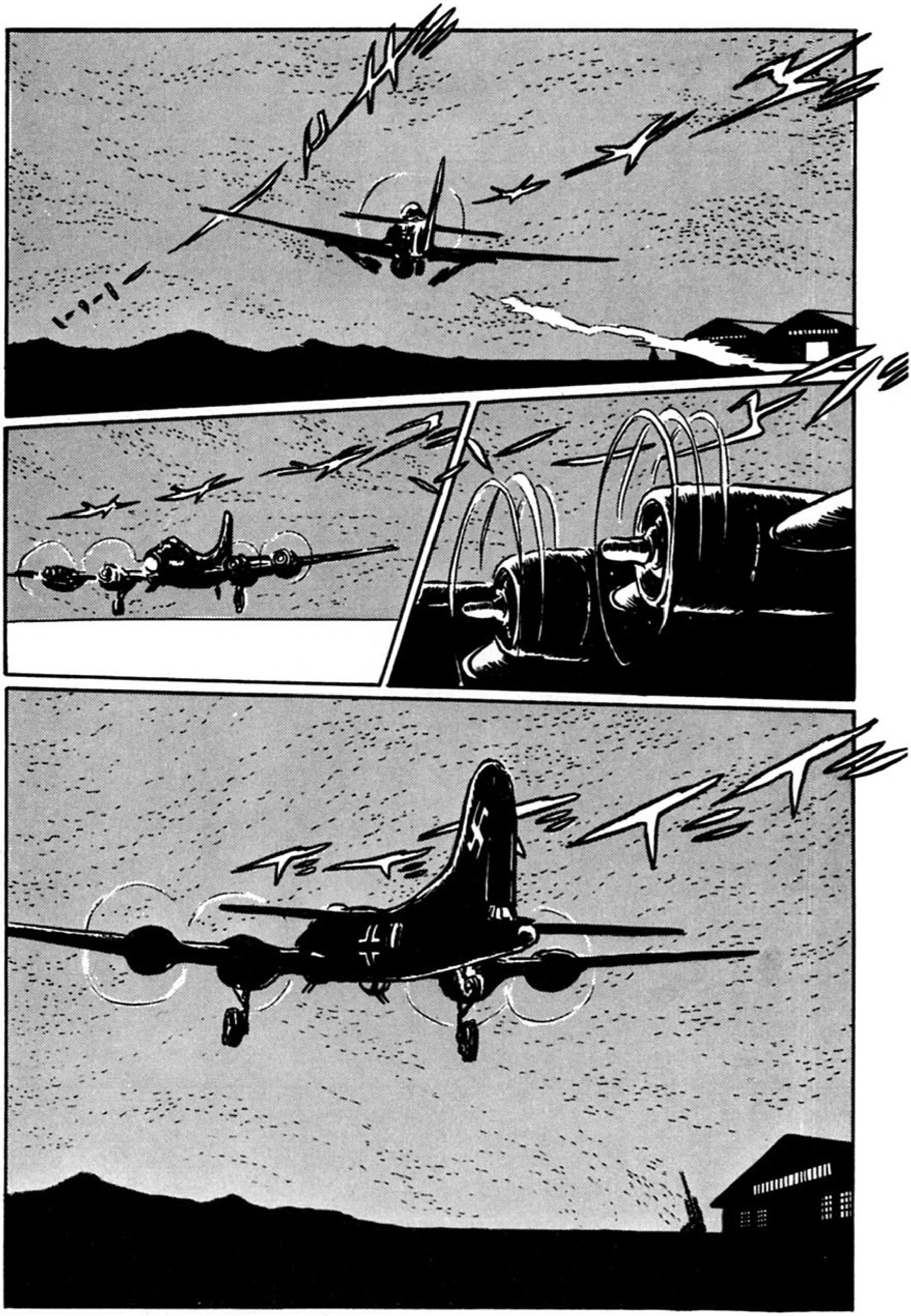
なにが積んであるんだ?
みせてあげるわ。
おそろしく警備がきびしいな。
弾倉内の積荷をみれば、理由がわかるわ。
さあ、あなたが護衛するのはこれよ。
!!
これは……!!
………………

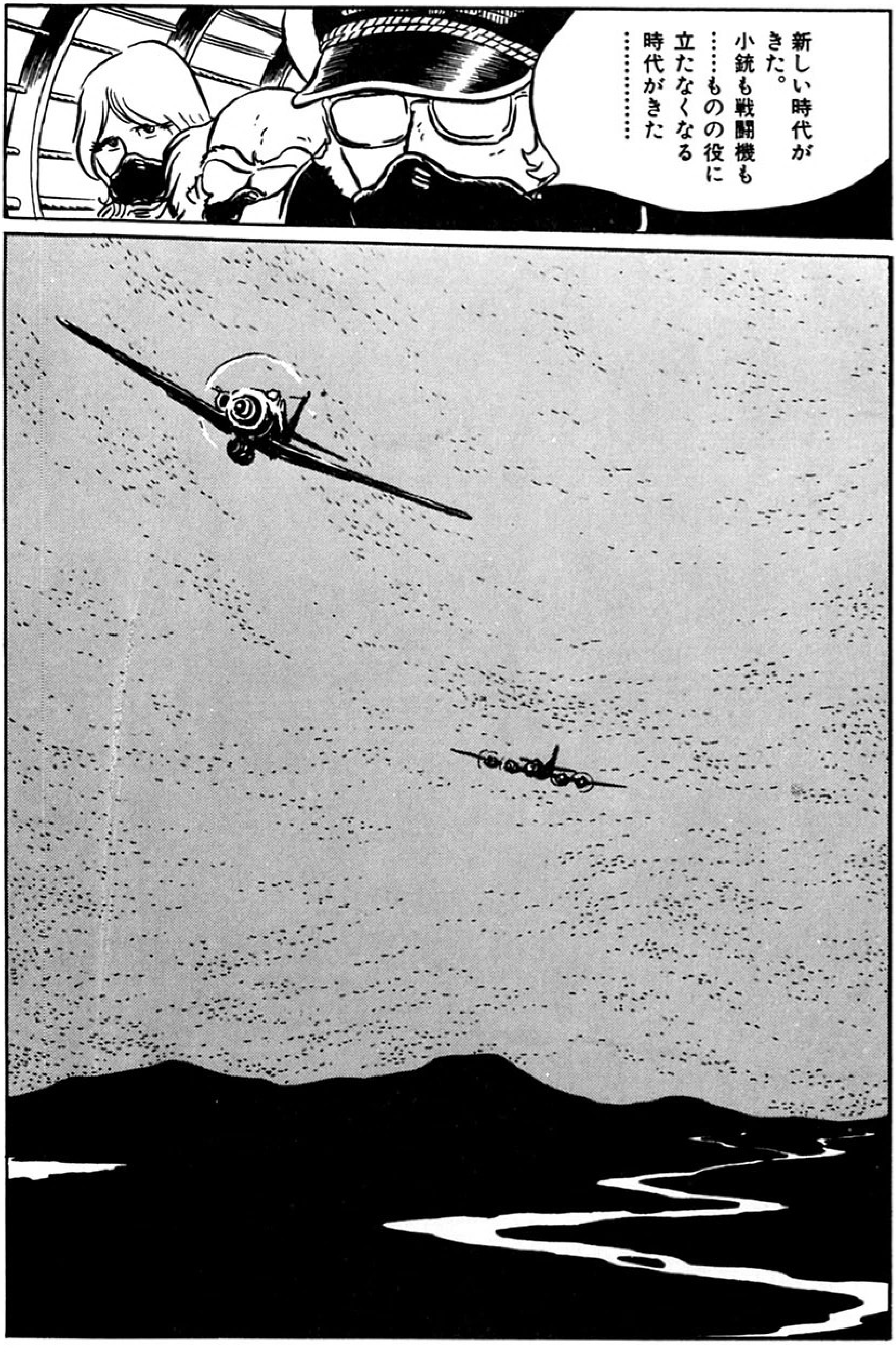

爆弾じゃない、しかしこれは……
まさか……しかし……
核爆弾か!!
そう、世界最初の一発目……実験はもうしている。時間がないけど構造的には問題はないはず。
これは確かに……未来の可能性のひとつとして研究したことのある……
そうよ。
これはロケットのノーズコーンか!!
ペーネミュンデ……ロケット実験場……

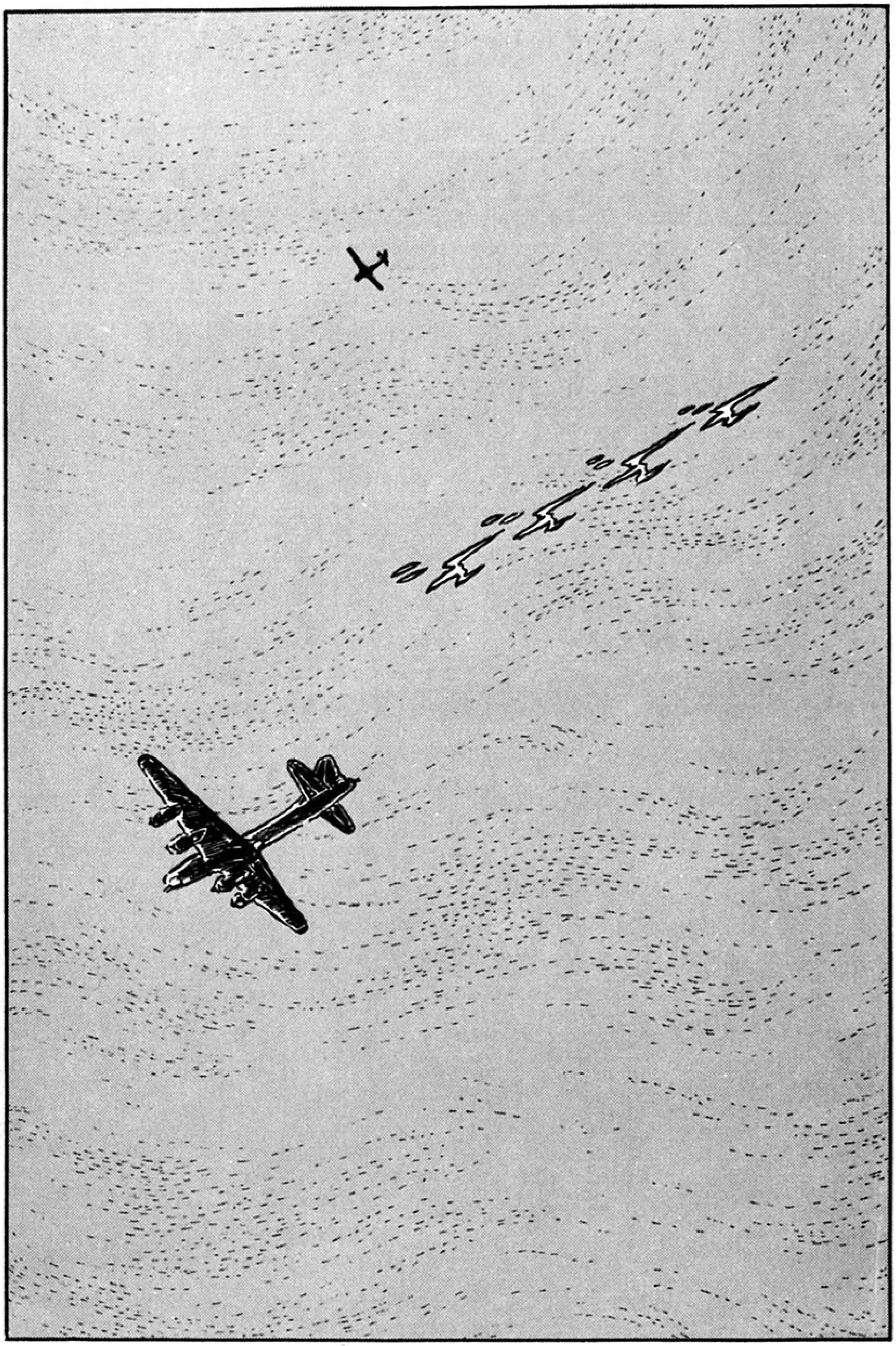
核ミサイルの
弾頭か、
これは!!
ロンドンか
ワシントンか
モスクワか
……どこかが
消滅するわ。
ドイツが
造らなくても
いずれ
どこかが
造る……
でも
これを最初に
人類の頭上に
落とした者は
……
実戦に使った
者は………
悪魔に魂を
売った、
血も涙も
ない鬼として
人類の歴史に
記憶される
でしょう、
永久に……
……
しかし、
俺はこれを
護衛しな
ければ
ならない
……
ラインダース……
戦闘機に乗ってる
あなたは、賢明な
道を選んだわ。
研究室に残った
父と私は……
悪魔のとりこに
なって、これを
造ってしまった
……
背中に
羽があれば、
私はどこかへ
飛んで
ゆきたい。
死んだら、
天使に
なって羽が
生えるって
いうけど
……
誰か羽を
生やして
くれない
かしら……


ラインダース！
この中に悪魔がいるとしたら………
俺たちのことをなんていうだろうか。

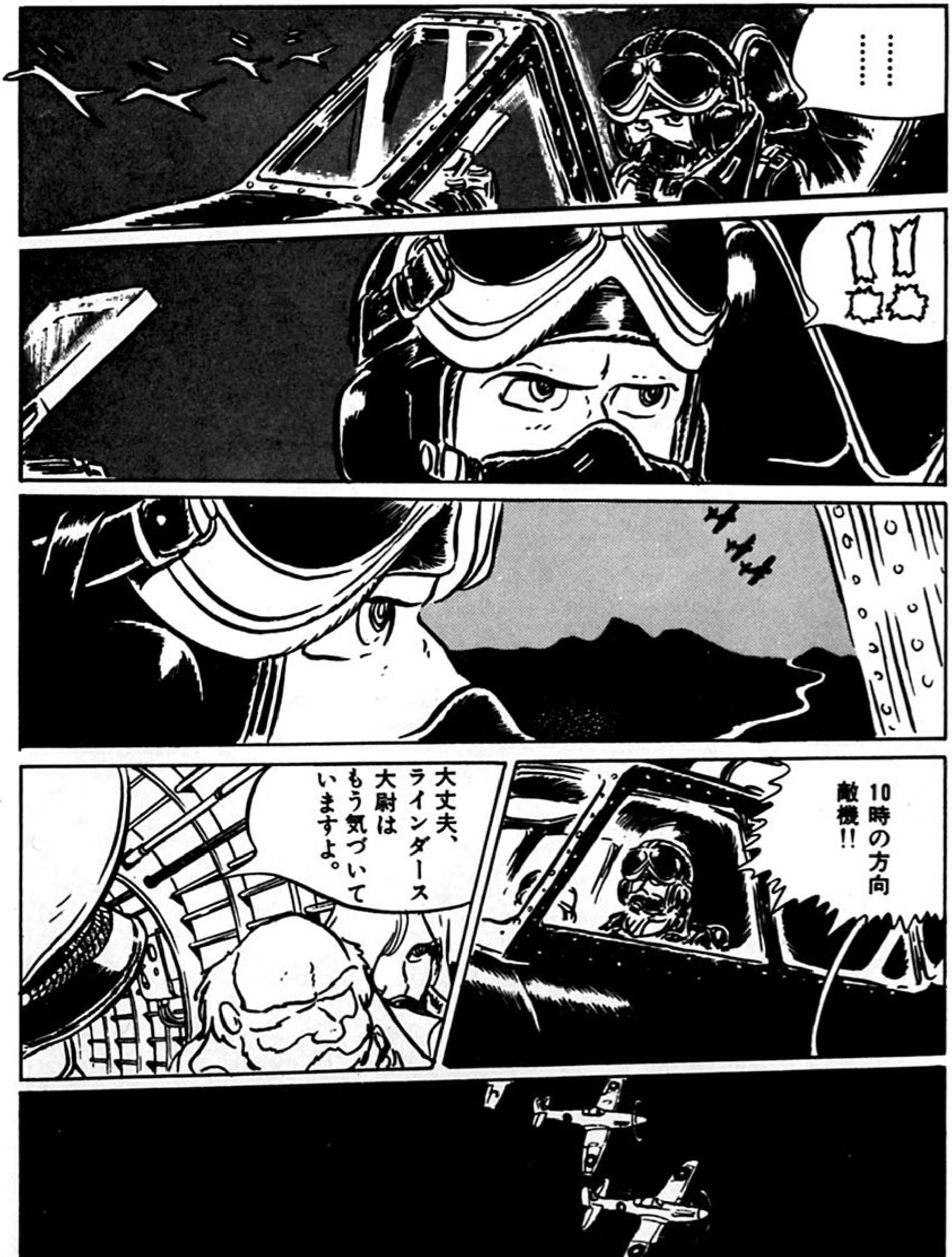
ラインダース、頼むぞ。ドイツの運命がこれにかかっている。
ラインダース……
……
……




新しい時代がきた。
小銃も戦闘機も……ものの役に立たなくなる時代がきた……

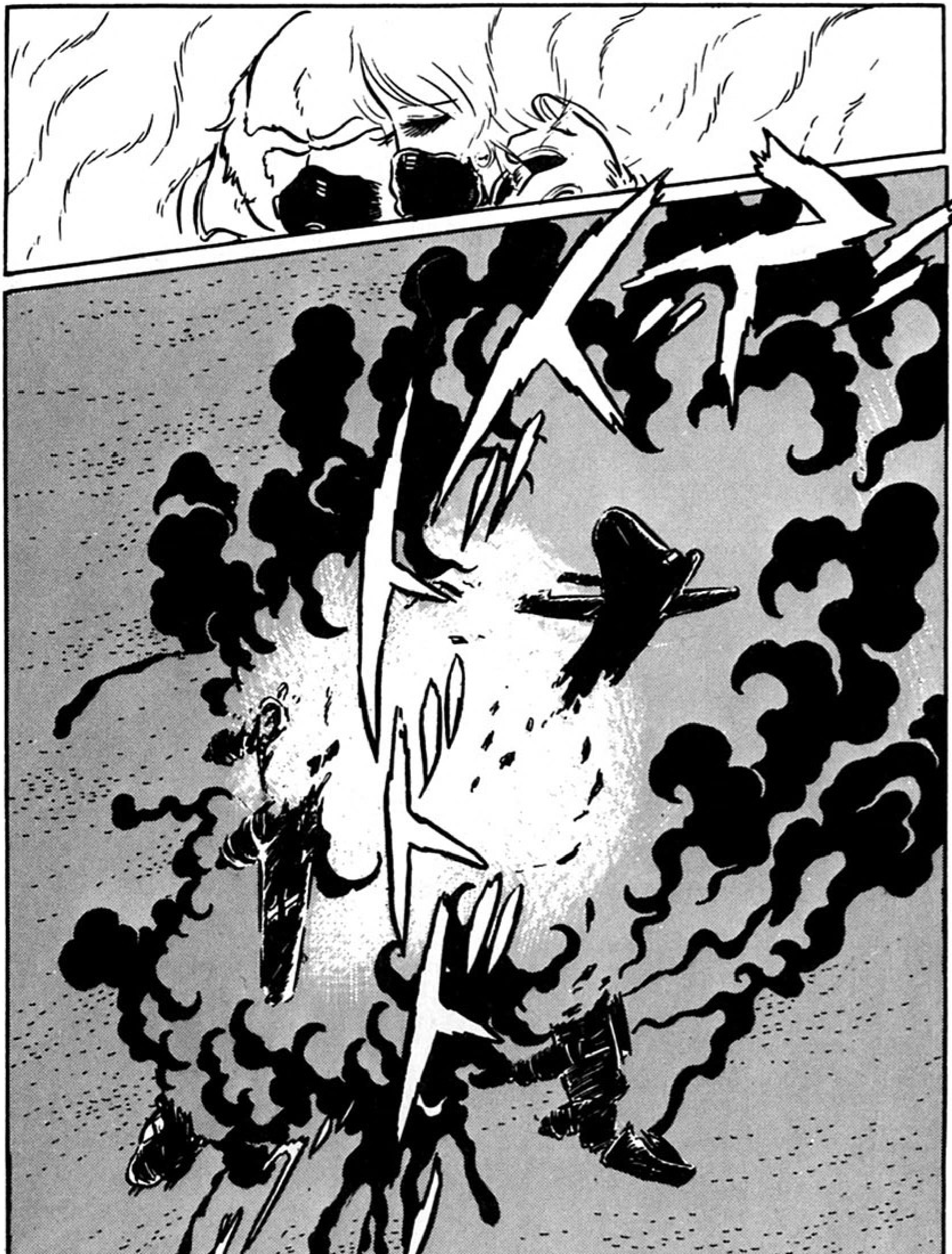


ラインダースはどこにいるの？
敵ときづかれないために、無線封鎖をしています。
しかし、敵はくる。レーダーで感づいて必ずくる！
ラインダース大尉は上空のどこかにいます、大丈夫ですよ。
Ta152はもうすでに戦闘機です。敵機をよせつけはしません、ご安心を。


……
!!
10時の方向
敵機!!
大丈夫、
ラインダース
大尉は
もう気づいて
いますよ。

どうしたんだ!?
ラインダースは気づかないのか!?
う
ラインダース!!
ラインダース
どこにいる!!

……
そうか……あいつはわかってくれたのか……
ありがとうラインダース。



敵はフォッケウルフだ、落ち着いてかかれば……
いや、こいつはフォッケウルフじゃない。
こいつは……
だめだ、上空へ逃げてもふり切れない!!
一万メートルでもスピットより速いぞ!! こいつはなんだ?
その時、私はとても寂しかった……
アフリカ戦線以来の愛機フォッケウルフと死ななかったばかりに……

■「ビッグコミックオリジナル」1977年7月5日号掲載

THE COCKPIT

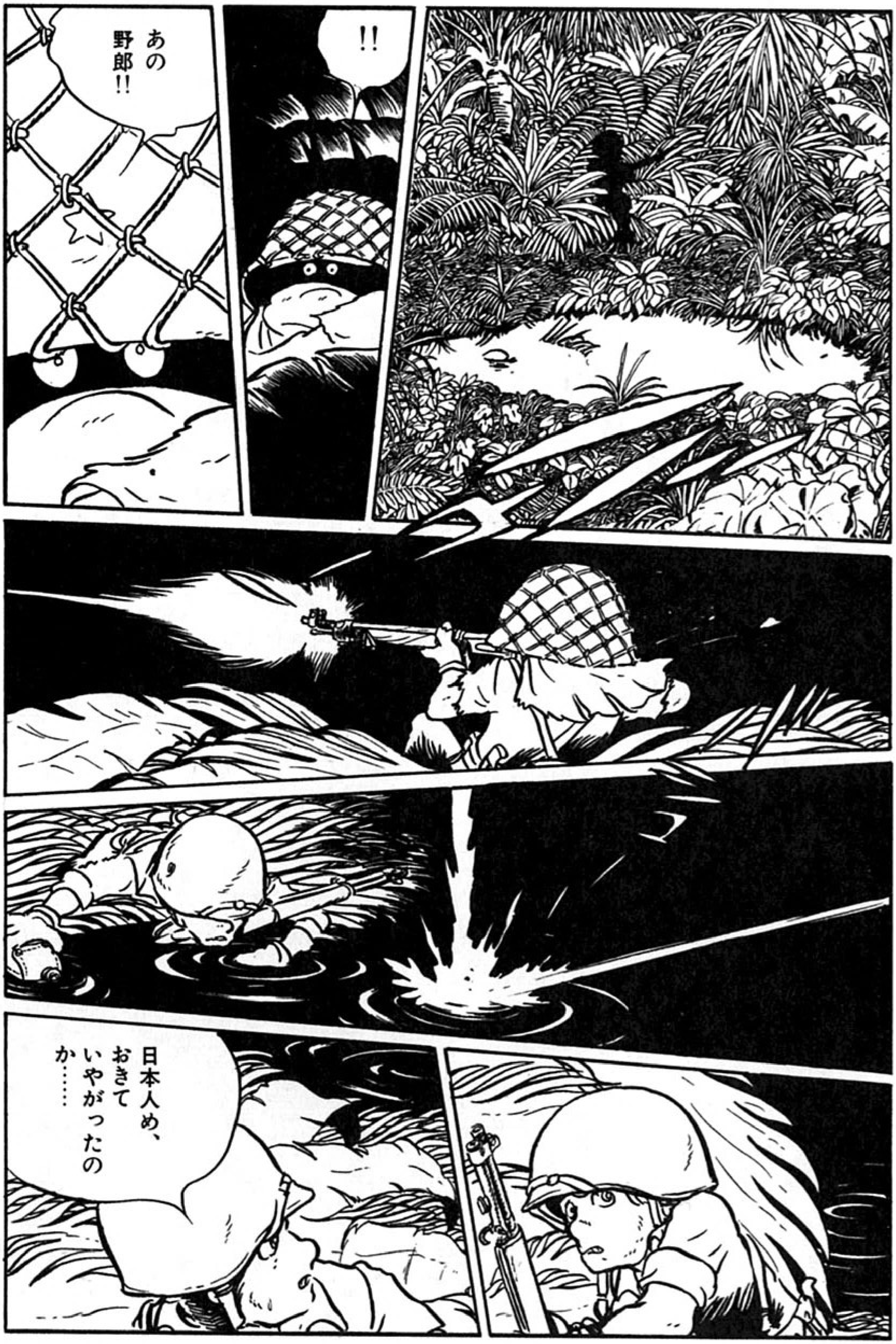
LEIJI
MATSUMOTO
PRESENTS

そこへ水を飲みに
こないのは
人間だけだ……

四次元戦線

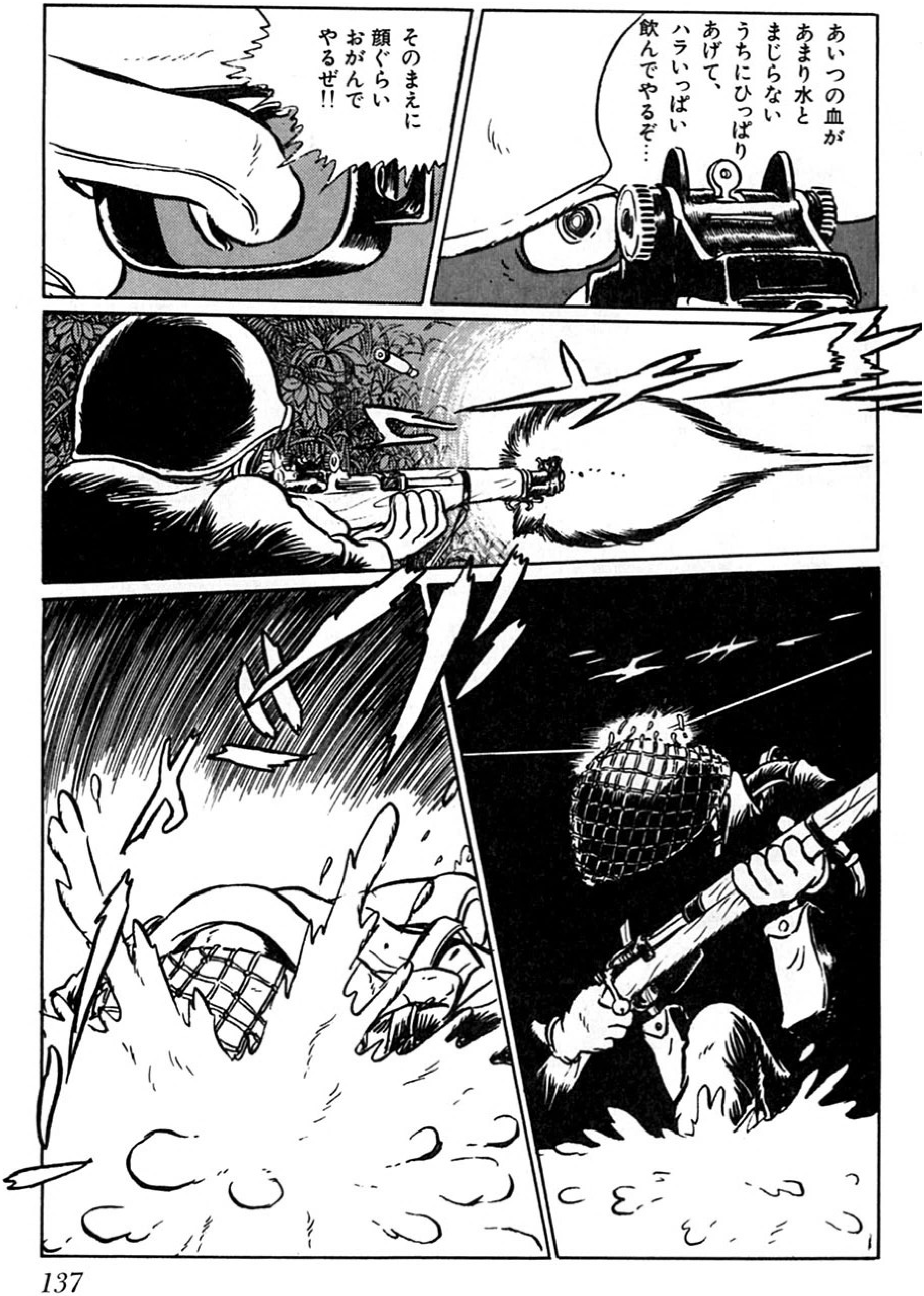
……
あいつ寝たか……
そうだそうだ、寝ていてくれ……
コポ
!!

ぬ
くそっ!!
自分
だって
飲みたい
くせに!!
そっちが
その気なら、
おれだって
絶対
飲ませてやら
ないから
そう思え!!
!!
ああ…
ホタルまで
あの水のほうへ
いく……


!!
あの野郎!!
日本人め、おきていやがったのか……

やっぱり おまえの 息の根を とめないと、 この水は飲めないらしい なあ……
正面きって 撃ちあいと なりゃ…
日本人の 銃はタイプ 99だとして ボルト アクションの 5連発……
おれのは 自動8連発の M1ガーランド…
勝ち目は おれにある ……
しかも おれのウデは 全米ライフル 射撃大会 十三位!!
あいつが 全日本 チャンピオン でもないかぎり ウデでひけをとる ことはない!!
といって、 不用意に 水飲みにいくと、 あいつにやら れるし……
しかも、 あいつの ウデまえも まんざらでも ない……
ああ、 おれも虫か 動物に なりたい…

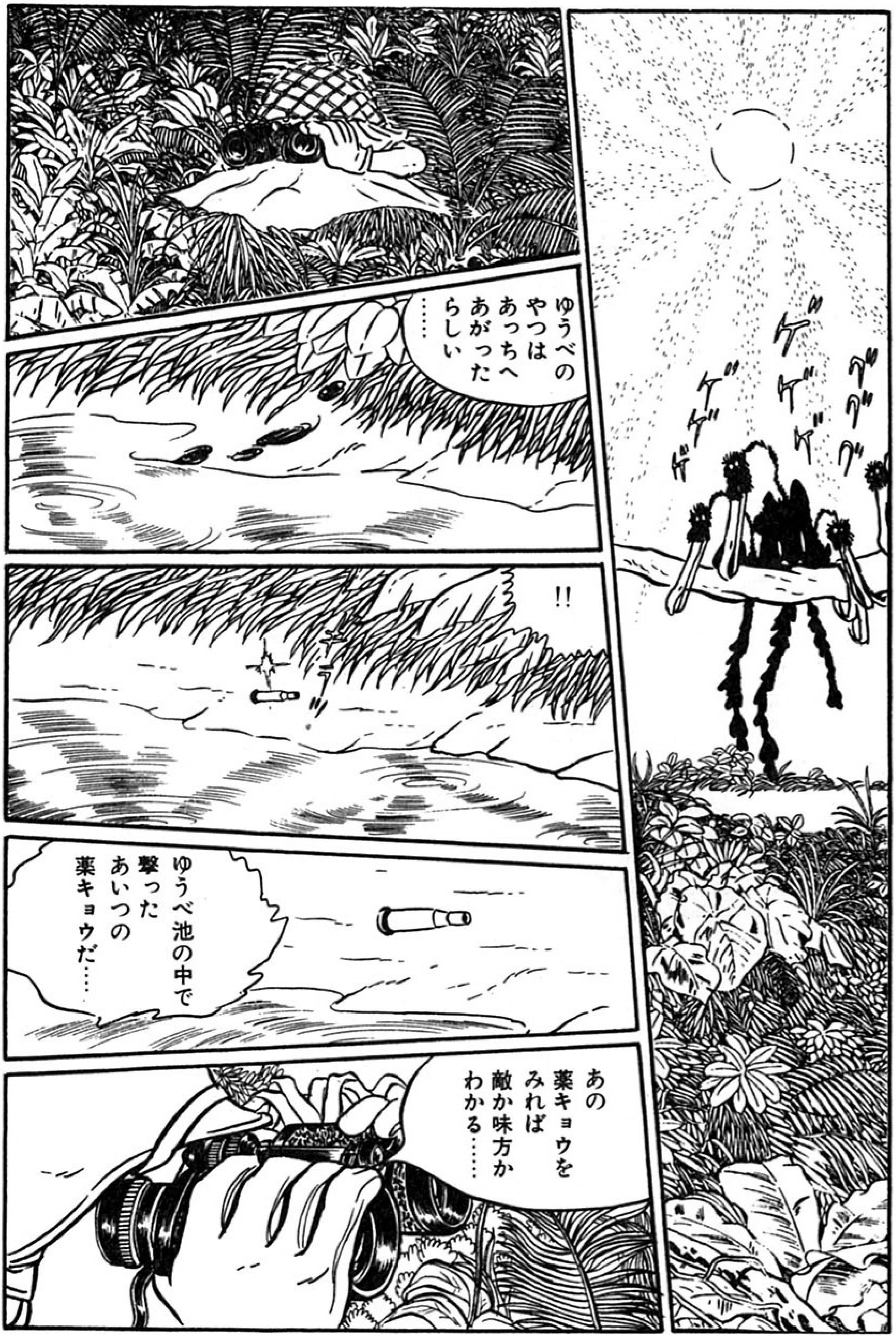
鹿かな!?
いや、あいつだ!!
あはは!! 日本人め、ヤケをおこしたな!!
だいたいこの世はヤケをおこしたほうが負けときまってるんだ!!
……

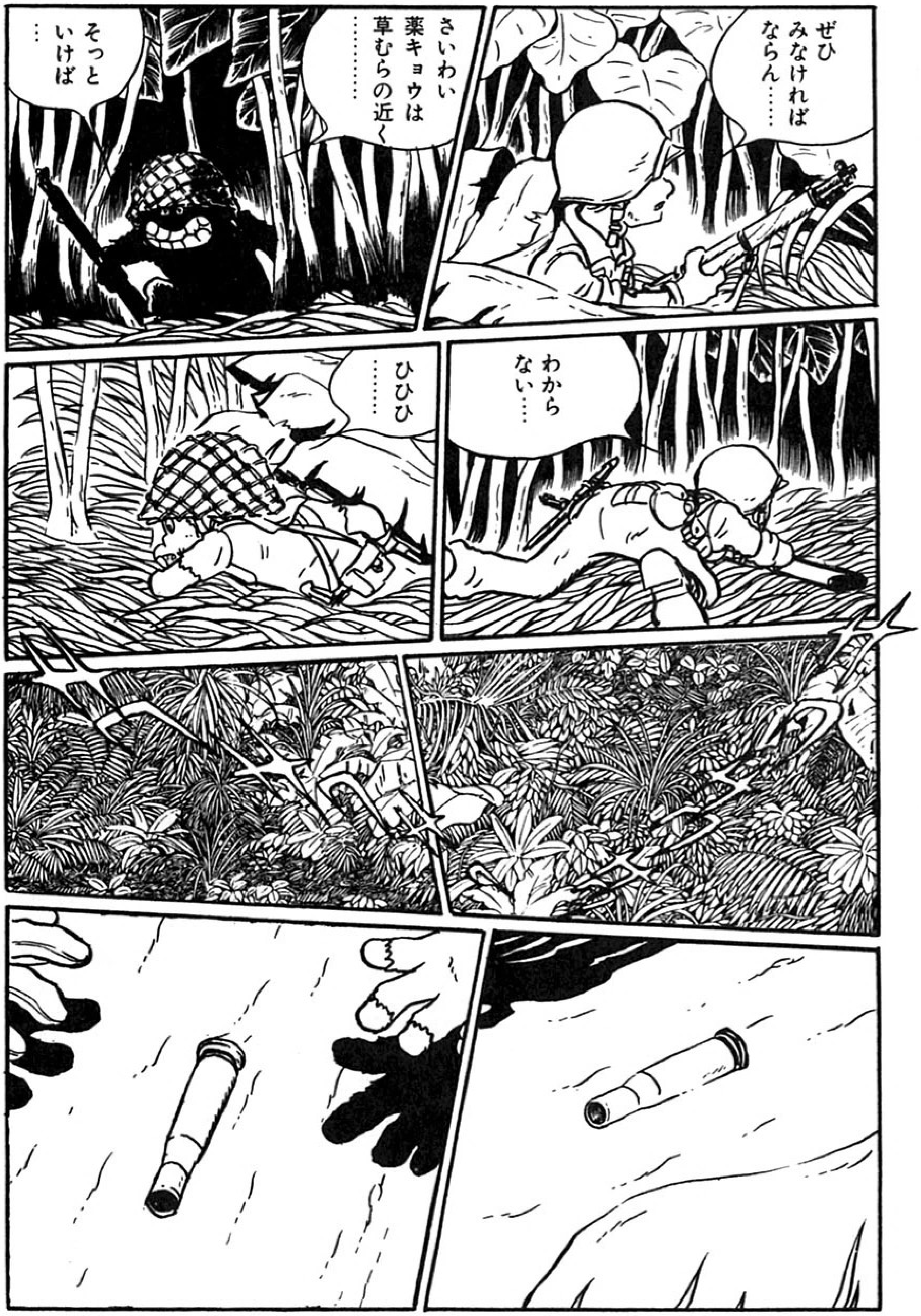

あいつの血があまり水とまじらないうちにひっぱりあげて、ハラいっぱい飲んでやるぞ…
そのまえに顔ぐらいおがんでやるぜ!!

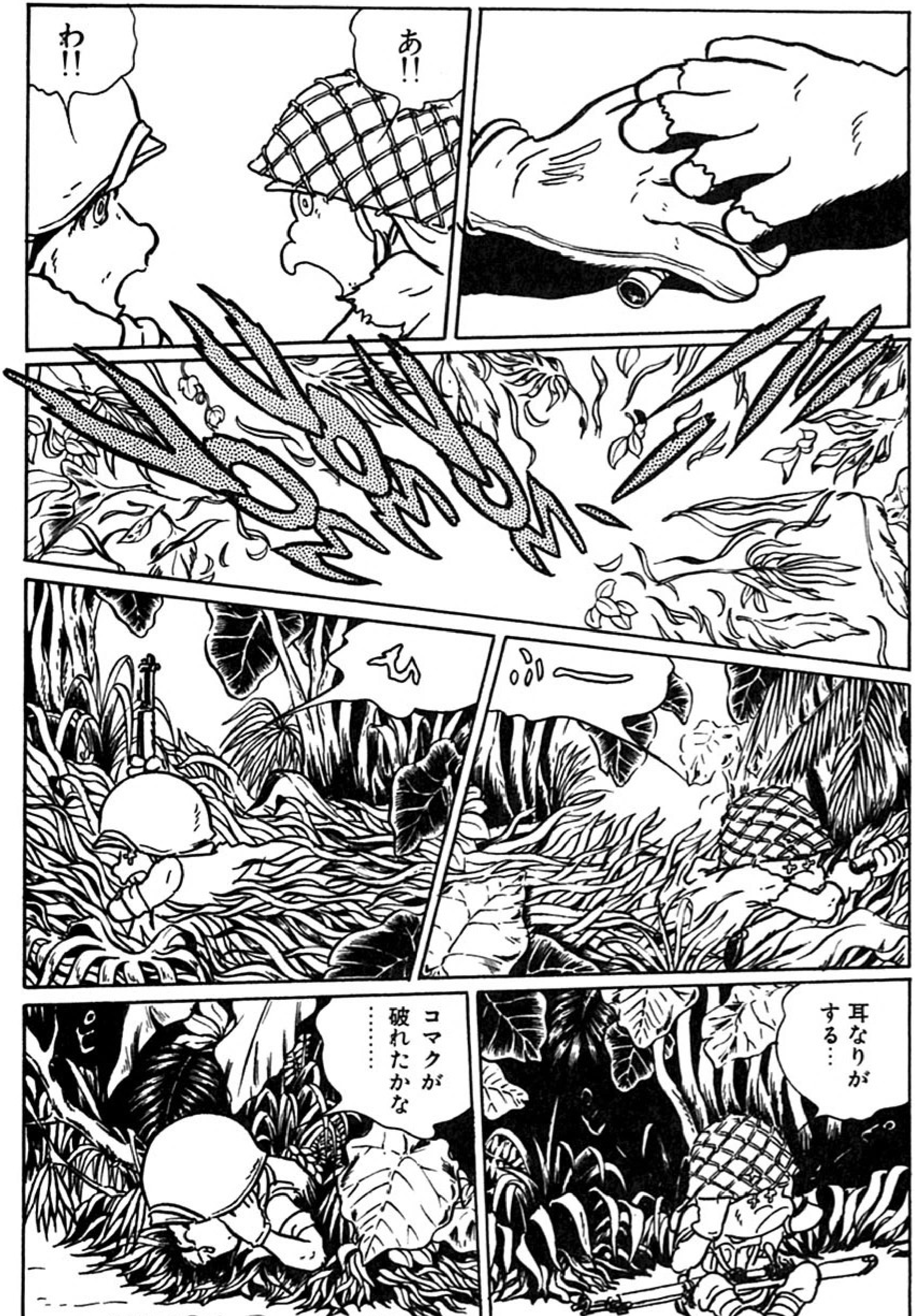
!?
アメリカ兵の撃ったのサルだったのかなあ……
OK JAP!!
くそ!!
!!

二人いたのかなあ……

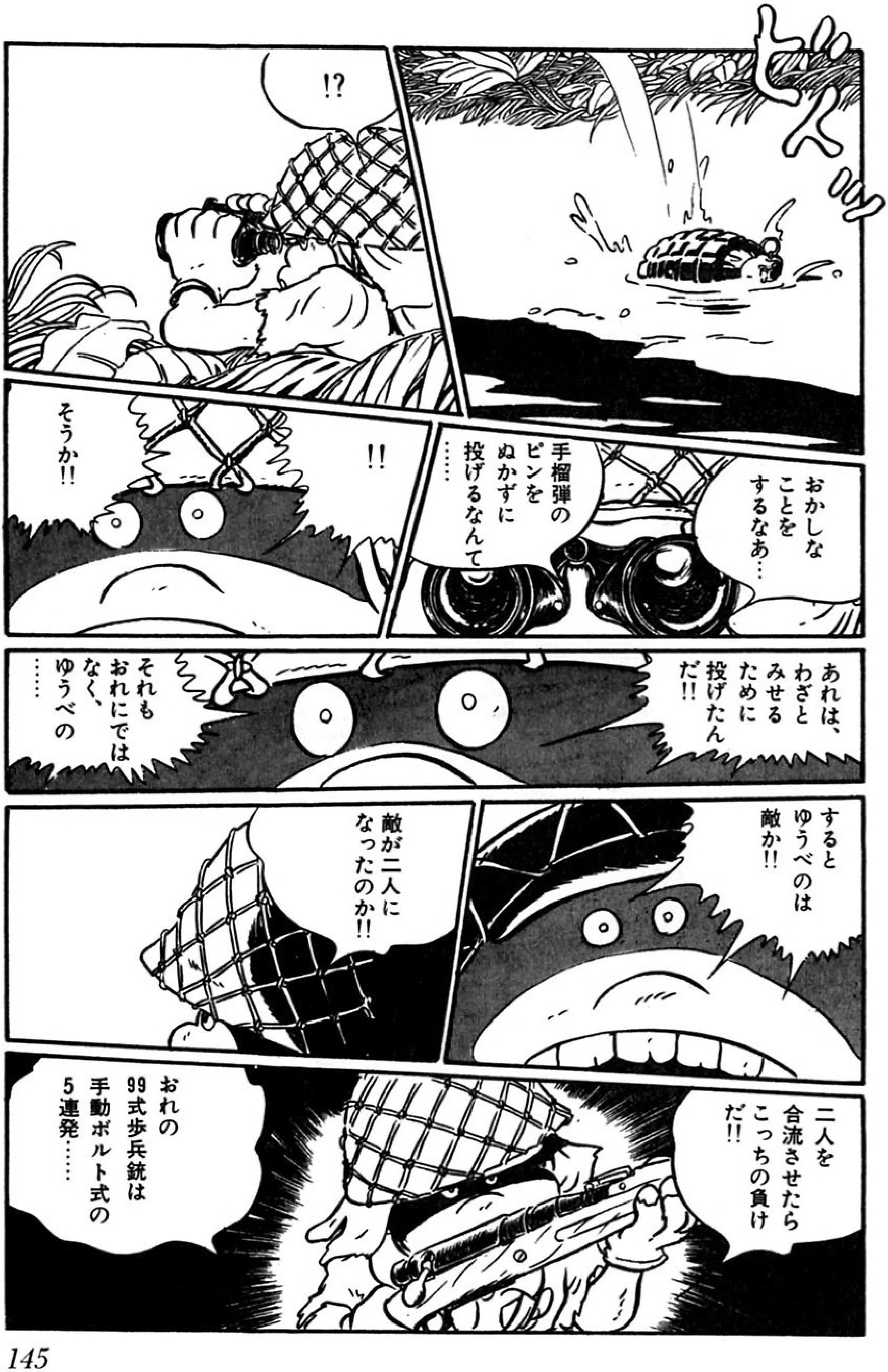
くそ、池の中のやつまで撃ちだしやがった……
敵か味方か……
どなればわかるけど……
おれの居所をしられてしまう……
これがほんとの三すくみ……
ややこしいことになってしまったなあ……


ゆうべのやつはあっちへあがったらしい……
!!
ゆうべ池の中で撃ったあいつの薬キョウだ……
あのの薬キョウをみれば敵か味方かわかる……


ぜひ
みなければ
ならん……
さいわい
薬キョウは
草むらの近く
…………
そっと
いけば
…
わから
ない……
ひひひ
……


あ!!
わ!!
ふー
ひ
耳なりがする…
コマクが破れたかな……

これは……!!
ブリティッシュ三〇三……
ゆうべのは英軍だ……
あいつと手をくめば……
こっちの勝ちだ!!安心して水が飲める……
イギリス兵……双眼鏡をもってればいいが……

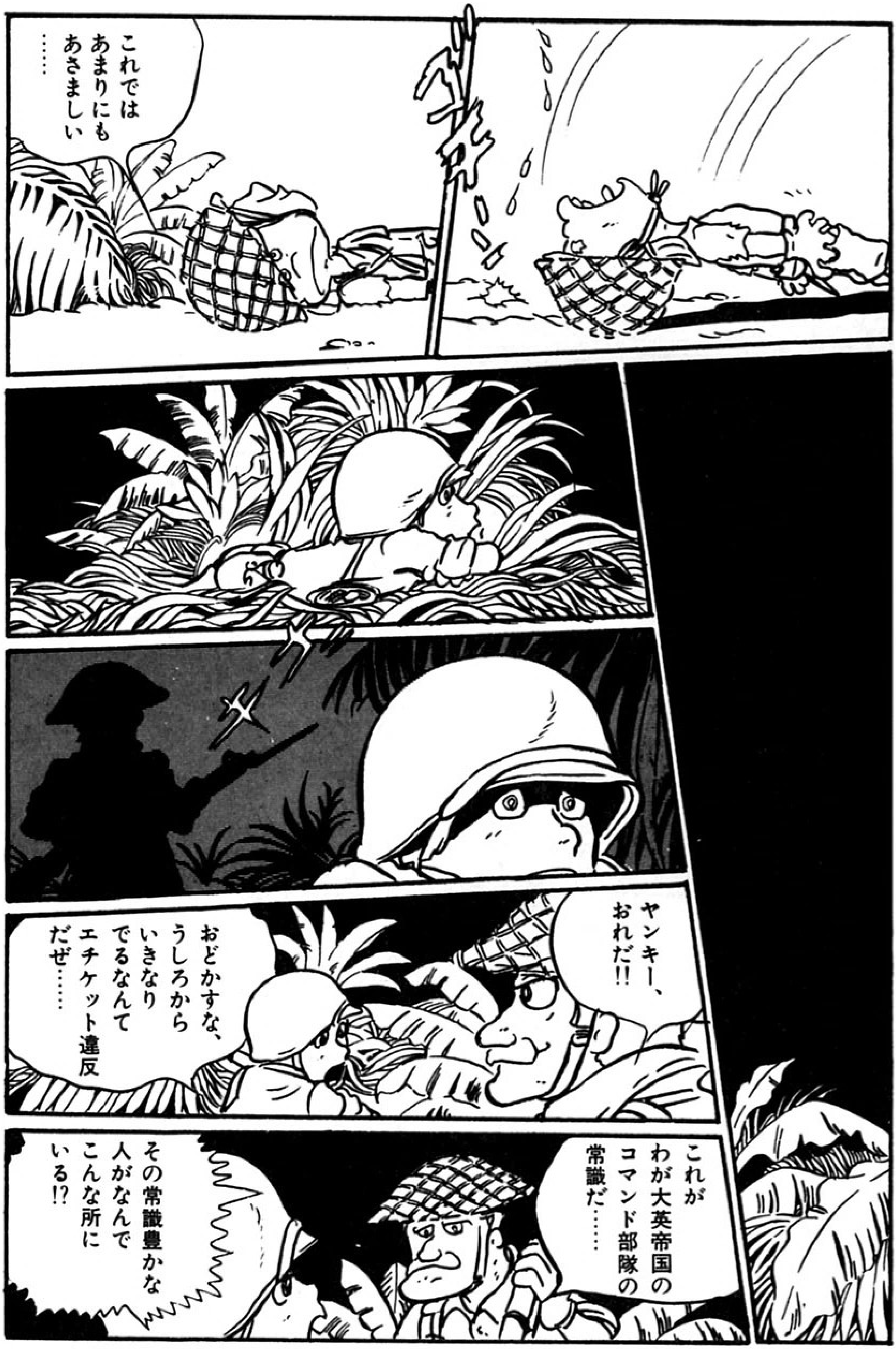


ドボッ
!?
おかしなことをするなあ……
手榴弾のピンをぬかずに投げるなんて……
!!
そうか!!
あれは、わざとみせるために投げたんだ!!
それもおれにではなく、ゆうべの……
するとゆうべのは敵か!!
敵が二人になったのか!!
二人を合流させたらこっちの負けだ!!
おれの99式歩兵銃は手動ボルト式の5連発……

アメリカ兵のM1ガーランドは自動式の8連発……
それにもう一人加わると8＋8で16連発……
もし新しくきたやつがカービン銃でも持ってると自動15連発…32発の弾倉を持ってれば32＋8で40連発!!
こらヤバイぜ!!ヤバすぎる!!
なにはともあれ水を飲まねばならん…
これだけ青あおとしげってるのに一滴の雨も降らない……
みんなあの池の水を吸ってるんだろうなあ……
この下にはいっぱい水をふくんだ根がはってるんだ……
いや、もしかしたら木という木の根っこがあの池の下へでものびてるのかもしれないなあ……

モグラになりてえ……
井戸でもほれれば水がでるだろうなあ……
井戸にはつるべが……
鉄帽のつるべがあってもおかしくはない……
日本人の底力……
うまくいった、うまくいった!!
天才はくじけず……水がくる……

オノレ……
ふん、日本人め…
水が飲みたい…
水が飲みたい!!
セミをおどかせば飛びたつ時ションベンをする…
ションベンは水…
人間のではないから、きたなくはない…
コラ!!


これでは
あまりにも
あさましい
……
ヤンキー、
おれだ!!
おどかすな、
うしろから
いきなり
でるなんて
エチケット違反
だぜ……
これが
わが大英帝国の
コマンド部隊の
常識だ……
その常識豊かな
人がなんで
こんな所に
いる!?

混戦になって部隊とはぐれた…
パラシュートで降りたら、一人も部下がいなかった……
コマンド連隊大隊指揮官サー・ウェストンバッキンガム少佐だ……
まるで宮殿だな……
笑うな、笑うと殺すぞ、おまえは!?
アメリカ陸軍、ゲーリー・ウェイン軍曹……
なんだ、おまえこそ西部劇じゃないか……
あっちの日本兵はクラマテングとでも名のるかもしれないぜ……
しかし、あんた少佐なのになぜ兵隊の服着てる!?
将校だと捕リョになった時まずいからな……
階級は私が上だから指揮権は私にある、文句はないいな!?
いいよ、ミスターバッキンガム、あの池の水を飲ませてくれ……
バッキンガム少佐だ!!気やすくよぶな!!
やるか!?

あんたの小銃は時代おくれのエンフィールド小銃……第1次大戦以来の古物だ!!
自動銃だけが銃じゃないぞ、ゲーリー君!!
時と場所に応じた使い道があるのだ…
わが大英帝国陸軍はべつに不自由しとらん……
しかし、こういう場所では自動銃のほうがいいのだ……
まあ、昼間日本兵のヘルメットに穴をあけたウデは認めるがね……

だが日本兵のウデも一流だ……
木にめりこんだ日本兵の弾丸をほじくりだしてきた!!
7.7ミリだ、やはり99式だな……
初期生産型だとすればかなりいい銃だ……
悪いけどミスター……いや、バッキンガム少佐……
英軍のエンフィールドよりは日本軍の99式のほうがいい銃だとおれは思う……
だまれ!!あいつのはたかが5連発だ、私の銃は10発弾倉に入る!!
大英帝国陸軍はこの銃を肩にアフリカ、ヨーロッパはいうにおよばず、七つの大洋をことごとく制してきたのだ!!
このまえまでは七つの大洋を日本とドイツに追いまくられて逃げまわっていたのとちがったかね、少佐!?
なにっ!!なりあがりのヤンキーがなにを!!
そのなりあがりの者に助けてもらって、やっともってるイギリスがどうした!?
太平洋にいる日本軍と英軍だけで戦ってみろ、今ごろロンドンは、
ニュー・トーキョーと名がかわってらア!!

いっしょにはやっていけないようだな、私たちは……
少佐……不用意に池にでるなよ…………
おれはあんたを撃つ……
射撃のウデは私のほうが上だよ、ゲーリー君……
狙撃には重いエンフィールドのほうがむいている………そのことを忘れるな……
ヨーロッパとアフリカでこの銃は十分にテストされた……
日本軍の銃は黄土だらけの中国大陸向きだし……
アンタのアメリカの銃は……
たぶんギャングの市街戦用だよ……
なあ少佐、日本兵をかたづけてから、我われのカタをつけてもいいんじゃないか!?
ことわる……ならず者と手を組むのは英国騎士道の伝統が許さん……
そうかい、植民地の有色人種から血と汗の収穫をしぼりとるのがそんなにえらいのか!?
かってにしろ……

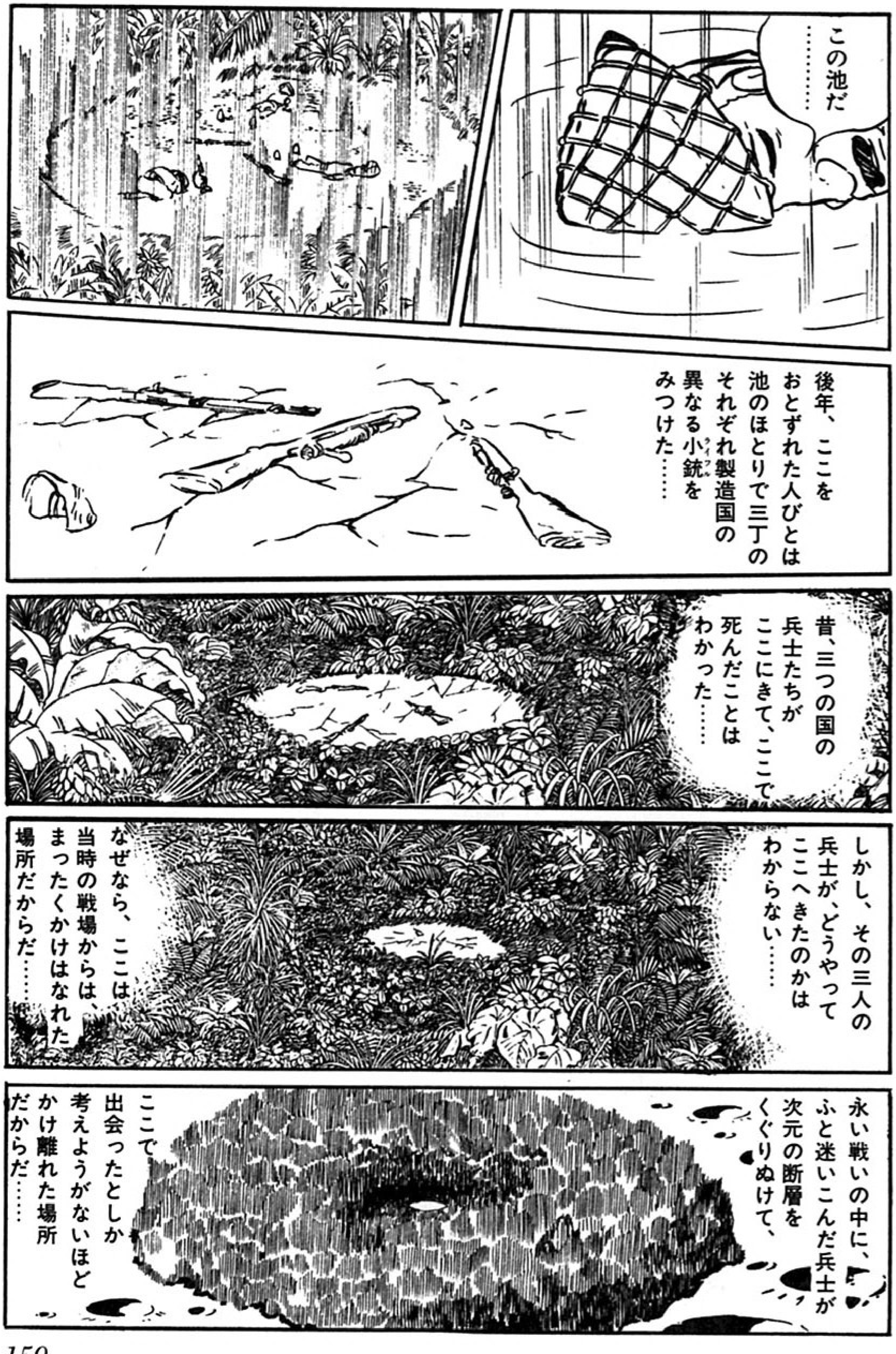
あいつ、仲間われでもしたのかな…
水が飲みたいなア……
水が飲みたい……
水が飲みてえ……
もう撃たれてもいいから、ハラいっぱい池の水を飲んで死ぬか……
あ…
あ!!
あ!?

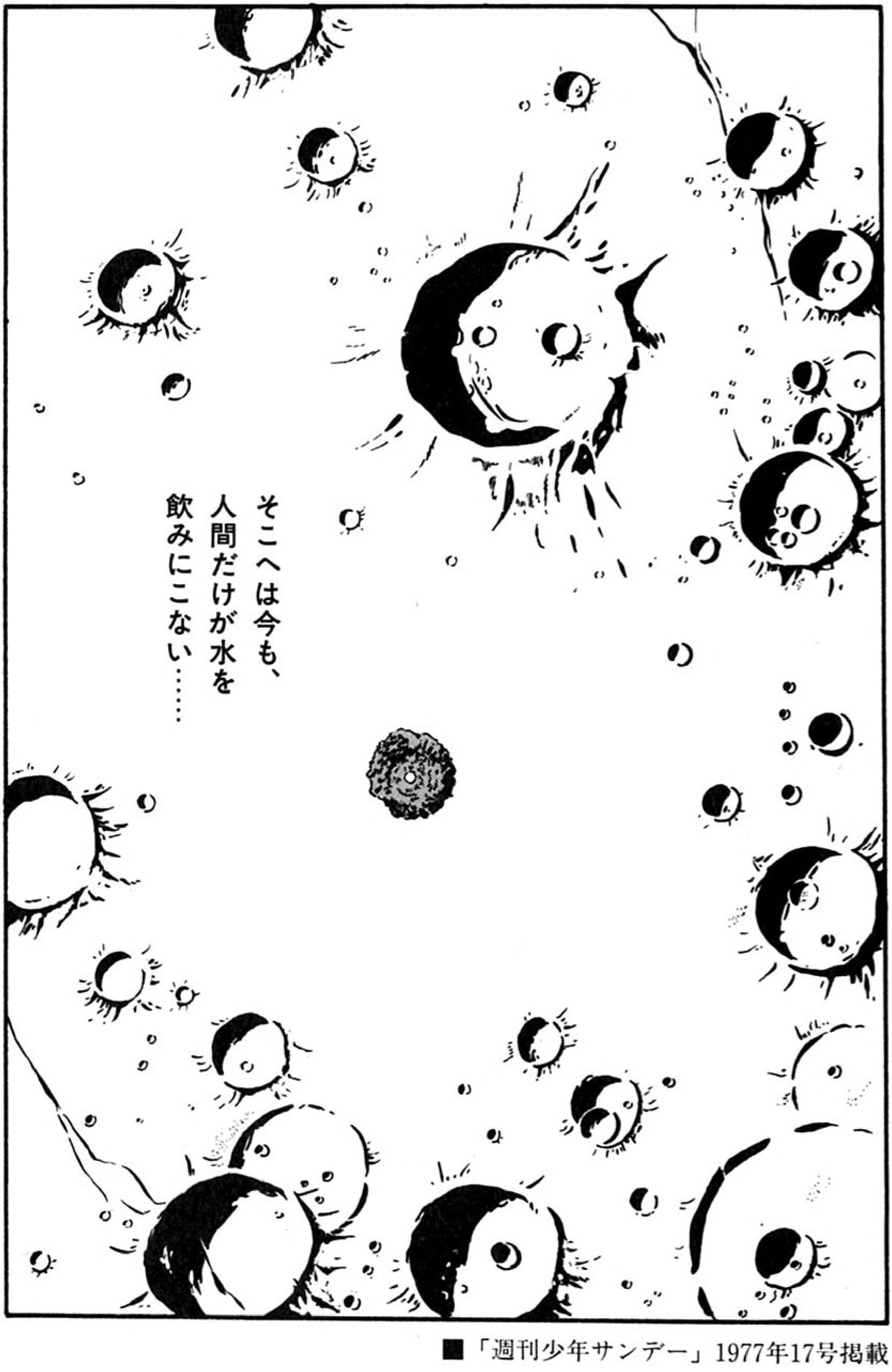
雨期がきた!!
雨期だぞ!!
雨期だ!!
ああ、これでやっと長いにらみあいから解放されるぞ……
水筒に水をつめたらこんなジャングルからはおさらばだ……
みろ、たちまちいっぱい…
口をあければハラいっぱい……

あいつらも今さら池にはいくまい……
そんなら長いあいだ飲みたくてにらみ続けた池だ……
あそこでハラいっぱい飲んでズラかろう……
!!

みんな同じ心理らしいな、バッキンガム……
そうらしい……
一発は撃てたが、ジャングルの中をひきずってきたから機関部に泥が…
くそ、泥がつまって作動不良だっ!!
ジャングルがいきなり泥の海になったからなア……
日本軍の銃には…
ダストカバーがついている………
大陸の砂じんや泥の侵入をふせぐカバーが機関部についている……
銃にはそれぞれの使い方がある……

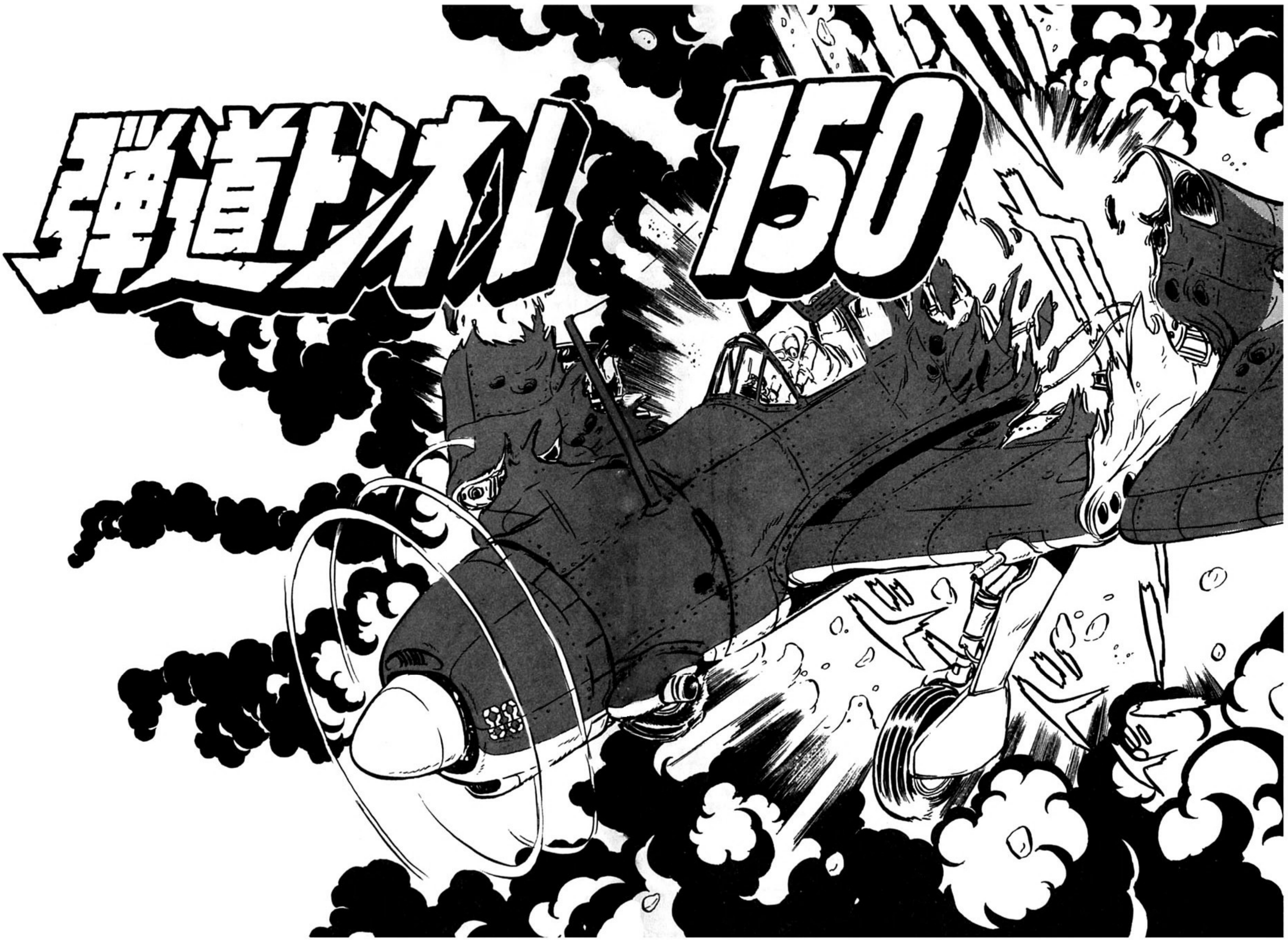
三人……ひきわけだな…これでは………
いや…一人だけ勝ったやつがいる……
勝った!?
そうだ一人だけ…
それは…


この池だ……
後年、ここをおとずれた人びとは池のほとりで三丁のそれぞれ製造国の異なる小銃（ライフル）をみつけた……
昔、三つの国の兵士たちがここにきて、ここで死んだことはわかった……
しかし、その三人の兵士が、どうやってここへきたのかはわからない……
なぜなら、当時の戦場からは、ここは、まったくかけはなれた場所だからだ……
永い戦いの中に、ふと迷いこんだ兵士が次元の断層をくぐりぬけて、
ここで出会ったとしか考えようがないほどかけ離れた場所だからだ……



■「週刊少年サンデー」1977年17号掲載

沿岸監視員より報告……日本輸送船団、Dポイントを通過しつつあり……
行き先はガダルカナルと思われる……
空母艦載機が爆弾を抱いたままこの飛行場でお待ちかねだ!!これにその輸送船団をたたかせろ!!
日本の陸兵は海のもくずだ!!


弾道ドオル 150

クソ、まただ!! いつもの大砲だ!!
150ミリ級の榴弾砲だ!!
このクラスの日本の砲といえば……
92式150ミリ加濃砲か……96式150ミリ榴弾砲だ!!
96式だと、おおむね射程は二万メートル……
いつのまに陸上げしたんだろうか……
あのジャングルのどこかから撃っているんだ……
いくらさがしても相手が見えん……

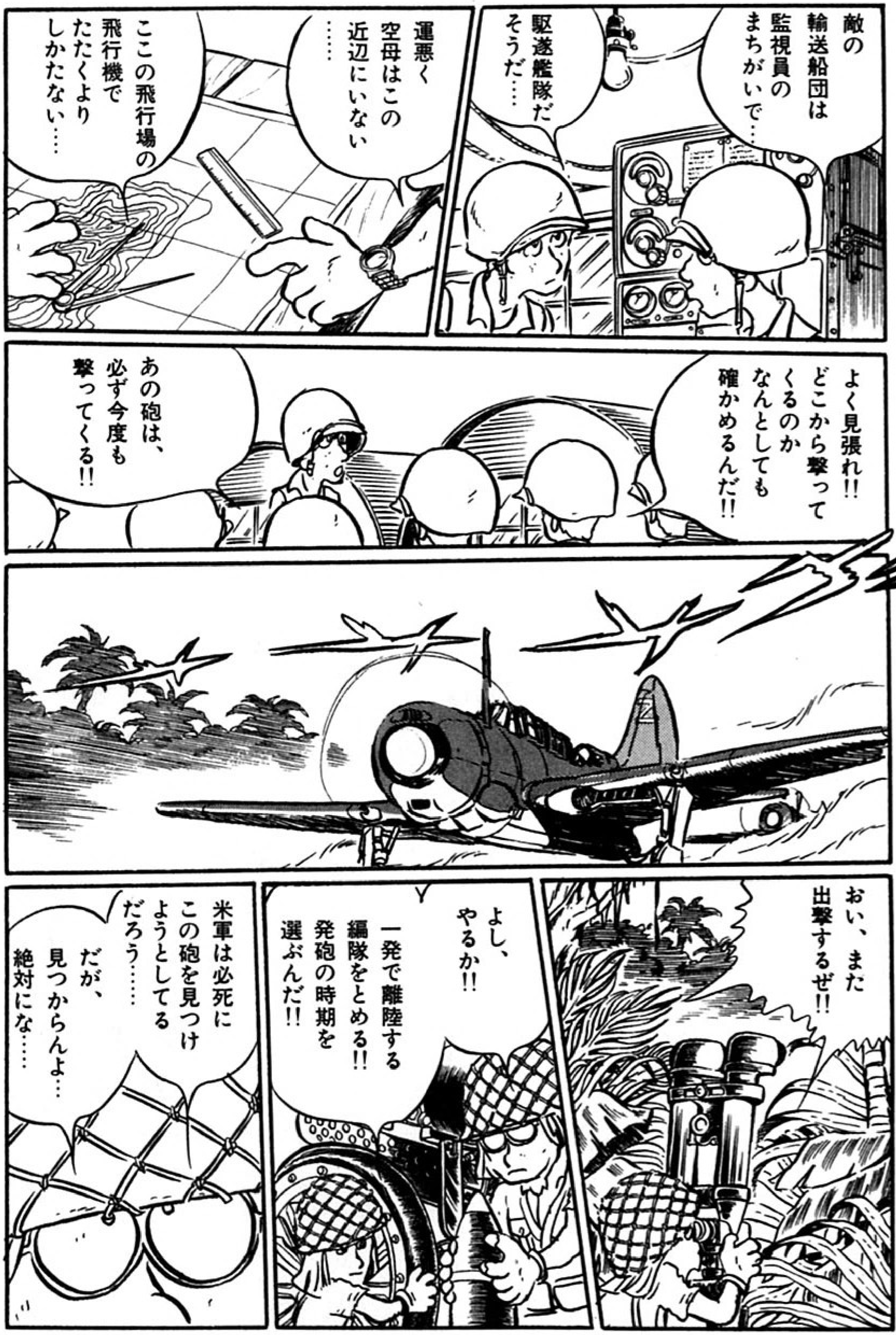
砲の位置さえわかれば……
集中砲火で破壊できるのだが……
観測機が飛んでいる………
われわれのこの砲をさがしているんだ…

残弾は何発ある!?
4発だ……
おれたちの人数と同じだな、横溝……
へったもんだよなァ、湯品……
味方はみんなエスペラ岬へ撤退しちまったからなァ……
おれたちも砲をすてて逃げた方がよかったのかもな、相沢…
おまえらしくもないぞ、小泉……
そうだったな……四人じゃなかった……
こいつがいる……
この96式15榴が……

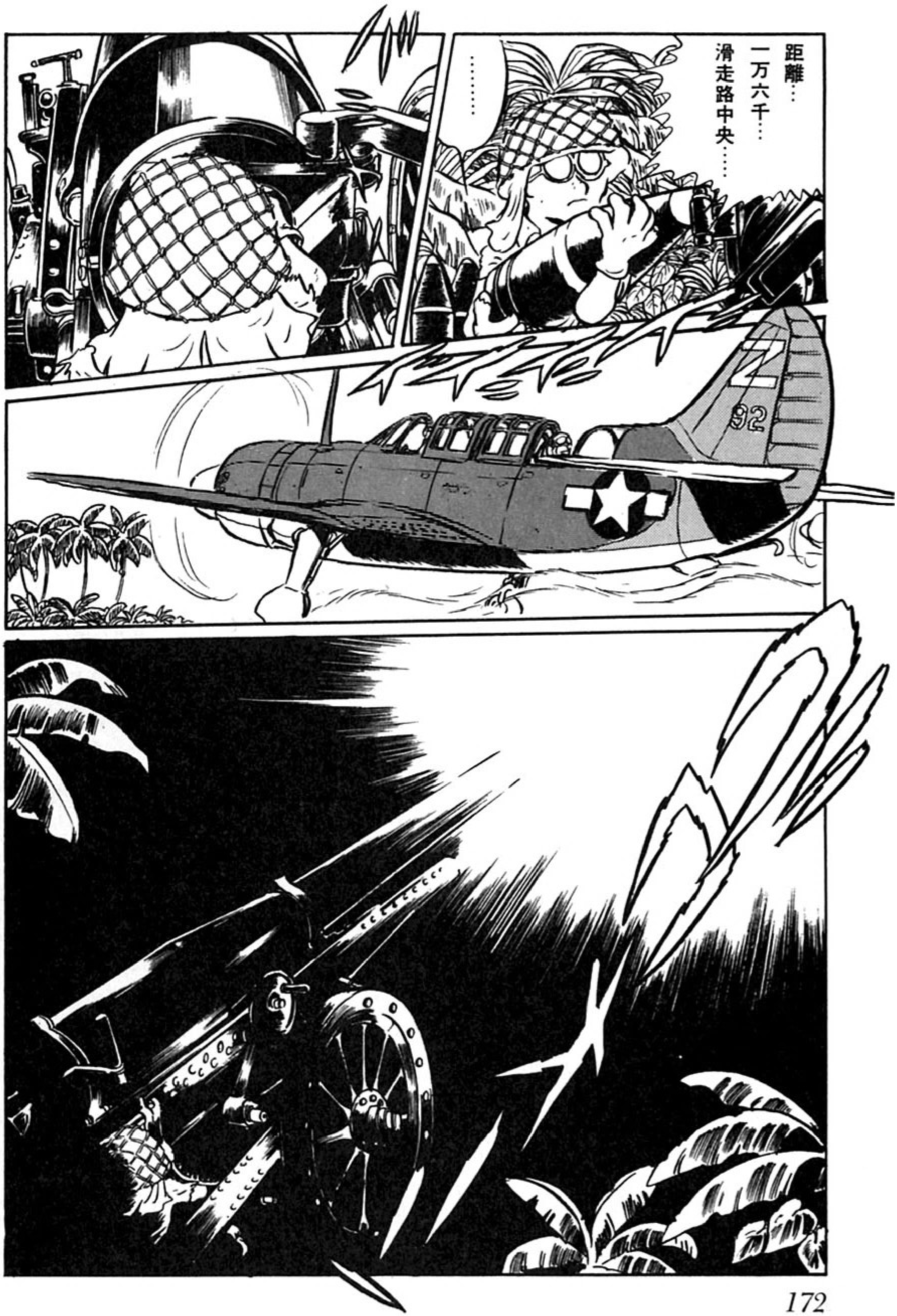
おお喜んでるぜ、15榴が……
わかるか、小泉!?
うん、おれにはわかる……
この砲の心が……
ずっとこいつと一緒に死線をこえて苦楽をともにしてきた……

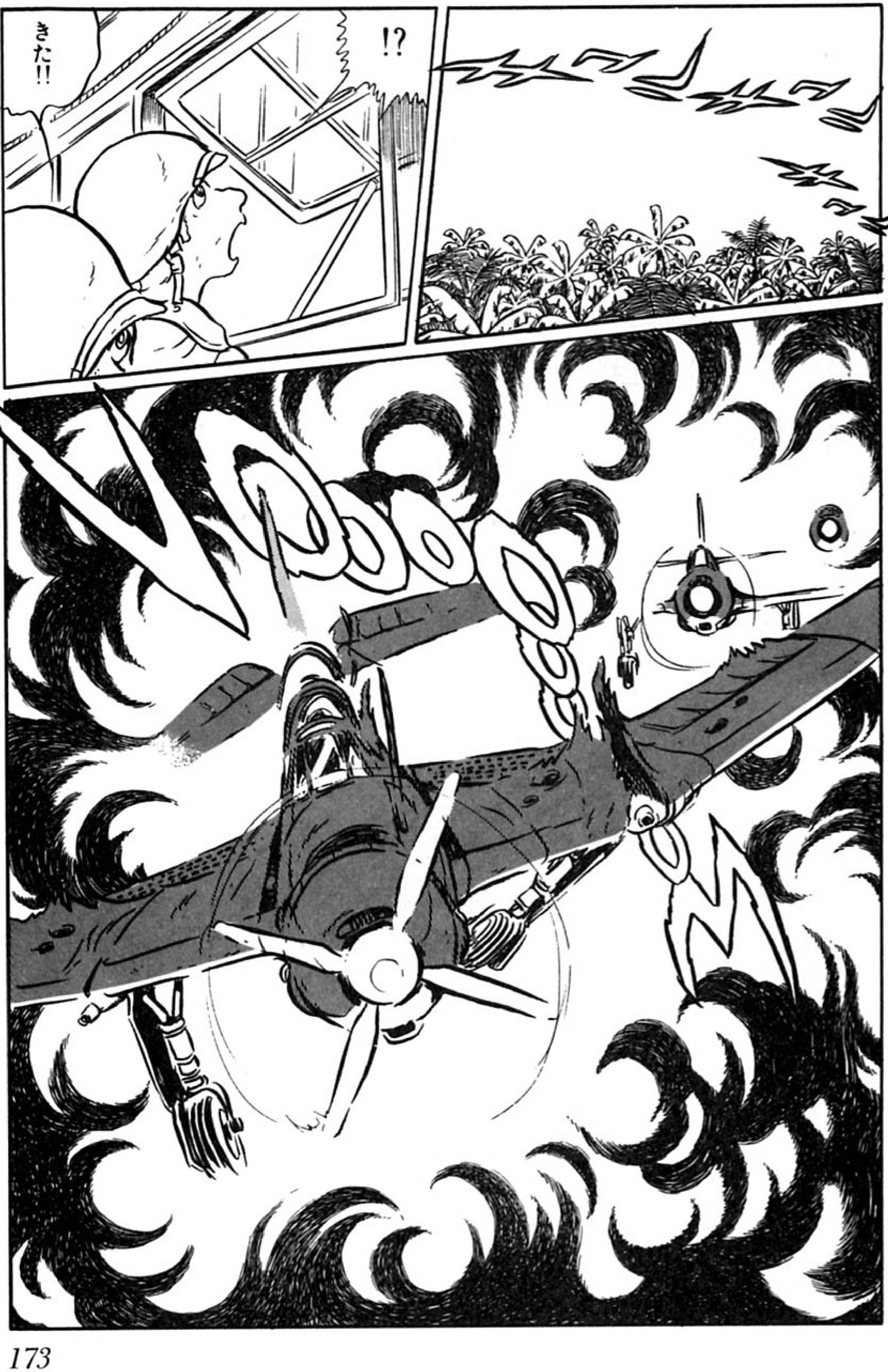
この車輪が泥にはまりこんだ時は、力いっぱいおしあげてやった…
けん引車が壊れた時は車のかわりにひっぱってやった……
まったくだ……
海岸からここまでジャングルをひっぱってきたんだ……
うんうん、ありがとうといってるぜ…
ありがとうと……
こいつとおれたちは五人兄弟だぜ……
うん、そうだと15榴もいってるよ……

残りは4発か……
4発撃ってしまったら五人兄弟もおしまいだ……
あと4発撃ったら次の弾丸がくるまで15榴はお休みだ…
だがおそらく次の弾丸はもうこない…
でも、おれはこいつだけを一人で死なせはしないよ……
兄弟が死ぬ時は一緒だ…
もっと大ぜい兄弟がいたんだが……
みんな死んでしまった……
いまはおれたち5人だけだ…

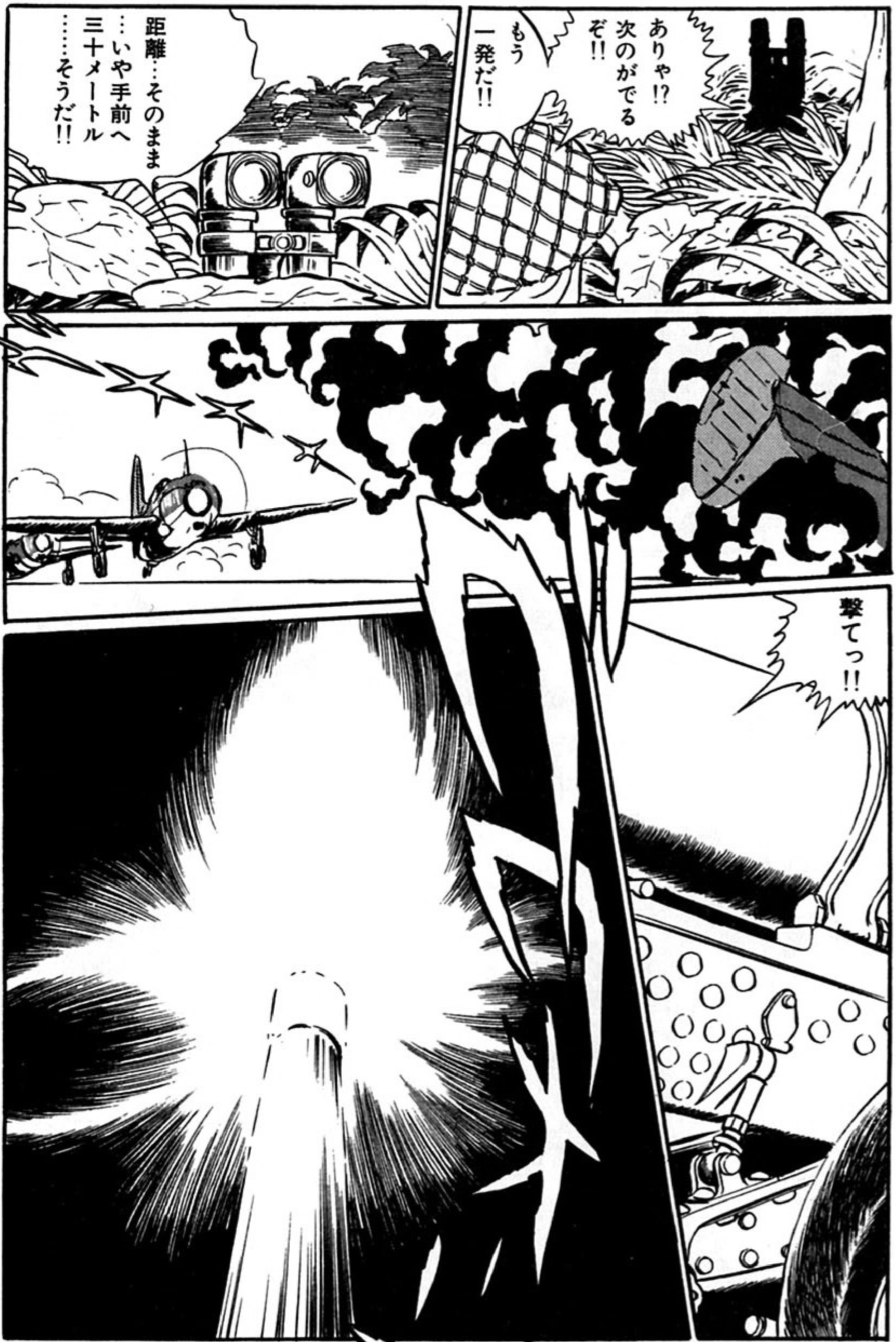

敵の輸送船団は監視員のまちがいで……
駆逐艦隊だそうだ……
運悪く空母はこの近辺にいない……
ここの飛行場の飛行機でたたくよりしかたない……
よく見張れ!!どこから撃ってくるのかなんとしても確かめるんだ!!
あの砲は、必ず今度も撃ってくる!!
おい、また出撃するぜ!!
よし、やるか!!
一発で離陸する編隊をとめる!!発砲の時期を選ぶんだ!!
米軍は必死にこの砲を見つけようとしてるだろう……
だが、見つからんよ…絶対にな……

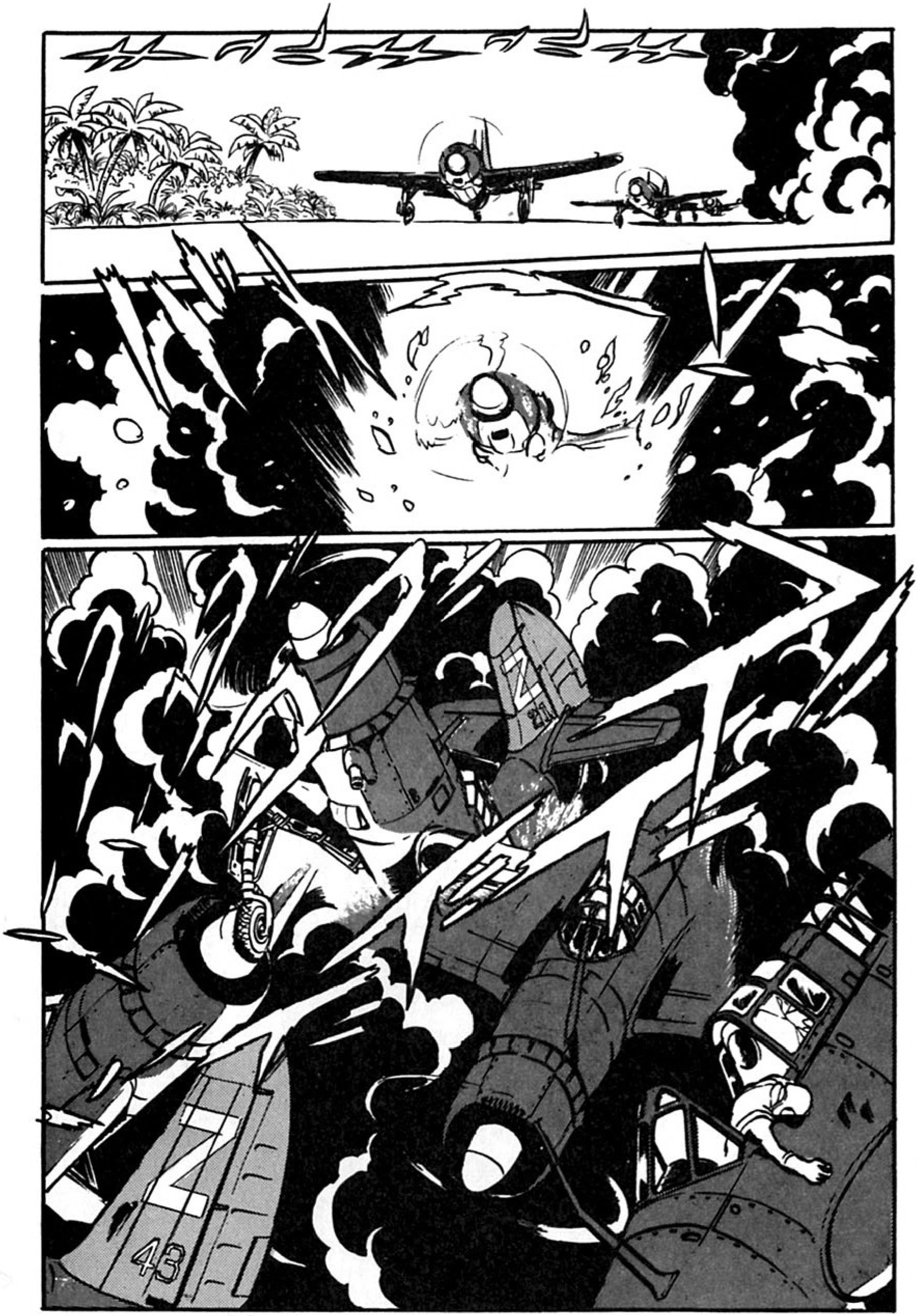
見つかる
わけが
ないっ!!

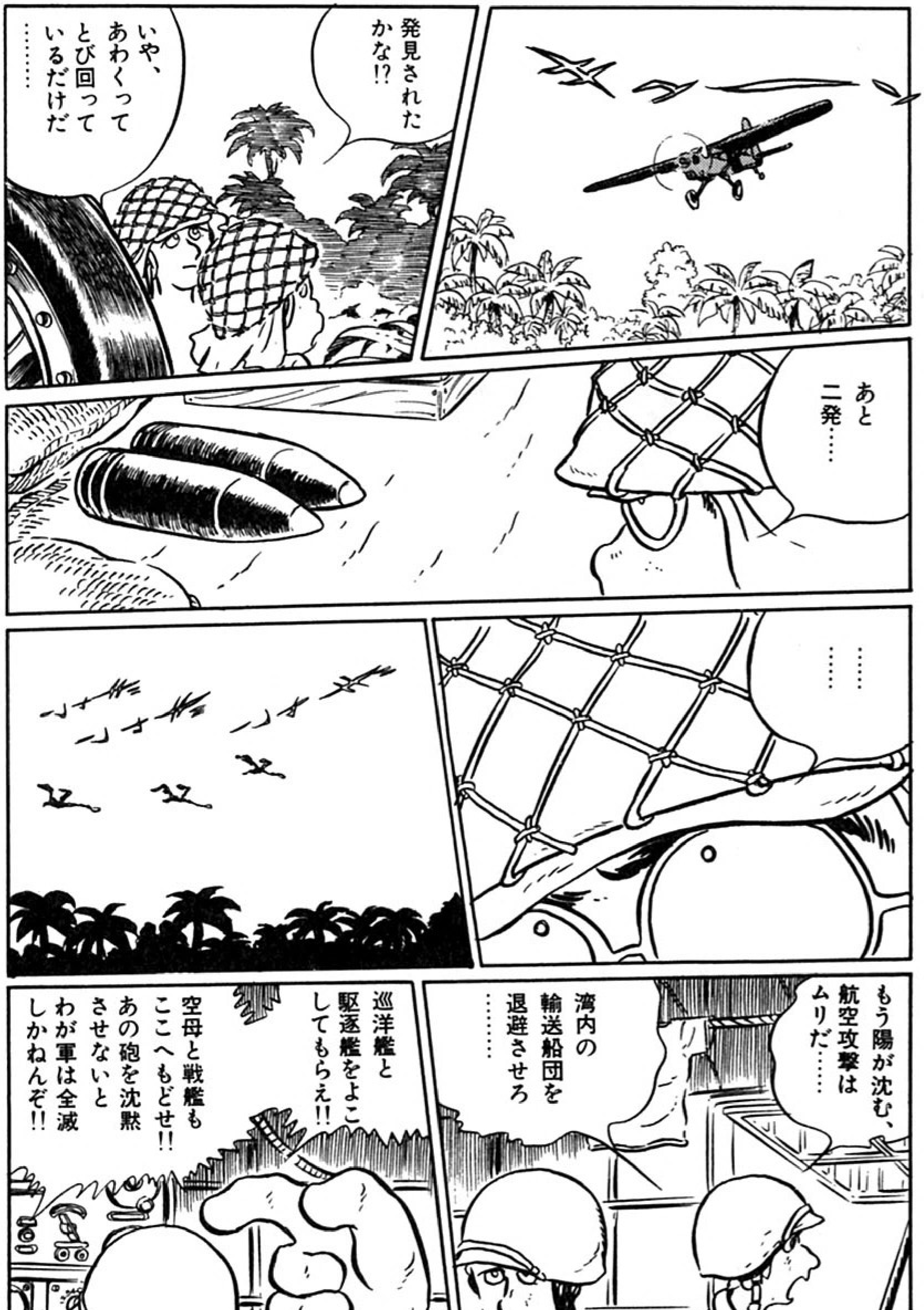

距離…
一万六千…
滑走路中央……
……


!?
きた!!

かまわん、第2次攻撃隊をだせっ!!
滑走路の右があいている!!


ありゃ!? 次のがでるぞ!!
もう一発だ!!
距離…そのまま…いや手前へ三十メートル……そうだ!!
撃てっ!!




発見されたかな!?
いや、あわくってとび回っているだけだ……
あと二発……
……
もう陽が沈む、航空攻撃はムリだ……
湾内の輸送船団を退避させろ……
巡洋艦と駆逐艦をよこしてもらえ!!
空母と戦艦もここへもどせ!!
あの砲を沈黙させないとわが軍は全滅しかねんぞ!!

おい、湯品、敵の輸送船や上陸用舟艇がいなくなった……
小泉、何してる!?
今までに分捕った敵の弾薬や武器の点検だ……
いずれここへ敵がくる……
白兵戦もやらにゃならんかもしれん……
……
……
味方の空母か戦艦でもきたのかな……
いつまでおれたちはここにいる!?
弾丸(たま)を撃ちつくすまで……
兄弟は一緒に死ぬといったろう…
15榴は重くて4人では岬の撤退地点まで引いていけんぞ……

なんとかするさ…
なんとか……
日本が見える…
木の葉のトンネルの向こうに日本が見える……
昔…子供の頃、山でヒヨドリやツグミを撃った時よくこうしたもんだ……
シゲミの中にいて、笛でさそって……
弾道の部分だけ切り払った小さなトンネルの中から撃つんだ……
鳥からは絶対に見えない…
笛でさそってね……

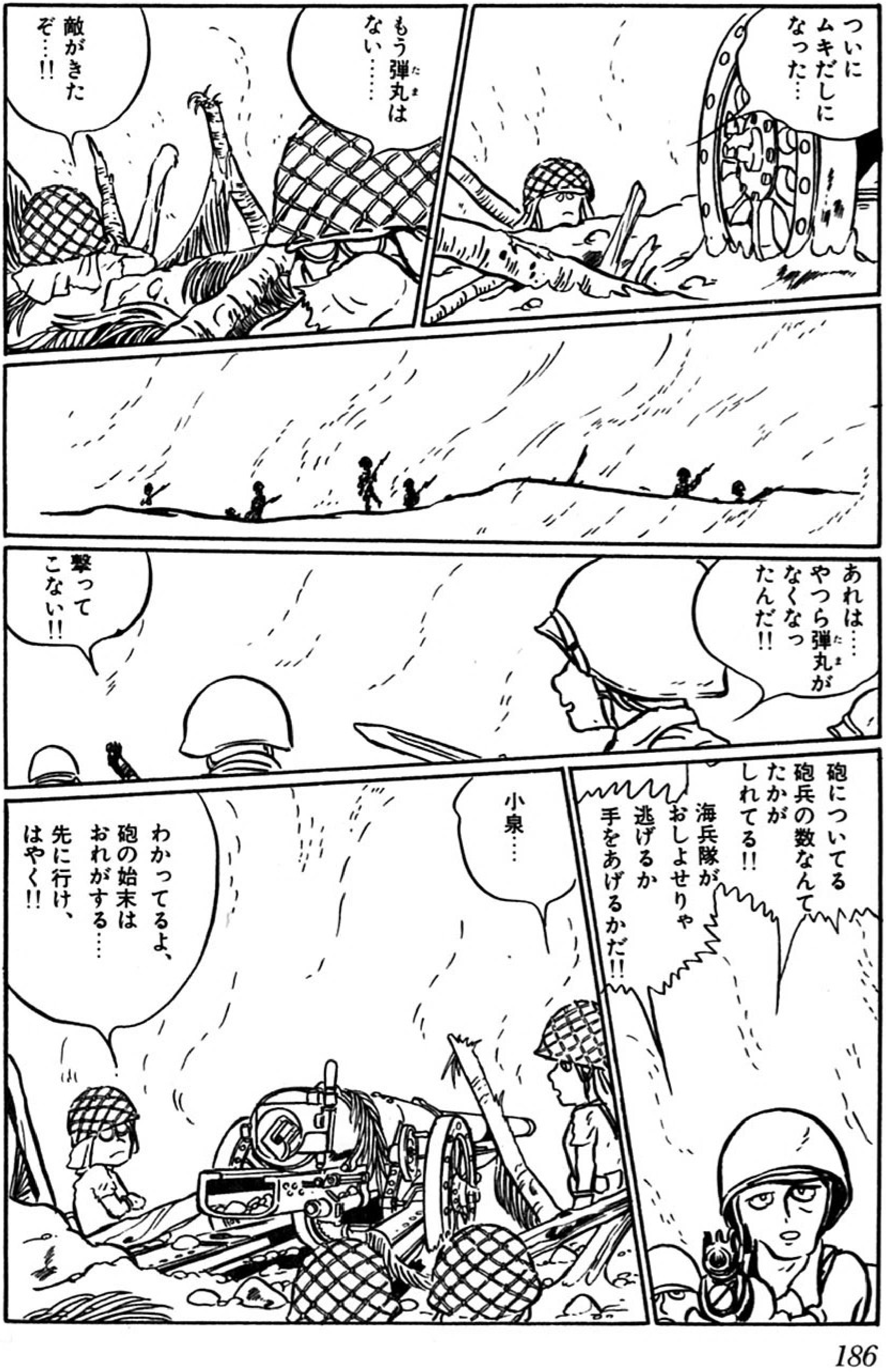
笛……
どうしたんだ!?
敵の船がもどってきた……!!
岬へいった偵察隊によると島には日本兵は一人もいない……
きのうの駆逐艦隊は攻撃じゃなく島から撤退する部隊を収容にきたんだ……

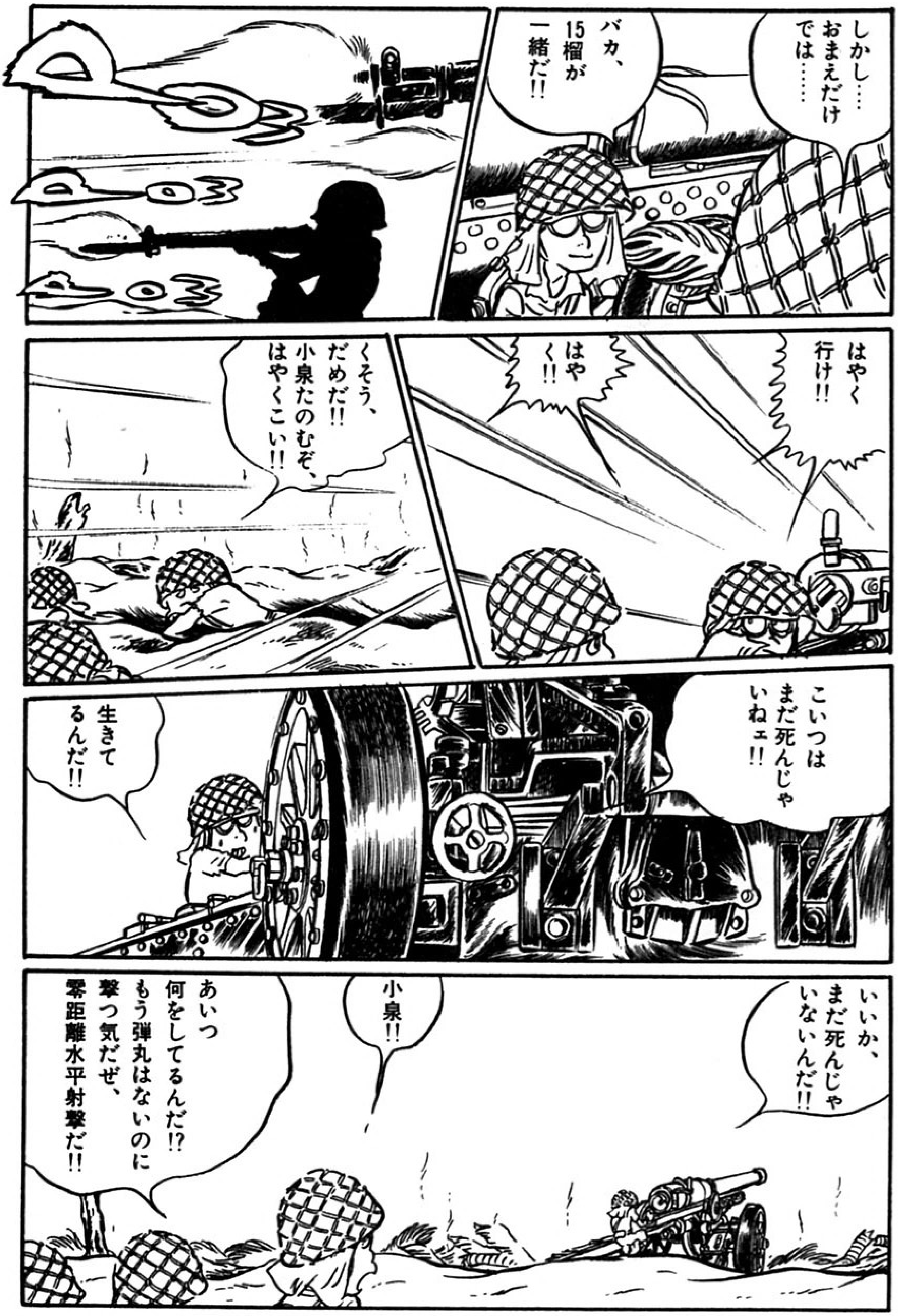
こうなれば敵はあの砲だけだ…周りに気をくばらずにあいつらをいぶりだせ!!
砲の位置はこの正面180度!!二万メートル以内だ!!
ジャングルを焼き払え!!
ナパームを使うんだ!!

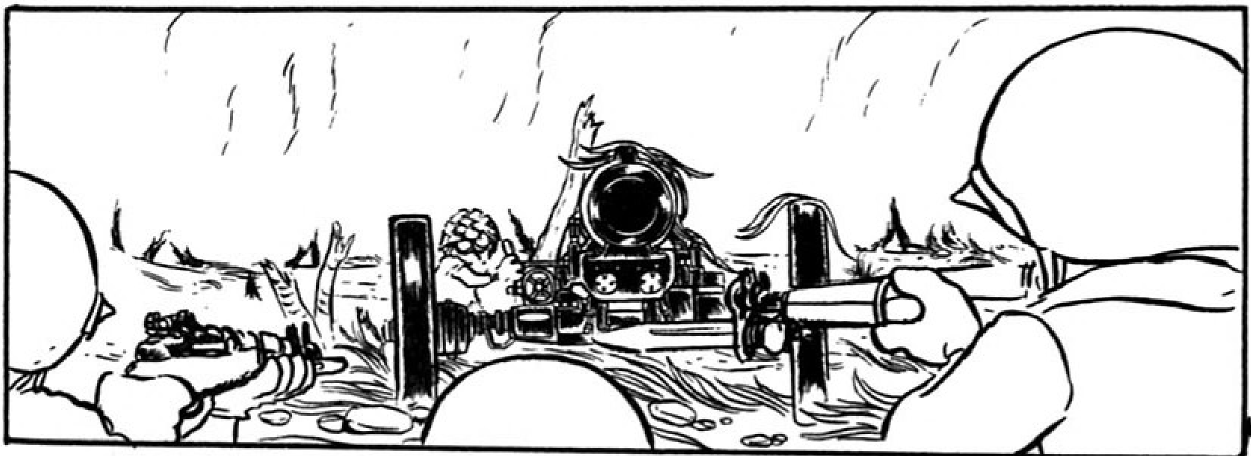
えらい勢いで
撃ってくる…
こちらへも
弾丸がくるぞ…
木がなく
なると
丸見えに
なる……
その前に
残りの二発
ぶちこもう…
どこへ!?
司令部の
あるあたり
だ……
司令部は、
昔、わが軍が
使っていたのと
同じあたりに
あるだろう…
常識で考えると
そうなる……
ごもっとも
……
距離一万八千…
…左へ…二十度
……
撃てっ!!

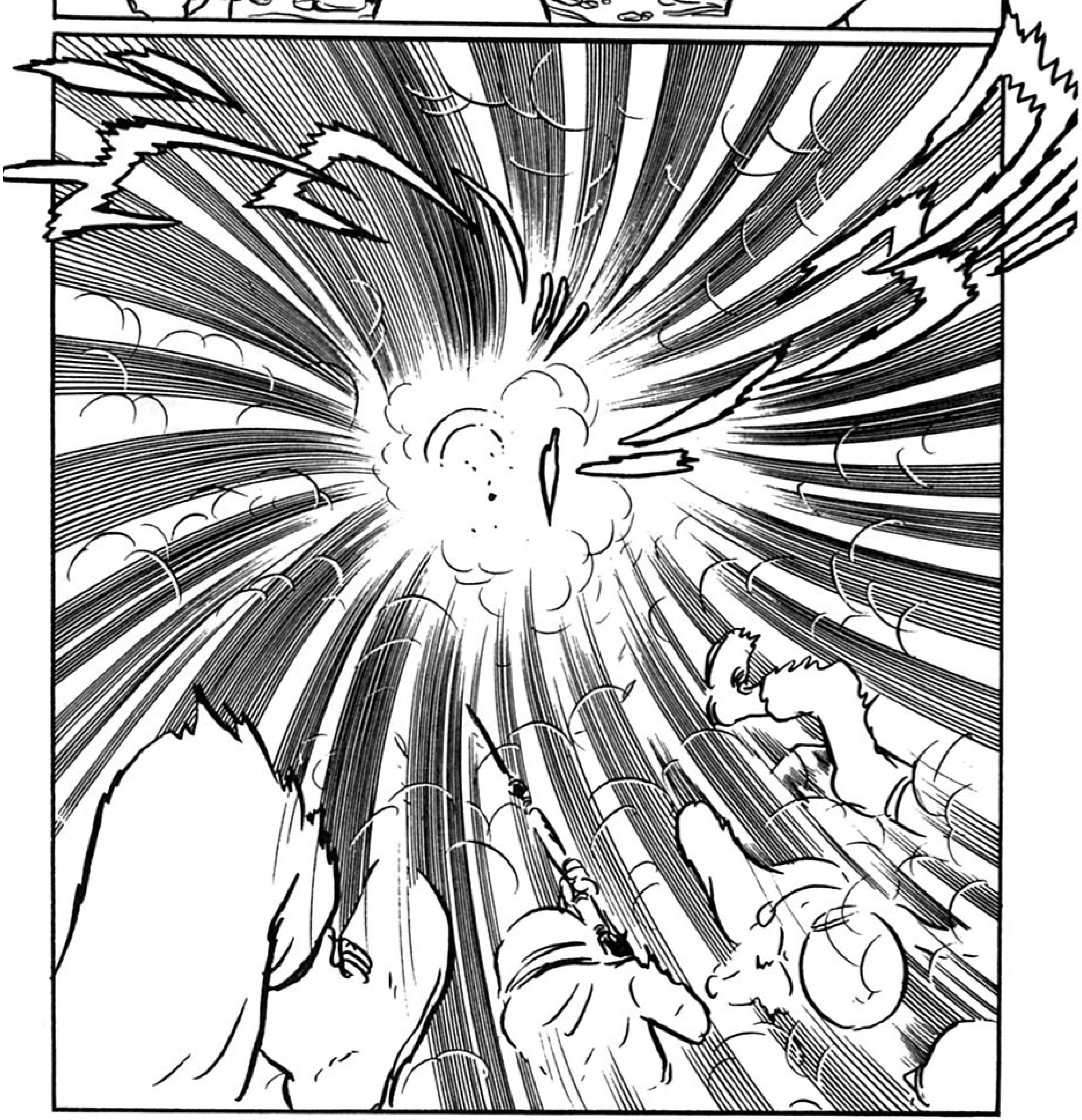
ここを
狙いだし
たぜ!!
最後の
一発だ
……
15榴よ、
おれは決して
おまえを
みすてや
しないぞ…
信じて
くれよな…

右の…丘陵…砲らしきもの見えます!!
そ…そいつだ…!!


ついにムキだしになった…
もう弾丸はない……
敵がきたぞ…!!
あれは…やつら弾丸がなくなったんだ!!
撃ってこない!!
砲についてる砲兵の数なんてたかがしれてる!!
海兵隊がおしよせりゃ逃げるか手をあげるかだ!!
小泉……
わかってるよ、砲の始末はおれがする……先に行け、はやく!!


しかし…… おまえだけでは……
バカ、15榴が一緒だ!!
はやく行け!!
はやく!!
くそう、小泉たのむぞ、だめだ!! はやくこい!!
こいつはまだ死んじゃいねェ!!
生きてるんだ!!
いいか、まだ死んじゃいないんだ!!
小泉!!
あいつ何をしてるんだ!? もう弾丸はないのに撃つ気だぜ、零距離水平射撃だ!!





分捕った敵の弾丸の火薬を抜いてそれを15榴の装薬にしたんだ…!!
小泉は、それで敵の兵器の点検を……
おれたちを助けるためにそのことをだまっていたのか…
まだ撃てるといえば、おれたちも逃げないだろうからなア……

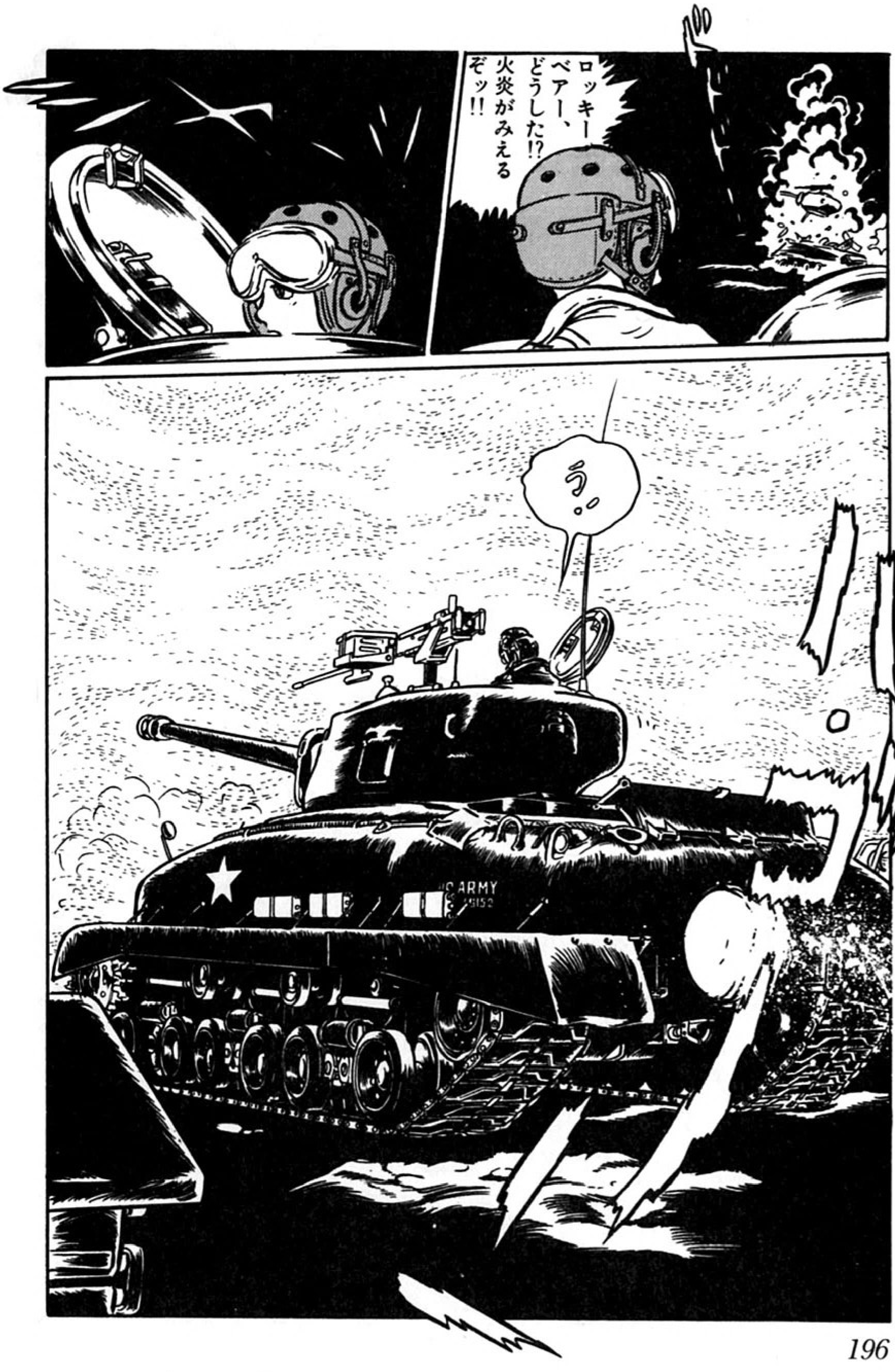
こいつらはたった今死んだ……
こいつら!?
一人ですよ……
こいつと……この砲だ……
この砲が射撃をすることはもう永久にない……
弾丸もない…日本軍もこの島をさった…
どうします、爆破しますか!?
それとも戦利品としてもって帰りますか!?
ここにおいておけ……
じき木が茂り、また誰からも見えなくなる………

この男と、この砲はここで永遠に眠るのだ……
この砲がなければこの男はこんな所で、死ななかったろう…
戦争がなければおれたちもここへは、こなかっただろう……
武器が勇者をつくり…勇者を死へ導く…
この砲はそれを知っているのだろうか……

■「週刊少年サンデー」1977年23号掲載

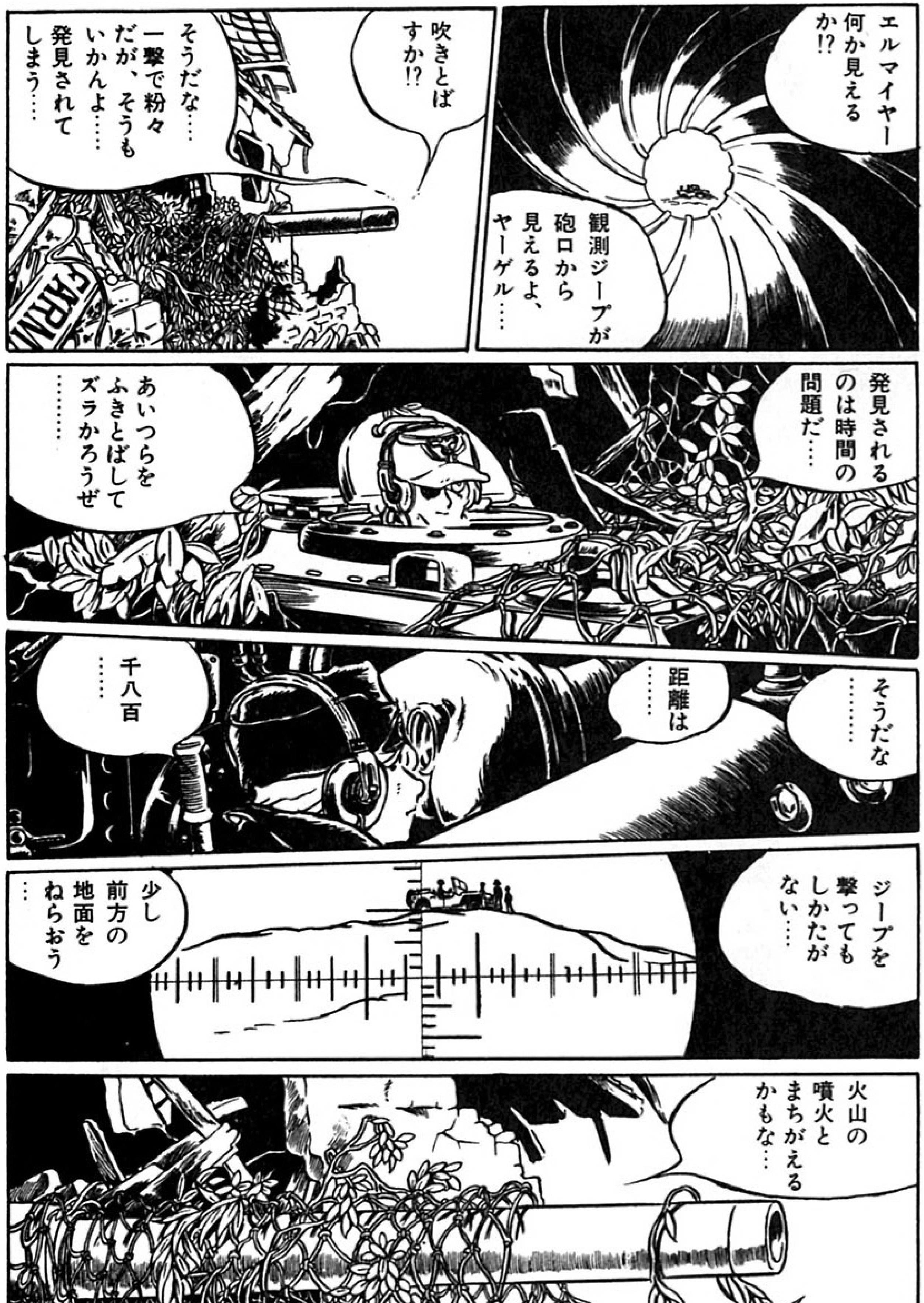
動物は不安にかられた時、
遠吠えをする……
真に強い猛獣は
沈黙し、動かない……
ケンタッキー
ベアーより
ロッキーベアー!!
後方に月がでた、
注意せよ!!
了解!!
だが前方に
敵はいない、
安心せよ!!

ドド
沈黙の虎
タイガー


ロッキーベアー、どうした!? 火炎がみえるぞッ!!
う。。
ARMY

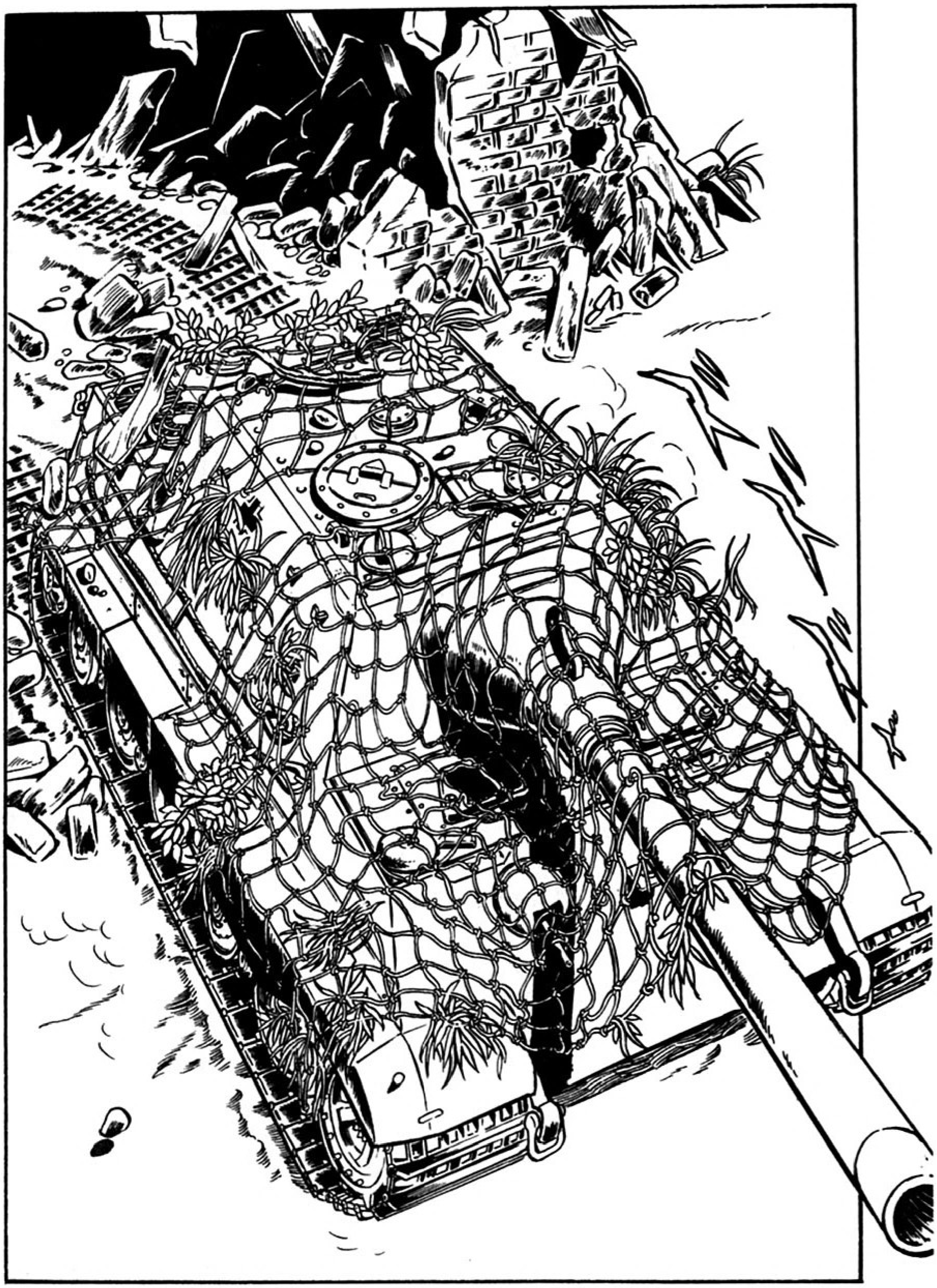
ロッキーベアーとケンタッキーベアーが全滅した!?
と、虎の子の戦車大隊がふたつとも全滅だって!?
はァ、大虎がでたようで…
ドイツのタイガーか!? しかし、虎の88ミリの射程内にはいなかったはずだぞ!!
いたのかもしれません!?
何しろ、われわれは満月を背にして前方の見とおしが悪くて……
われわれのM4シャーマンはそれぞれ一撃で完全大破……
大破なんだ、穴があいたなんてもんじゃない!!

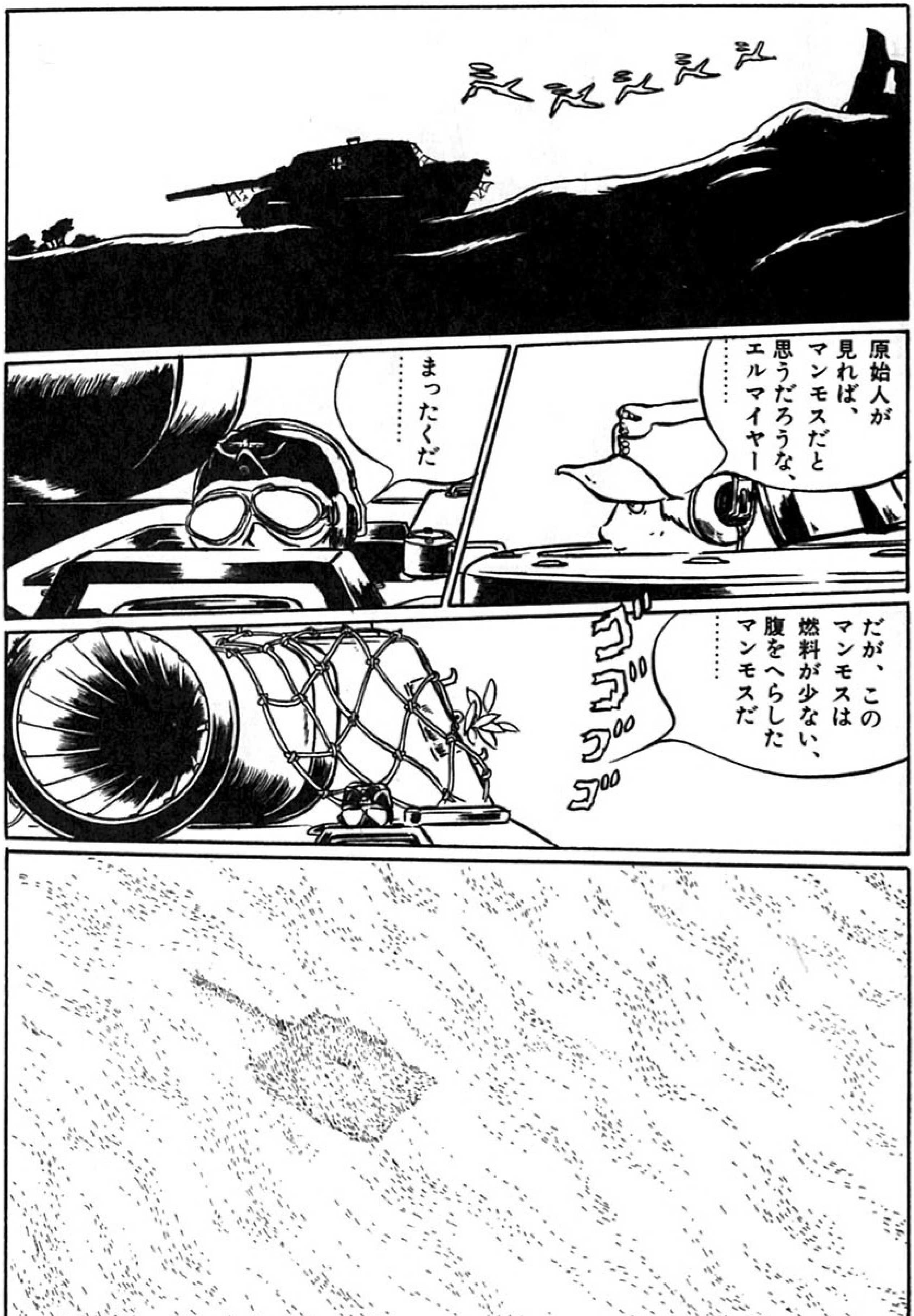
88ミリでもこうはならない……
もっと口径の大きな戦車砲だ、100ミリ以上……そんなのがいったいこの世にあるのか…!?


エルマイヤー何か見えるか!?
観測ジープが砲口から見えるよ、ヤーゲル……
吹きとばすか!?
そうだな……一撃で粉々だが、そうもいかんよ……発見されてしまう……
発見されるのは時間の問題だ……
あいつらをふきとばしてズラかろうぜ……
そうだな……
距離は……
千八百……
ジープを撃ってもしかたがない……
少し前方の地面をねらおう…
火山の噴火とまちがえるかもな…
FARM

撃つぞ、ヤーゲル……
今だ……

よし今だ、ずらかろう!!
さいわい曇り空で敵機もいない…
いくぞ!!




原始人が見れば、マンモスだと思うだろうな、エルマイヤー……
……まったくだ
……だが、このマンモスは燃料が少ない、腹をへらしたマンモスだ

あと何キロ走れそうだ!?
もって二、三キロかな……
最終防衛線の内側へは逃げこめないな…
置き去りだな、おれたちは……
置き去りといっても、どうせここもドイツだ……
それもそうだな……
どこらで腰をおろすか!?
そうだな、あんまりうろつくと発見されて重砲で撃たれる……
おいエルマイヤー、右手の大木に昔おまえのつけたキズが見えるぜ……

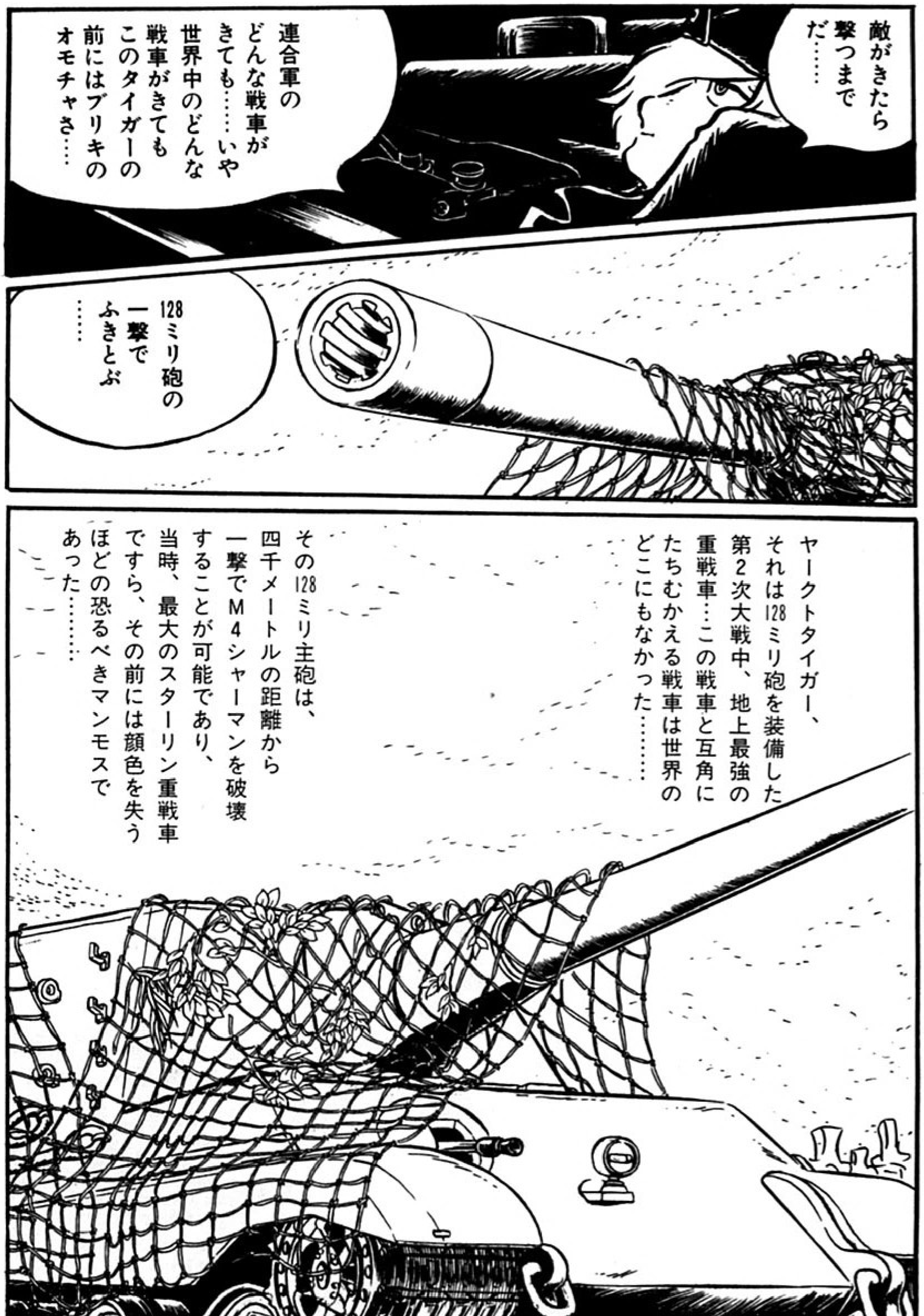
となりの木はおまえのだ……
そういえば学校の行き帰り道草してはここらで遊んだもんだな……
森の中で原始人みたいにあばれたたな……
ゴゴゴゴゴ
おかげで二人とも体格がよくなって戦車兵だぜ……
よかったのかわるかったのか、わからんが……
なあヤーゲル、ヘッセル・ホルンの家へ行こうか!?
おれも今それを考えていた……

われわれの永遠の女神、ヘッセル・ホルン……
原始人ごっこをしてともに遊んだぼくらの恋人…
もう避難していないだろうけど、そこへ行こう……
ホルンが大好きだった……バラの花のかおりがする……

空爆か砲撃だ……
味方の重機関銃隊が陣地にしたのかもしれん……
これだと二、三日前にやられたようだな……
235

ここにいれば、いつかホルンが帰ってくるだろうか……
ここは彼女の家だもんな……
どこにしようか……
墓地はやられていない……
石の十字架はいくらか弾除けになる……
死人が怒るだろうな……
祖国のためだ…死者も許してくれるだろう……

少し
バチあたりな
気もする
な……
おれたちも
墓に入って
いる
気分だ…
そうさ
墓さ…
ヤークト
タイガー
という鉄の柩の
中さ……
もう
燃料はない、
どこにも
行けない……
気を
おちつけて、
寝よう……


敵がきたら撃つまでだ……
連合軍のどんな戦車がきても……いや世界中のどんな戦車がきてもこのタイガーの前にはブリキのオモチャさ……
128ミリ砲の一撃でふきとぶ……
ヤークトタイガー、それは128ミリ砲を装備した第2次大戦中、地上最強の重戦車…この戦車と互角にたちむかえる戦車は世界のどこにもなかった………
その128ミリ主砲は、四千メートルの距離から一撃でM4シャーマンを破壊することが可能であり、当時、最大のスターリン重戦車ですら、その前には顔色を失うほどの恐るべきマンモスであった……

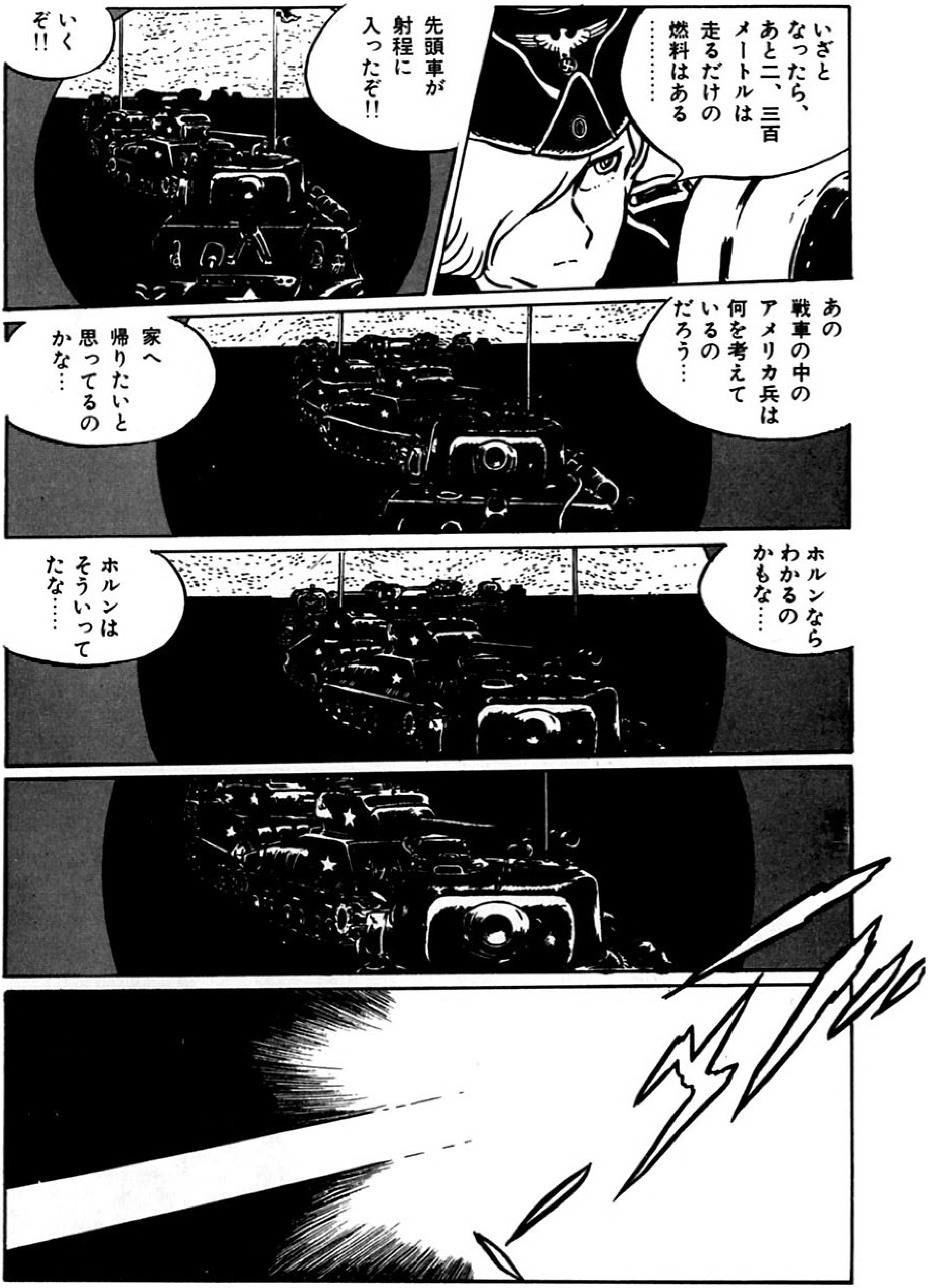
エル
マイヤー、
ヤーゲル!!
?
!!
ヘッセル・ホルン!!
こんばんは、
バラの花を
持ってきて
あげたわ……
無事だった
のか!? もう
やられたか、
避難していると
思ってたのに
……
どうして、
ここへきた
の!?
もう
ほかに
行く所が
なくなった……

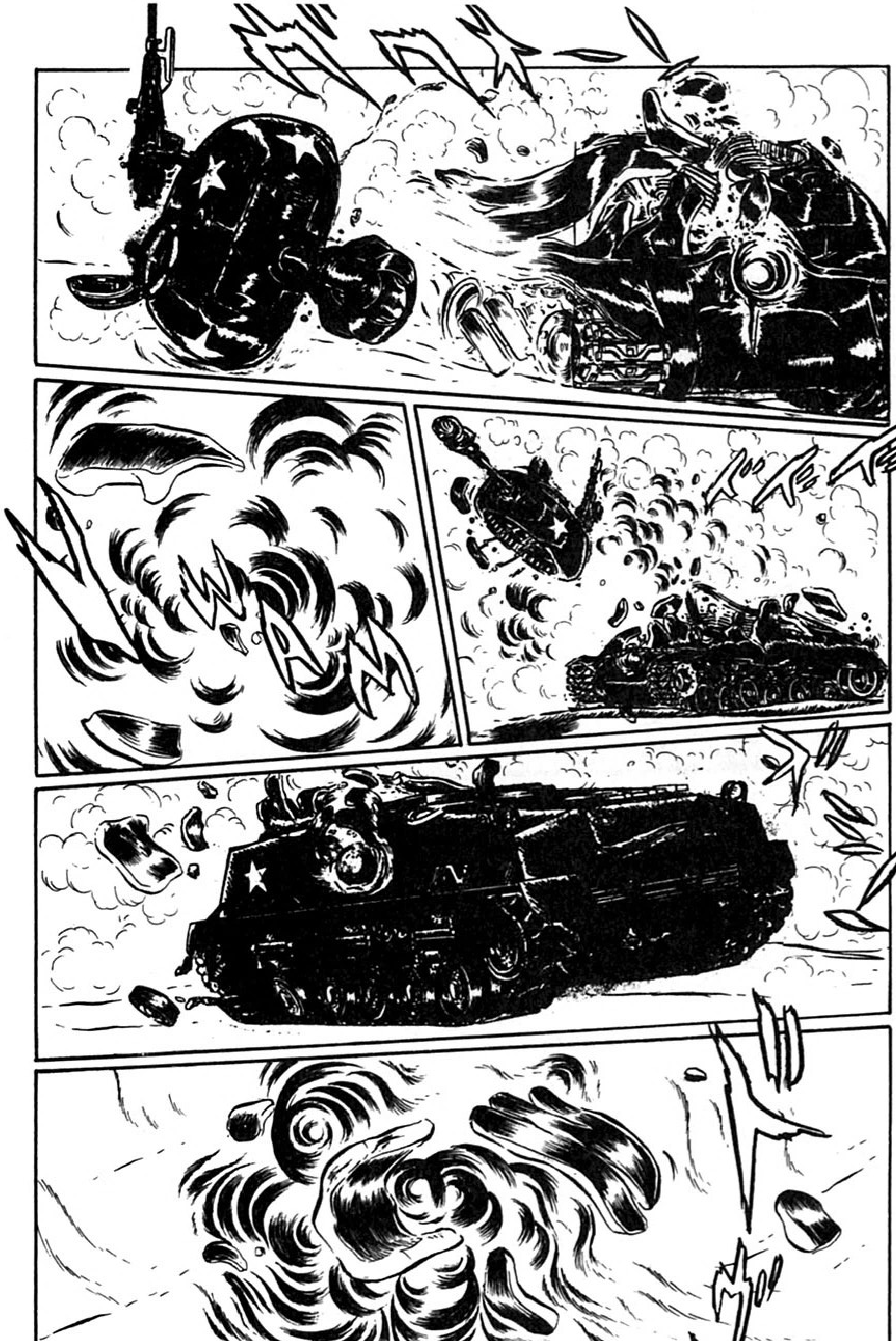
戦車はわたしがみててあげるから戦車をすてて逃げなさいよ…
まだ弾がある……
戦えるのに逃げろとは誰も教えてくれなかった……
おれもさ……
原始人ごっこの時も、よくそういってたわね……
わたしにはわかるの、ドイツは敗北するわ…
滅びたドイツは世界中から悪魔として非難されるわ……
ホルン、きみはまるで未来を見ているようだね……
ええ…
わたしには未来が見えるわ…
この世の終わりまで……人間の世界には正義が一度たりとも存在しないことがはっきりわかっているわ……

明日を期待せず……
黙って戦い続けた男が、真の勇者だってことがわかる、終末の時までもわたしには見えるわ……
想像を絶する苦痛と不安を乗りこえて最後まで戦い続けようとする、あなたたちの心の中もわたしにはよくわかるわ……
…………
………
エルマイヤー、ヤーゲル、もっとバラの花をつんできてあげるわ……
狙撃兵に見つかるとあぶないよ……
わたし!? わたしならへいき……
ホルン!!

夢か……
おまえもか……
たくさんのバラの花を持ってきてくれた……
とてもむずかしいことをいって、また花をつみにいった…
未来だとか正義だとか……
ヤーゲル、ホルンはすぐ近くにいるような気がしないか……
するよ……
とても近くにいるような………
おい、エルマイヤー!!
!?
花だ……バラの花だ!!

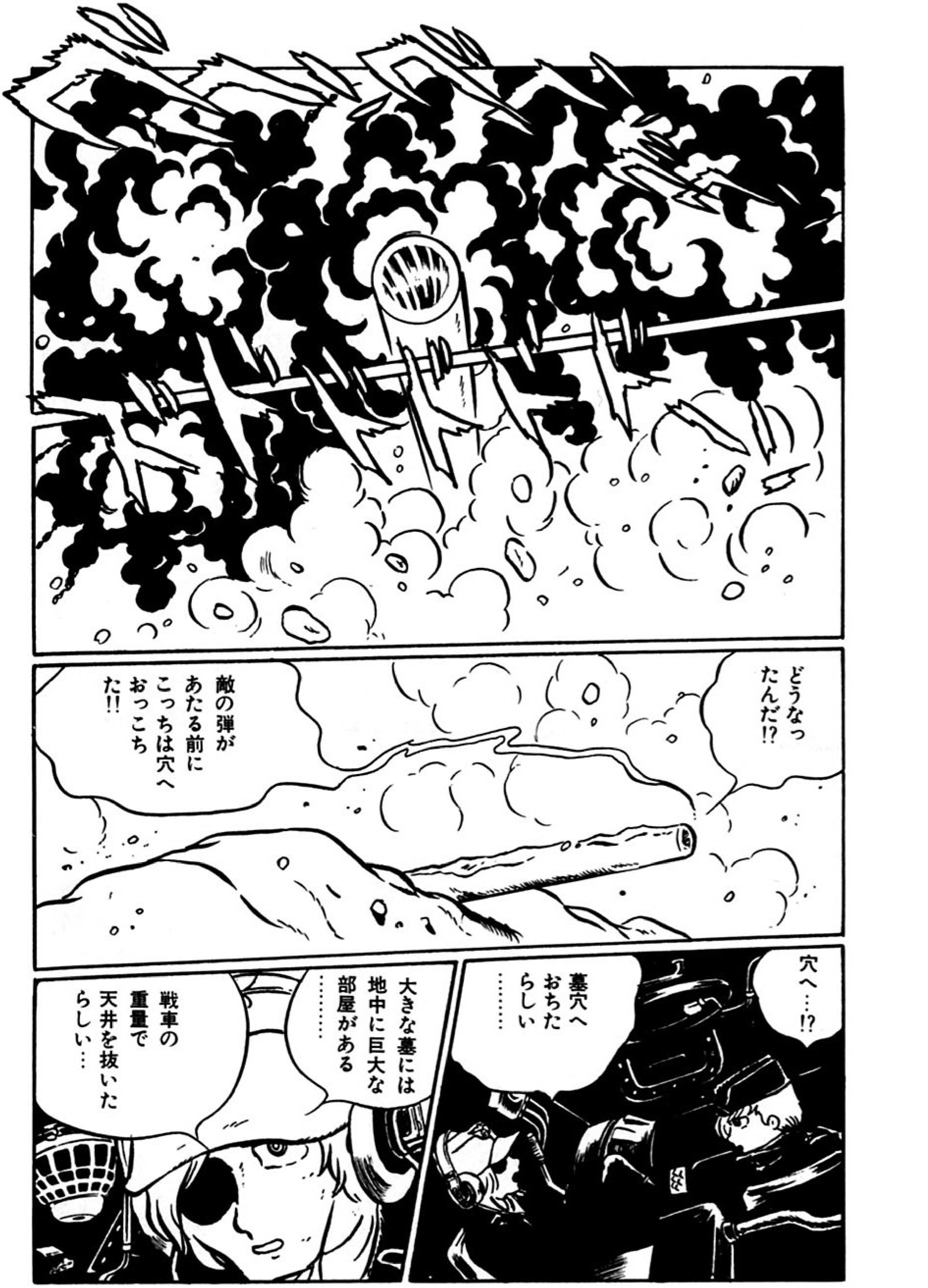
ゴゴゴゴゴ ゴゴゴゴゴ
ヤーゲル!!
わかってる
敵だ……
ついにきた
……
キャタピラの跡を、
偵察兵にでも
発見されたの
かもしれない
……
ホルンが
この近くに
いるなら
あぶないぞ
……
敵の弾は、
まだ届かない
……
長距離射撃で
一台ずつ破壊
しろ……
一台ずつと
いっても正面の
射界の中を
進んでくる
やつだけだ…
旋回砲塔じゃ
ないから両側や
後ろへ回り
こまれた
やつは
どうしようも
ない……


いざとなったら、あと二、三百メートルは走るだけの燃料はある……
先頭車が射程に入ったぞ!!
いくぞ!!
あの戦車の中のアメリカ兵は何を考えているのだろう…
家へ帰りたいと思ってるのかな…
ホルンならわかるのかもな…
ホルンはそういってたな……

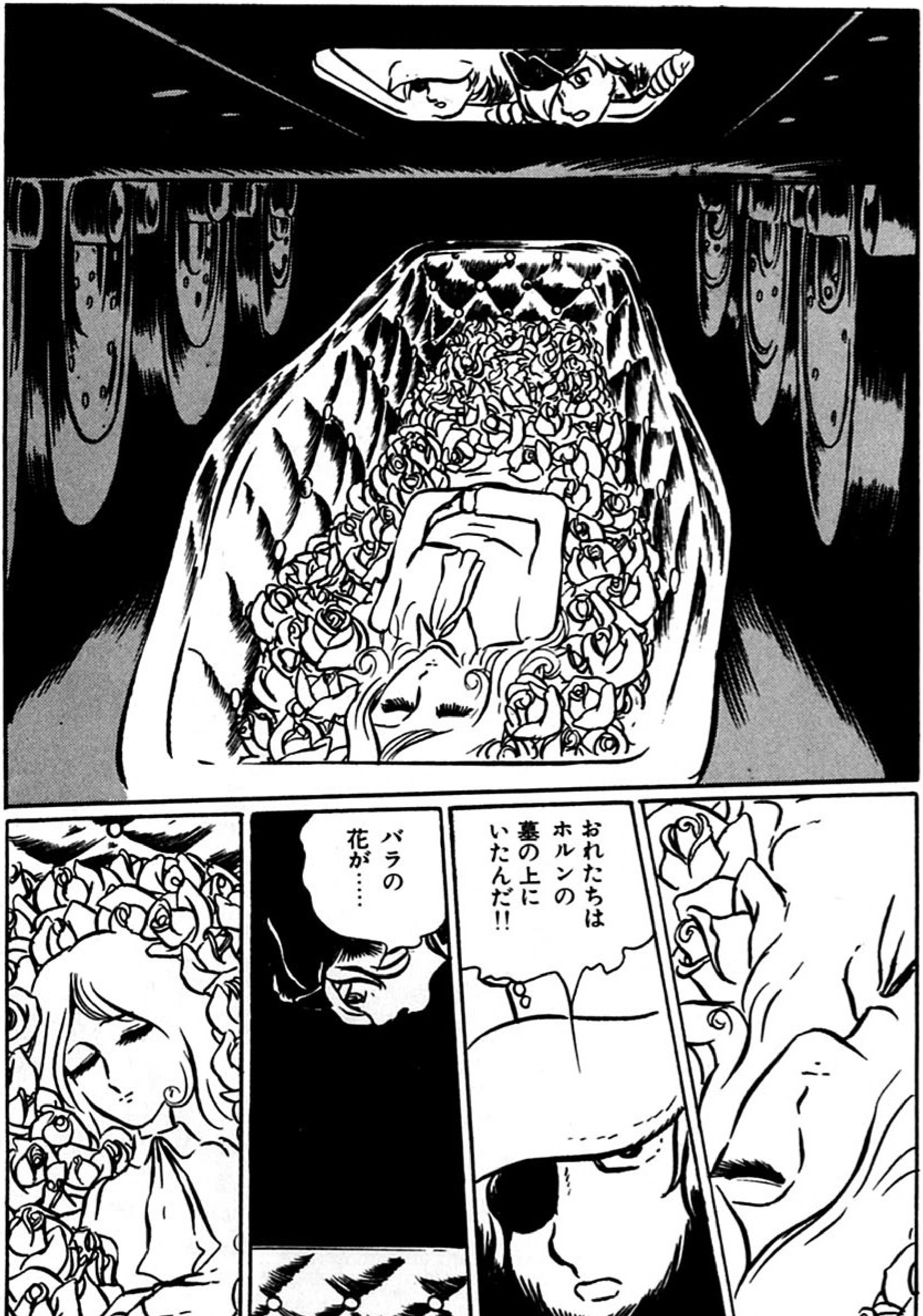


散開しろ!!
畑の中を走れ、敵は正面だ!!
ゴゴゴ
両側へ回られた!! ヤーゲル、バックだ!!
それが…!! キャタピラがひっかかって動かない!!
!!
!!

!!
だめだ、両側から撃たれる!!近距離だ!!装甲を撃ち抜かれるぞ!!
いた、あいつだ!!
ヤークトタイガー!!128ミリ砲だ!!
側面からでは手も足もでまい!!思い知れ!!
!!

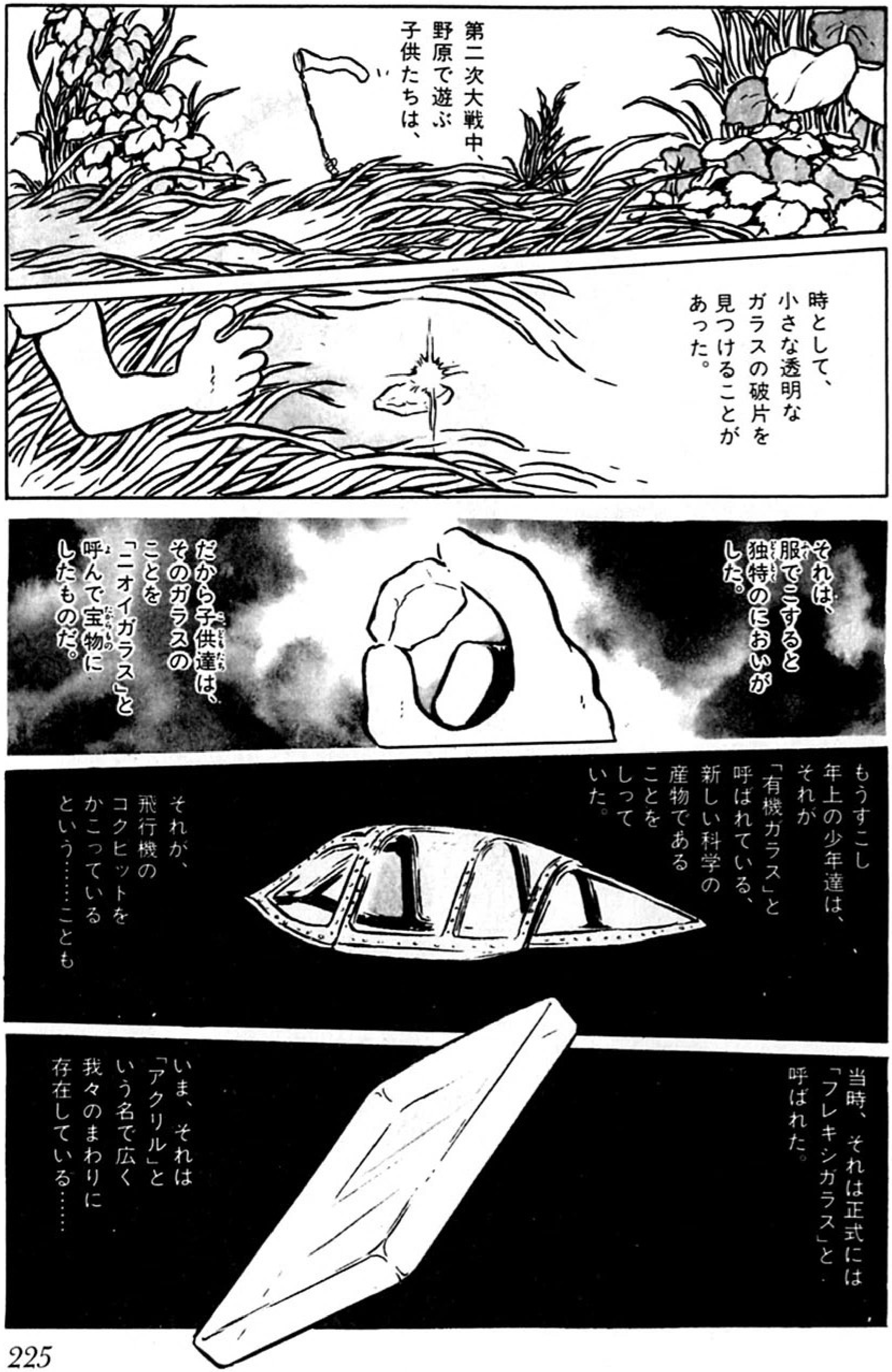

どうなったんだ!?
敵の弾があたる前にこっちは穴へおっこちた!!
穴へ…!?
墓穴へおちたらしい……
大きな墓には地中に巨大な部屋がある……
戦車の重量で天井を抜いたらしい…

埋まったらしいよ、完全に……
外へでているのは砲口だけらしい……敵が燃えてるのが見える……
脱出ハッチから下へでられないか!?
やってみる…
だめだ!!わずかの空間がキャタピラの間にあるだけだ…とてもムリだ!!
それに!!
見ろ、エルマイヤー!!
なんだ!?
!!
ホルン!!

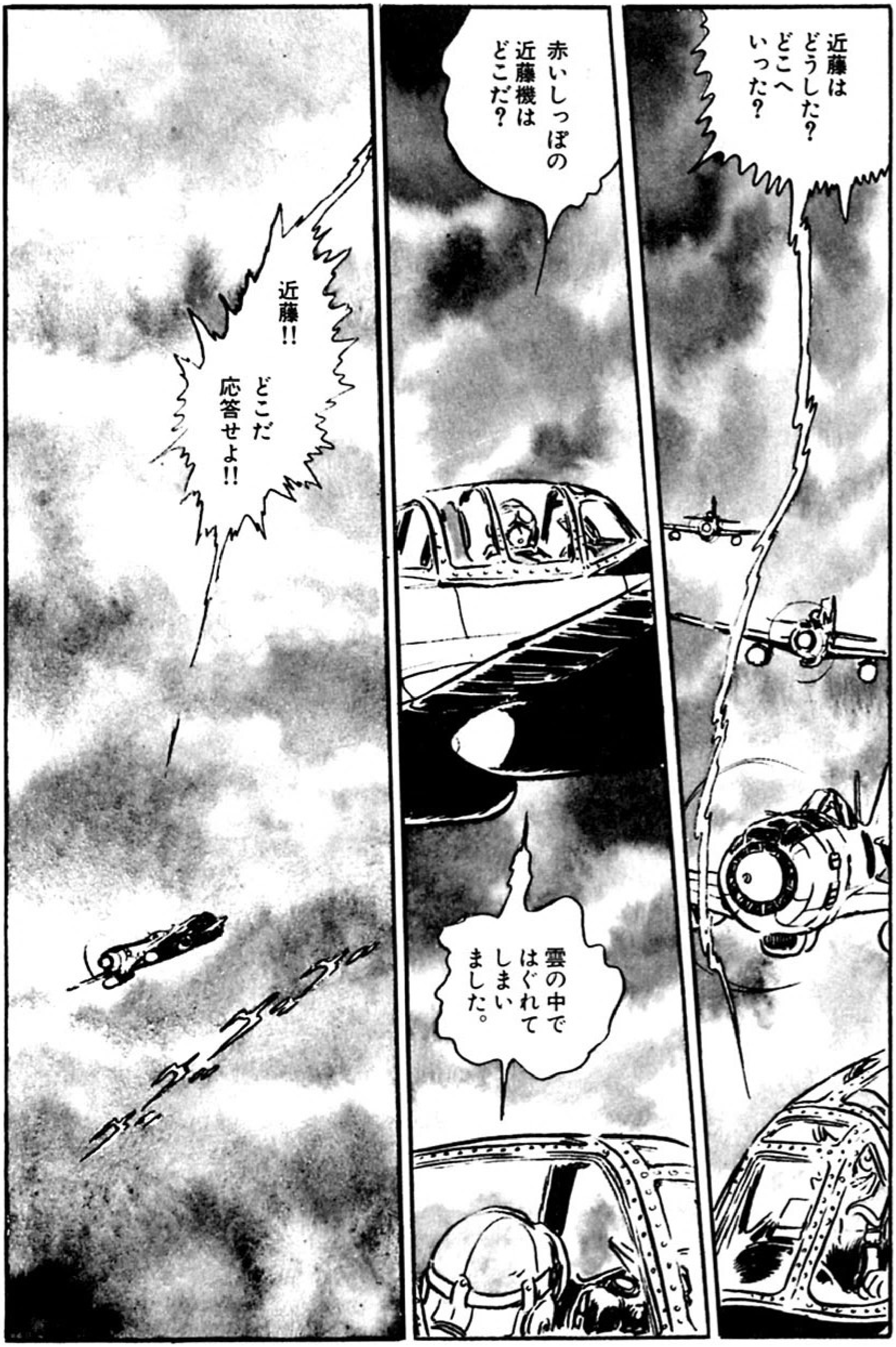

おれたちはホルンの墓の上にいたんだ!!
バラの花が……

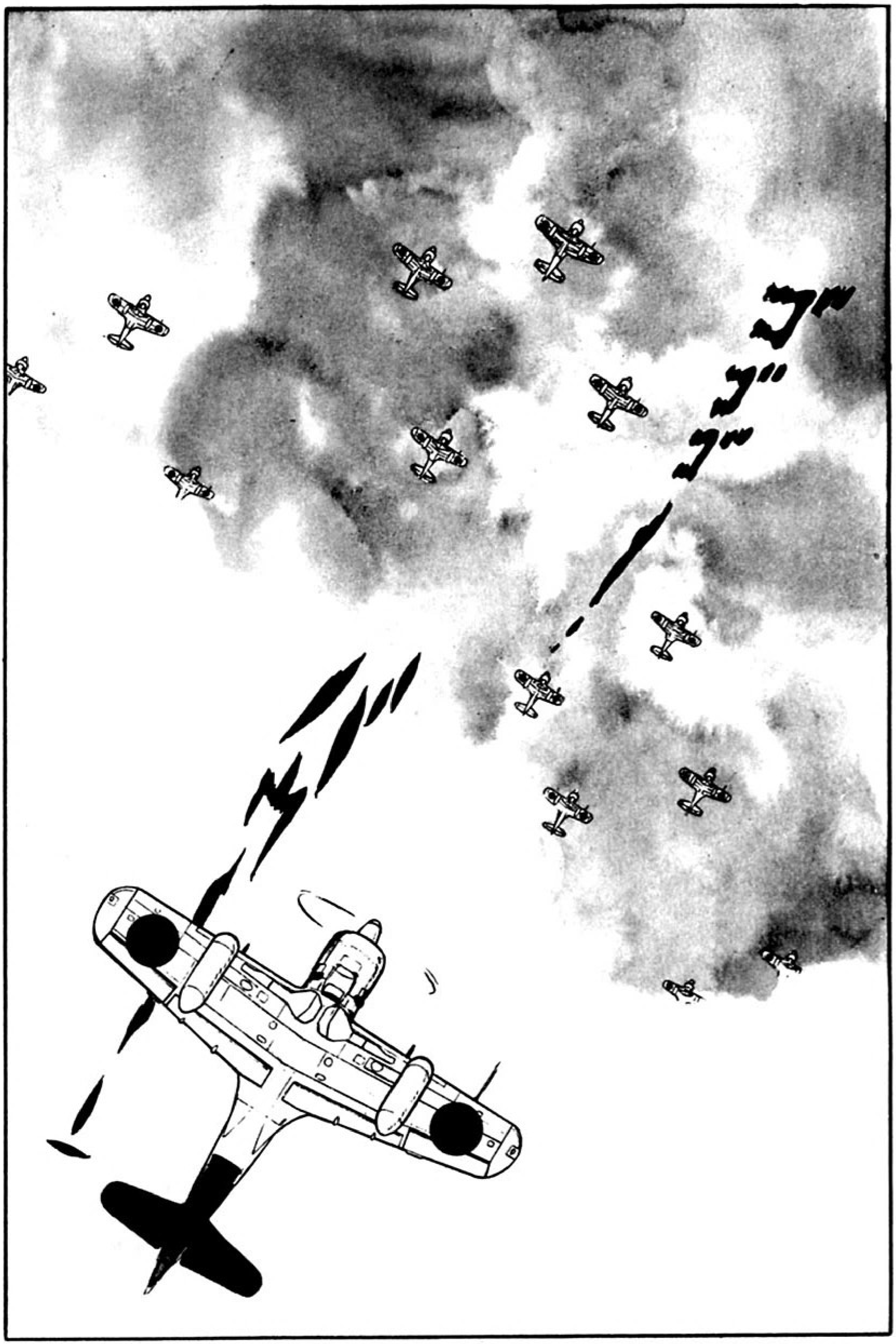
まだしぼんでいない所をみると……きのうか……おとといか、おれたちが来る寸前に埋められたのだろう……
眠っている時、ほんとに戦車の中にホルンがきて話をしていったのかもしれない……
ああ……だから未来やおれたちの心の中がわかるなんていったのかもしれない…
ここが、昔一緒に遊んだ三人の共同墓地になってしまった……
エルマイヤー、ヤーゲル、未来が見えるといったわたしのコトバを信じてくれた!?
ああ信じるよ、ホルン!!
きみのいうとおりだ……
女の声までするぜ……もういい、ほうっておこう!!
たとえ生きてたってここからはでられやしない…
虎は死んだんだ…
そうだ、その夜虎は永遠の眠りについた……
その昔、マンモスが寒さと、飢えに力つきて倒れていったように…鉄の虎も、今沈黙したのだ……
やがて、その上をバラの花がおおい……鉄の虎のことを思い出す人も絶えてなく…

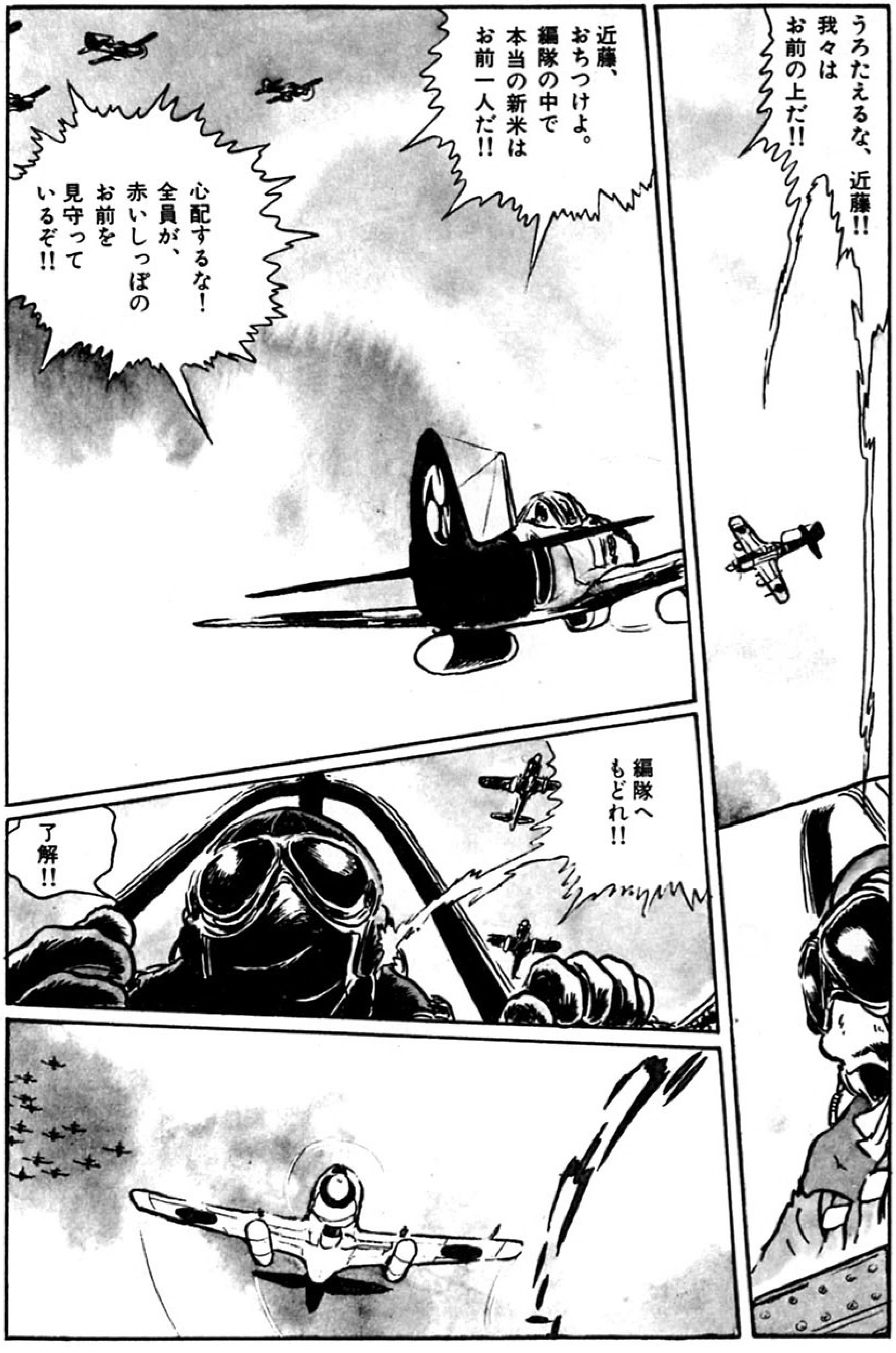
■「週刊少年サンデー」1977年27号掲載


第二次大戦中、
野原で遊ぶ
子供たちは、
時として、
小さな透明な
ガラスの破片を
見つけることが
あった。
それは、
服でこすると
独特のにおいが
した。
だから子供達は、
そのガラスの
ことを
「ニオイガラス」と
呼んで宝物に
したものだ。
もうすこし
年上の少年達は、
それが
「有機ガラス」と
呼ばれている、
新しい科学の
産物である
ことを
しって
いた。
それが、
飛行機の
コクピットを
かこっている
という……ことも
当時、それは正式には
「フレキシガラス」と
呼ばれた。
いま、それは
「アクリル」と
いう名で広く
我々のまわりに
存在している……

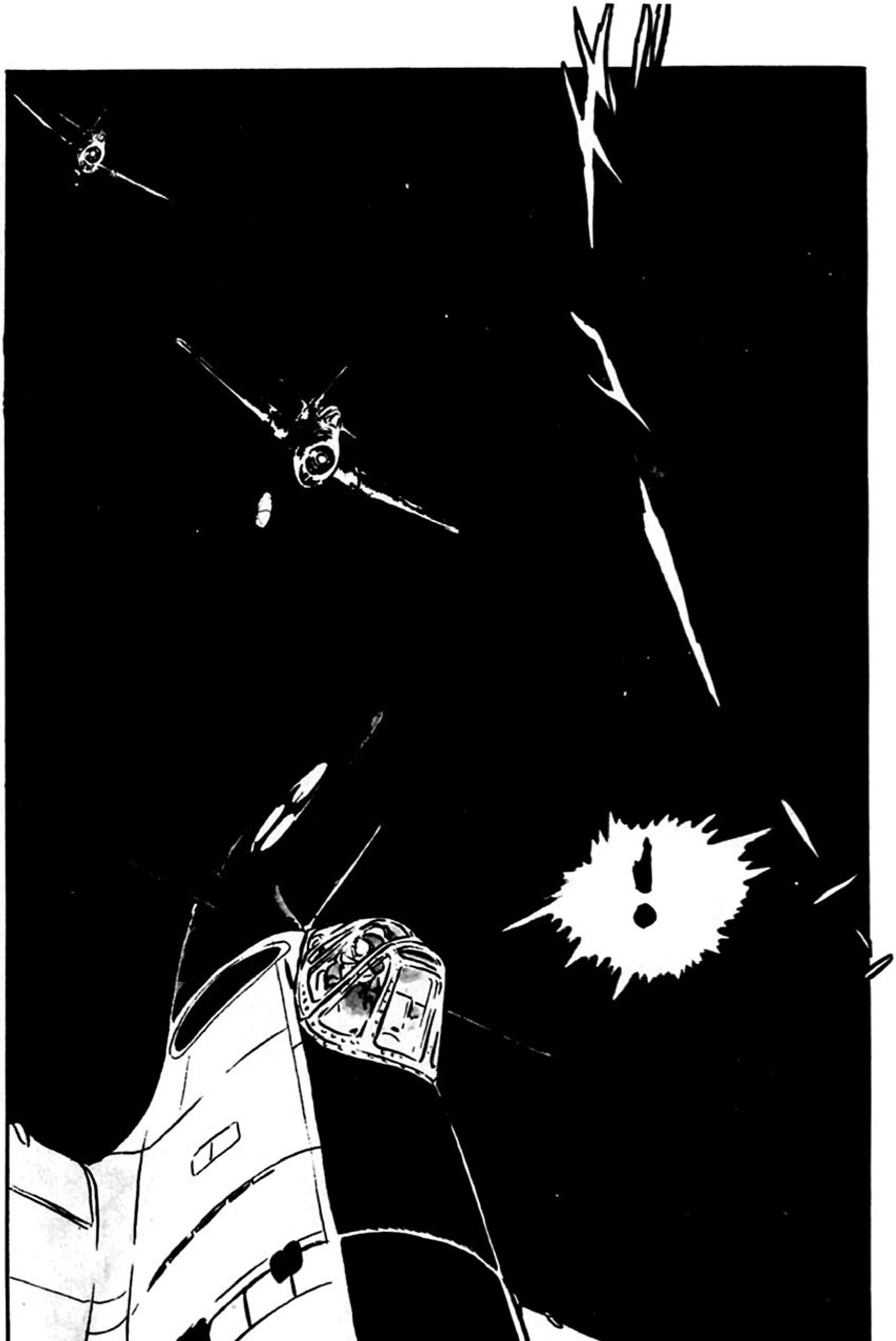
アクリルの棺（ひつぎ）

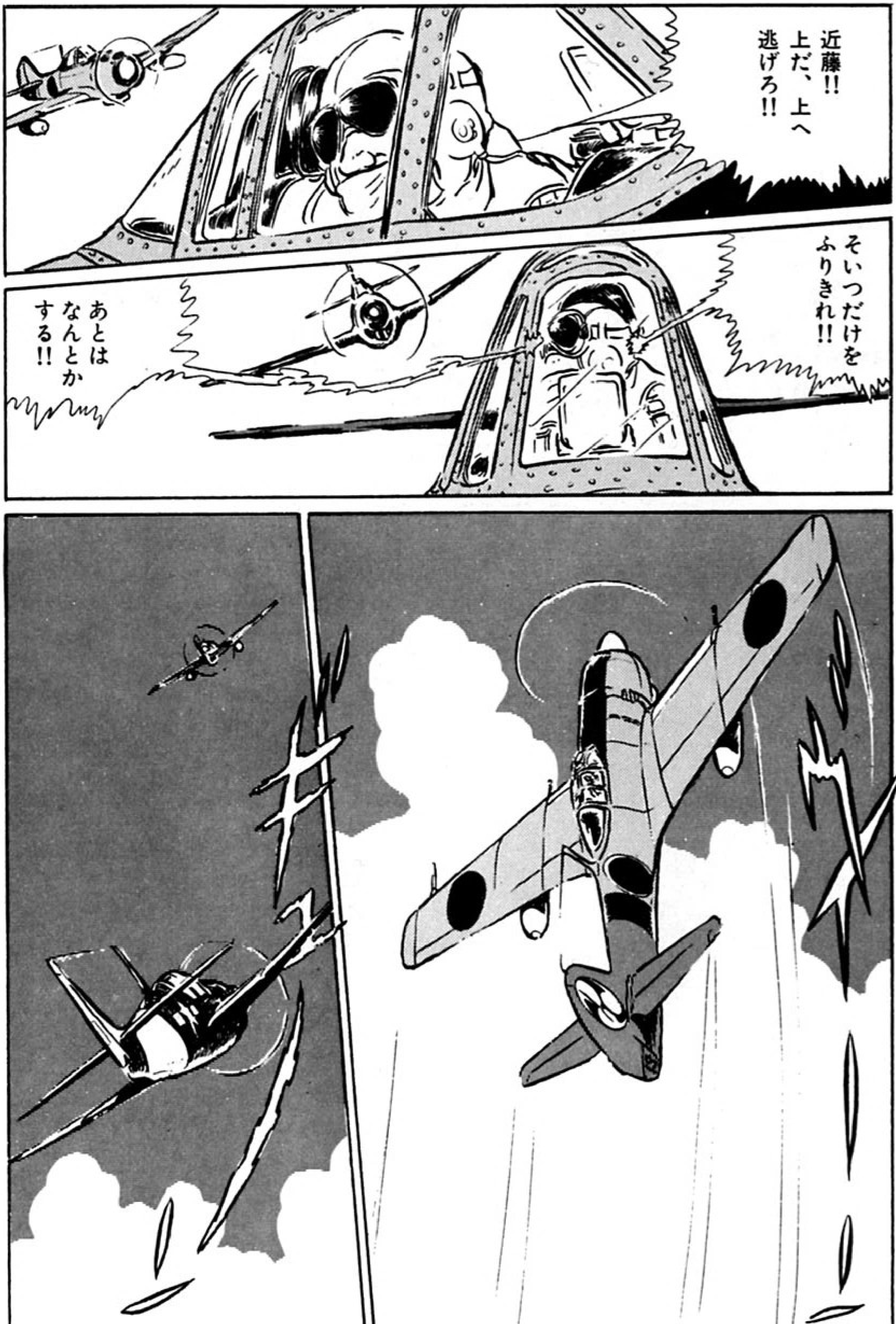

近藤は どうした? どこへ いった?
赤いしっぽの 近藤機は どこだ?
雲の中で はぐれて しまい ました。
近藤!! どこだ 応答せよ!!

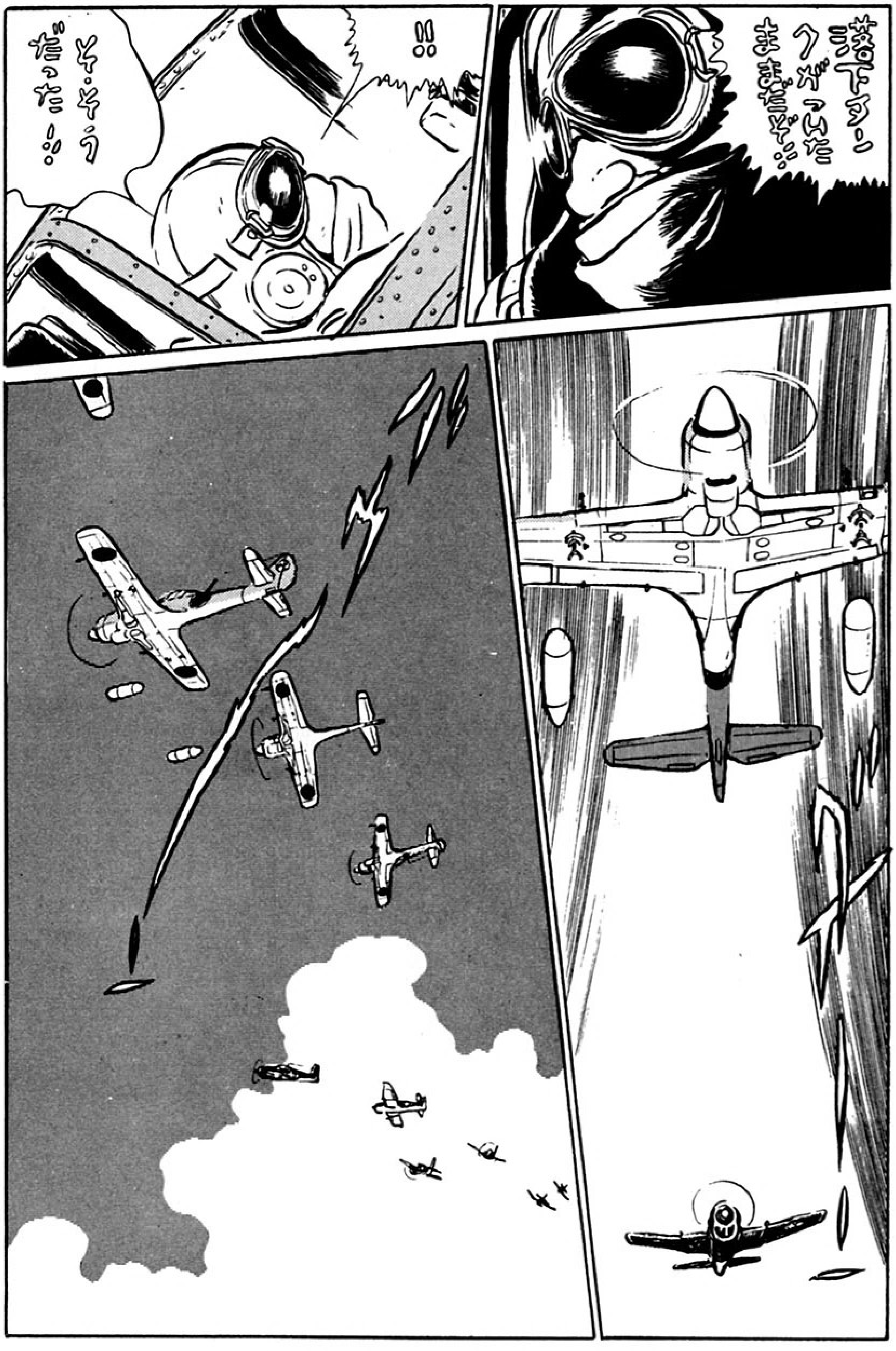

ゴゴゴー

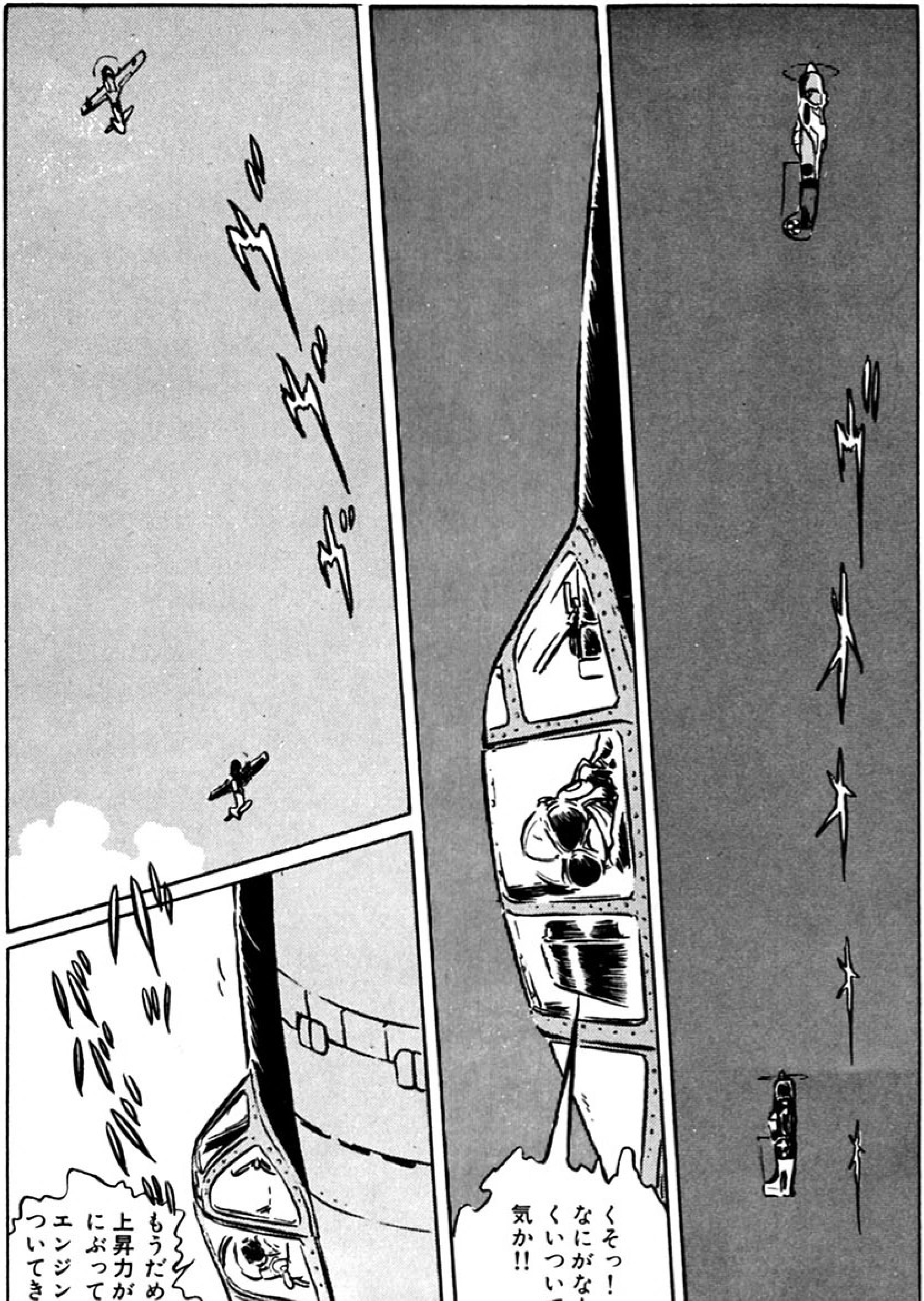


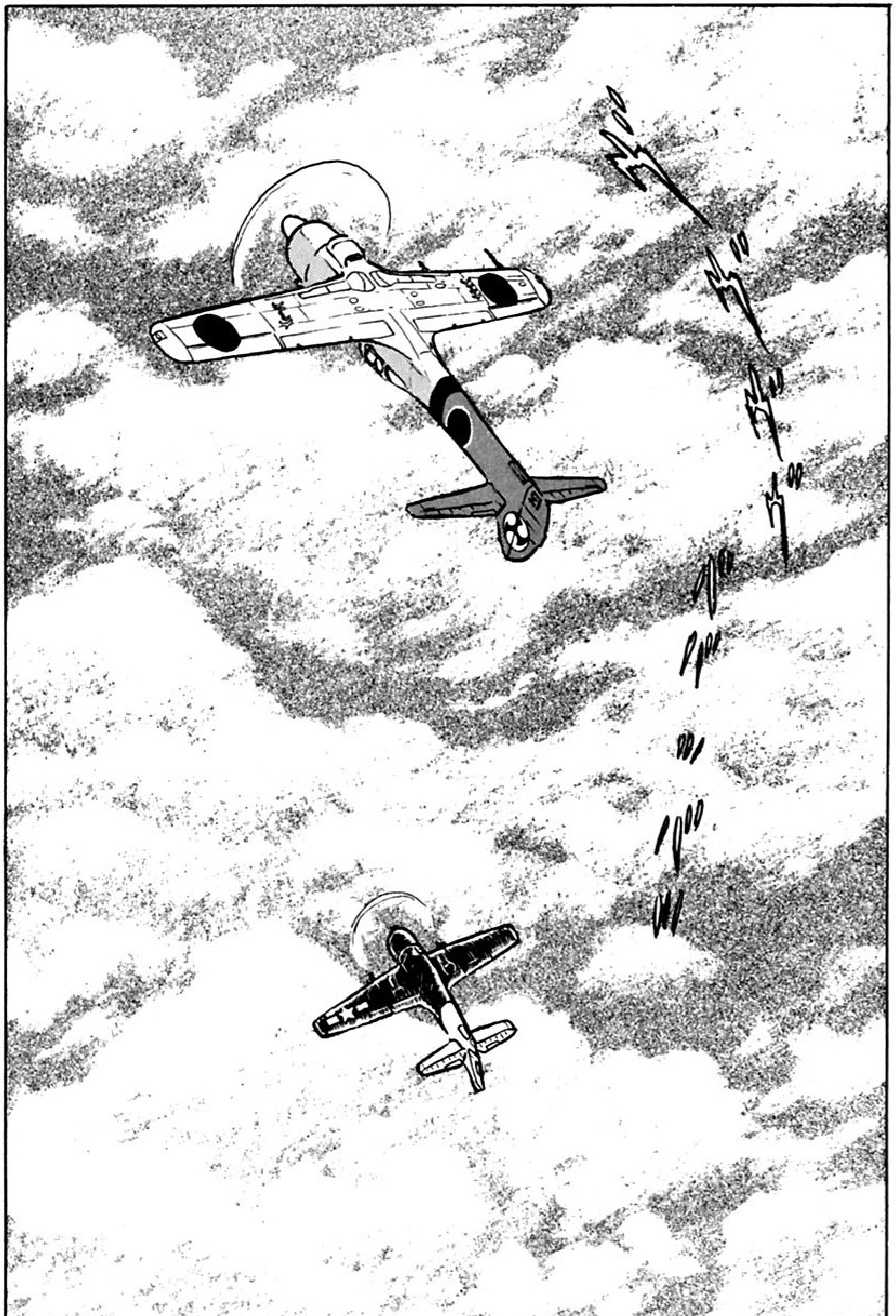
うろたえるな、近藤!!
我々はお前の上だ!!
近藤、おちつけよ。編隊の中で本当の新米はお前一人だ!!
心配するな！全員が、赤いしっぽのお前を見守っているぞ!!
編隊へもどれ!!
了解!!

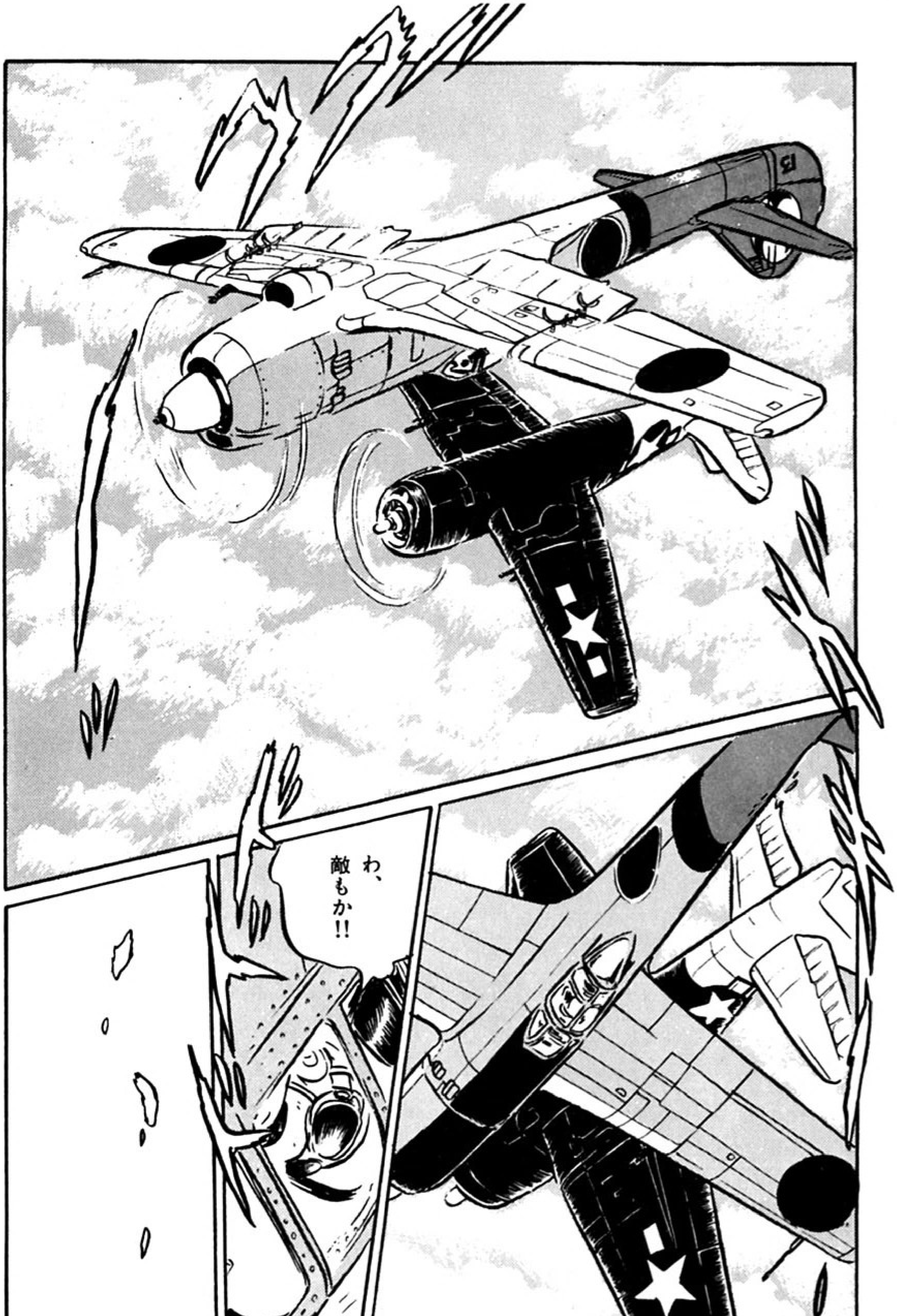


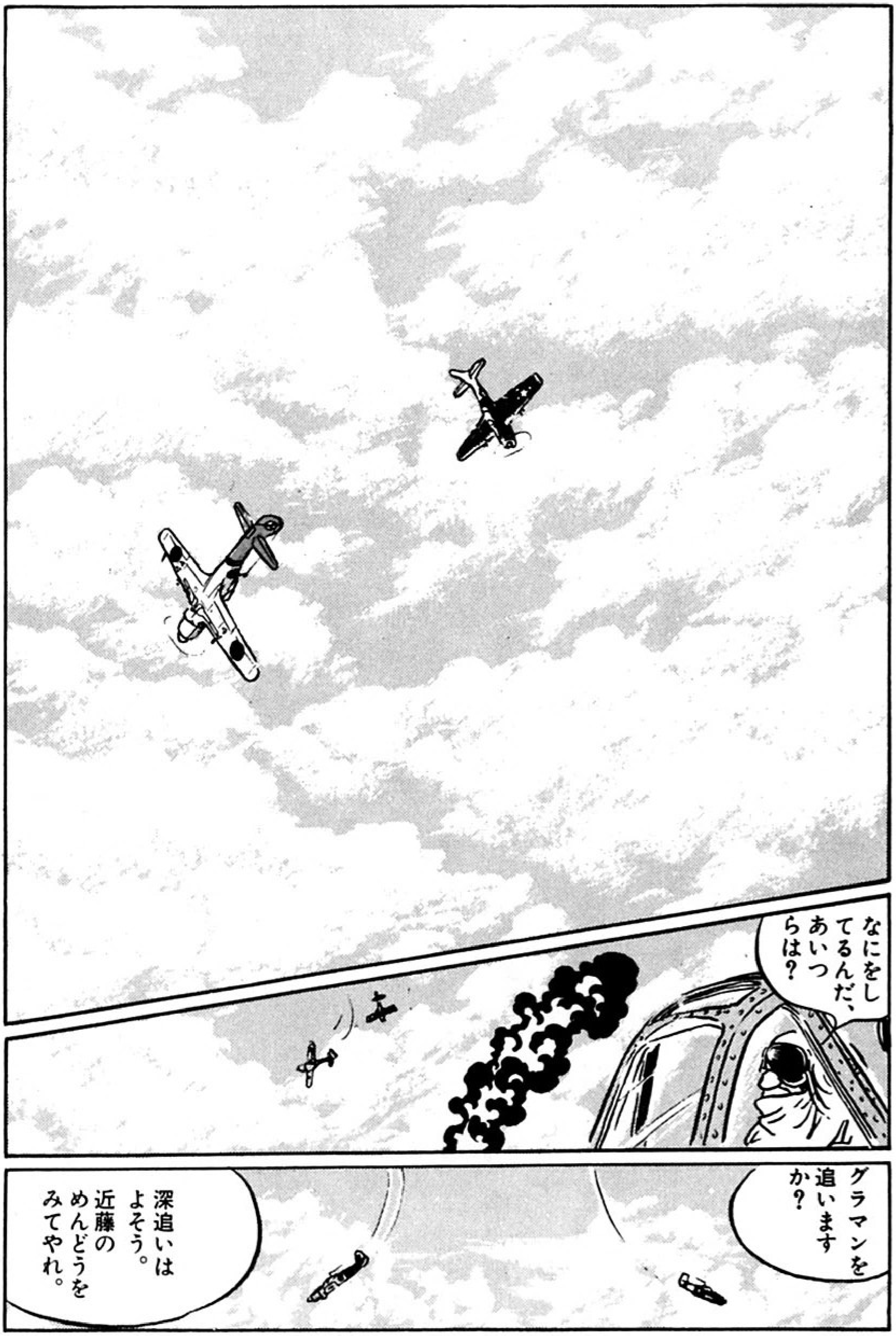

近藤!! 上だ、上へ 逃げろ!!
そいつだけを ふりきれ!!
あとは なんとか する!!

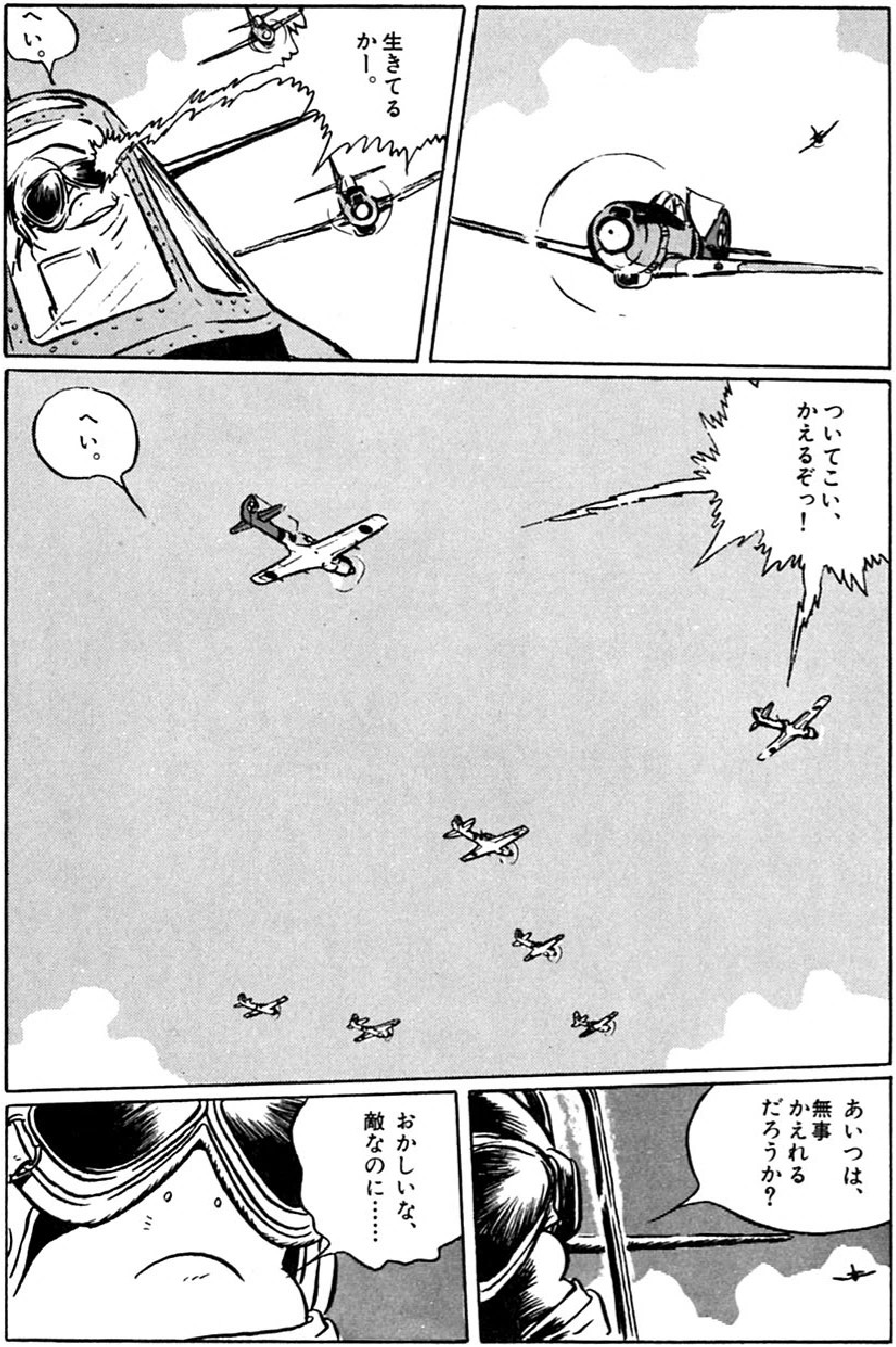

落下ターンクザっんたままだぞ…!!
!!
そ・そうだった…!!

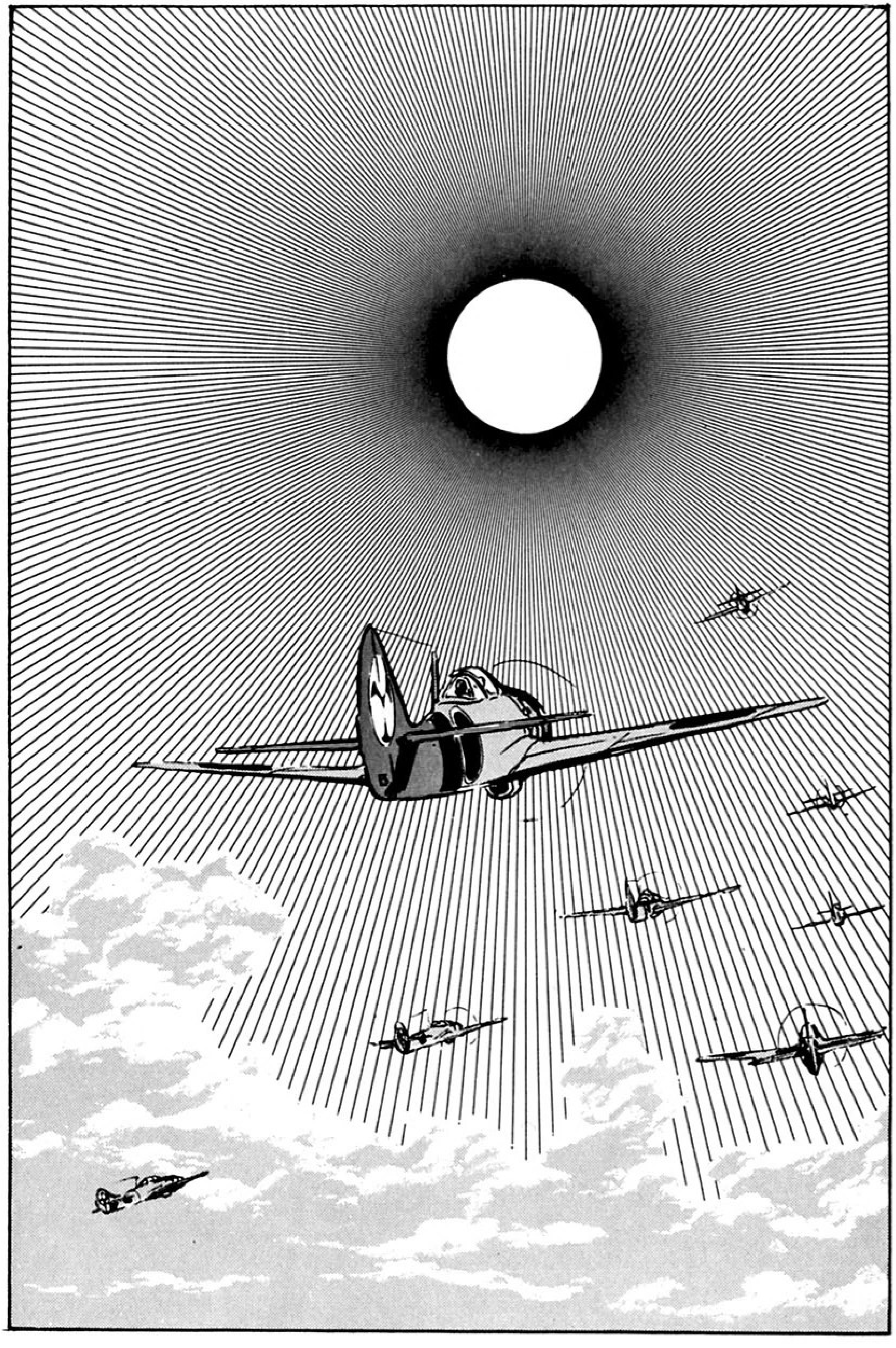

くそっ！なにがなんでもくいついてくる気か!!
もうだめだ、上昇力がにぶってきた！エンジンが息をついてきた！




わ、敵もか!!


なにをしてるんだ、あいつらは？
グラマンを追いますか？
深追いはよそう。近藤のめんどうをみてやれ。


生きてるかー。
へい。
ついてこい、かえるぞっ!
へい。
あいつは、無事かえれるだろうか?
おかしいな、敵なのに……

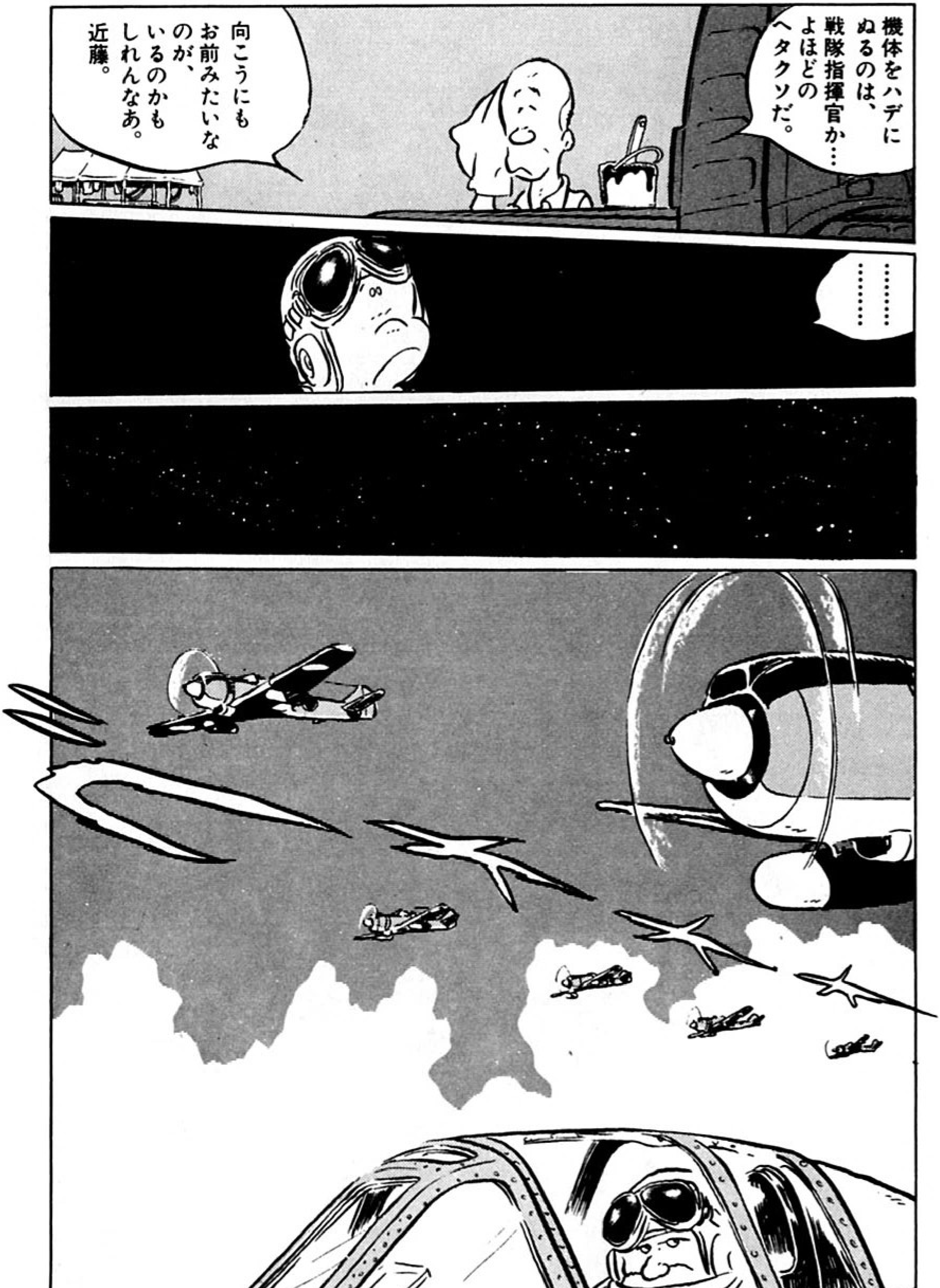


くえ、近藤。
う…このメシは……
くさいのはがまんしろ。レイテ湾で沈んだ輸送船からひろいあげた米だ。
こいつとひきかえに大勢死んでる。文句はいえん。
……
これは四国の米だな……
よくわかるな、近藤。
米の見わけもつかなくて、百姓はつとまらないよ。
そうか、お前は農家の出か。
米作るのと、飛行機に乗るのとどっちが難しい？

米は生きものだからな、機械のようにゃいかないよ。
はやくかえって米を作りたいか？
うんにゃ。
だってお前、百姓だろ？
そうさ。だからのら仕事より、飛行機に乗ってるほうが楽だ。
ふーん。
村上さんは学校で本ばかり読んでたんか？
うん。飛行機に乗って戦場へでるなんて考えてもみなかった。
隊長!!

近藤！ 今日の空中衝突でハゲた赤色、整備班長がぬってくれたぞ、いってみろ。
隊長。
うん。まれにみる不器用な操縦者だ。よくまあ、どうまちがったかここまでもったもんだ。
米作りよりやさしいといってましたが……
そりゃそうさ。
隊長も……
しらなんだか。草深い信州の農家の三男だよ、わしゃな。
この戦場では、なによりも大勢の百姓が死ぬ。学徒兵が死ぬといったって……職業軍人が死ぬといったって……死んでいく百姓の数にくらべたら問題にならん。
百姓は、米を作る時と同じに一生懸命、まじめにがんばって……
まじめに死んでゆくよ……
みっともないなあ。

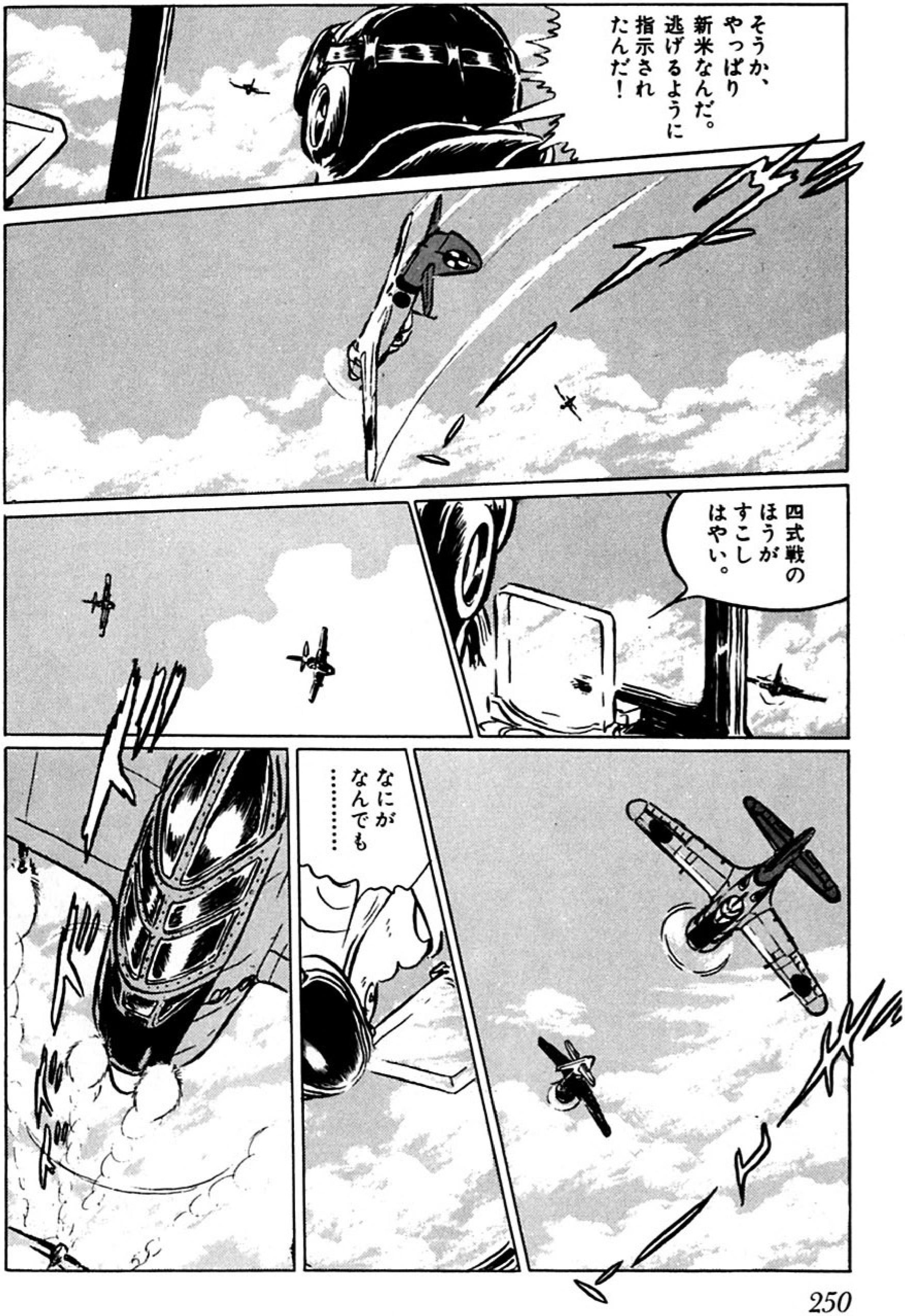
なにが？
この尾翼の
赤がか？
お前が
ヘタクソ
なんだから、
しようがある
めえが。
こう
しとかんと、
お前はすぐ
編隊から
はぐれて
しまう。
今日だって
見つけて
もらったのは、
この赤い
しっぽの
おかげだぞ。
わかったら
おがめ
おがめ。
お前、
白い敵機
と衝突
したの
か？
白？……
いや……
そうだ、
あいつも、
胴体の
うしろ半分が
白かった。
俺の機体と
同じような
ぬりわけ方で、
まっ白だった。

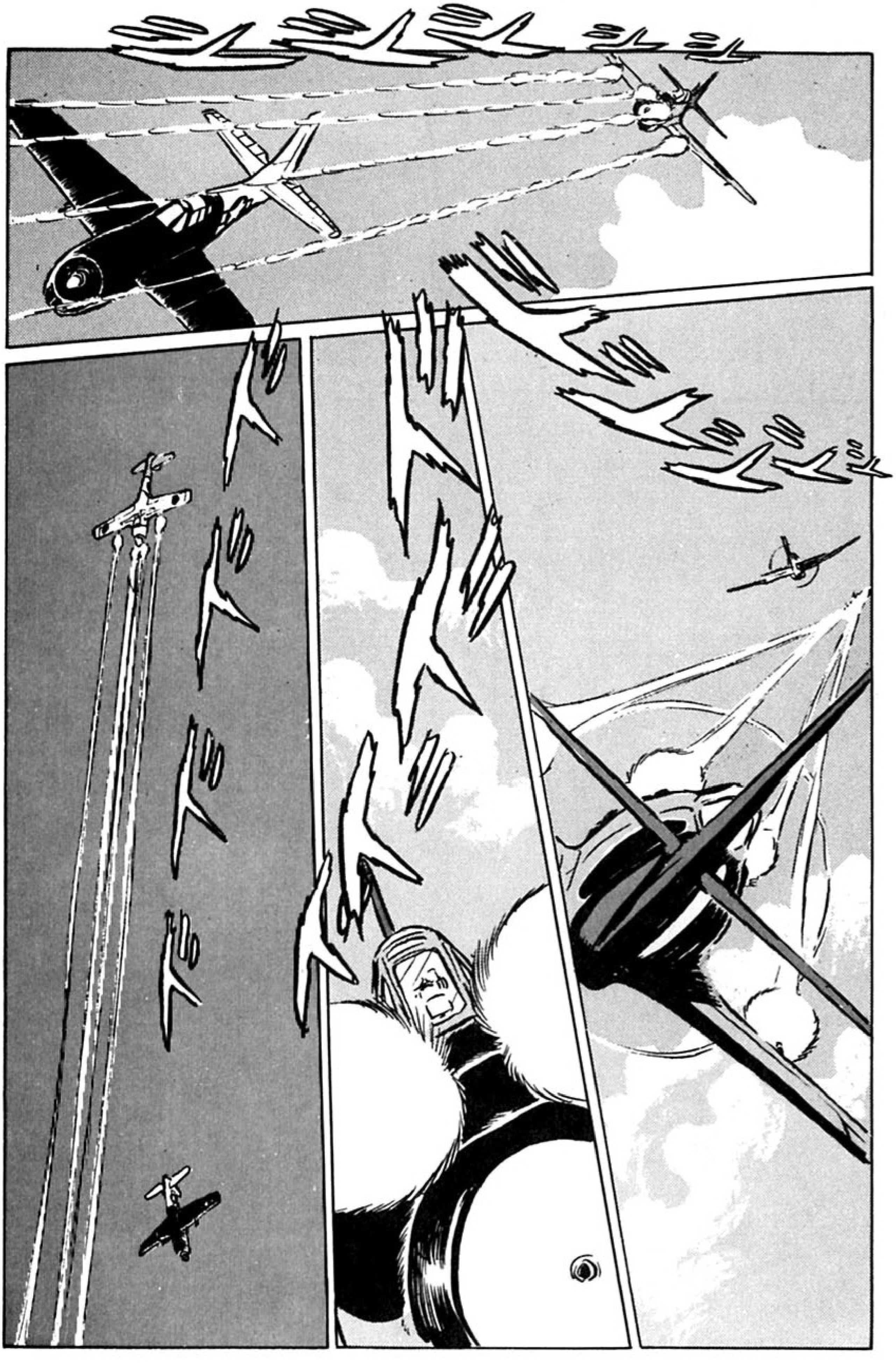

機体をハデにぬるのは、戦隊指揮官か……よほどのヘタクソだ。
向こうにもお前みたいなのが、いるのかもしれんなあ。近藤。
………

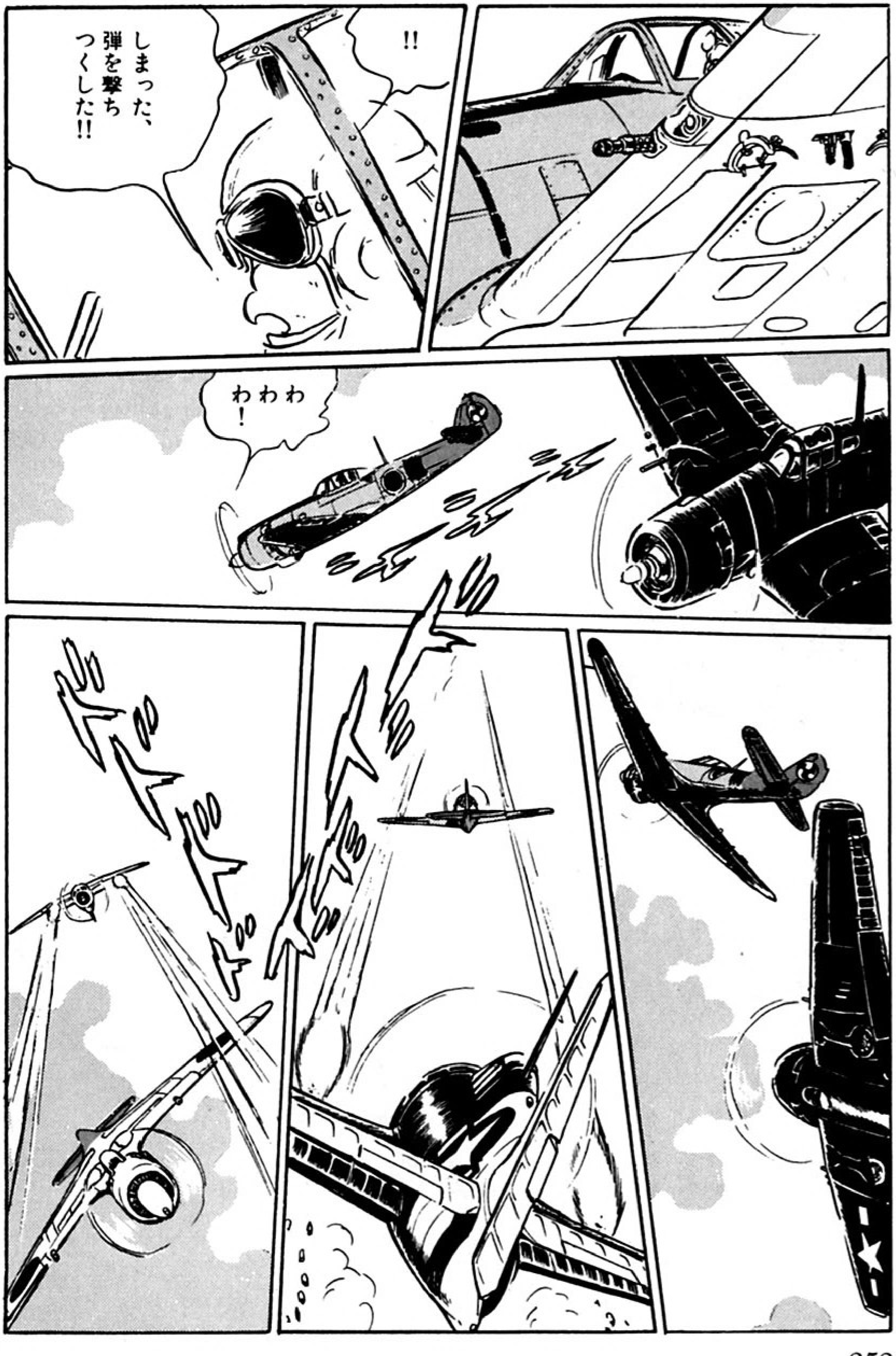
前下方
千メートル!!
敵が………
ラジオが
よくきこえて
助かるな。
海軍の空中無線
みたいだったら、
どうなるか
わからん。
敵は、まだ
気づいて
いない、
まわりこむぞ!!

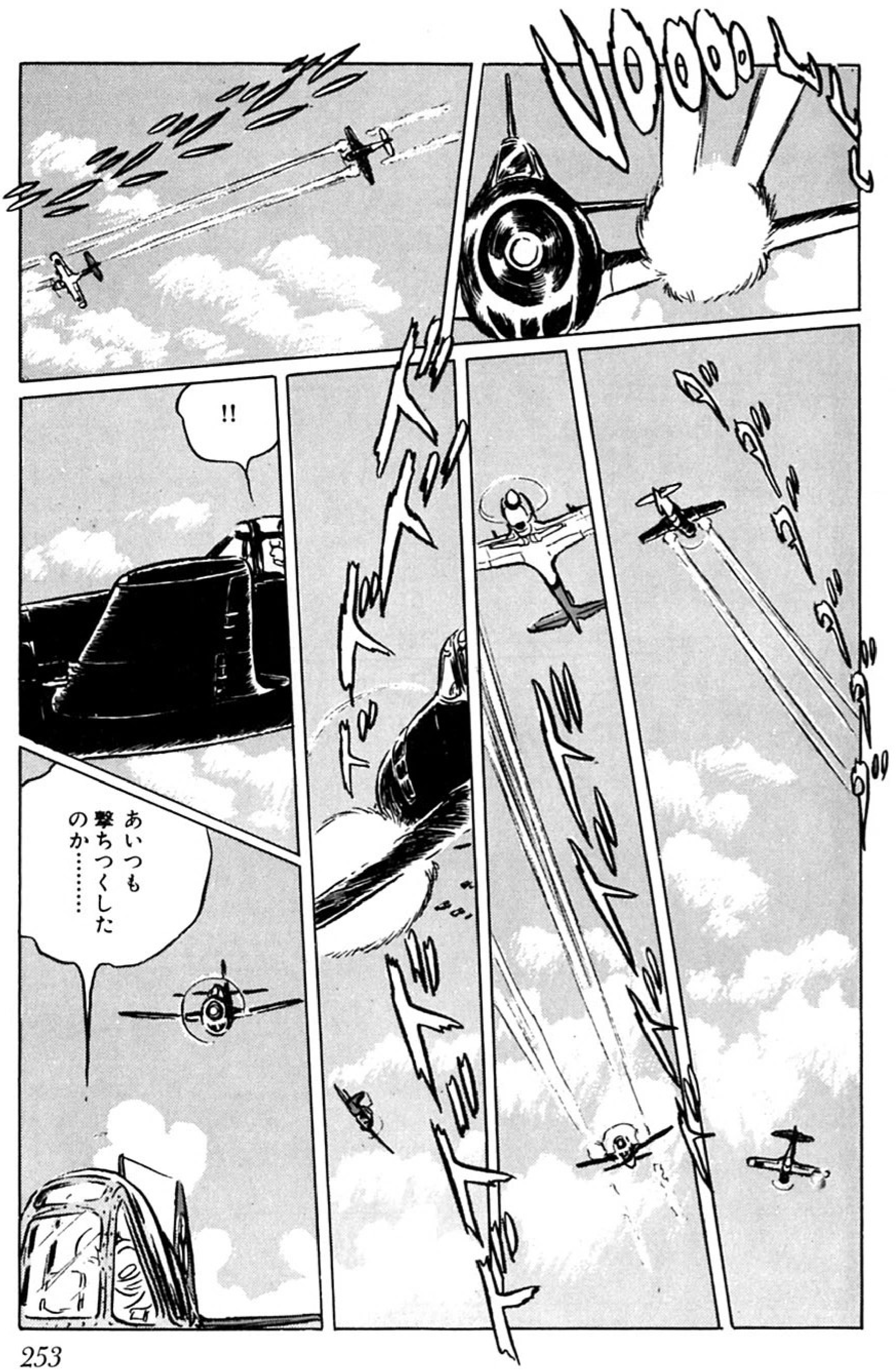
うまいぐあいに断雲が、こちらを隠してくれる。

!!
あいつだ!!
しっぽの白い
あいつだ!!
近藤!!
あの白いのは
お前に
まかせる!!
あとは
気にせずに、
新米どうし
ぞんぶんに
戦え!
いくぞ!!
!!
あいつ…編隊から
離れて逃げだした
……………
ほかの奴は
向かってくる!


そうか、
やっぱり
新米なんだ。
逃げるように
指示され
たんだ！
四式戦の
ほうが
すこし
はやい。
なにが
なんでも
…………

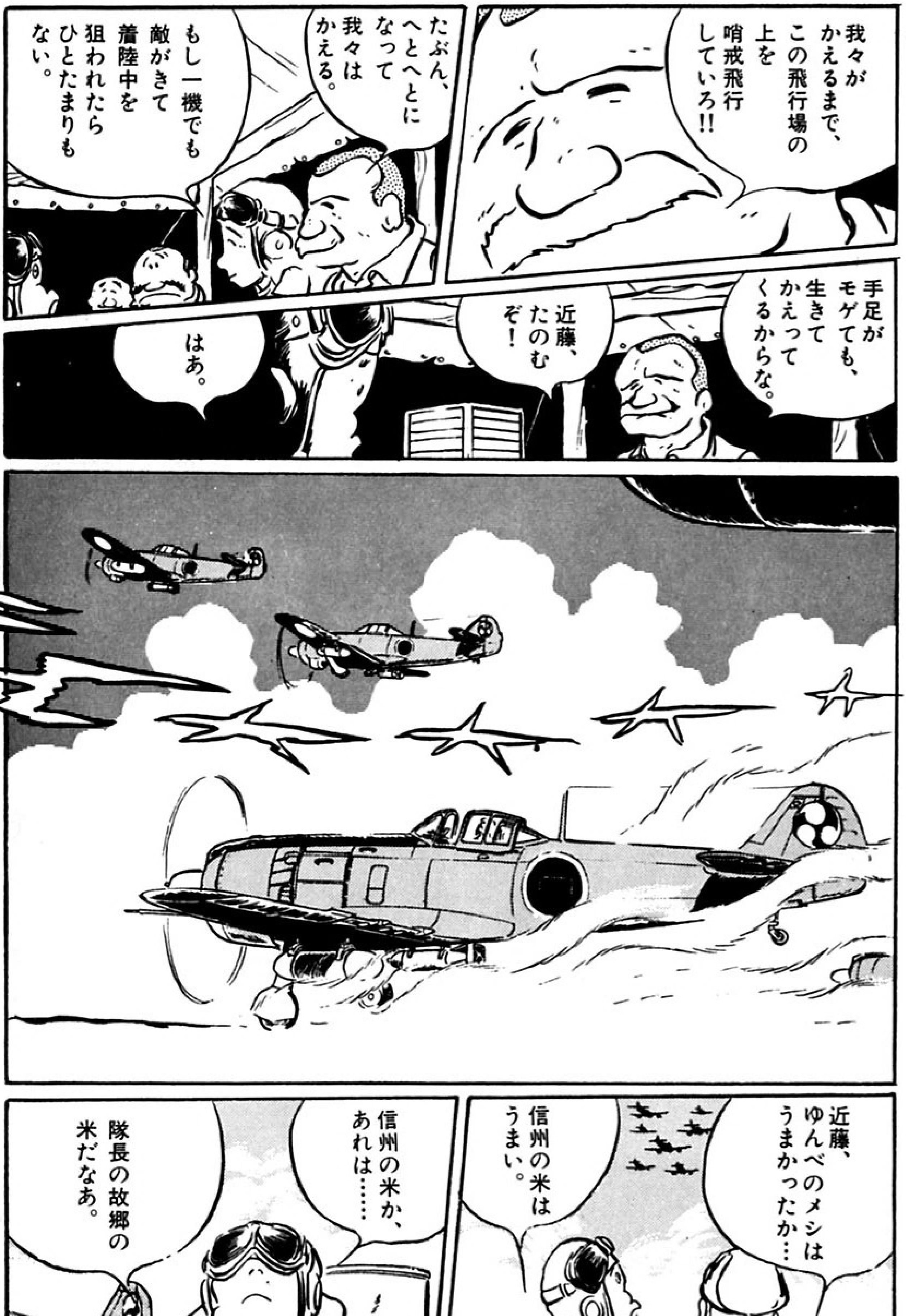



!!
しまった、弾を撃ちつくした!!
わわわ!

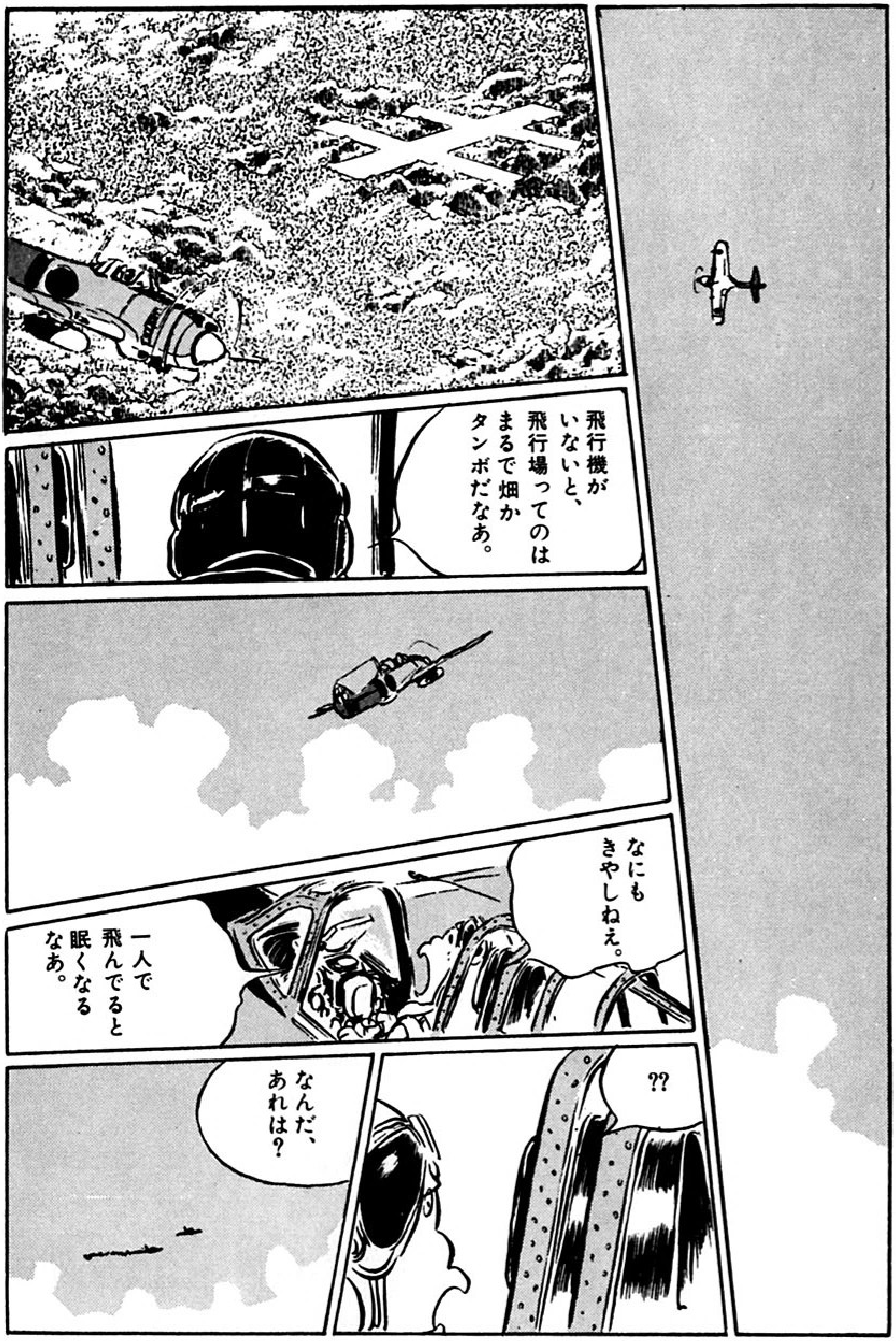

!!
あいつも撃ちつくしたのか……

あいつも
百姓かなあ。
アメリカにも
百姓がいるのか
なあ〜〜?
……
百姓だ、
あれは
百姓だ。
まぎれもなく
百姓だ。
……
……

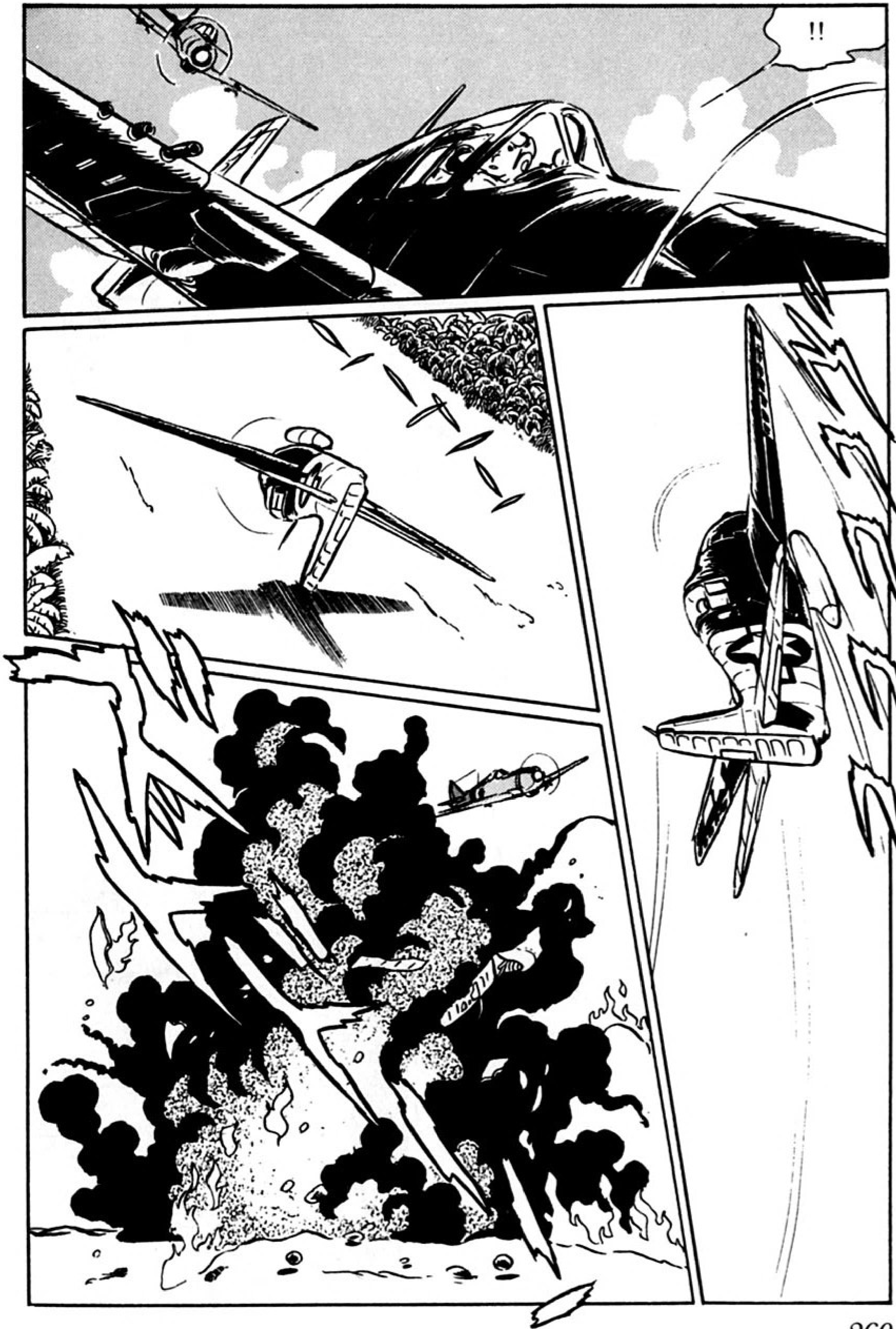
あいつは百姓だって？
ちがいない。
向こうも、俺を見てそう思ったかなあ。
しかし、弾を一日で撃ちつくすなんてなあ、ヘタクソにかぎって引金をひきっぱなしにするからだよ。
ここぞと思う時に、タタタンと短く的確に撃つんだ、わかるか？
へい。
まあ、おたがいケガなかっただけ幸運だ。
さあくえ。
この白米は……
明朝、レイテ湾の敵機動部隊を、爆装して強襲する！
それで……
俺は、実戦で機関砲を撃ったのも今日がはじめてで……爆弾なんか、落したことがない。
近藤は留守番だ。
え。
それじゃ、これをくう資格が……


我々がかえるまで、この飛行場の上を哨戒飛行していろ!!
たぶん、へとへとになって我々はかえる。
もし一機でも敵がきて着陸中を狙われたらひとたまりもない。
手足がモゲても、生きてかえってくるからな。
近藤、たのむぞ!
はあ。
近藤、ゆんべのメシはうまかったか…
信州の米はうまい。
信州の米か、あれは……
隊長の故郷の米だなあ。

でも、もうあがったほうがよかろうか。
うん……一時間もすりゃかえってくる!!
かえってくればいいが………
敵と接触したみたいだぞ。
第一中隊はそのままつっこめ!
第二中隊は爆弾をすてろ! 右上方グラマンだ!
第三中隊は左からまわりこめ! 甲板にたたきつけろ!!
妨害電波だ!
敵もかかりっきりで迎撃してるんだ!!
こっちへは一機もこない。
俺、あがってるよ。
気をつけろ、ムチャするなよ!! 敵にあったらうまく逃げろ!!

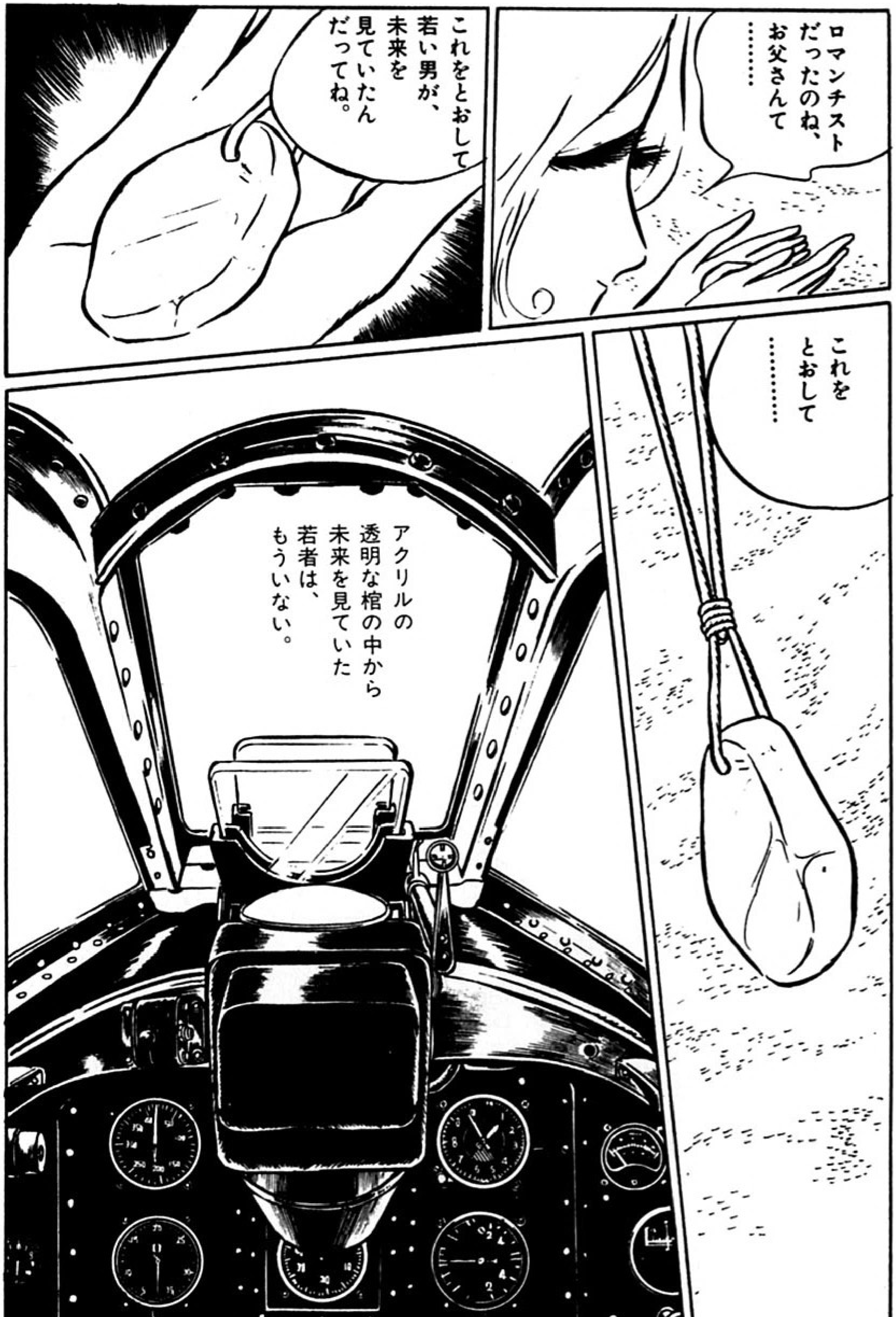

飛行機が
いないと、
飛行場ってのは
まるで畑か
タンボだなあ。
なにも
きやしねえ。
一人で
飛んでると
眠くなる
なあ。
??
なんだ、
あれは？

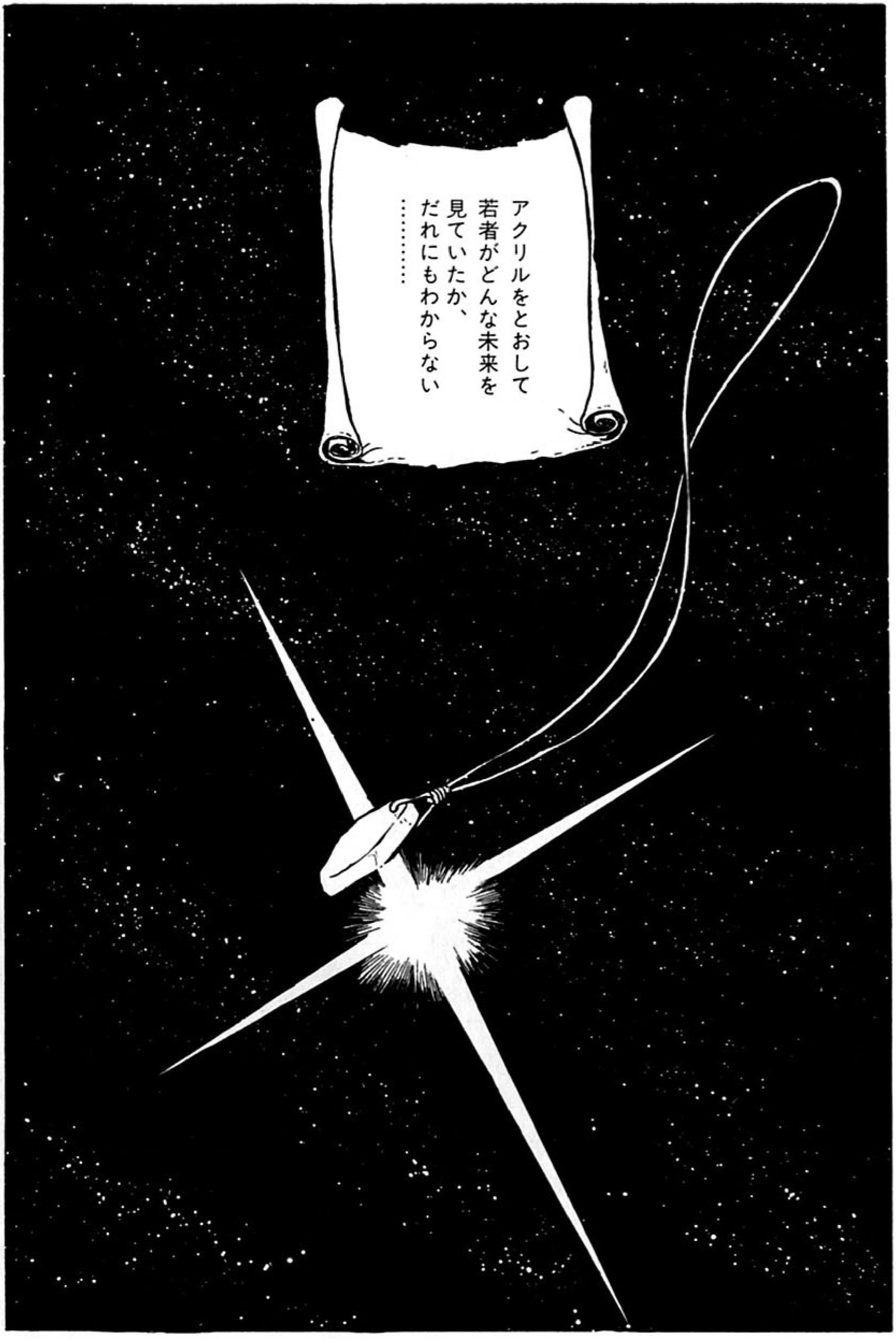
あ……
ここまできて一機になってしまった。
そうだ、敵機は…
と、いってもなにもききやしない。
?
あれは……
敵だ!!
くそ!!



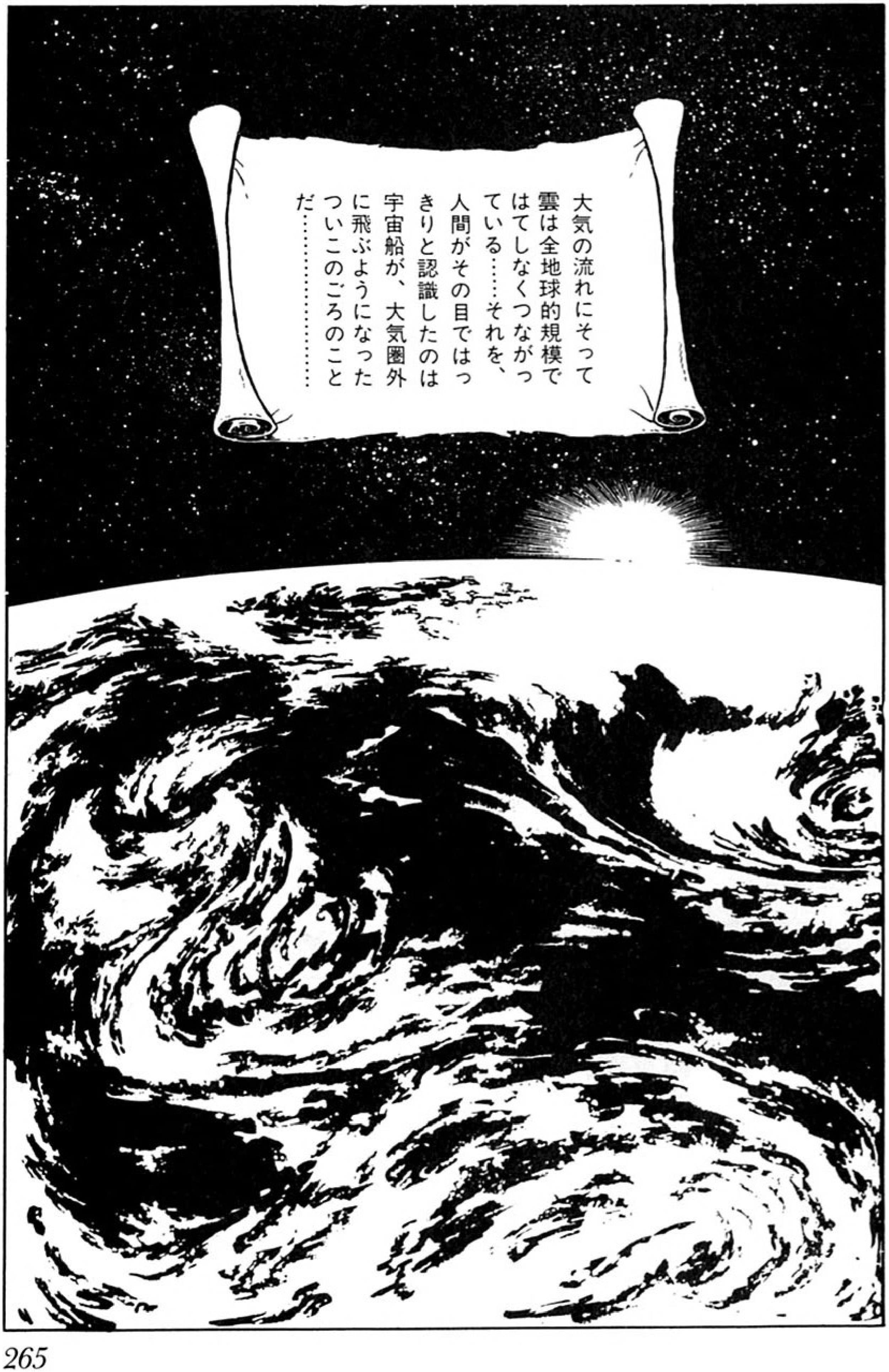
あいつが落ちた、あいつが……
なんであいつが一機でここへきたんだ……なんであいつが……
こいつは、艦隊の上空にいてうちの部隊の強襲にであっちまったんだ。
逃げろといわれて、まよってしまったらしい。
どうしてそれが…
敵が心配して暗号も使わずこいつを呼んでいる。
みんなが心配しているからはやくかえれ、と。
………
テキサスの百姓だ。
たった一機かえってきたが重傷をおってて、ひっくりかえってしまった…死んだよ……
隊長も死んだ……みんな死んだ…

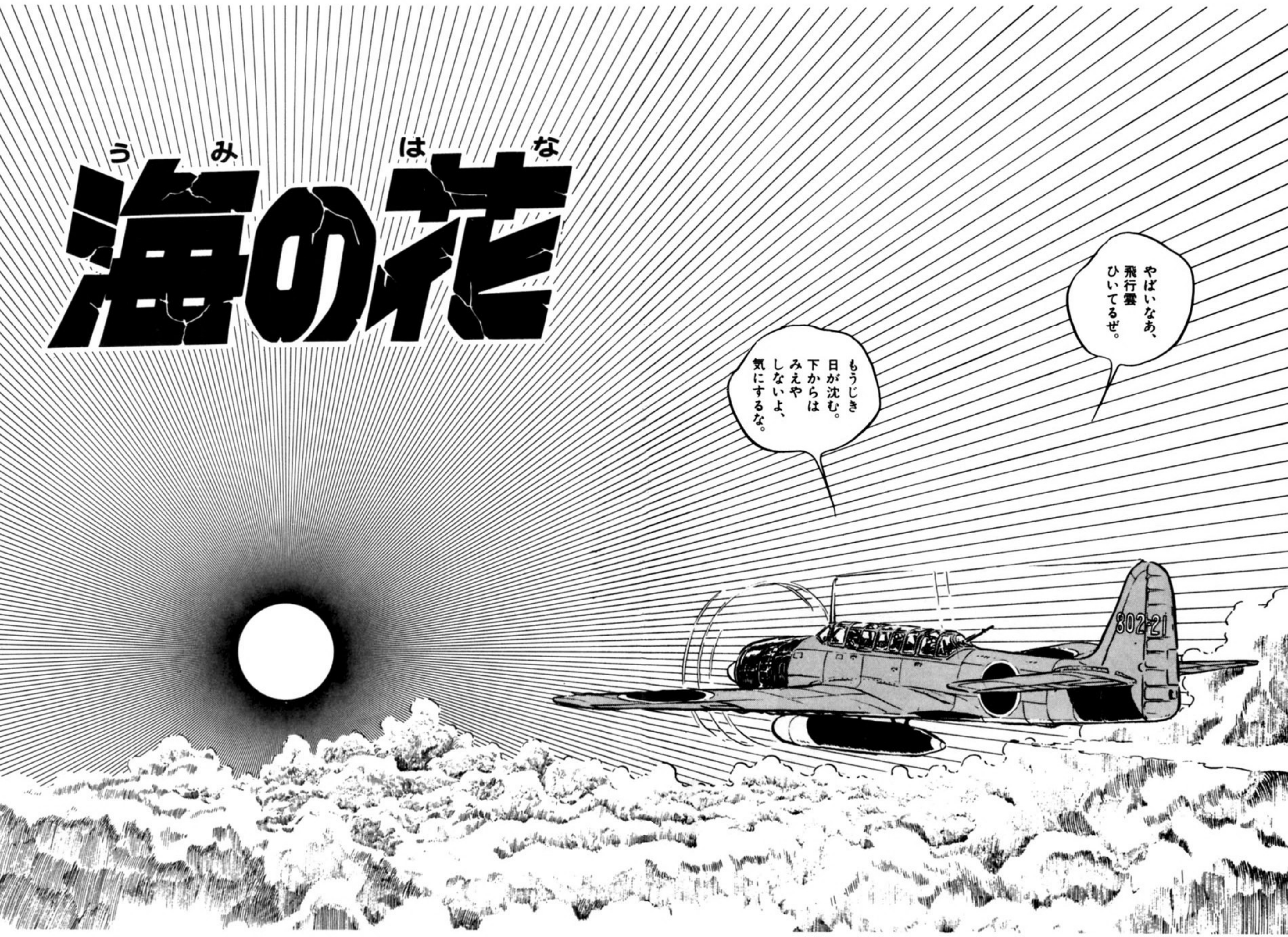
俺には飛行機の操縦席が……有機ガラスのカンオケに見えてきた…
カンオケだ、値段の高い透明なカンオケだ。
その昔は、有機ガラスとかにおいガラスとかいってたんだってさ。
製法は原始的だったらしいけど、アクリルの一種さ。
あのドアと同じものだ。
COFFEE
これは親父の形見だった。
ずっと、お米作ってたの、お父さんは？
うん、途中すこしだけどういうわけか、飛行機に乗ったらしいけどね。
これは、その時以来もっていたものだ。
死ぬ時いったよ。お前にいい相手が見つかったら、これをあげろって……
これには男の魂が宿っているから、きっとその娘さんはお前のことを、生涯好きになってくれるってね。


ロマンチストだったのね、お父さんて……
これをとおして若い男が、未来を見ていたんだってね。
これをとおして……
アクリルの透明な棺の中から未来を見ていた若者は、もういない。

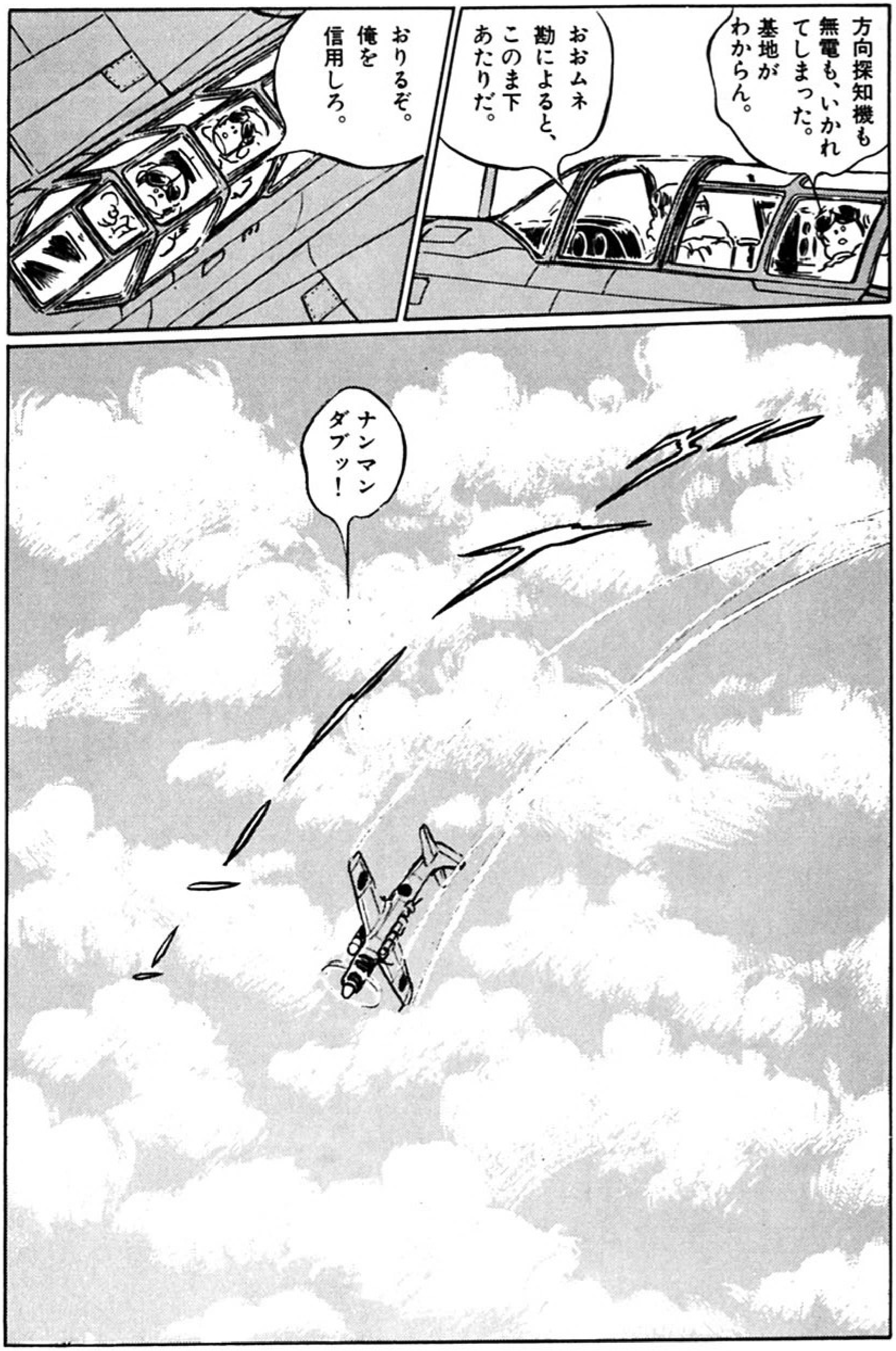


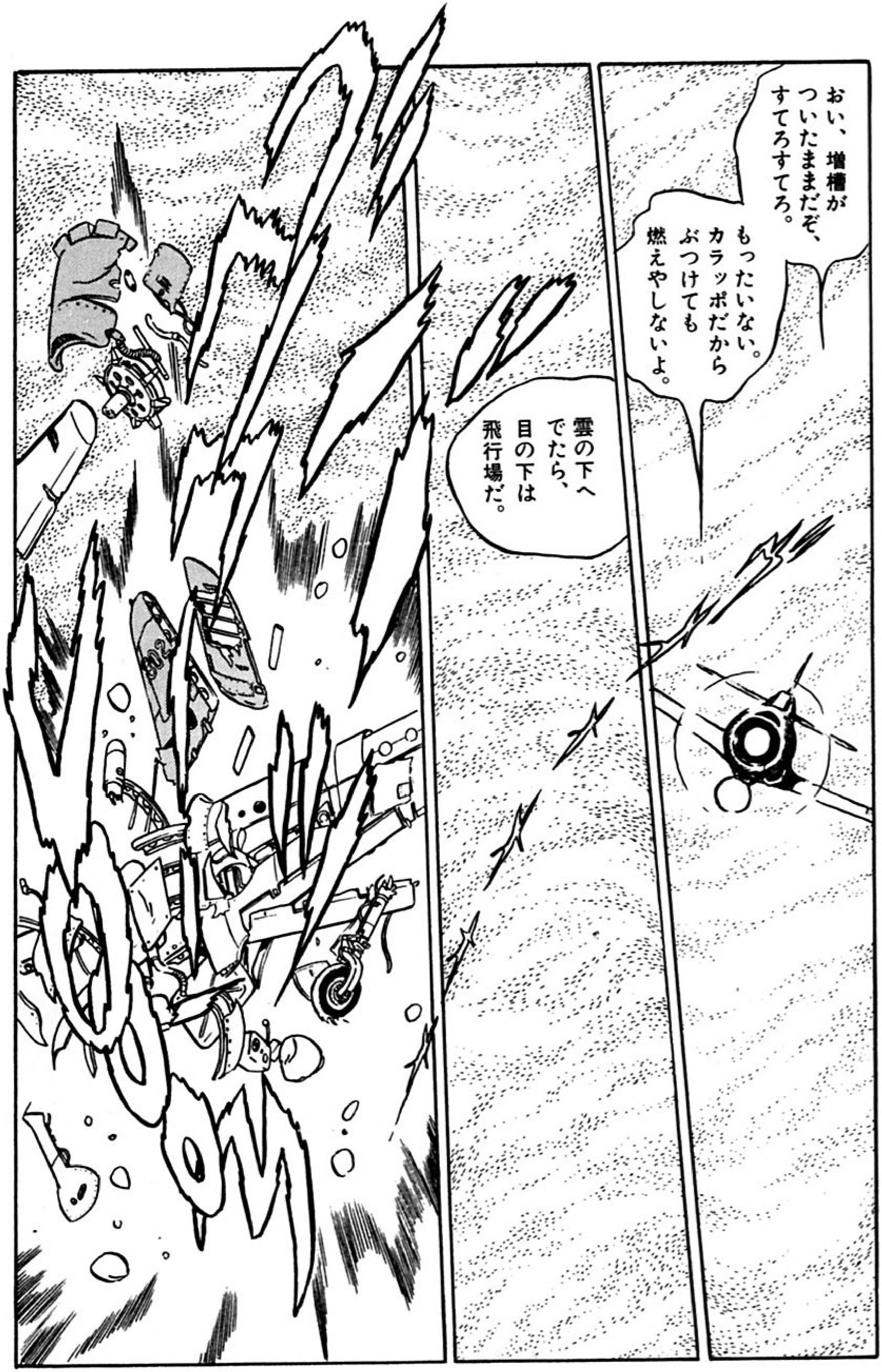
■「ビッグコミックオリジナル」1977年8月5日号掲載

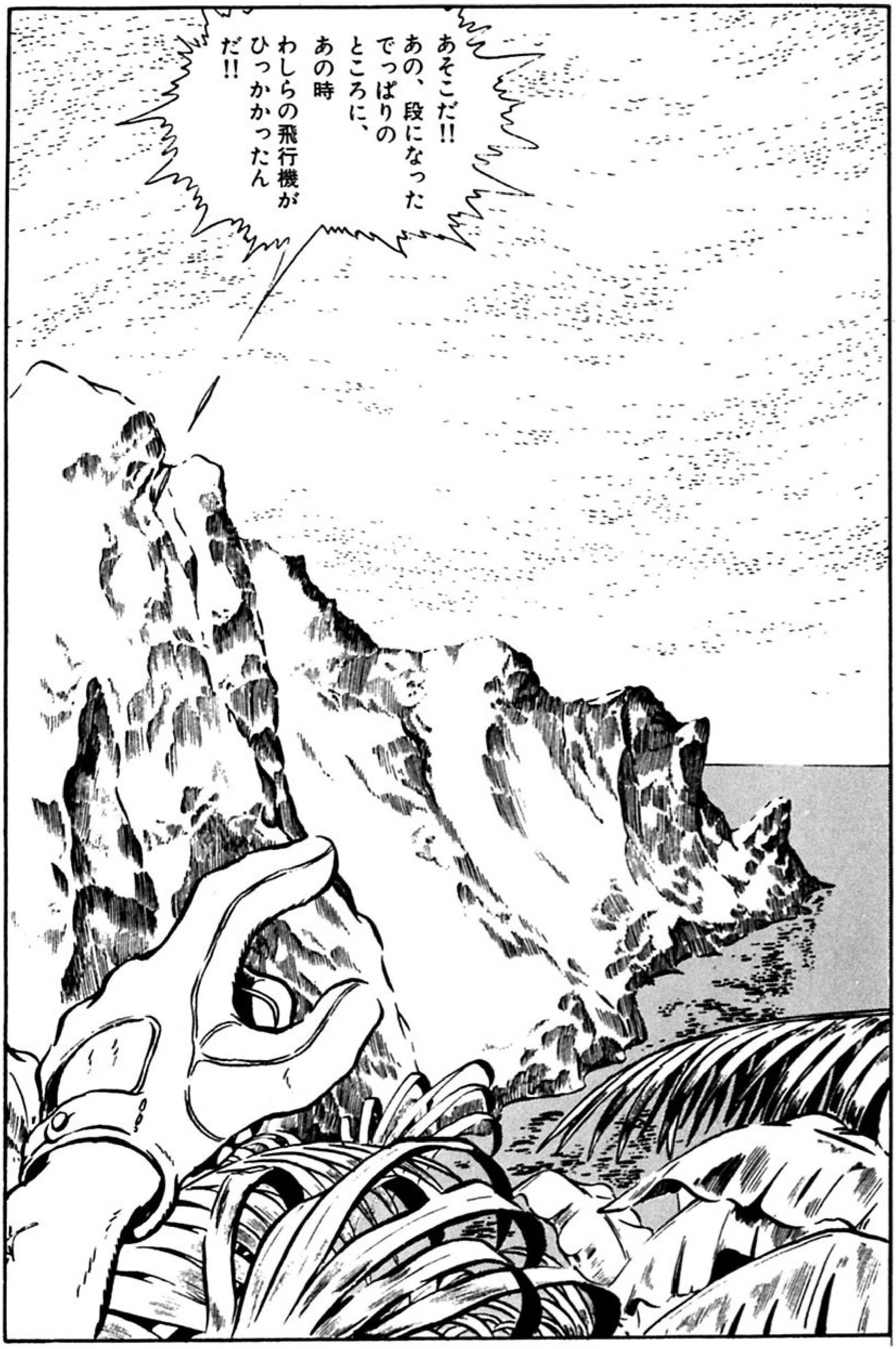

大気の流れにそって雲は全地球的規模ではてしなくつながっている……それを、人間がその目ではっきりと認識したのは宇宙船が、大気圏外に飛ぶようになったついこのごろのことだ……


海の花（うみのはな）
やばいなあ、飛行雲ひいてるぜ。
もうじき日が沈む。下からはみえやしないよ、気にするな。
802-21

密雲がどこまでもつづいて下が見えない。このままで日がくれたらよわるなあ。
なるようになる、心配するな。

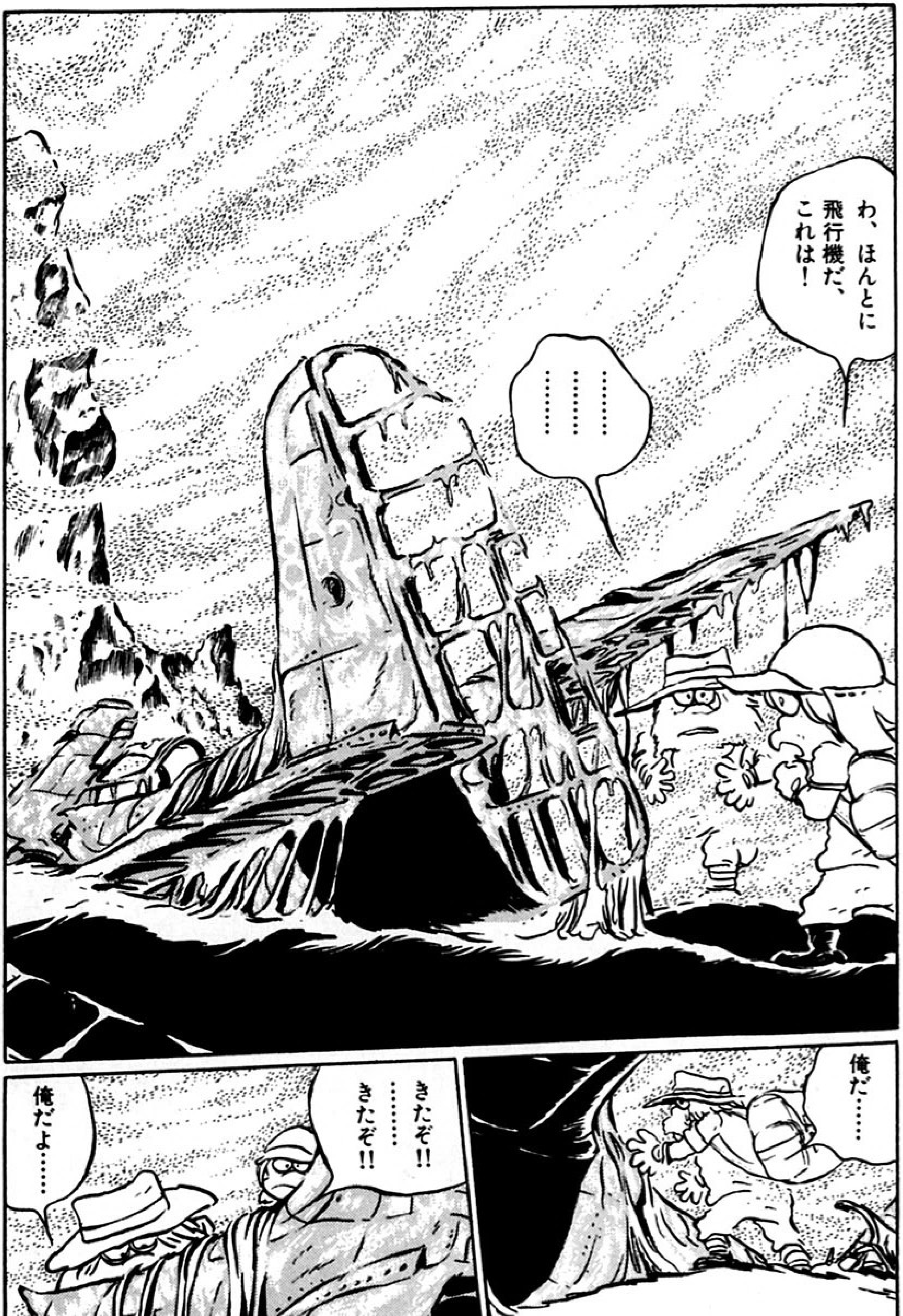

方向探知機も無電も、いかれてしまった。基地がわからん。
おおムネ勘によると、このまま下あたりだ。
おりるぞ。俺を信用しろ。
ナンマンダブッ!


おい、増槽がついたままだぞ、すてろすてろ。
もったいない。カラッポだからぶつけても燃えやしないよ。
雲の下へでたら、目の下は飛行場だ。


あそこだ!!
あの、段になった
でっぱりの
ところに、
あの時
わしらの飛行機が
ひっかかったん
だ!!

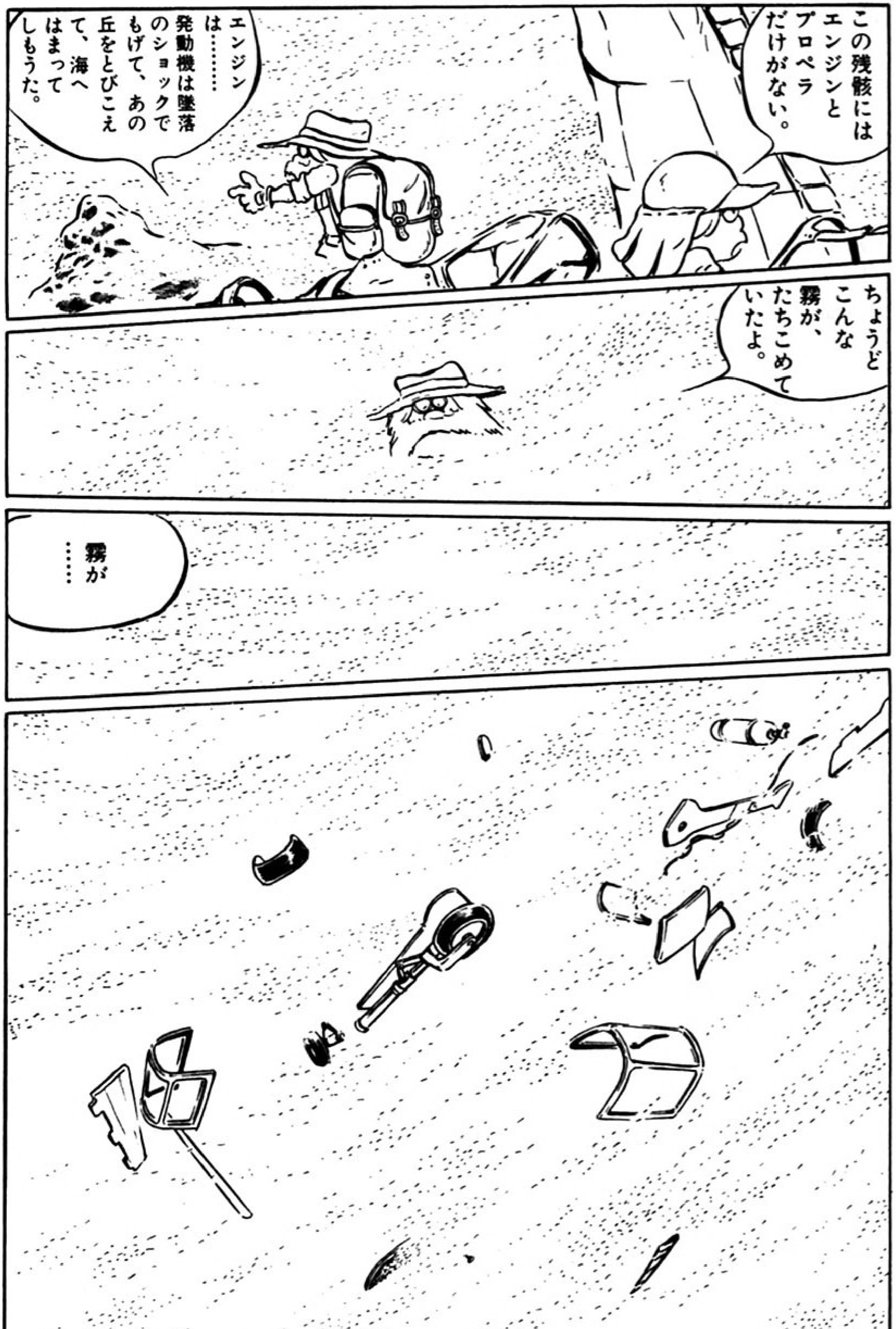
ほら、あそこに尾翼の残骸が見えようが。
そういえばあれは……
しかし、木だと思えば木に見えるし……
バカモンたるんじょる。
あそこまでいってみようぞ。
えーっ、あんなところまで？
戦友のミタマが呼んじょる。草の根わけてもいかねばナラヌ。
俺のアタマは、パーになりそう。
ほ、ほんとにいくのかい、おじいちゃん。
当時は、生命の危険があった。いまは、まったくない。そう思えばこれしき気楽なものよ。

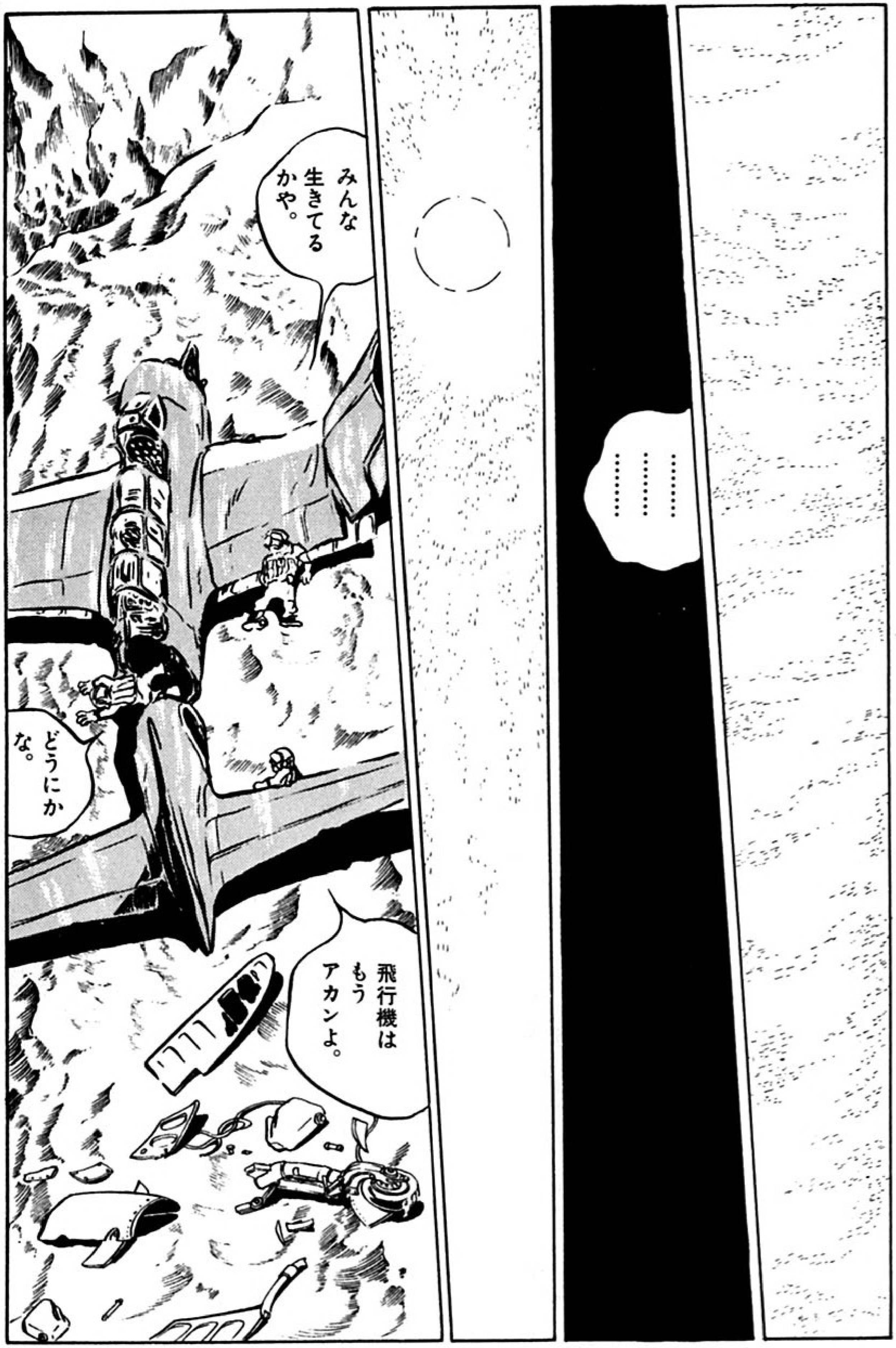
こら〜〜〜っ、モタモタすんな〜それでも男か〜〜〜!
許さんぞ〜〜〜!
なけてきたよ。
!!
お…お……
ふーん、ニューギニアでも霧がでるのか……
おお!!あの時と同じじゃ!!あの時と……
あの時、わしらの彩雲11型は、この雲の中で方位をうしなって……
レーダーも無電も方向探知機も、みんな故障して……
ここへ愛機が墜落した……


わ、ほんとに
飛行機だ、
これは！
……
……
俺だ……
きたぞ!!
……
きたぞ!!
俺だよ……

三十二年間ここにじっとしていたのか、お前は……
俺はきたぞ、ほら…俺だぞわかるか？
リベットも浮いちまって…おたがい年をとったなあ。俺も老眼になってしまった。
三十二年前の残骸か……
俺は、そのころ影も形もなかったんか……
しかし、きれいなところだなあ。こんなところで、なんで戦争せにゃならんかったんかねえ。
!!

バカッ!! 海を見るなっ、海を見てはいかん!!
え?? ??
しかし、海はとてもきれいで……
花を見たらどうするんじゃ!
ハナ?
そうだ。海の花を見たら、メンバーのうちのだれかが死ぬ……
この島の住民に伝わる古い伝説じゃ。
海のハナ?
ハテ、波のハナちゅうのはカツオブシのことだけど、海のハナちゅうのは、なんのことだろう。
俺達は……三十二年前ここで……海の花を見てしまった……海の中に咲く花を……


この残骸にはエンジンとプロペラだけがない。
エンジンは……発動機は墜落のショックでもげて、あの丘をとびこえて、海へはまってしもうた。
ちょうどこんな霧が、たちこめていたよ。
霧が……


……
みんな生きてるかや。
どうにかかな。
飛行機はもうアカンよ。

ここはどこだろう?
だから、むやみに降下するのはいやだというたんや。
すまん。
おおムネ、ファタン島のひとつだと思うが……
ふーっ、飛行服を脱いだらもう動けん。
あちこちぶつけてどこか体の一部が、全員いかれたらしいねん。
飛行機がこのありさまだから、人間が無事ですむはずがない。
見ろ、エンジンなんかはるか向こうの海へとびこんだらしいぞ。
ありゃ…なんだあれは?
この島の人間らしい……
女だ!!

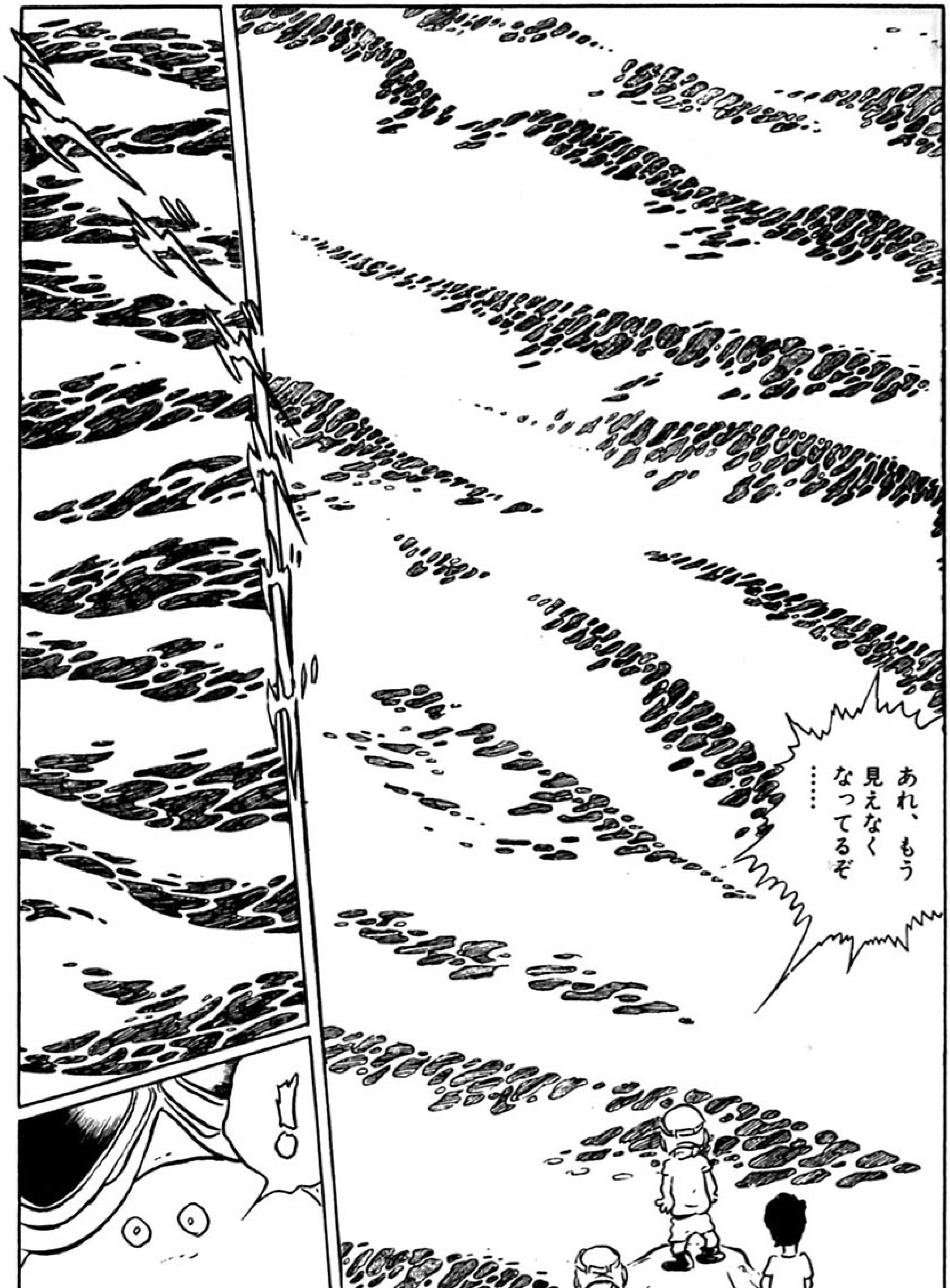
おい、こりゃナニ人だ？じっと見つめてるぞ。
さあなあ、ここは天国かな？
なんかいうてくれとるけどさっぱりわからん。寄ってらっしゃる、とかなんとかいってるみたいだ。
なんかしらんがおいでおいでと、いうとるみたい。
ついてこいということらしいなあ。
あんなところにいてもしようがない、ついていこう。
あ!?

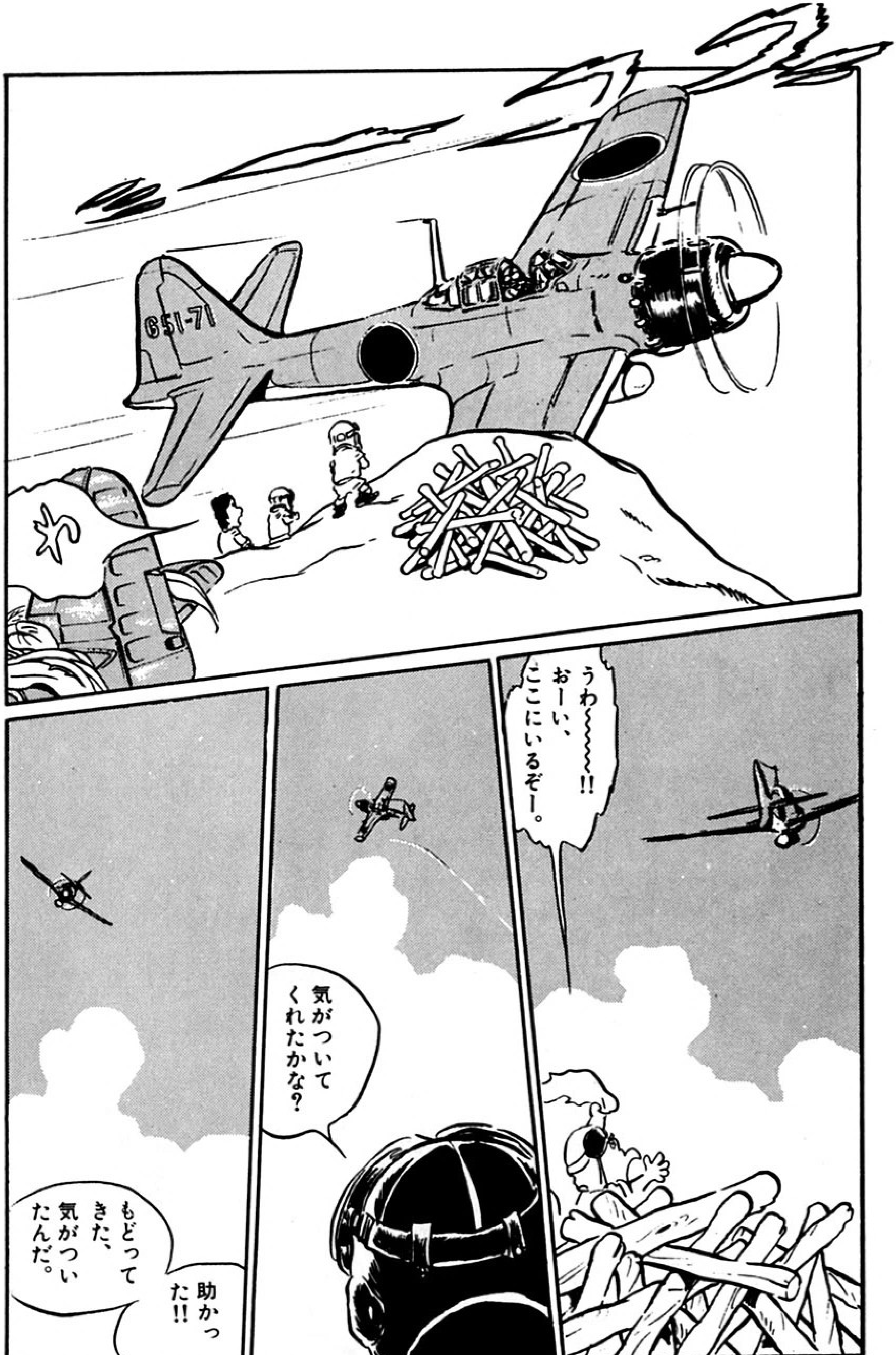
おい、ありゃ穴居民族だぜ、穴ボコの中にすんでいるんだ!!

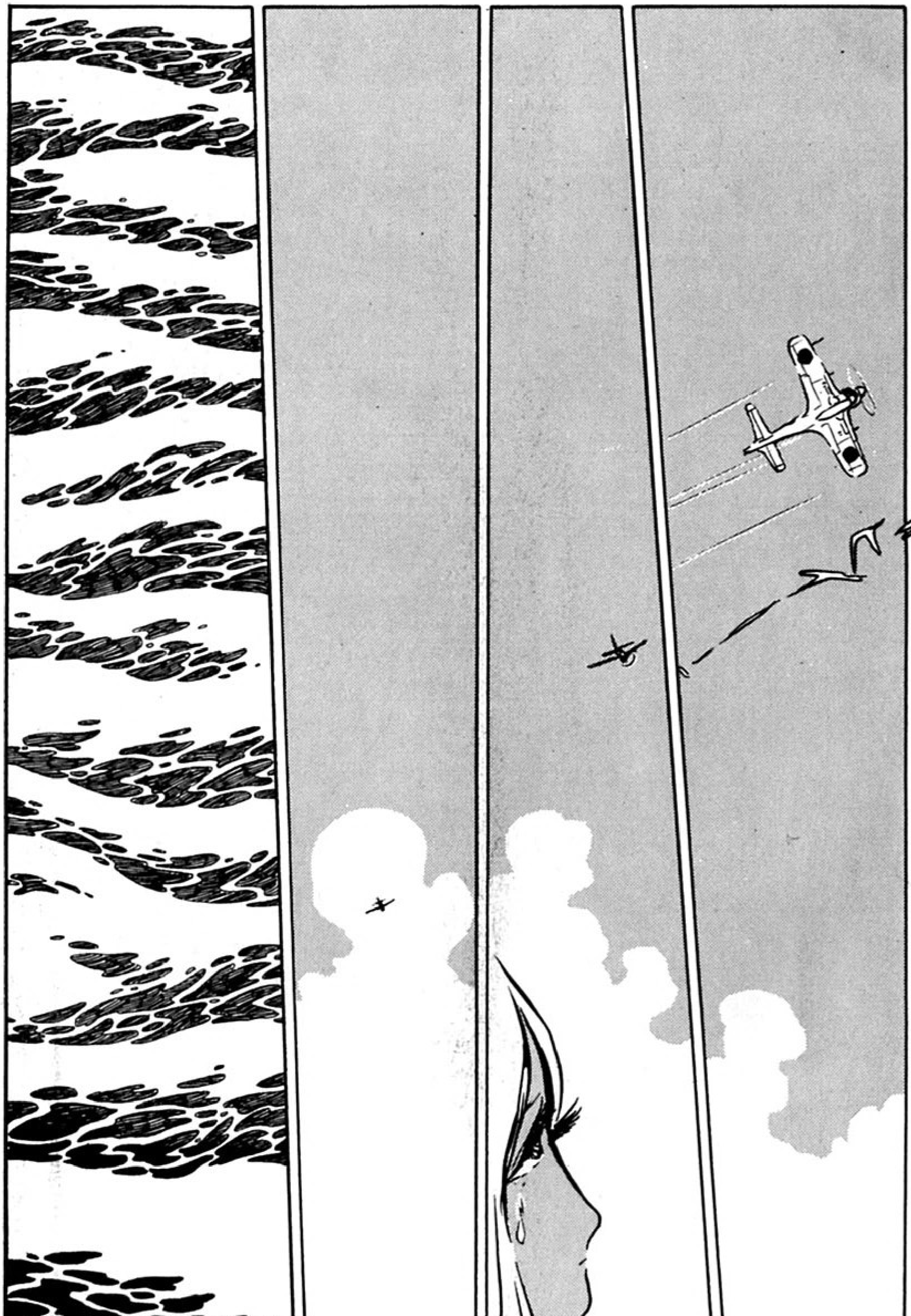
と、驚いてからはやひと月。
待遇がいいのでブクブク太った。
あの女と山下め、相性がいいらしい。
うん、人のこのみの問題だから文句はいえん。
マキは足りるだろうか？
ああ、山積みにしといたがなあ。
もうすこし積んどくべえや。
わかれをおしんでら。
あの女、なんていってたんだ。
気をつけていってらっしゃいといってたよ。
メナムメはやさしい女だよ。
俺達は面白うないねん。
すまん。
マキをいくら積んでも、味方はこない。
こなくてもやっとけば気晴しになる。

どうにもならんなあ。時間ばっかりすぎていくぞ。
俺達、死んだことになってるかもな。
戦争がおわっちまったのかもしれん。
勝ったのかな、負けたのかな。
……!!
おい…大山…岡田…あれはなんだろうか？

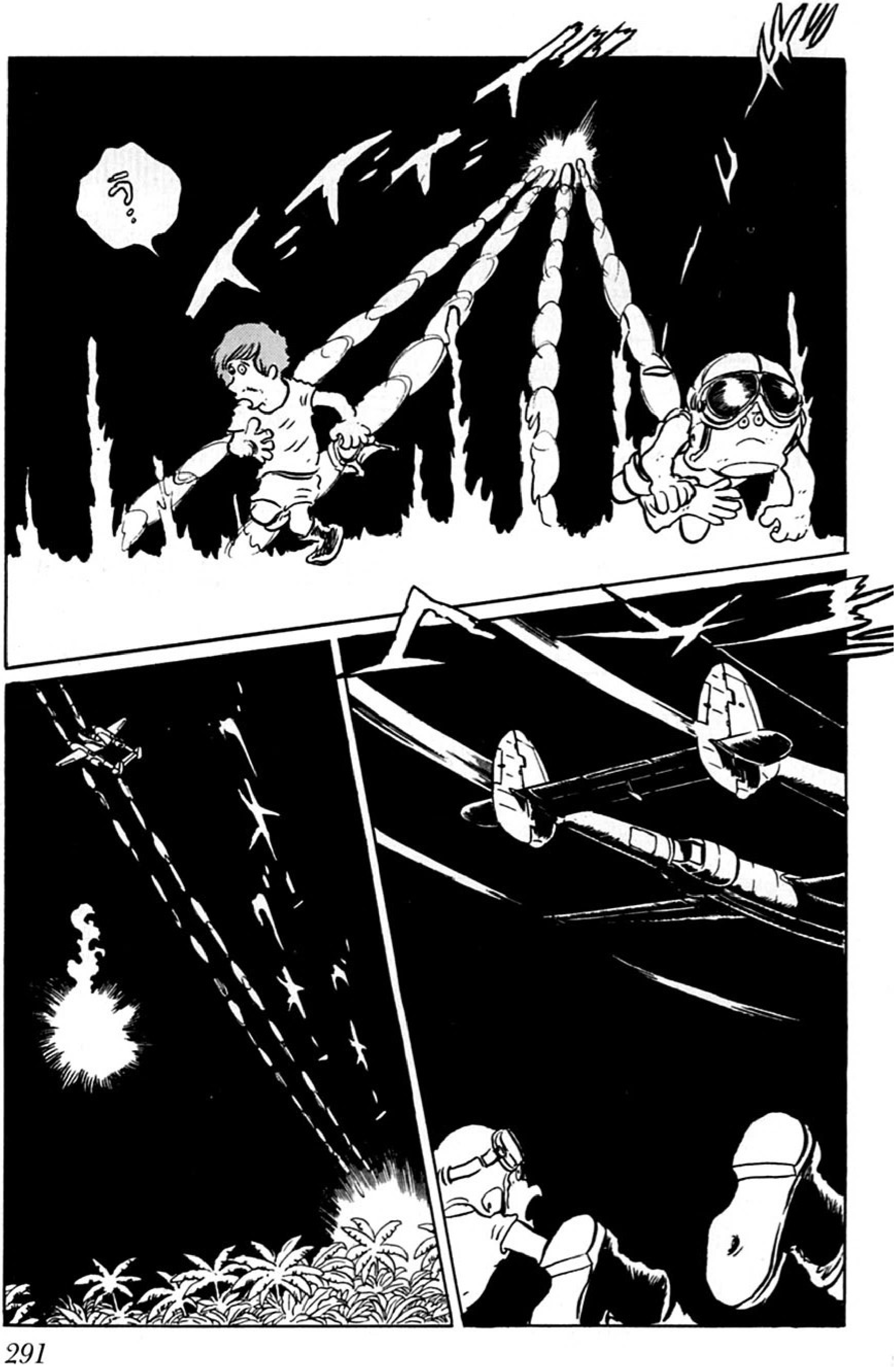
まるで、巨大な花みたいに見える!!
うん、海の底に花が咲いたみたいだぞ。
メナムメはなぜ、ないているんだ?
山下、きいてこい。
……
…
なんかいうちょる。
面白うない情景になった。
なんだって?
俺達は、一人を残してみんな死ぬってさ。
死ぬ?俺達が?
海の花を見た者は、友達をみんなうしなうって伝説がこの島にはあるんだってよ。


あれ、もう見えなくなってるぞ……
！


うわ〜〜〜〜!!
おーい、
ここにいるぞー。
気がついて
くれたかかな?
助かっ
た!!
もどって
きた、
気がつい
たんだ。



どうした
岡田よ。
山下がいなくなったんだ、どこにもいないんだ。
いないっ!?
あの女とどっかへ、いっちまったらしい。
照明弾だ、船がきたぞ助かったんだぞ!!
おーい山下ーっ、どこだーっ船がきたぞーっ!!
あっ!!


う。。

岡田!!
岡田っ!!
……
……
……
岡田は死んだ……
山下もとうとう見つからなかった……
あの女とどこかで死んだのじゃろうと思う。
この下がその穴居民族の……

BIG HOTEL
SWEET SHOP
HOTEL
GAME CENTER
Bar TOM
SOUND ROCK
むわ

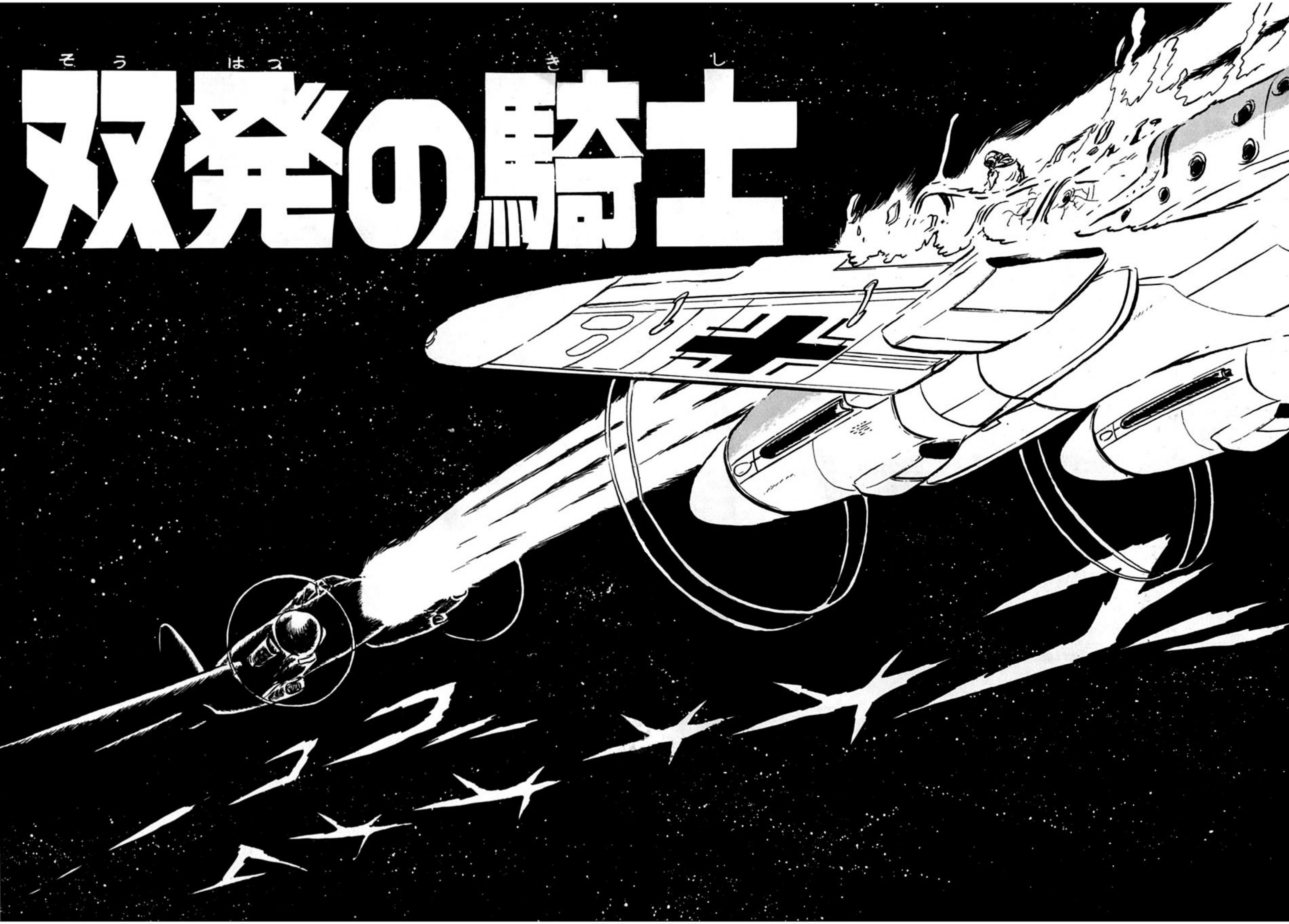
アナタ、大山サンカ？
え。
コレ、ワタシノパパトママガ、アナタキタラワタセトイッテタ。
ヨク、ハナシニ聞イテタカラ、顔見レバアナタトワカル。
パパモママモ死ンデ、モウイナイ。
……!! 山下!! その顔は山下!!
お前、山下とメナムメの……
海に花が咲くわけがないよなあ。
海の花は見た者にしか信じられない……

■「ビッグコミックオリジナル」1977年10月20日号掲載

THE COCKPIT

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS

ドイツの偵察機が現在、予定コースより……そうだ……少し右へ流されている……そうだ………上空の風が強い…
奴はたぶんメッサーシュミットMe410だ…
ウエンザー大佐が例によって前方から接近する……相対速度は………


双発の騎士

ドイツ機は
レーダー
から
消えた…
ウエンザー
大佐の
ウデはいつも
ながらたいした
ものだ。
こちら
ウエンザー、
ターゲットは
一撃で消えた。
これより基地へ
帰る。
!!
今の
ターゲットが
落ちた炎の輪だ。
ドーバーに
捧げる火の
指輪だ……

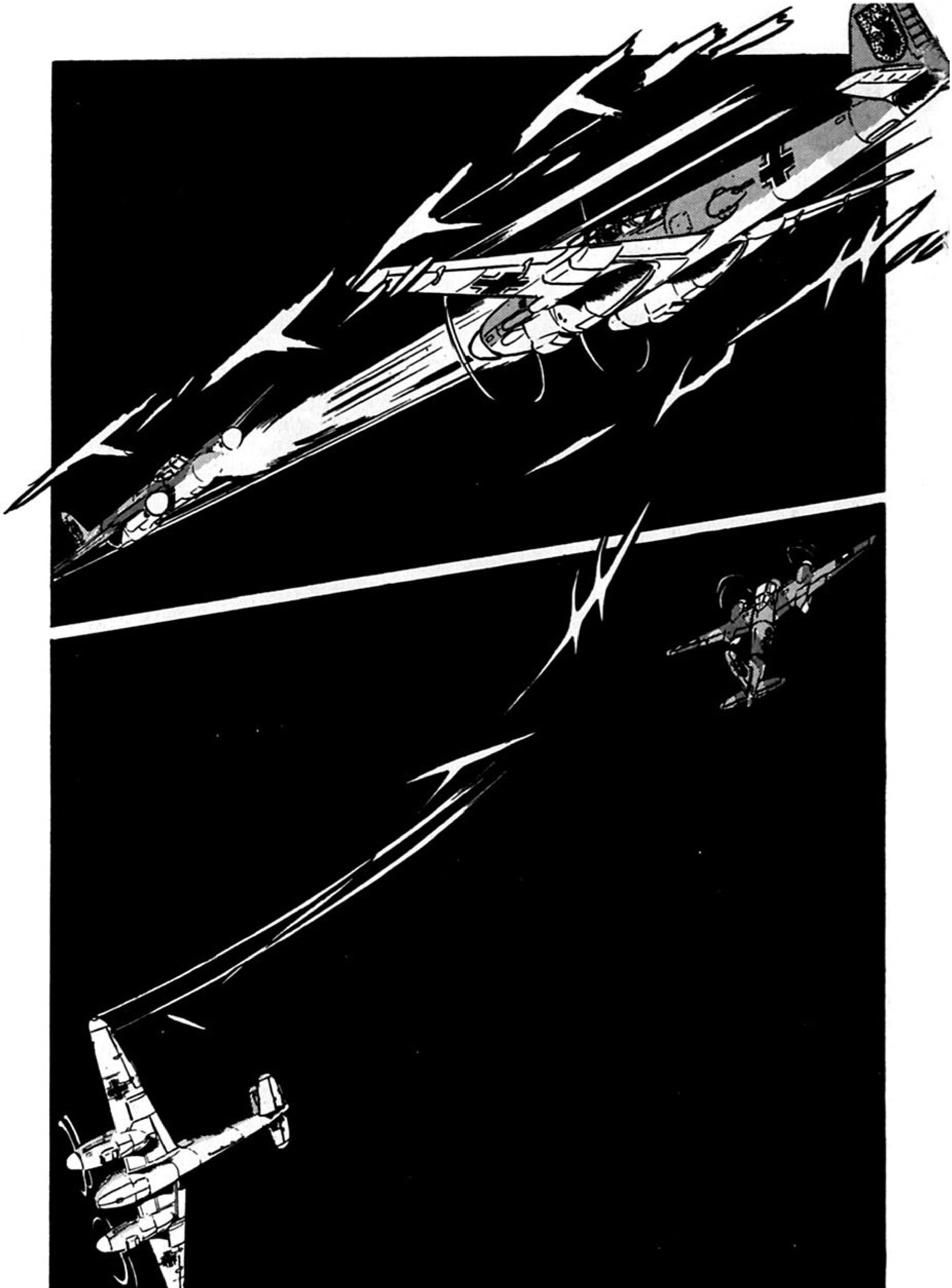
これは
きみに捧げる
金のエンゲージ
リングだよ、
ベス……
ウエン
ザー
……
なんだい
？
あなた、
なぜドイツ機
の正面から
たち向うの？
モスキートの
速度は
ドイツ機より
はやいし……
うしろでも
どこでも
自分の望む好きな
ポジションを
選択することが
できるのに。
前方から
かかるのは
危険じゃない
の？
ドイツ機が
機銃をもってて
発砲したら……
それは
それで
いい。
相手の背中から
切りつけるのは
騎士のやること
じゃない。

騎士は正面から堂々と戦いをいどむべきだ。
俺の先祖もそれを誇りにしていた。
俺の代でそれを台無しにしたくはない。
でも、そのために危険を犯すのは……………それにもう時代も変ったし……
そのために死ぬのなら本望だ。
騎士として戦うのが、男の戦いのやり方だ!!
それ以外の戦い方は俺にはない!!

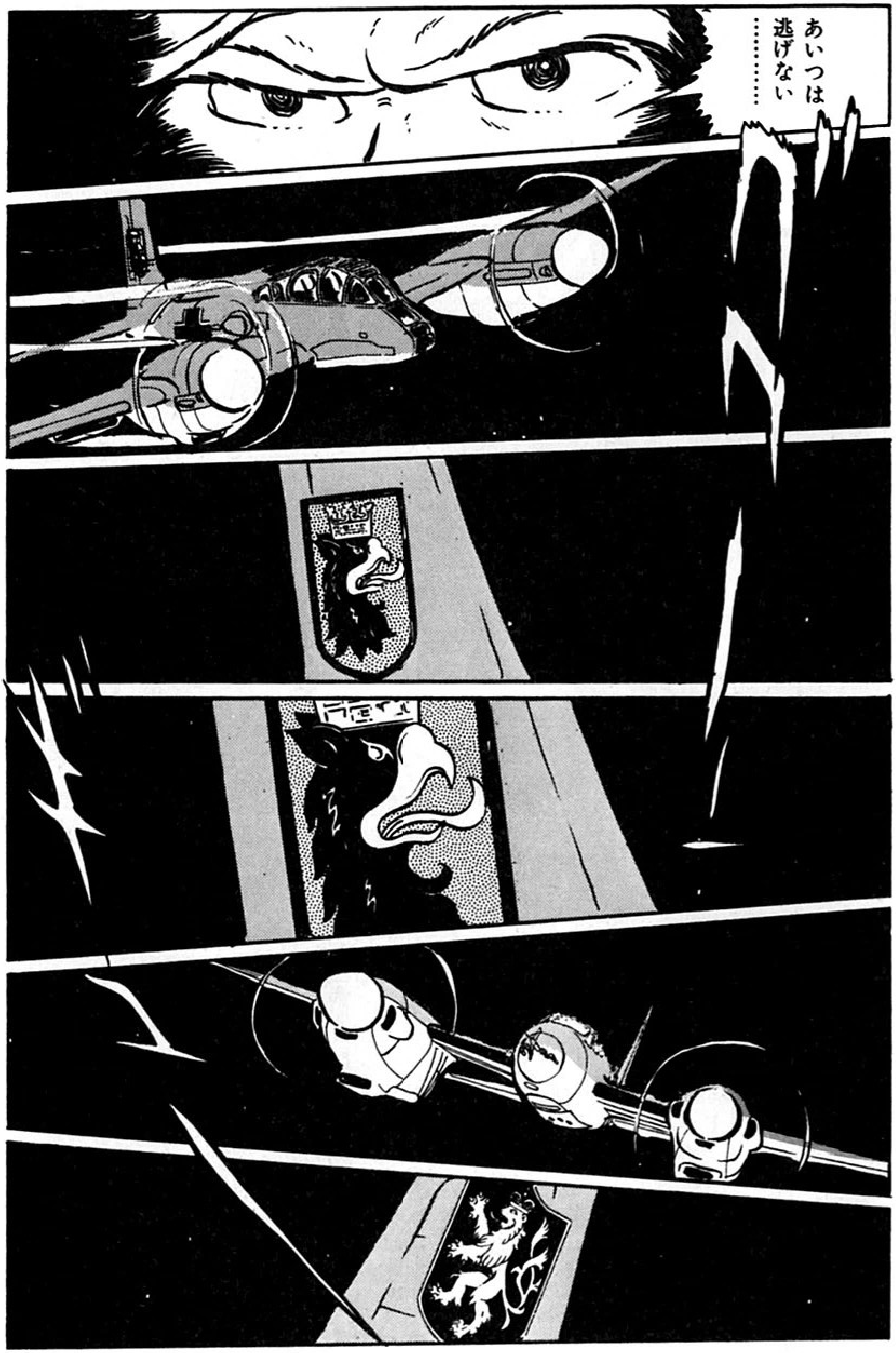
私との戦いも?
そうだ、ベス!
ウエンザー!
死なないで!!
戦いはいずれ終るわ。イギリスが負けることはない。
負けないと誰がいった?
だってあなたのような人がいるから…
敵にもいるさ。
敵にも……
ゲルマニアの騎士は誇り高い。

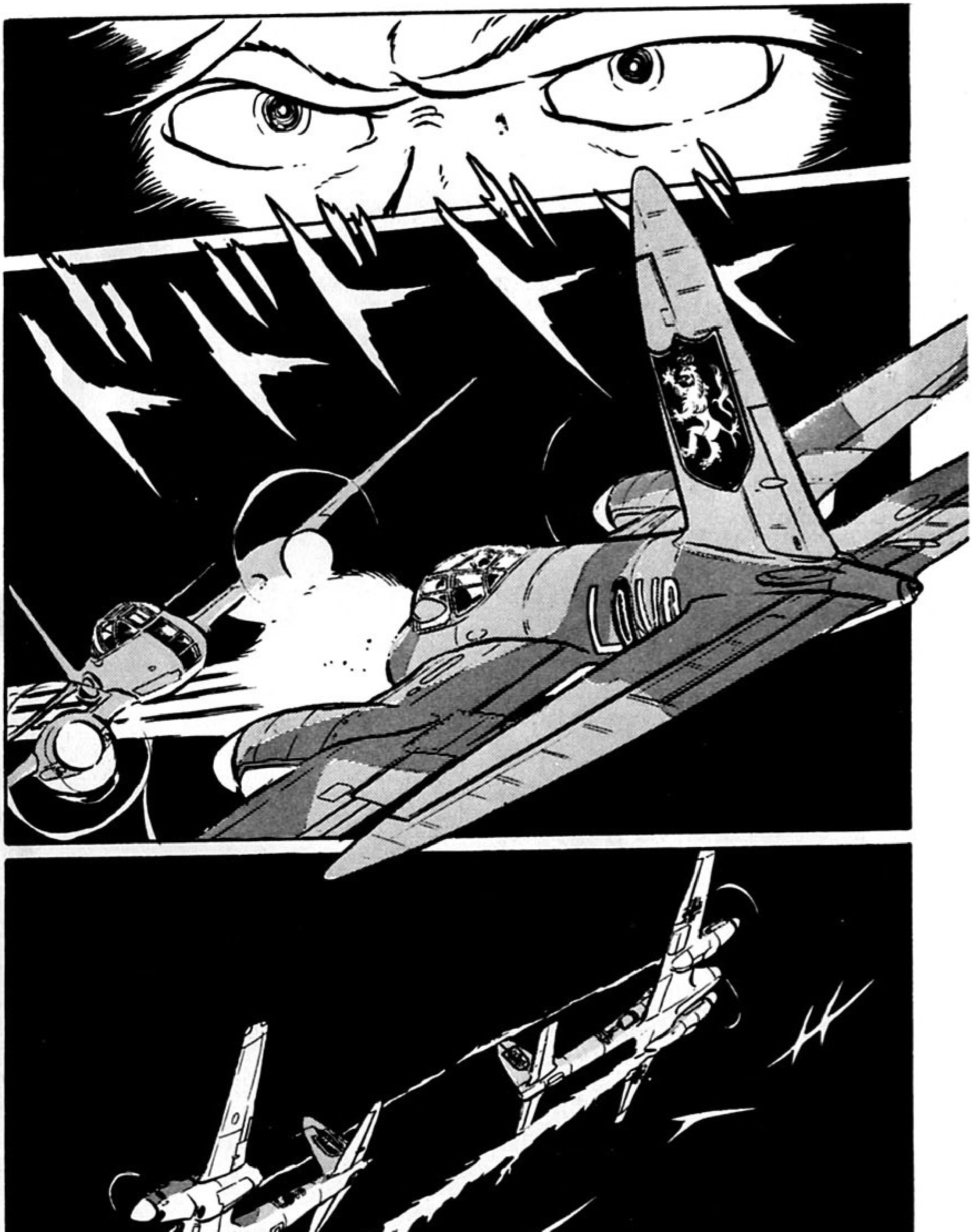
まだどこかにそいつがいる………
俺はそいつと戦いたい。
そいつと戦って……
戦って勝った時、はじめて俺は俺の戦いに勝つんだ。
騎士じゃない者と戦って勝っても、勝利のうちにははいらない。
ドイツの騎士とあなたとが出会うことってあるかしら?
騎士の運命は宿命的なものさ。
いつかきっと出会う。
俺はそう信じて空を飛んでる!!
必ず騎士はくる!!

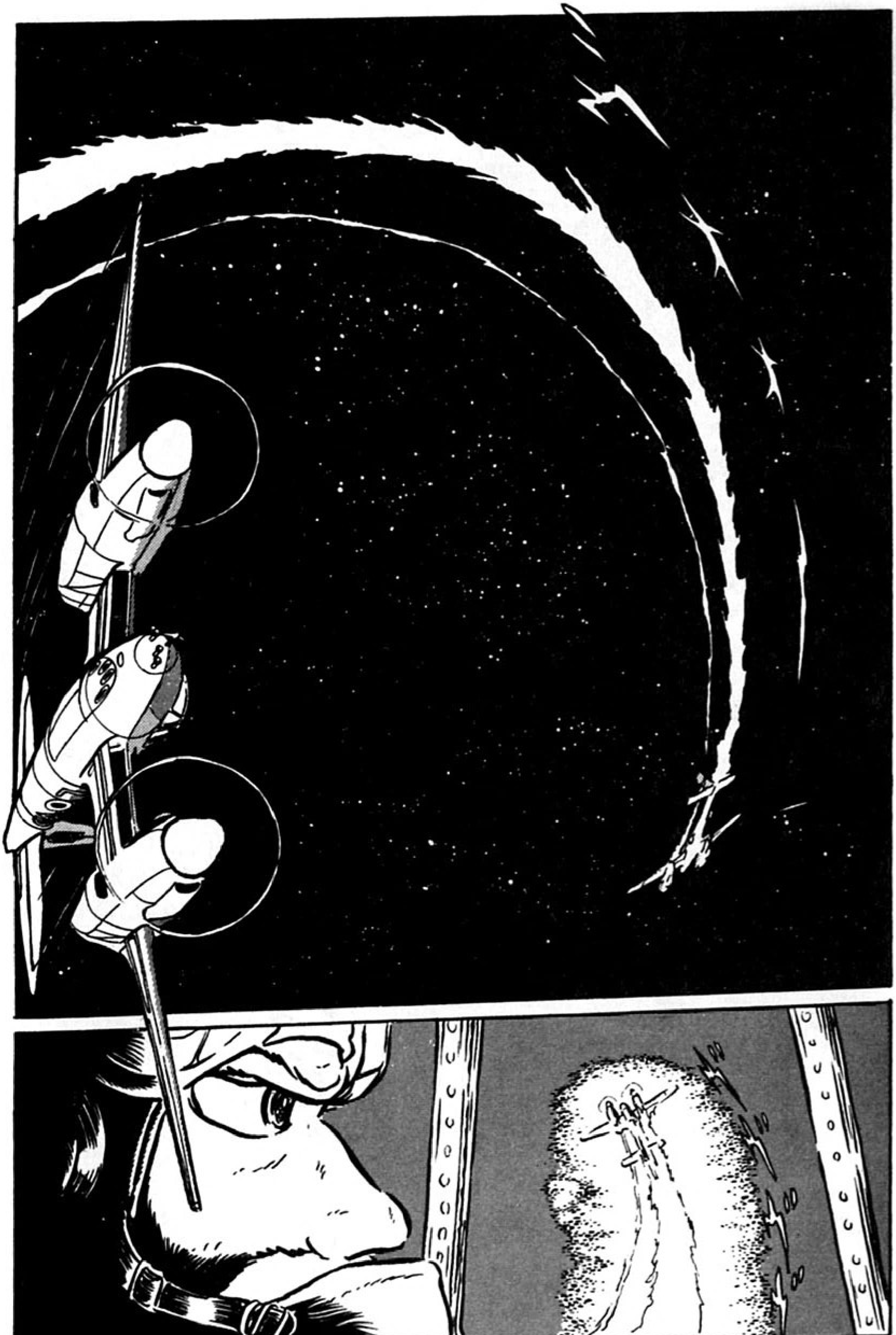
ドイツ機、現在位置……ドーバーの中央第三監視哨の正面………
ウエンザーがまた前方からいくぞ。
あわれなドイツ機よ、彼の神におめぐみを!!

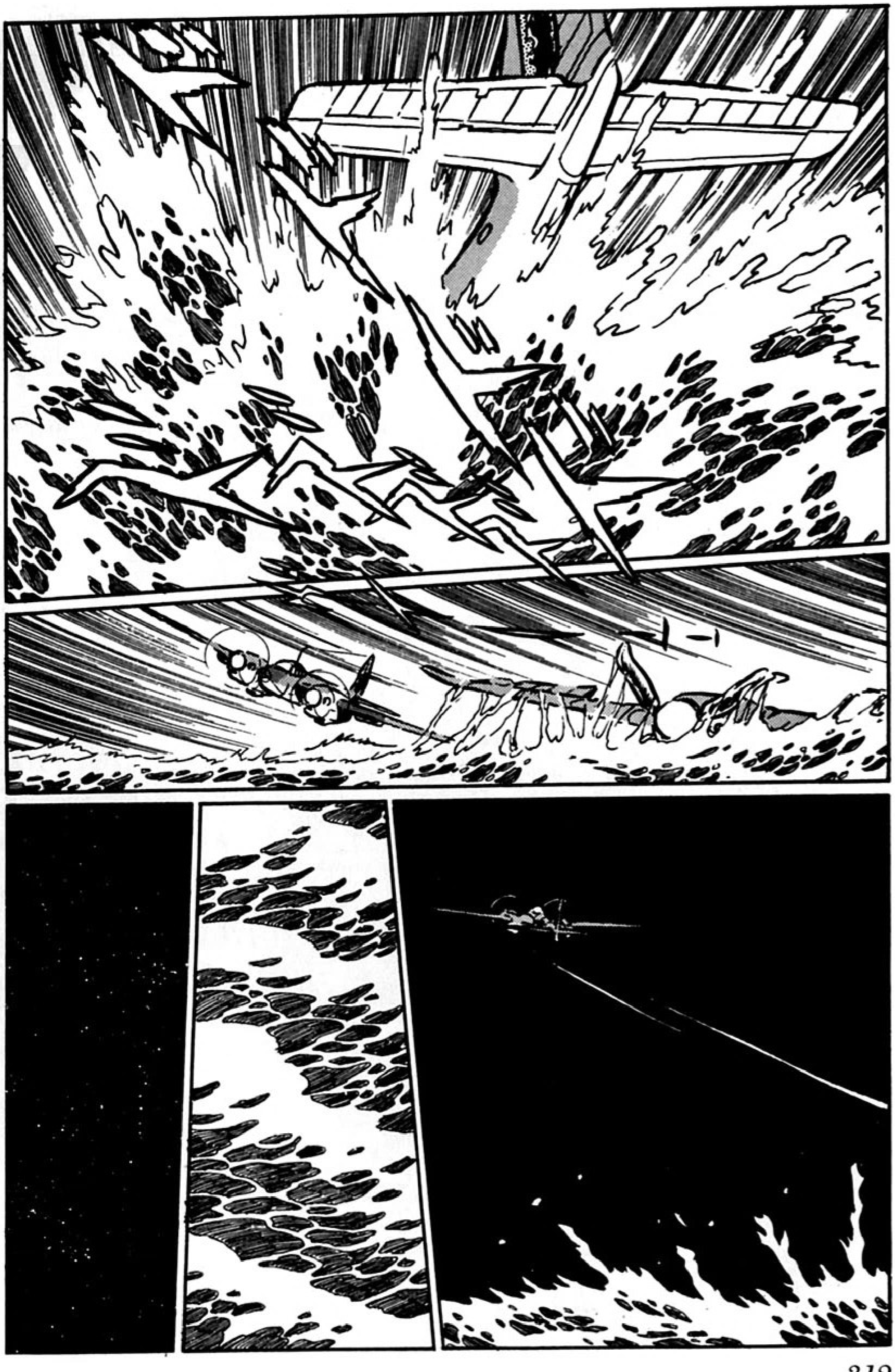


一撃目をかわしたか!!
しかし、モスキートとの速度差はいかんともしがたい!!
!!


あいつは
逃げない
……





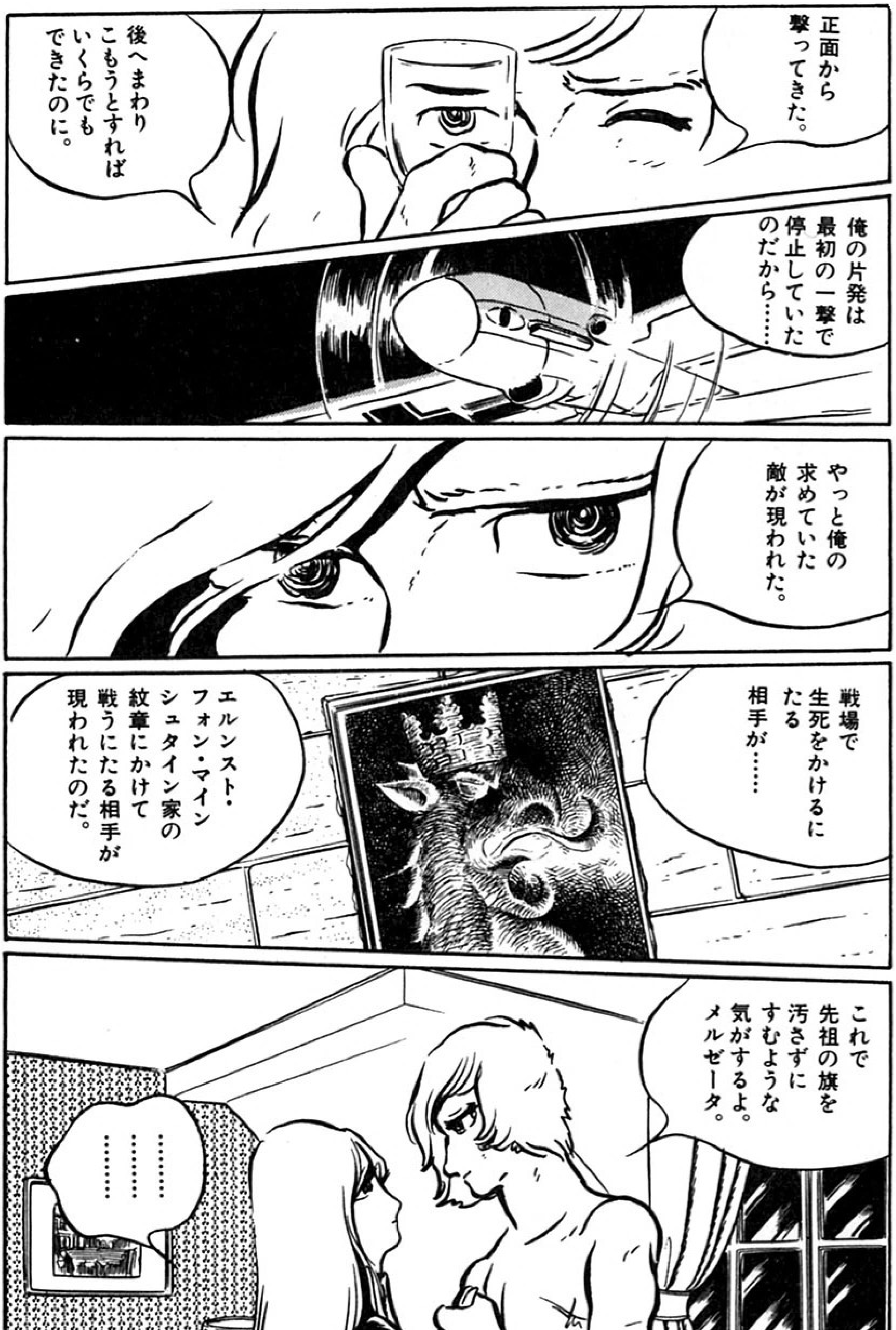


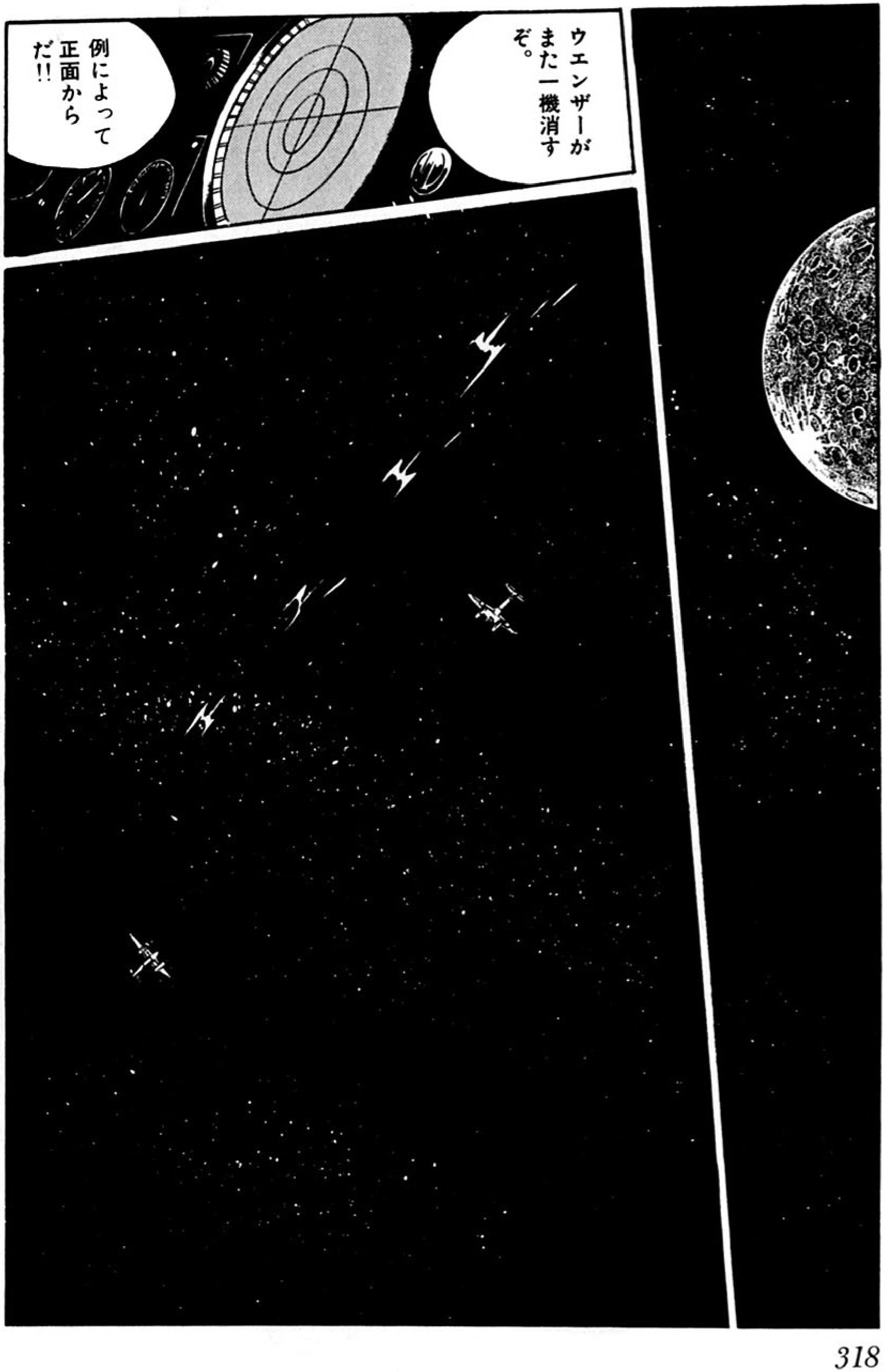
ターゲットは海へ落ちた。
あの落ち方では生きているかもしれん。捜してくれ。今のパイロットの顔を見たい。
了解。
ベス……あいつは逃げようとしなかった……機首をこっちへ向けて……機首を上げてまっすぐたち向ってきた。
あれは俺の捜していた男かもしれない。
生きているとしてもこちらの捕虜になってしまったら、
あなたと戦う機会はないわ。
………
………

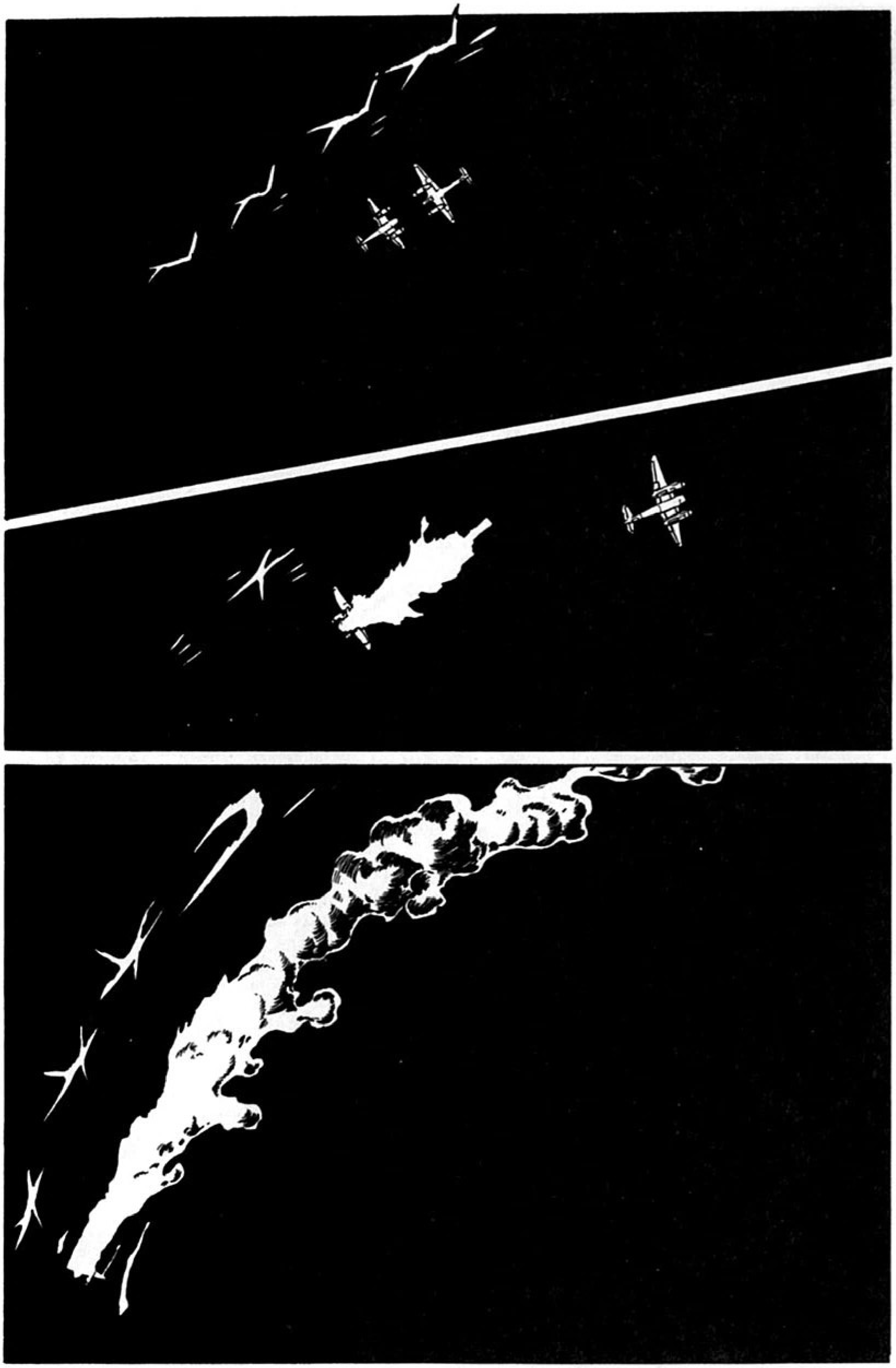
もしかしたらそうやってあなたの命を神さまがお守り下さったのかもしれないわ。
そうか……わかった。
ベス!!喜んでくれ。あいつは生きてたらしいよ。
ドイツの潜水艦がひろい上げていったらしい。
ドーバーの崖の目とハナの先でUボートが?
どんな大海軍でもミスはするさ。
大英帝国海軍でもそれは同じだ。
それに英国海軍はもういささか旧式だ。
アメリカや日本の空母機動部隊を中心とした海軍にくらべたらかなりのおくれようだ。

その中でもいちばん旧式なのがこの俺かも……
けががなくてなによりでしたな、マインシュタイン大佐。
まあな。
撃墜されたのに嬉しそうですね。
うん嬉しい。
やっと俺の捜していた男に会えたんだ。
イギリスの騎士にね。
やっと会えたんだよ。

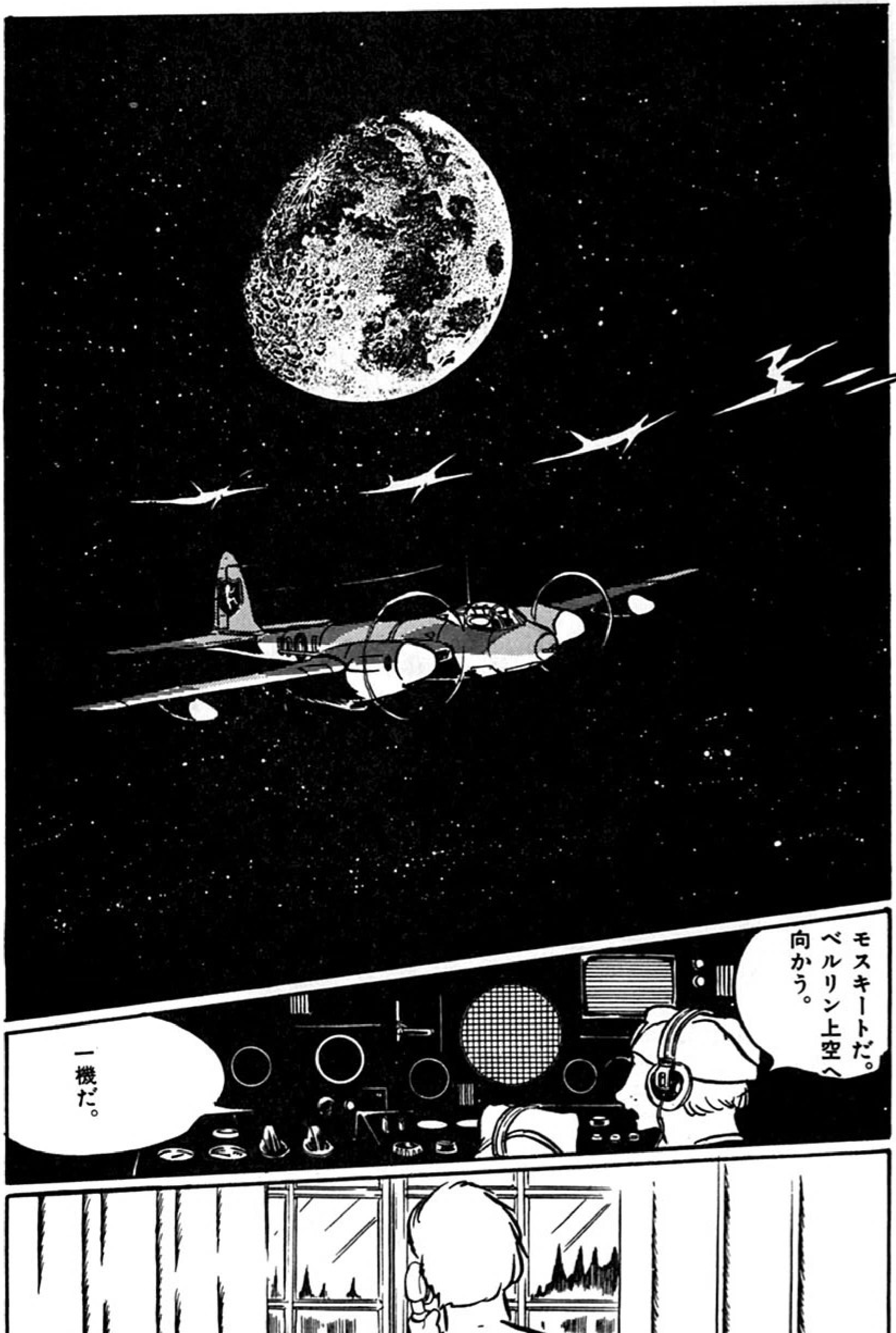
偵察飛行で撃墜されたのはこれで何度目マインシュタイン？
回数は忘れた。
まあいいさ、敵をみるために飛ぶのは戦いのうちにははいらないからね。
残念ながらメッサーシュミットもハインケルも、モスキートよりもおそい。
気がつくといつも機関砲弾を背中からあびせられている。
レーダーサイトから警告されていてもたいていムダになる。
おかげで、水泳がうまくなったけどね。
だが今度の相手はちがった。


正面から撃ってきた。
後へまわりこもうとすればいくらでもできたのに。
俺の片発は最初の一撃で停止していたのだから……
やっと俺の求めていた敵が現われた。
戦場で生死をかけるにたる相手が……
エルンスト・フォン・マインシュタイン家の紋章にかけて戦うにたる相手が現われたのだ。
これで先祖の旗を汚さずにすむような気がするよ。メルゼータ。
…………
…………
…………

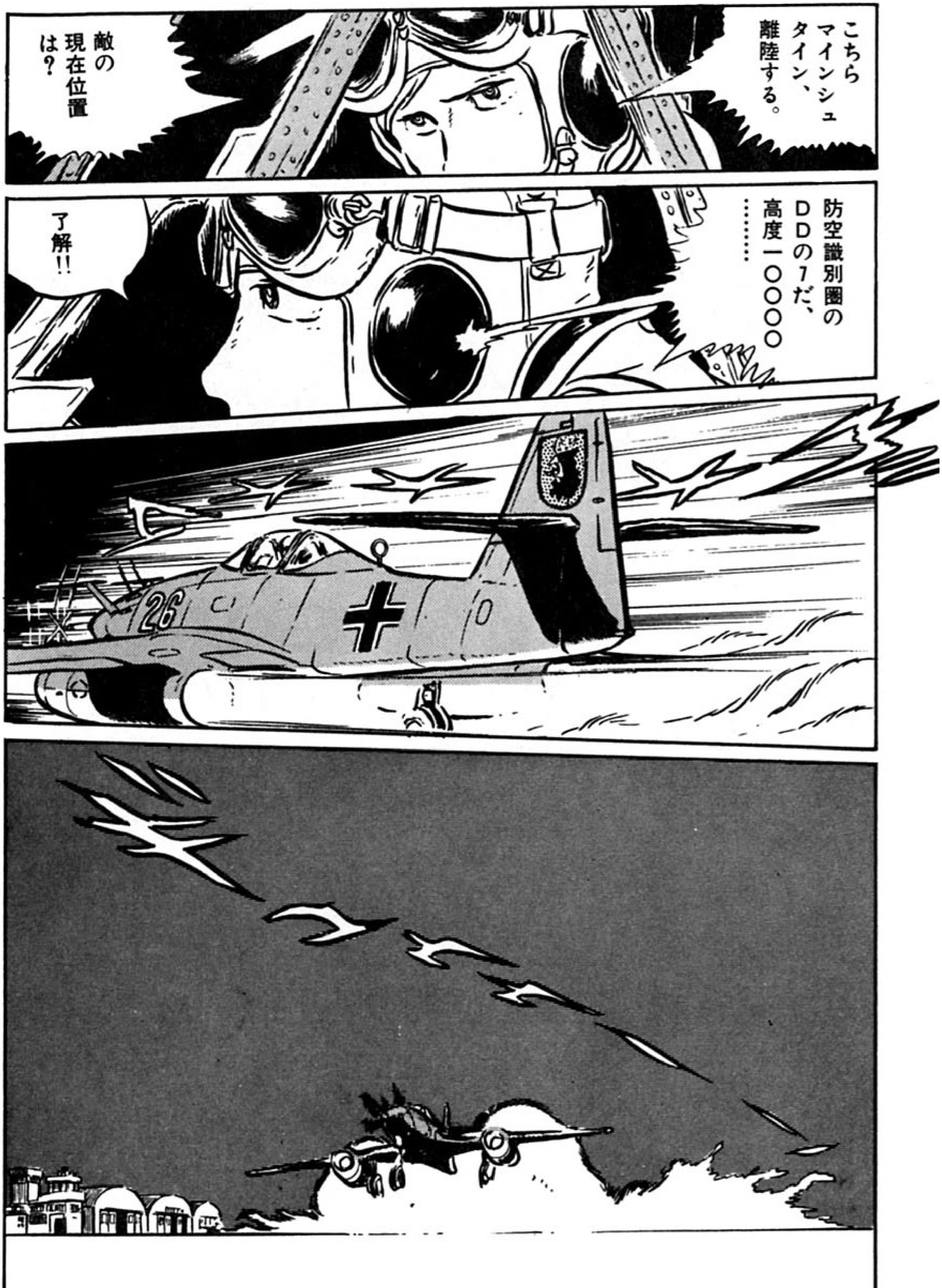

ウエンザーがまた一機消すぞ。
例によって正面からだ!!

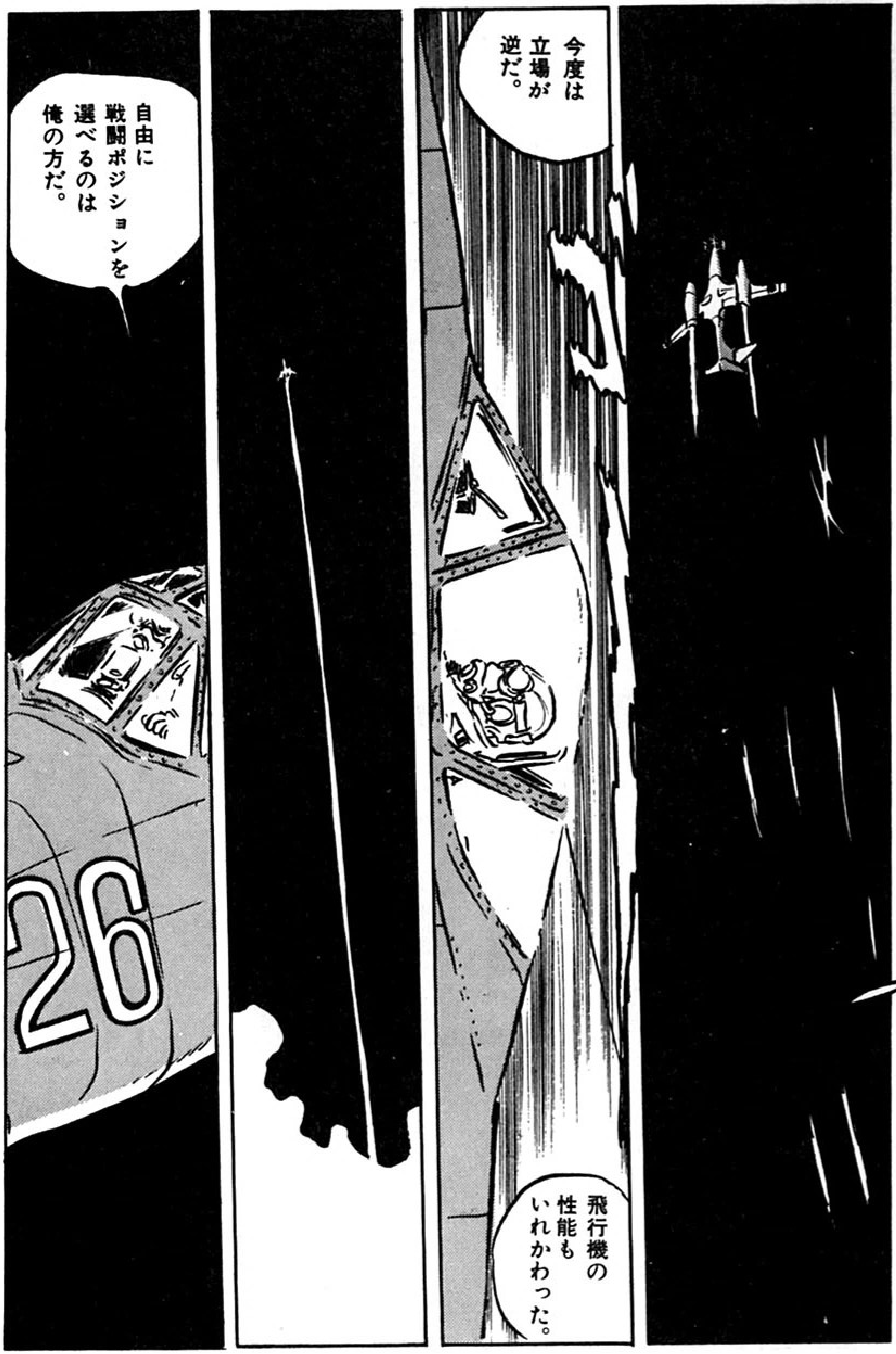


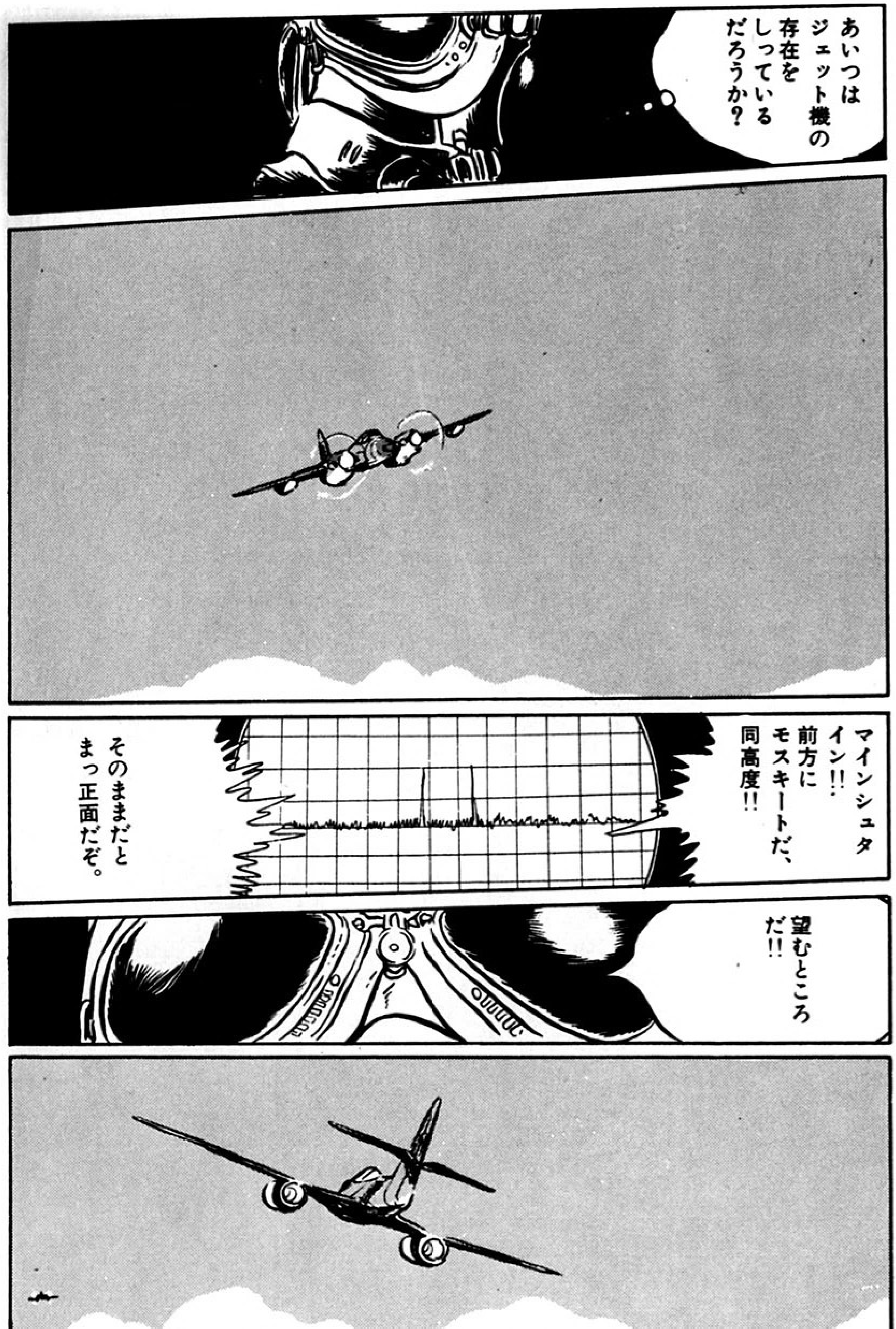
ウエンザー、撃墜マークは何個になったの？
一個だ。
Uボートにひろわれていった奴…
あれだけが俺の撃墜マークだ。
しかしまだ勝負はついていない。
イギリスの騎士とドイツの騎士の、対等の戦いの勝負は……
神だけがしっているのだ。
しかしあの時と立場が反対になったよ。
こんどは俺の方がベルリンへいく。

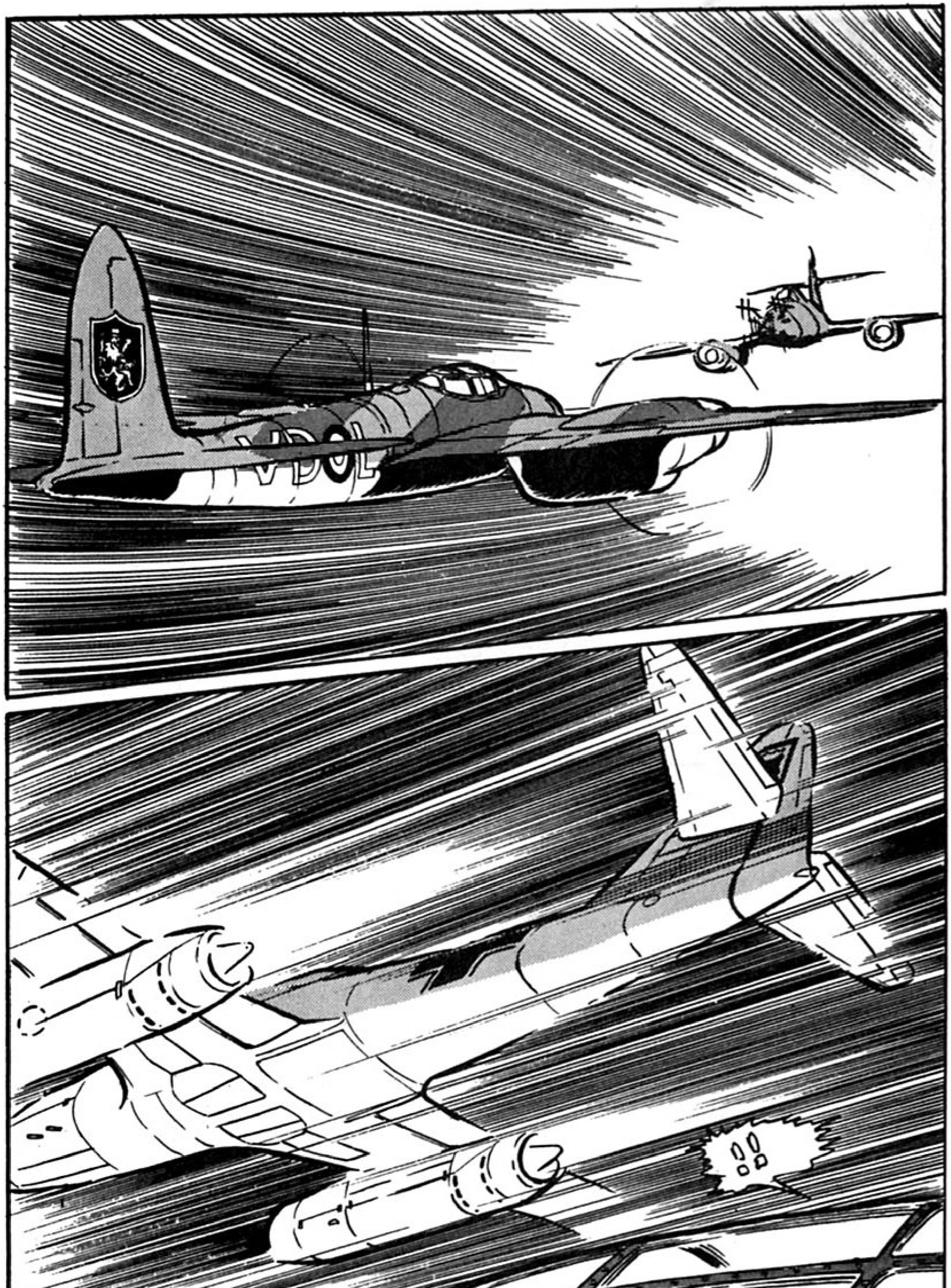

モスキートだ。ベルリン上空へ向かう。
一機だ。

メルゼータ、
モスキートが
一機きた。
もし…それが
あいつなら
俺は生きて
帰らないかも
しれない。
だが泣くな、
これが騎士の
血をひいた
者の
宿命だ。
そういって
あなたは
なん度もでて
いって
……
なん度も
何事もなく
帰ってきた
わ。
騎士道……
そんな時代は
とっくに過ぎ
去ったのに
……

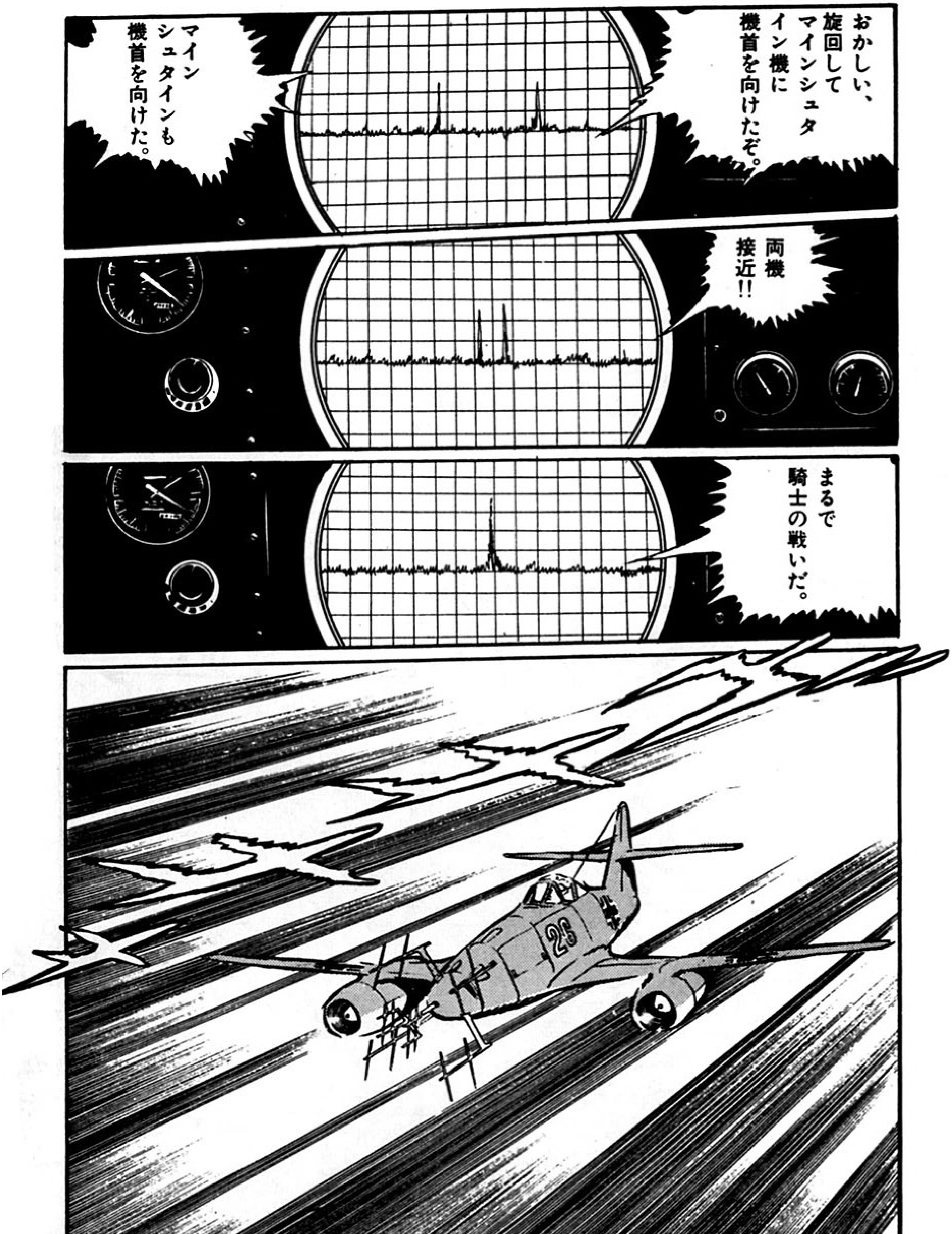

こちらマインシュタイン、離陸する。
敵の現在位置は？
防空識別圏のDDの7だ、高度一〇〇〇〇……
了解!!


今度は
立場が
逆だ。
飛行機の
性能も
いれかわった。
自由に
戦闘ポジションを
選べるのは
俺の方だ。

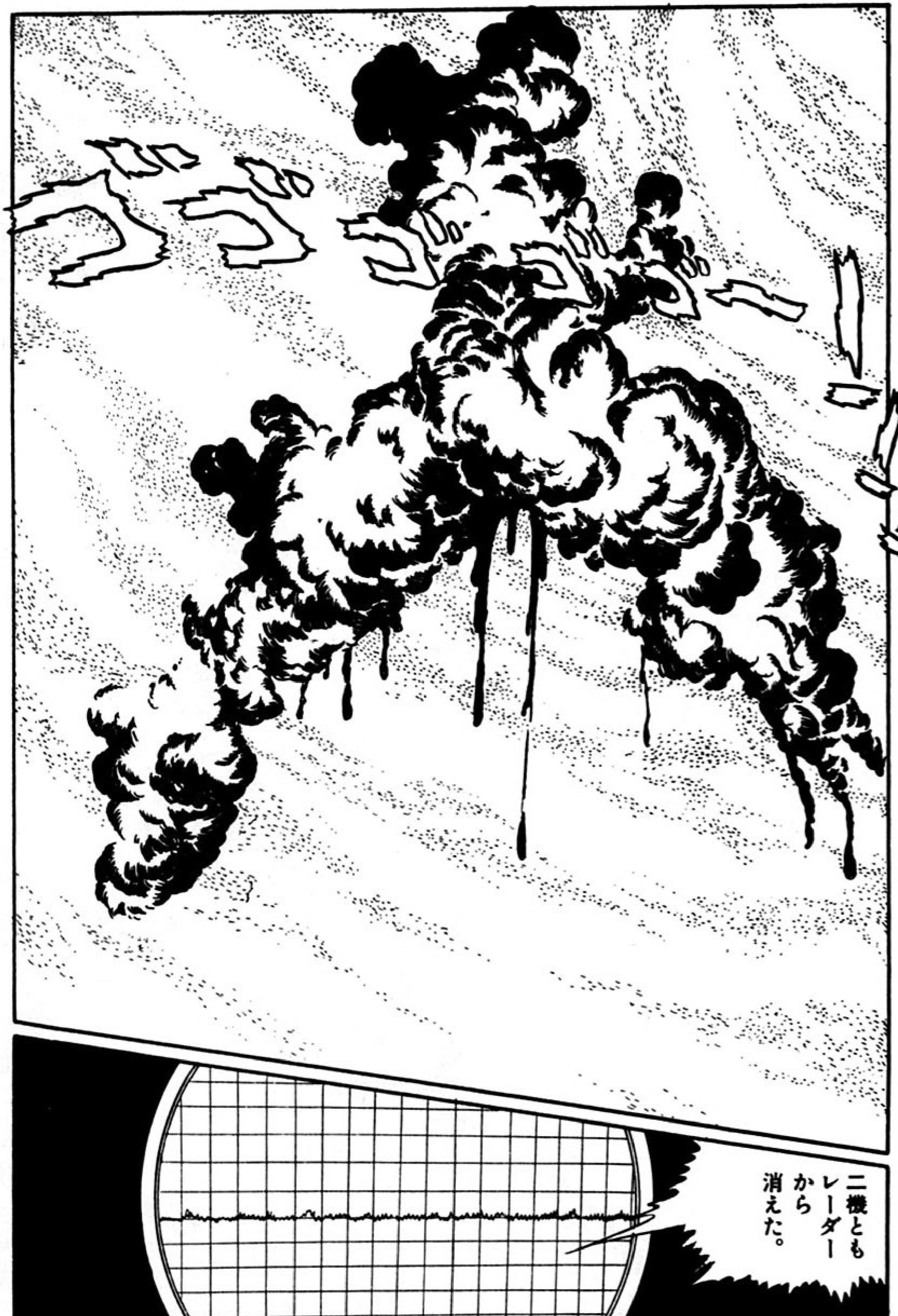

あいつはジェット機の存在をしっているだろうか？
マインシュタイン!! 前方にモスキートだ、同高度!!
そのままだとまっ正面だぞ。
望むところだ!!

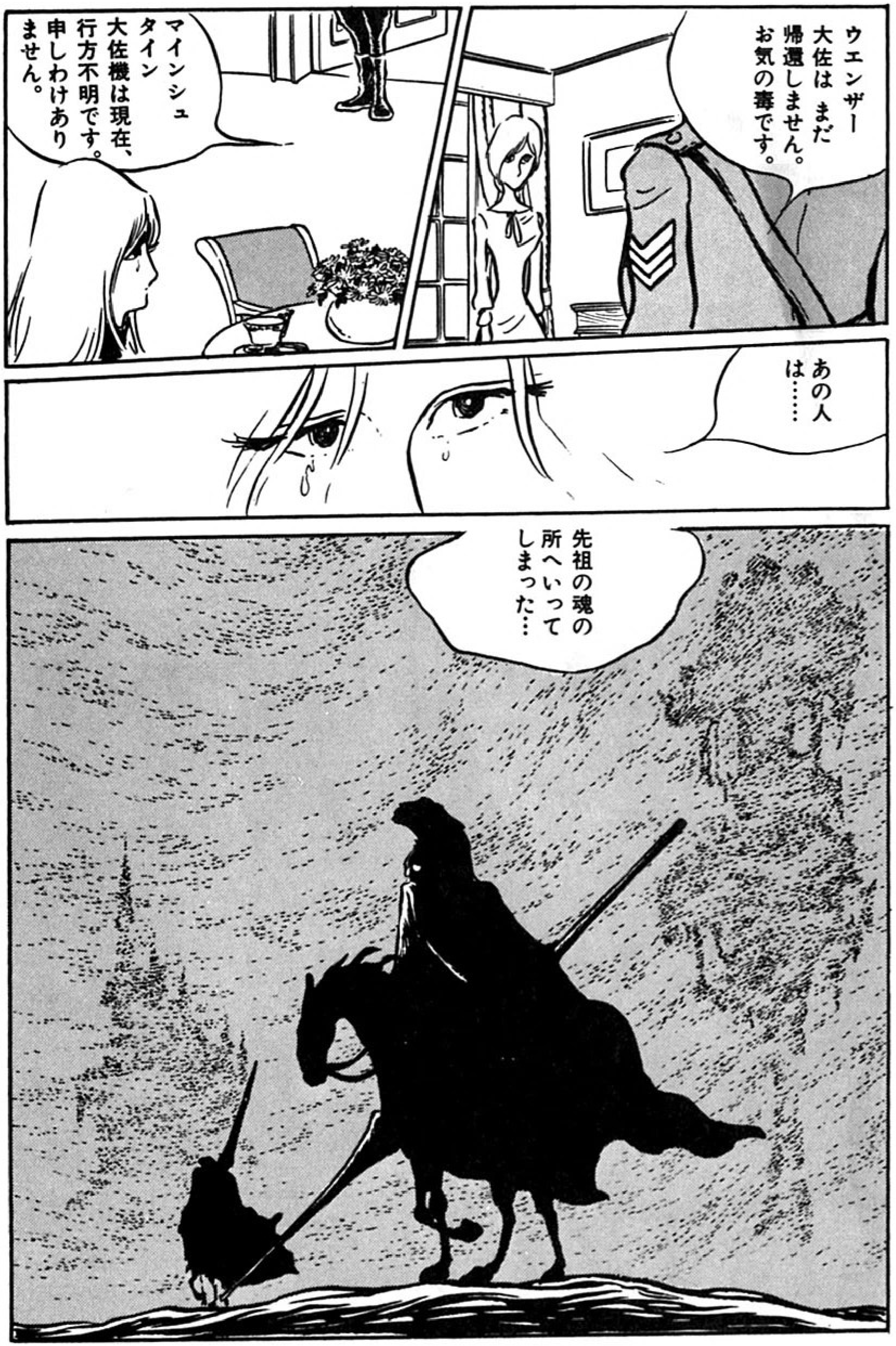


あいつだ!!
あいつか!!
偵察にきたのだからこれで普通は逃げるはずなのに……


おかしい、旋回してマインシュタイン機に機首を向けたぞ。
マインシュタインも機首を向けた。
両機接近!!
まるで騎士の戦いだ。

待っていたぞ。
やっと
会えたな!!
これが本当の
戦いだ。
騎士の
戦いだ!


二機とも
レーダー
から
消えた。


ウエンザー大佐は まだ帰還しません。お気の毒です。
マインシュタイン大佐機は現在、行方不明です。申しわけありません。
あの人は……
先祖の魂の所へいってしまった…

■ザ・コクピット 4／完

■「ビッグコミックオリジナル」1977年11月5日号掲載

4

THE COCKPIT

LEIJI MATSUMOTO PRESENTS

1998年2月10日　初版　第1刷発行
1998年5月1日　　　　第2刷発行

著者 ――― 松本零士

©Leiji Matsumoto 1998

発行者 ――― 熊谷玄典

発行所 ――― 株式会社 小学館

〒101-8001東京都千代田区一ツ橋2-3-1
[振替]00180-1-200
[電話]編集・東京03(3230)5380 販売・東京03(3230)5749

印刷所 ――― 図書印刷株式会社

装幀 ――― 海野一雄 +Bay Bridge Studio
写真 ――― オリオンプレス

●造本にはじゅうぶん注意しておりますが、
万一落丁・乱丁などの不良品がありましたら「制作部」あてにお送りください。
送料小社負担にて、おとりかえいたします。制作部 TEL 0120-336-082
●本書の一部または全部を無断で複製、転載、上演、放送などをすることは、
法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。
あらかじめ小社あて許諾をお求めください。
Ⓡ本書の一部または全部を無断で複写（コピー）することは、
著作権法上での例外を除いて禁じられています。本書から複写を希望される場合は、
日本複写権センター（TEL 03-3401-2382）にご連絡ください。

[検印廃止]

小学館文庫

ISBN4-09-192254-6

Printed in Japan